

婦人の経済活動は いかにあるべきか

— 第2回全国婦人会議記録 —



労働省婦人少年局

婦人の経済活動はいかにあるべきか

— 第二回全国婦人会議記録 —

労働省婦人少年局

は し が き

第六回婦人週間にあたり、労働省では第二回自の全国婦人会議——婦人の経済活動はいかにあるべきか——を日本放送協会と共催いたしました。

この会議のねらいはどこまでも、全国の婦人が自分からすすんで深く考えることを促すこと、婦人の問題について多くの人々の関心を高めることにあるのですが、回を重ねることによって、私たちの努力が少しずつ実をむすんでいくことは、主催者側にとってこの上もないよろこびです。

ここに会議の速記録をまとめて刊行することにしたしましたが、婦人の問題に関心をもたれる方々の御参考になれば幸に存じます。

一九五五年五月

労働省婦人少年局長 藤田 た き

全国婦人会議の経過

「婦人の経済活動における実力の顕微鏡」を目標とした第六回婦人週間を迎え、中央行事として再び全国の婦人が一堂に会して、「婦人の経済活動」を検討し今後の方向について話し合うために、第二回目の全国婦人会議を日本放送協会と共催で、一九五四年四月十日、十一日の二日間におたり東京・有明会館において開催しました。この会議の出席者は前回と同様、広く一般から募集することとし、応募資格としては、満二十才以上の婦人で、学歴、職業を問わぬこととしました。応募の方法としては、職業をもつ場合、家庭従業者の場合、内職する場合、家事のみ行う場合のうち、応募者が出席を希望する部門に関する問題をとりあげて、「婦人の経済活動はいかにあるべきか」という一文を、四〇〇字詰五枚程度にまとめ、略歴を添えて出してもらいました。

こうして全国から応募された状況をみると、応募総数は一九六三（前回は八八九）で、内訳は第一部会五三一、第二部会三七〇、第三部会三三三、第四部会七三九でしたが、このなかから、中央に設けられた民間有識者と主催者側とで構成する諮問委員会が、書類審査によって、地域別や問題別のわりふりを考慮しながら慎重に詮衡して、会議員となる六〇名の婦人を選びました。

なお諮問委員は、東大教授 有沢広巳、東大助教授 氏原正治郎、東大助教授 日高六郎、労働科学研究所員 坂寄俊雄、評論家 西沼子、主婦連合会副会長 船田文子、日本放送協会ラジオ局長 春日山三、日本放送協会婦人課長 江上ラジ、労働省総務課長 堀秀夫、労働省婦人少年局長 藤田たきの諸氏でした。

全応募者についてその分布をみると、三〇才以上の婦人が半数以上をしめ、特に四〇才代の応募者が多く、学歴は旧制高女卒のものが大多数でした。職業では、現在職業をもっている婦人は七七九（うち農業二三八、無職九二四、不明二六〇、配偶関係では、配偶者のあるもの一一五七、未婚者二九六、死別別二九六、不明四〇三

と、家庭をもっている人が絶対多数で、これは前の年齢層、職業の有無と併せてみても分るように、いわゆる家庭の主婦が如何に多くの問題をもち、その問題について真剣に考えているかよくかゞえらると思えます。

選ばれた六〇人についてみると、三〇才から五〇才までの婦人が過半数をしめて、最低二十一才、最高五五才でした。このうち職業をもっている婦人は四四人（農業・内職を含む）で、無職の一人に比べて三倍近い数でした。また、配偶関係でみると、夫のあるもの四八人、死別別三人、未婚九人で、ここでも主婦が圧倒的に多数をしめ、しかも何か職をもっているということは注目されることです。

なお、応募者のとりあげた問題は、第一部会では、婦人が職業をもつ必要性、婦人の職業能力をたかめる機会、経費・給与・昇進・雇用・その他の男女の差別待遇、家庭生活と職業の両立の問題、福利厚生施設の問題、第二部会では、農家の副業の問題、農業（商業）労働と家事作業の二重負担の問題、協同活動、社会施設などに関する問題、第三部会では、内職の工資の低さ、それにともなう技術・組織の問題、内職と家事との関係、家族関係の問題、第四部会では、主婦の経済活動、家事作業の評価、生活改善、協同活動などでした。

以上のような経過により、各府県から一人乃至二人ずつ選ばれた六〇人の婦人は、十五人ずつそれぞれの部会に属して、各部会のアドバイザーの助言の下に、二日間にわたり討論を行いました。

アドバイザーは、第一部会の「婦人が職業（勤務・自営）をもつ場合について」は、東大助教授 氏原正治郎氏、第二部会「家族従業者（農家・商家など）の場合について」は、東大助教授 日高六郎氏、第三部会「婦人が内職をする場合について」は、労働科学研究所員 坂寄俊雄氏、第四部会「婦人が家事のみを行う場合について」は、評論家 西沼子氏と主婦連合会副会長 船田文子氏に依頼しました。

出席者は、非常に熱心で自主的であり、従って、討論も具体的に建設的にすすめられ、その出された問題、意見は、婦人問題に関心をもちたれる方々にとり、良い参考になると思われますので、ここに二日間にわたる会議の記録を取録いたしました。

全国婦人会議の構成

名称 全国婦人会議

「婦人の経済活動はいかにあるべきか」

主催 労働省・日本放送協会

日時 昭和二十九年四月十日・四月十一日

場所 東京 茗溪会館

部会

第一部会

婦人が職業（勤務・自営）をもつ場合について

第二部会

家族従業者（農家・商家など）の場合について

第三部会

婦人が内職する場合について

第四部会

婦人が家事のみを行う場合について

出席者 六〇名（全国の応募者より中央詮衡委員会

が決定）

詮衡委員

東京 大学 教授 有沢 広巳

東京 大学 助教授 氏原正治郎

東京 大学 助教授 日高 六郎

労働科学研究所員 坂寄 俊雄

評論家 西 清子

主編 審議会委員 船田 文子

主婦連合会副会長 春日 山三

日本放送協会ラジオ局長 江上 フジ

日本放送協会ラジオ局長 堀 秀夫

労働省大臣官房総務課長 藤田 たき

労働省婦人少年局長 氏原正治郎

第一部会 東京大学助教授 日高 六郎

第二部会 東京大学助教授 坂寄 俊雄

第三部会 労働科学研究所員 西 清子

第四部会 評論家 船田 文子

主編 審議会委員 主婦連合会副会長

司会 労働省婦人少年局長 藤田 たき

司会 労働省婦人少年局長 藤田 たき

全国婦人会議次第

四月十日

総会 一〇、〇〇〇～一二、〇〇〇

一、開会挨拶 労働省婦人少年局長 藤田 たき

二、主催者挨拶 労働 大 臣 小坂善太郎

三、講演 演 説 家 坂西 志保

四、会議の主旨説明 労働省婦人少年局長 田中寿美子

五、会議運営の説明 事務局

—— 休 憩 ——

部会 一三、〇〇〇～一六、三〇〇

一、会議員の意見発表

二、部会討議

四月十一日

総会 九、〇〇〇～一二、〇〇〇

一、部会討議

二、部会のまとめ

—— 休 憩 ——

総会 一三、〇〇〇～一七、〇〇〇

一、開会挨拶 日本放送協会ラジオ局長 春日 山三

二、講演 東京大学 教授 有沢 広巳

—— 休 憩 ——

三、部会報告及び全体討議 労働省婦人少年局長 藤田 たき

四、閉会挨拶

—— 休 憩 ——

司会、日本放送協会ラジオ局長 江上 フジ

三、部会報告及び全体討議 労働省婦人少年局長 藤田 たき

四、閉会挨拶

—— 休 憩 ——

労働省婦人少年局長 藤田 たき

—— 休 憩 ——

労働省婦人少年局長 藤田 たき

—— 休 憩 ——

労働省婦人少年局長 藤田 たき

—— 休 憩 ——

目次

はしがき

労働省婦人少年局長 藤田たき

全国婦人会議の経過

全国婦人会議の構成

全国婦人会議の次第

講演

女性における職業

評論家 坂西志保

婦人の経済生活の問題をどう考えるべきか

東京大学教授 有沢広巳

部会

第一部会 「婦人が職業（勤務・自営）をもつ場合について」

一七

第二部会 「家族従業者（農家・商家など）の場合について」

一八

第三部会 「婦人が内職をする場合について」

一九

第四部会 「婦人が家事のみを行う場合について」

二〇

総会

二〇

講演

女性におくる言葉

評論家 坂西志保

現在、一方においては婦人の前進ということが盛んに云われております。それは事実であります。又他方においては婦人の前進をはばむものが沢山出ていることも否定できません。一方において築きあげていると同時に、他方において、非常に急速な勢いで崩れているのであります。その崩れていく原因はどこにあるか。私は問題をなるべく肯定的な面から取扱いたいと思います。

日本では、教育ということに非常に力を入れています。もちろん教育は非常に大切なことで、教育がなければ、人間は前進しません。私は東南アジアの国々を廻って、このことを痛感いたしました。しかし、単に教育を受けるといっただけで事終れりとするならば、非常に悲惨なことだと思ふのであります。今日行われている九年間の義務教育を人から与えて完全な身につけた方は、大臣にもなれます、局長にもなれます。また放送局の会長になる資格も十分にあります。ただ、これを誰が身につけるか、どのように身につけるかということが問題であります。私自身、もし中学三年の課程をふんだ者として試験を受けさせられたら、多分いや完全に落第するでしょう。知っているようで知らないことがあまりにも多すぎます。しかし教育ということとを、現在のように、夜学や昼間の大学に通って、その課程をふめば、それで事足れりとする考え方に、私は終止符を打ちたいと思います。

学校での暗記するような教育の受け方ではなく、自分の生活をもう少し考えることができるような訓練がほしいのです。たとえていうならば、自分の頭が電話の交換台になるような訓練です。電話のベルが鳴ると同時に、自分の頭で、どちらの線に連絡するかをとって判断して、新しいものを生み出す、私たちの頭がそういう組織になるなら、小学校の一年生で学校を出てしまってもかまわないと思ふのです。つまり考える人間になるということが、教育の根本の問題だと私は感じているのであります。そのためには、子供のとき沢山疑問をもったと同様に、二十になっても七十になっても疑問をもつことです。何のために、どうしてということに絶えずくり返し質問していただきたいと思ふます。こんなことをきいたら笑われやしないか、というような考え方が、日本人の頭には強いのですが、絶えず疑問を発することによって、自分の頭を化石化しないようにし、生きたものにしていただきたいのです。

ではこういうように教育された人間が世に出たときに、その人はどういう要素を身につけているかと云いますと、教育が単に死蔵されたものでなく、具体的なものとして現われる人間、つまり考える人です。考えるということは、手を束ねて、人生とは何か、恋愛とはなにか、結婚しようかしまいか、というようなことを考えることではありません。むしろ単純な日常の問題をテキパキと自分の頭の中で処理していくことです。それは各自の能力や、ふれる問題にもよりますが、あらゆる問題を、いつも自分の頭の中で解決していく、二と二を加えても四にならない場合もある、一になるか、十になるか、そういう複雑な問題を自分で解決していく習慣を持つことです。私は二十の原や話の泉式、いわゆるもの知りというものをあまり好みません。単なるもの知りではなく、総合的な判断力のある人間こそ、社会の要求するものであります。

次に判断力のある、教育のある人間というのはどういうことかと申しますと、まず正確にものを言える人間、ビタツと、最も能率的に、最も簡潔に、経済的に、ものの云える人間であることです。このことは女性には特に強調したいと思ふます。電話一つかかってきても、「ああ、また、たいへんだ」という感じを起します。「電話

でたいへん失礼でございますが、お目にかかってお話しなくてはならないのですが……」こちらがもどかしくなくて、「いったい御用件は何ですか」というと、また「失礼でございますが」が始まります。連鎖作用で、この言葉から始めないと、頭の中が回転しないらしいのです。こうして生活の浪費をしているのです。朝起きて新聞やミルクを出しにいく、そこで人に会ったら最後です。私は人間恐怖症——というより女性恐怖症にかかってしまったほどです。人間の能力や知能の働きをこんなにむだにしている種族は、世界に稀でしょう。

次に申上げたいことは、独立した判断力に欠けていることです。何でも人に相談する。着物一枚買うにも他人の意見を求めなければならない。なぜ自分の問題を自分で解決できないのでしょうか。自分で判断力を持つということは、結果において線のはっきりした、個性のあるものになり、むしろ親しみやすい人間を作ることになると思うのであります。

教育に次ぐ第二の問題は、健康な人であるということです。アメリカの義務教育の父として知られているホーレス・マンは、人間に与えられた富として、頭脳の富、健康の富、心の喜びという三つのことを挙げていますが、健康こそは経済活動に従事する者にとって、非常に重要なことだと思えます。私の顔を見て、「大變御健康そうですね。」と云われて、結構なおほめのお言葉だと思っていましたら、日本ではあれは健康の言葉です、と教えてくれた人があります。健康だということは、助物的だということらしいのです。それはともかく、健康は判断力の基礎となります。不健全なものの見方というのは多くの場合、身体の不健康からきています。ここで私が特に申上げたことは、働く人が健康を大切にするということをや、常識的に、社会一般が取扱わなければならないということなのです。働くといえばガムシャラに働く、自分がした仕事の量に誇りを感じて、その仕事のために自分が費した労力——心労や身体の消耗というよりなことを少しも考えに入れていないのです。経済的ということとは、こういうところにも考え及ばさなければならぬと思いますので、婦人会議の部会でも、健康の与える経済力ということを一つの課題として取扱っていただきたいと思えます。

健康には精神的健康と肉体的健康がありますが、私はこの二つを対立したものではなく、一つのものとして考えています。精神と肉体の健康のためには、自分に適した仕事を発見することや、働くために環境を整備することが大切です。これは健康ということに附随するかどうかわかりませんが、私が働く女性の間にあって痛感することは、非常に環境に甘える、ピンとした背骨をもっていないということでありました。男性から見ると、これが魅力だそうですが、今後ずっと経済的に働いて生活していかなければならない者にとっては、不必要なことだと思えます。甘える、という考えは、結局劣等感からきているのです。私は決して肘を張っている、というのではなく、背骨をもった人間であってほしいのです。

第三に申上げたいのは、社会性の問題です。義務教育の課程でも、社会科において力を入れているのは、相互依存の社会で如何に生きるかを学ぶためです。今日のように人間や家庭が、それぞれ重なりあって存在している社会では、自分がここに立ってれば、他のものがここに立つ権利を妨げているのかもしれないのです。そういう社会にあって、社交性や社会性のない人間が沢山いるならば、非常に住みにくい環境を作ることになるでしょう。社交性、社会性ということは決して軽薄なものを意味するのではなく、むしろ互に人間の権利を尊重する、自分の権利を尊重すると同時に、どこまでも相手の権利も尊重するということです。もっと通俗的な言葉でいうなら、協力するということです。

自分が生きるためには、他人にも生きる場面をできるだけ多くこしらえてあげるといことです。日本の職場では、私の短い経験によっても、このようなことがうまくいっていないように思われました。自分を主張する気持が強く、協力することに欠けています。また個人の独断によって生み出したよい案がありますと、誰も彼も飛びついていきます。しかし、これは大変に危険なことです。というのは、人間に、女性に、考える力というものを失わせてしまっています。

私の住んでいる小さい町で、糧物の機械が普及したとき、町で内職をしている人たちが一時に飛びつきまして。その町の人々も、附近の町の人々も皆この機械に熱狂し、一番先に考えた人の生活の妨げとなることも、ひいては自分たちの生活もおびやかされることも考えないのです。他人が考案したものや模倣したもの、独創性に対して、もう少し尊敬を払い、その人の考え方を尊んであげるといふ態度が必要なのではないでしょうか。同じような例をもう一つあげますと、関東地方で流行したウズラの飼育です。婦人の内職として二年くらい続きました。が、あまり多くの人がまねたので、卵の値段が十分の一に下落し、またウズラの冷凍を輸出しようとしたとき、一羽の値段が五分の一に下ってしまつて、経営が成立たなくなりました。こういうことは、考え方に社会性が無いことを示しています。単に他人の考案を盗んで自分も栄えていこうというやうなことではなく、どうしたら自分も生き、相手も生かしていけるかということに考え及んでいただきたいのです。

次に申しあげたいことは、仕事に関する心構えについてですが、勇気をもつということです。今日の働く女性は決して臆病ではありませんが、困難な問題に遭遇したときに、なにか新しいものがあるように思われるのです。というのは、日本の働く婦人は、海外の働く婦人のように、社会的な大きな力に助けられていないからではないでしょうか。今日の日本では、婦人の働くという意欲は相当旺盛のようですが、こういうときに最も必要なのは勇気です。どうしたら自分の分野を開拓して、それを後の人たちに遺していくことができるか。どんな苦しみを経おうとも、初志を貫いていく勇気です。イギリスの詩に「私の頭は血にまみれている。敵は疲れもせず、衰えもせず、戦況は依然として動かない。だが、私に勇気があり、しっかりしているなら、勝てるのだ」というのがありますが、この開拓者の勇気が日本の今日の生活にも必要だと思ひます。

最後にもう一つ申しあげたいことは、人間の進歩は下から盛りあがる力によつてのみ、あるものだということです。これは私の一生の信念の一つであります。上から命令をかけられて、それについていても、それは進歩ということではできません。進歩とは、百万人の中の数人が抜きん出ることではなく、百万人がいっしょに一九

五四年はここまで来る、来年はここまで、次の年はここまで、というふうに一歩一歩階段を上るように進歩していくことなのであります。そして、その責任は皆さんにも、又私にもあるのであります。日本を進歩させるためには、全民族、全社会が参加していなければならぬ、人間全体の生活が向上するのでなければ、進歩、という言葉を使つてはならない、というほど強く、私はこのことを思っているのであります。十年昨日のようなことではなく、絶えず前進するという信念をくり返してやっていくうちに、これが食欲のような本能的なものになり、初めて、私たちは人間の進歩に必要な基礎的な態度を築いたといふことができます。

人間の短い生涯の中に幾度か絶えたる希望も、その火が消えた後に残るのはただ灰です。しかし、その人間の喜びや悲しみの灰の中に、「一粒の黄金が残っているはずだ」とブラウニングはいふのです。欲しいのはこの黄金なので、あてがい扶持に安んずるより、血みどろになりながらも不器用な工夫をこらして、私たちは前進しなければならぬ。人生のろくにめまいしながらも知性と勇気を動員し、火は消えて灰と化した中に、なお一粒の黄金を残していきたいというのが、私の皆さまにお伝えしたい信念なのであります。

婦人の經濟生活の問題をどう考えるべきか

東京大学教授 有沢 広巳

日本の婦人は現在、憲法をはじめ、民法、労働基準法、その他の法律の上では、完全に男女平等の権利を得ております。これは法律で、その権利を保障することですが、法律というものは不思議なものであって、形式的には非常に完備していますが、必ずしもそれが現実と一致するかどうかは問わないのであります。無論法律が現実を規定してはいますが、因習とか、伝統とか、慣習とかいうものが、法律よりはるかに強い力を持っていますので、法によって保障されているはずの平等の権利も単に形式上のものになってしまふことがあります。憲法は国民の自由と権利を保障しているのですが、憲法の第十二条には、それらのものは国民の不断の努力によって保持されるべきものである、ということが明示されております。憲法によって保障されている自由と権利でさえも、なお国民の不断の努力によって保持されなければならないのですから、婦人の平等の権利もまた、憲法で保障されているとはいえ、婦人の不断の努力によって保持しなければなりません。そのためには、まず婦人自身が男子と平等の立場にあるということの自覚を持つ必要があります。婦人過問や婦人会議はこの婦人の自覚を養成する機会であり、これは大変よいことだと思います。

しかし自覚するだけでは足りませんので、第二に、この平等の地位にふさわしい實力を身につけるということが必要です。實力を身につけるにあたって必要なことは、經濟生活において婦人が實力をもち、その地位を向上させる点にあると思います。

婦人の經濟活動の分野は、いふん広範囲にわたっています。「婦人の經濟活動に関する統計資料」というのが婦人少年局から出ておりますが、これを見れば、婦人たちがどういう分野に、どのように活動しているかということが、よくわかります。昨年十一月の労働力調査によりますと、日本の全人口八、七二〇万人のうち、十四歳以上の生産年齢人口が五、八六〇万あります。このうち男が二、七九三万人、女が三、六八〇万人で女の方が少し多いのですが、この生産年齢人口の中で、労働力として何等かの經濟分野において活動しているものと、非労働力として生産活動に従事していないものとに分れます。その数は、労働力人口四、〇六〇万人、非労働力人口一、八〇〇万人であります。この労働力人口のうち、男は二、三六〇万人、女は一、六九〇万人ですから、ざっと一、七〇〇万人の婦人が労働力として活動していると云えます。

生産年齢人口に対する男の労働力の比率は約八五％で、女の比率は五八％になっています。したがって非労働力人口は男四三〇万人、女一、三六〇万人で、女の方がはるかに多くなっています。女の非労働力人口の中で、家事に従事している婦人の数が八八七万人ありますが、家事労働もまた經濟活動の一部分であるという見地から見ますと、婦人の經濟活動に参加している数も、分野もいっそう広くなります。次に一、七〇〇万人の女子労働力人口は、どういふ分野からなっているかをみますと、業主として働いている数が二三八万人（一四％）家族従業員が一、〇三八万人（六一％）、被雇用者が四〇六万人（二五％）となっています。したがって婦人の労働力の大部分は家族従業員ということになります。二三八万人の業主のうち一五二万人は農林業以外の産業に属しており、農林業は八〇万人であります。家族従業員では一、〇三八万人のうち八三六万人という圧倒的大部分が農林業に属しており、非農林は二〇二万人しかありません。さらに雇用者についてみますと、四〇六万人のうち、逆に非農林業が圧倒的に多く三九〇万人、農林業に働く雇用者は一七万人になっています。

以上の数字でみますと、現在婦人の活動分野で最も多いのは家族従業者で、家事労働者・雇用者がこれに次ぎます。業主・家族従業者雇用者を通じて非農林業で働いている七四三万人の中で、製造業に従事しているのは二一八万人であり、さらにその中で紡織業に従事しているのは約半数の一〇七万七千人、卸売・小売・金融・保険に二五二万人、サービス業一八七万人合計六六七万人で、約九〇%が非農林で働いていることになりました。

以上の数字でみますと、ずいぶん沢山の婦人が広い分野の経済活動に従事していることがわかりますが、それと同時に、婦人の活動分野には、ある領域が自ら決まっているように考えられます。しかしこれが働く婦人の経済活動にとって、最も適材適所であるかどうかは、にわかに判断することはできません。しかしこの状態は一朝一夕には変更することはできないでしょうが、男女の地位が平等である、という立場からすれば、もっとも他の産業部門に拡張し得る余地が残されていると思います。

戦争前や、さらに遡って大正の終りころの状態に比べますと、日本の社会はずいぶん進歩しているということが出来ます。昔は婦人が職をもったり、労働に従事したりすることは、とくく非農林の日でみられていましたし、婦人自身もひげめを感じていました。今日では、そういう風潮は大部分消えさって、婦人自身が積極的に仕事をもち気持をもつようになっています。

職業をもつことを卑しむ、という考え方はどうして起ったのでしょうか。社会を構成する成員が社会的労働を分担して行わなければならないのですから、働くことは当然の義務であるはずですが。昔は社会的労働の分担が分業という形で行われていたことは、「桃太郎」の「お節さんは由に芝かりに、お徳さんは川へ洗濯に」という物語にも示されている通りです。ところが経済がだんだん繁達してきて、社会的労働を分担するものと、しないものとに分れてきました。そして一方は労働しないで食べていき、他方は労働によって食べていくという、いわゆる階級社会ができてきました。こういう社会では労働するものが卑しい人、労働しないものが高貴なものというふうに考えられるようになりました。こういう考え方が婦人にも適用され、婦人自身もそうい

う考え方を受け入れたのです。しかし、社会的労働が社会生活の基盤であることは前述の通りで、この基盤から遊離しているものは、寄生的であり、従属的であります。婦人が従来寄生的、従属的存在であったのは、こういう点に根ざしていたと云えると思います。しかし民主主義の発展とともにこういう考え方は失われ、婦人自身も自覚め、しだいに働く能力を持つに至ったことは、大きな進歩といわなければなりません。

さて今日、職業をもつ婦人が、収入を得ることによって、それで婦人の地位が向上したものと考えるとするならば、それは昔の考え方に対する一つの反動に過ぎない、余りにも単純な考え方だと思ふのであります。婦人でも、どうしても自活しなければならぬ地位にある人もあります。そういう場合には、自ら生活を維持するだけの能力と意志を持たなければ、社会の落伍者になってしまいます。しかし家庭の主婦が同時に職業を持つ場合には、ある矛盾が生れてくるのが考えられます。

元来人間の生活時間は二十四時間しかありませんが、私たちはこの時間を適当に分割して人間としての生活を営んでいます。睡眠その他の生理的な生活に要する時間、収入をあげるための労働時間、人間らしい生活をするための文化的、社会的な生活時間、さらに家庭を持つとすれば家事労働の時間が必要で、この四つの要素は人間生活に必要なものですが、これを限られた時間内に分割して行うことになり、必ずしも自分の思うままに分割できない場合も生じます。そういう場合には時間と時間が衝突して、その結果が人間生活の上にいろいろ具体的な形をとった生活問題として現われてきます。たとえば、子供が病気になるとか、主人の仕事がうまくいかないとか、主婦自身が過労のため病気になるということが起ります。また違った例でいいますと賃金が非常に安い場合、それをカバーするために労働時間を長くしなければなりません。その結果、生理的時間に、労働時間が喰いこむとか、あるいは社会的文化的時間がほとんど全部なくなってしまうとか、また、婦人の場合は家事労働の時間にそう沢山割いてはいられないとかいう問題が起ってきます。こういう問題については私はこの際強調しておきたい点が二つあります。

第一には、婦人が自身の労働力の価値を十分に重んじてほしいということです。労働力とは人間固有の基本的能力でありまして、この能力を現実化することによって労働が行われます。労働というものは、時間の経過もって行われますので、労働時間が生活のなかに入ってくることになります。したがって労働するということは、生活時間を持つているということになります。こういう考え方から申しますと、人間固有の能力を使うということは大変重要な意味を持つているのですが、どうもこれを軽んずるという傾向があります。私は労働力の価値を重んずるという点は特に強調しておきたいと思います。

そこで、労働力の価値を尊重するということになりますと、少くとも労働に従事するものは社会の平均的な技術と能力とをもって、責任ある仕事をしなければならぬのは当然です。その意味では婦人も男子と同等な地位で労働する必要があります。労働基準法では、女子であるということによって賃金に差別をつけてはいけない、同じ仕事に対して同じ賃金を払うことを要求していますが、そのためには婦人も賃・量ともに男子と同じ仕事をするのでなければなりません。これは自分のもっている人間固有の能力を重んずるという点から、当然出てくる結論であらうと思います。

第二には、女子労働は安いから使うということについてです。たしかにこれは昔から女子労働を使つた大きな理由です。しかし女であれ男であれ、このことは勢力を尊重するという面から云えば、人間労働に対する大きな侮辱です。ところで、こういうことを侮辱として受取る気持——それは少くとも、労働力を重んじている気持といえます。私が最近経験したことですが、私の演習に來ている女子学生が公務員試験にパスして、ある省の採用試験の口述試験にのぞみました。そのとき試験官はいろいろ質問したあげくに、あなたは省に入ったら、お茶をくんでくれますかと質問しました。それに対してこの女子学生は言下に私はお茶をくみませんと答えたそうです。ちょうどこの採用試験に、私のところの男の学生が同じ口述試験を受けていて、この答をきいていました。そして「ああいう答え方をしたのは、採用は難しかろう」と私に話しました。そこで私は、この女学生にどう

いう気持でそう答えたのかをききますと、「私はむろん、採用されることも重要だと思いましたが、婦人一般にとつて最も重要な問題だと考えたので、はっきり答えたのです。役人として採用される限り、その仕事には十分責任を果しますが、お茶くみの仕事に雇われたのならともかく、たまたまお茶をくんでくれますかということは承服できないから断った」という返事でした。この話をきいて私は感動いたしました。この女学生は役所の採用決定の前に大新聞社の採用が決定しましたので、果してこの解答が役所の採否にどう影響したか結末まではつきとめておりませんが、この女子学生の答は自分の労働について自覚をもっていたものであり、自分自身の問題を通じて女性一般の労働力を尊重するという気持をもっていたということに、私は非常に感動を覚えたわけであります。いずれにしても労働力を尊重するという自覚を持てば、自然こういう態度が出てくるものと思います。

ところで現実には、唯うや喰わずというような差せまった事態に追いこまれている人々にとつては、不幸なことではあります。労働力を尊重して、安売はしないというようなことはいってられない場合があります。こういうケースは特に内職をしている人々の場合に多くみられます。資料によりますと、一時間あたり五円の賃金で内職しているものさへあります。しかもその労働時間は一日平均少くとも六時間以上になる人々もあります。労働力を重んじなければならぬのに、一方ではこのような窮迫した事情があるのです。こういう問題はなかなか個人的に解決できるものではありません。生活の問題はもろもろ個人の問題ですから、ある程度自分で努力して解決しなければなりません。生活の問題は、個人も、決してそれぞれ孤立して存在するのではなく、社会のなかで行われているのですから、これを個人生活の枠の中で解決しようとする、解決の場も狭く、方法も限られてしまします。たとえ賃金が安くても自分さへがまんして、苦しい長時間の労働に従事すれば、家族の者が助かるからよい、というような解決方法は、自分の労働価値を低めることであり、同時に人間固有の基本的能力としての労働力の価値をも低めることになります。このような個人的な問題の処理の仕方、実は、社会的には何等解決されていないのみならず、社会的解決を、自分の線にまで引きおろす作用を持っていることを忘れては

ならないのであります。私たちは、自分の生活の中で経験し、その枠内で解決しようとしたことを、もう一度社会に拡大して考へてみる必要があります。

昨年私は信州にさぐり女工の状況を調べに参りましたが、これは日本の産業の中で最も低賃金であると云われております。そういう産業に対しては最低賃金制度を設けようという意見があり、今、そのことについて審議が行われておりますので、その資料を得るためにさぐり女工に直接会って、本当の意見をききたいと思ひまして業主の關係の人は一切会場に入らず、女工さんだけに話をきいたのですが、それによりまして、賃金は安くとも仕方がない、むしろ仕事が連続してあればよいと思ふという意見でした。これらの女工さんは、若いとき親系女工をした古い経験がありますが、今は多くは未入人で、一方では家事労働に従事しなければならぬ。子供の食事や教育もみてゆかねばならない、従って生活時間の中の労働時間はこま切りのものしか得られないので、そういう時間を利用する意味で、このような特殊な安い賃金が成立してゐることがわかりました。

このような問題は、女工さん自身からも、また業主からも、解決することは容易なことではありません。しかしさぐり女工の賃金が特に安いということは事実であり、解決を要する問題です。そこで、子供を一定の時間あずかる託児所があれば、女工さんは生活時間のうちまよまつた労働時間を減らすことができます。そのほかにもこの問題には、社会環境の改革を必要とする点があります。こうした社会環境の改革とともに最低賃金制がしかれて初めて、一方生活保護を受けながら、こんな低賃金で働くというような矛盾から救われるだろうと考えたのであります。

内職の場合もこれと同様で、家内労働法を制定して最低加工賃をきめても、仕事が連続しなくてはならないということになります。が、家事労働と内職のための労働時間との間に矛盾や衝突が生じます。これを根本的に解決するには、やはり個人的な枠内では殆ど可能性がないと考へざるを得ないのです。

四月九日の朝日新聞で、婦人週間に寄せた話題として、「越後平野に拡がる養蚕田」という記事が出ております。

したが、越後平野では主婦のために作付反別の一例をきいて、その田は主婦にまかせる、この田での収量が平均収量よりも多くなった場合、その多い分だけ主婦の収入として、主婦がどう使つても主人は苦情は云わない、ということになりました。これがこの村では大変拡がって、すでに二百六十戸がそういう制度をもっており、さらに隣村にまでも拡がり、大きな運動となっている。そして昨年のような不作にもかかわらず、養蚕田の結果として村全体で五十二万円もの貯金ができたというのであります。また、養蚕田の結果についての反省会の席上で主婦たちが語ったところによりますと、各自が新しい農業技術を身につけ、生産への発言力を増した。また、目標は一家そろって楽しめる生活をするということであることを理解してもらい、この田から得た増収をそのための資金にすることでありました。

私はこのいき方は、この地域において初めて考へられた一つのいき方ではあります。が、農家の妻が自分の家庭だけでは解決できない問題を村の問題として、さらに隣村を含めた大きな地域の問題として、すなわち社会の問題として解決する方法を打出したものと考へます。このことは直ちに政治に連がるものであり、私たちはいい政治を持たなければならぬということになります。このことによつて初めて働く人々の社会的環境の改革が行われます。よい政治を求めるといふことを考へるとき、そこに婦人参政権の意義がさんとして輝きます。婦人が参政権を獲得したということは、単に一票を投ずるということではなく、よい政治によつて働く社会的環境を改革してもらい、生活問題を解決することだと思ひます。

最後に、主婦と家事労働の問題ですが、これは労働力の面からは非労働力ということになっておりますが、主婦が家事労働を担当しているということは事実であります。収入をあげない労働は非生産的であるといひますが、この家事労働は家庭をもつ主人と主婦との間に分業という形で主婦が分担している労働です。現にアメリカの中産階級の家庭では労働の分担に対して、収入も分配しているという話をきいたことがあります。しかし収入を得るのが生産的労働であるという考へ方は、資本主義的な考へ方であると思ひます。しかし家庭は資本主義社

会ではありません。家庭の中では相對立する階級があるはずはありません。そうだとすると、家族によって行われる家事労働はウェルフェア——厚生という見地から考えらるべき性質のものだと思います。そういう見地からすれば、収入を得ない労働が必ずしも非生産的であるという見地はなり立たないことになります。厚生 of 程度をはかるには國民所得が基本になるといわれていますが、それでは家庭労働の結果をも評価されなければならぬということ、現に主張されています。厚生 of 立場から申しますと、収入をあげるかどうかは問題ではなく、その成果の正しい評価が大切です。以上のような点から考えますと、家庭には収入を得るための労働をする者と、家事労働をする者とがあつて、しかるべきです。分業の形で分担することは、立派な意義をもっていることを強調したいと思ひます。

もう一つ主婦の地位という点から考へて見逃せないのは、消費者としての主婦であります。毎日の生活必需品を買う消費者としての一人一人の主婦は、商業資本に対しましては全く無力であり、一人一人としては弱い存在ですが、これが固つて一つの運動ということになりますと、これ程強い力を持つものはありません。消費者が鋭い選択眼をもつて、ものを買うことにすれば、恐らく、よい品物がより安く手に入ることになるでしょう。

以上、主婦の家事労働者としての役割と、消費者としての役割と、この二つの面を十分に考へていただきたいということを申し上げましたが、さらにそれは一人一人の主婦の力ではなかなか解決されない、社会的な問題の環として解決していかねばならないということを繰返し申上げて、私の感想を終りにいたします。

第一部会 婦人が職業（勤務・自営）をもつ場合について

（職業能力・雇用機会、職場における男女差・家庭と職場の両立）

出席者

青森	松田登美	（製材業自営主婦）
秋田	一岡洋子	（地方公務員）
山形	高石万子	（事務員）
福島	如藤春枝	（新聞業自営・主婦）
東京	堀越恭子	（米軍留留交換手・主婦）
富山	増田芳子	（会社員）
静岡	飯田うめ	（地方公務員主婦）
三重	河村房子	（教員・主婦）
兵庫	田中豊子	（労働助手）
和歌山	石田日出子	（労働者）
島根	足添まつ子	（事務員）
広島	奈良江	（日本語教師・主婦）
香川	古市千代	（薬局自営・主婦）
愛媛	藤井アヤメ	（牧員）
高知	中山文子	（洋裁業自営）
アドヴァイザ		
司会		
東大助教授	氏原正治郎	
婦人少年婦人課	藤井敏子	

司会 ただいまから第一部会——つまり御自分で事業を
経営していらっしゃる方と職場で勤務していらっしゃる方
の立場から、「婦人の経済活動はいかにあるべきか」につ
いていろいろ御意見をを出していただいて討議する会を開き
たいと思います。初めに五分間ずつ出席者の方方から、そ
れぞれの立場の御意見を述べていただいて、その後で、討
論に入りたいと思います。

初め、自営の方から御意見を發表していただいて、その
後で勤務している方から御意見を述べていただくというよ
うに進めて参りたいと思います。

それでは一番初めに、青森県の松田さんから御発表を願
います。製材業を営んでいらっしゃる松田さん。

松田 私、八年前に主人に病死されました。四人の子供
を持つ母親であります。主人の亡き後、否応なしに経済面
の支柱として立たなければならなくなり、始めて今までの
自分の生活の盲点をはつきりと見せつけられた次第です。
経済問題は金銭的に、主人一人だけに依存していたこと、
又職業的意欲が薄かったこと、自分の家の事業の内容に
も、あまりに関心なかったことなどが強く反省されまし
た。もっとも、主人は主婦が事業にタッチすることをたい
へん嫌った関係もありましたが……。

現在は、主人の生前経営しておりました製材業を営んで

いますが、経営技術を全然知らなかった私が、これまで八
年間やり通して来ましたが休職を通して感じたことを述べさ
せていただきたいと思っています。

憲法上では、男女同權が認められておりますものの、現
実にそれはそこまで進んでいないことは皆様も否めない事実だ
と思います。それは、婦人自らの経済に対する自覚の弱
さ、技術技能の習得意欲の足りなさが原因となっていると
思われます。その盲点がはつきりわかりましたら、それを
打開してゆく強い意志と努力が必要だと思います。私、現在
の仕事を営みます前にほんとうに安易な考えのもとに、主
婦業にのみ専念してききました。小学校教員免許状以外なに
一つ特技を持っておらず、その免許状も、教育内容のすっ
かり交った時代には活用できない状態で、どんな技術を持
つていても、時代に即応して働いてゆかなければ、自分で
は知らないうちに価値が失なわれてゆきます。学校の職業
科も、一般概念で終りますが、社会に出てすぐに役立てる
ことのできる、もっと特長的な訓練、すなわち経理事務な
ど修得できる機関があつてほしいと思います。

家庭生活と職業の両立については、わたしの場合は自家
経営ですから、割合、時間は臨機応変に操作できますが、
又一面、無計画に行いますと、どちらもあふはちとらずに
なつて、健全な両立は難しいことになります。私は、時間

も、金銭の収支も、一般俸給者と何等変わりなく計画を立て、生活の合理化を図って両立させています。それにはやはり家族同志の理解と協力が必然的な条件になることと想います。健康なくしては経済的な確立は成り立たないものと確信いたし、それに重点をおいています。

現在、大学、高等学校、中学校、小学校と、各層に子供が在學しており、大学を除いてはいずれもPTAの役職を持ち、また社会福祉面・社会教育面・婦人団体など、数種の社会前の仕事に携わらせていただいています。一つずつ仕事が進みます毎に、よりいっそう生活を合理化する力を増くする動機となり、社会前の仕事の動きによってこれまでの狭かった視野を広くし、その実績によって、社会からも、今まで婦人の力であり認められなかった点を自然に無理なく認められてきている状態であります。

婦人の地位の確立も、実際に地に足のついたほんとうの力で焦らずコツコツと築き上げ、男子側から無条件に認められなければ、実際の地位も確立したとは言えないのではないのでしょうか。私は、これまで女では容易に経営できないとされてきた事業を、努力次第で女でもでき得るということと自分を確信するまで、私自身の力を、いいえ、婦人の力を試してみようという一所懸命努力しております。

司会 ありがとうございます。それでは引き続き、

福島県に加藤さんに御発表願いたいと思います。新聞業を経営していられっしやいます。

加藤 私の場合は、子供の成長にしたがってあれやこれや物いりかして生活が苦しくなり、夫の収入だけではなんとしても生活ができないという現実につかりました。婦人の人権確立とか、地位向上のために職を持つ必要があると考えるのは、現実の在り方として、すなわち現在の社会の尖鋭者の多い世の中をいって、あまりに甘い、甘い、甘い考え方ではないだろうかと思ひます。経済的な生活の必要に迫られて、生きるために職を持つというのが要当な考え方ではないかと思ひます。そして、働くために家庭をどう処理してゆくかという問題が起き、私達の家庭の最低の合理化をどうしたらよいかということになります。

お金をたくさんかければ、電気洗濯機・コピーロボットというように合理化はいろいろあります。しかし私の場合は、そんな余裕はありません。そこで考えられることは、第一に尖鋭者の協力がなくては行けない。協力の上下にこそ合理化があると思ひます。

私の家庭では夫も、朝、妻と共に起きてご飯の火も見てくれる。柴も拾い集めてくれる。掃除も、掃き掃除くらいは手伝います。よく世間の皆さんから「奥さんはお子さんがあんなに多くいらっしやるのに、よく働きに出られ

ますね。」と言われる。長女も次女もそれぞれ責任をもって夕飯と風呂の準備をしてくれまう。長男も三女も、仕事の分担があつてやってくれまう。洗濯機も掃除機ももちろん決めてあります。長女、次女は、自分の物ぐらひは洗濯します。日曜はガラス拭きをするとか、特定のことは日曜にするようにしています。労力の分担、協力があつてこそ、職業と家庭が両立するのではないのでしょうか。

婦人の職業確立と申しましたが、どの仕事も庶民に愛されなければならぬと思ひます。庶民の中に飛び込んでゆくことです。私の場合（新聞の編集発行）ですと、共に語り、ユーモアを共に笑い、身の上相談で共に喜び、親しい仲になることが必要です。町の中を話し廻ることによって、読者は今、なにを要求しているかということを知り得るわけです。老若男女の非戸籍会議の話題に至るまで掴み得るわけです。自ら方針が決まってきた。職業の能力というものは、トレーニングの必要性というよりも、裸になつて飛び込み、なんとかしてやってくれるのではないのでしょうか。やらなければならぬ、やってみよう、という意欲によって、方法も技術も自ら身につけてくるものと思ひます。阿武隈山に近い私達の町村の婦人達は活潑に働いております。編集は庶民の喜ぶ記事でなければならぬ、高度な指導的理

論めいたものでは読者は飛びついて来ません。したがって経営も成り立たなくなりました。何を知らたがっているか、なにを要求しているかが分ると、経営も自ら編集方針と合致するわけです。しかし私の独立した新聞事業は、決して単に興味本位の商品としてではなく、封建的な山村の中に生活をたかめる文化性を与える仕事としてゆきたいと思ひています。現在では一歩前進の喜びをかすかに味わつて満足しています。又将来に向つての努力もしています。具体的仕事の前でまだお話ししたいこともありまうが、時間の関係上後に廻したいと思ひます。

司会 ありがとうございます。それでは次に、香川県の古市さんにお願ひします。薬局店を自営していられっしやいます。

古市 私は戦前までは瀬田で自分に薬剤士という資格がありながら、主人に依存して生活してました。ところが戦後引揚の主人を迎えこの経済不況の中で、とても主人にだけ依存しておつたのでは食べてゆかれないという現実につかりました。子供四人を抱えましてこれでは子供の教育もできない。もうすでに時代は大学が普通になつてゐるのに大学にもやれないということでは仕方がないと、子供の教育やまた自分の生活を思ひまして、早速親から譲られました山を売って、焼跡の高松に開局いたしました。こう

いう経済状態の中でどうしても働かなければ食べてゆけないという私と同じような家庭の主婦で素人の方が、だんだんお店を持つようになりました。

ところが田舎の改善されない環境の中で、女という特別視された中で、従来の女に共通な経済知識の乏しさと、女なるが故の悩みを痛感しました。とくに現在のようなデフレの時代には、経営難におちいり、私共自営をしている者がだんだんと自分の企業面に打撃を与えられてきた感があります。

私達は今自営業者としての道をほっきりみつめて、もう一度ほんとうに婦人が実質的に立ち上るためにはどうしなければならぬかということや、過去の失敗を通して、考えたいと思い、端的にこの企業面にメスを入れてみたのであります。

特設を停っている方々、たとえばお医者さんとか洋裁家などは、この八年間を通じて立派に御自分で成功の域まで達しておられるようですが、素人が企業を始めた場合に最も必要な経理・経営・運営・金融と、この前の知識をもっている婦人が非常に少いため、殆どの者が苦労しています。とくに経理の知識がないために、私達中小企業者にとって最も致命的であったのは、税金の前でした。この税金のために、私達素人——中には未亡人の方もたくさんいます

が——の素人が事業を始めた場合に一番苦しみました。差押えをおそれて、測り当てられた税金を払うためにどうしたらいいかということや、着物を売って税金にあてたり、また借金でその税金の穴埋めをしたために、どうかするとその税金の肩替りに貞操まで提供しなければならぬ、自殺までしなければならぬというような悲劇を生んだのであります。ですけれども、それは今日、青色申告がだんだん認められて来たので、比較的らくになりました。しかしながら、青色申告の書き方の知識がないために、経理士を頼る。そのために税金を払うより余計その報酬にかかるということもあり、婦人の経理の知識がないために現在もやはり困っております。

また経営の面でも、女は昔から経済力に乏しいので、商売を始める際、男子に資本を依存しなければならぬ。主人と合同でやっている方はよろしいのですが、未亡人などの場合は困難で、その時に男の方から親切に言われると、ついそのお金を融通してもらおう。ところが借りたお金はなかなか払えないからずるずるとなっている中に、自然と男子の執属物になってしまっているというのが、各事業界に見受けられることです。あの方はなかなか立派な事業をやっているが、後に廻ってみると資本のために男に隷属している、という例があるのです。

また女は——私もそうですが——非常に経理の面について感情的であります。「お金がなくて支払えないから貸しておいて下さい」と言われると、「すぐ払って行って下さい」ということがなかなか言えないのです。そういう女の事務的でない感情はいけないので、経済というものは理性を働かさなければいけないと思います。私の知っている素人——先生上りの方——の例ですが旅館を経営しました

が、とうとう掛売金で倒されたというのがありますが、その他この類の例がかなりあります。また、素人の方が飲み屋を始めましたが、旦那さんの御病気のうちについて恋愛問題をおこして、男の方と逃げてしまった。そしてその店はずいぶん閉店しなければならぬということが現在ありました。こういうことは、私達に自立という訓練がまだできていなかったために、生じたのではないかと思います。

それから金融の面についていろいろと考えさせられる問題は、昨今、保全経済会とか、日本殖産とかいう特殊金融が、田舎のほうにも爾後の筈のようにできたのですが、そういう金融匿名組合とか、株式金融とかいうことの知識がない。ただ眼先の利子に迷わされて飛びつき、折角汗水たらして蓄めた自分の貯蓄を、元も子もなくしたという例がかなりあります。これなどは昔、未亡人や軍人の方が恩給

をふやそうとして、悪質ブローカーにかかったところの無知を再び繰り返しているのと同じじゃないかと思われま

す。他にもたくさんいろいろの具体的な例がありますが、結局これらは前にのべた経済知識の不足ということと、女という特権を付く利用しようとして、かえって利用された——昔から女ということや甘やかされてきて依存性が強いために、独立心が阻まれているからではないでしょうか。第三には、女特有の虚栄とか感情が私達の能力を、経済的な自立を、妨げているのじゃないかというふうに考えるのであります。

では、素人の方が企業をほんとうに自分のものにするために、どういうふうにすればいいかの一例として、現在私が関係している生活協同組合を御紹介したいと思います。私共の生活協同組合では、九軒の店を持っており、それを子供が買って、御主人がいらっしゃる九人の家庭婦人がそれぞれ担当しています。そして一軒に対して六十人以上百人までの会員を持って成り立たせて、いろいろなものを売っており、経理、物品の仕入れ等、全部女の手でやっています。男の方と協力はしますが、決して依存はしていません。それで一般会員の方は、消費の面と生産の面が非常に合理化されつつ、相互扶助の精神や企業の知識が獲得され

ておりますし、店を預っている九軒の方方は経済自立への道を歩みつつあります。

司会 ありがとうございます。それでは次に高知県の中山さんをお願いします。洋服店を経営しているらしいです。

中山 私が洋服を始めた動機は、父が病弱なためと、南洋群島に住んでおりました関係上、弟を内地の学校に進学させたいために、自分から進んで経済責任を負わなければならぬということでした。

最初小学校を卒業して、電話交換手を二年しました。しかしその間の給料では自分の生活が足りなかった。とて一家を万一の場合に背負うことはできないと思い、一方で新聞社の内職をさせていただき、ミシンを買った。だけの資力ができてから始めて、洋服のほうに入りました。洋服のお蔭で、職時中、南洋群島で食糧困難の時代にも、一般の家より恵まれた食生活ができました。當時はみな、物物交換で、物を持たない者は努力によって物を得なければならず、金銭は通用しない社会となっていました。なので私は洋服をして、その代りに食糧を得ました。そのため、技術や物品を持たない人の多くは、栄養失調でたおれてしまいました。

終戦後引揚げましたが、その時にも非常な困難に陥っ

不幸の連続でしたが、技術により常に励まされ、助けられ、ともかくも現在に至ったのです。ほんとうの活動はこれかと思えますけれども、小さいながらも土台のできたことに自信を得ております。

私の洋服は高級物ではなく、庶民的なものです。実際に習った年数は六カ月で、あとは自分の努力によって、参考書やひとの縫われた洋服をほどこいて、技術を習得しました。裁断や縫い方の基礎を覚えていたら、あとは自分の研究と努力によって、日常生活の中からその他の技能は養ってゆけると思えます。また、新聞・ラジオ・雑誌などからも知識が得られます。自分から積極的に考えて行動する意志があれば、すべての問題は乗り切れると私は信じています。私の場合は、ほとんど一日中家にいますので、知識を得るためにラジオを利用しています。夜のラジオの娯楽番組の時間に一時閑費として新聞や雑誌を購読して知識を得ています。

それから経済生活に計画性を持たせるために毎日出納簿をつけており、税金も合理的に払っています。税金の知識がなかった間は、非常に高額の税金によって泣かされました。それで、経済知識を学ぶために、近所に定時高校ができたのでそれを利用しようと思ひまして、私が裁断して妹に縫わせ、合間を見ている通学しています。それによって簿

で、私のように、家も土地も金銭も持たないものは、身についた技術だけが唯一の力となり、立直るものとなったのです。若し私が洋服を知っていなければ、女だけの四人世帯——私が長女ですが、母と妹二人を連れて、どのように生きて行ったらいいか、非常に迷ったことと思っています。今、その当時のことを思い出しますと、樂氣を覚えるほどです。

同じ町にもおおぜいの引揚者がいましたが、固定の職業を持たない方は日照、出稼ぎに出かけて、馴れないために健康を害されて、精核その他でなくなった方もあり、現在療養中の方もあります。それ等の方々と比較して、お蔭で精神的にも物質的にも肉体的にも恵まれ、八年間に、家の改造、宅地、ミシン、ラジオ等が購入でき、最低の文化生活が送れるようになりました。その費用は一カ月二千元程度の積立によって生み出しました。

方法は一口一千円ずつで、十人の雇実な方達に集っていただき、無尽の方法により、必要な方にはある程度の利子を配入してもらい、利子の高い方が落着くようになっていきます。落した方は、保証人が二人ほどついて、絶対に支払の責任を負うようになっていきます。このようにして私は現在の土台を築いたわけです。この間、終戦直前の父の病死、その後の引揚、その上南海地震の被害で家が全壊したり、

記の知識が得られ、税金を合理的に納めることができるようになりなりました。皆さんも、税金にお困りの方は、帳簿をヤチンとつけられて、合理的に税金を払われたら決して税金に泣くことはないと思います。

ささやかな体験ですが、自分でしようと思えばどのような困難があっても乗り越えられると思います。その代り、何事をするにも全力を尽して、命をかけてやらなければならぬと思います。一粒の麦が地に落ちて大きな実りになるように、一つの仕事から多くのものを得られた喜びを、皆さんにもこの機会に是非お分けしたいと願っています。

司会 ありがとうございます。次に広島県の奈良さんをお願いします。少し前まではタイプライターの職を閉いていらっしやいましたが、現在では日本語の教師をしていらっしやいます。

奈良 実は主人が終戦の一年前に応召になり、終戦後シベリアで抑留生活にはいり、自分と三人の子供がおぼろり出されて、始めて妻の経済活動を実働に考えるようになりました。娘時代に仕事を持っていたが、特にそれを一生続けてするというような強い意欲があつたのではなく、結婚と同時に仕事と離れてしまったので、明日からどうして生きて行かかというのを自分自身心配したのです。そして、自分に、お金の取れる仕事で、なにができるかとい

うことを反省したわけです。

前の経験から推して、英文のタイプライターを打つこと、ごく簡単な会話をすること、雑誌の編集とか校正とかいった仕事はどうかと考えましたが——実際終戦後はそういうものが要求されていたのですが、今中学校の一年生になつてゐる長女が当時五つ、その下に二つになる男と女の双子を抱えていたので、なかなか外に出ることに制限を受けました。そうしていろいろ考えた結果、自分の家でタイプライターの熟を聞くことに決め、自分の持物を売つて、最初にタイプライターを購入し、その他に、あるミッシェンスクールと県の職業補習所の英文タイプライターの教授・助教授を引き受けて、親子四人の経済を支えていたわけでありました。

その間、経営と教授の二つのことを一人で全部引き受けていたわけですから、さまざまな面で苦勞がありました。が、自分自身の経済活動によつて、子供達の毎日の生活を支えて、それ以上に収入が上廻つていたのでした。その仕事を通して明確に女性の経済的独立、自分自身の経済的独立の意識をはっきりさせることができたし、さまざまな苦しみを通していろいろの面で自分を成長させることができたと思ひます。自分自身がほんとうに独立した人間であるためには、まず経済的独立を得ることが、精神的独立を得る

か、どういう形でそれができるかということ、自分の一つの課題として追及していったわけでした。

主婦と職業ということとは非常に難しい問題で、家庭が職業かということでは悩んでいらつしやる方があると思ひます。それには、職業と家庭とを両立させられるほどに精神的に健康である場合、また夫と妻と同等の家事能力をもつて、其稼ぎを家庭の面でも経済の面でもできる場合、子供があれば、子供の養育をしてくれる人手がある。あるいは近所に保育所とか完成した託児所がある場合などはいいいが、そういうものがない場合には、やっぱりいろいろな面で女が犠牲を負ふことになりまふ。私の場合には自分の健康に自信がありませんし、自分の家庭環境とか、興味のあり方とか、収入を得るために割愛する時間を考慮して、一つの条件を設定して、その条件に合うものとして、ある一つのパート・タイムの職業を選びました。そしてそのための訓練と講習を受け、現在一日二時間程度その仕事をして、大体、すぐにになが起つても、自分一人が独立できるだけの収入は得ることができるようになっております。家庭生活と職業生活を両立させるためにはパート・タイムの職業が理想的ですが、日本の社会では、そういう職業形態がなかったのです。それをすぐ誰でもが見つけてその職業を持つことは難しいわけでした。けれども難しいからと言ってそれ

基本的なことであると自分自身はきり体験し、認識したわけでありました。

終戦後は、経済力のある者でない者との差異のはっきり現われた時代はなかったと思ひます。その時代に経済的な独立をなし得なかった人が、前の方達の話にもありましたが、精神的な独立を失つてしまつたということとはほんとうに悲しいと思ひます。ですから私達は、必要があるとなつてに拘わらず、経済的な独立をなし得るという実力を持つということが、自分の生きて行く上に基本的な問題であると思ひます。

終戦後四年二月経つて夫は帰つて参りました。勤務地が東京だったので東京へ移転しました。そのため自然に私のタイプライターの熟を閉鎖したわけでした。その熟を閉めていたミッシェンスクール、県の養育所においても、技術をお分けすることができ大きな喜びでした。そしてまた一介の主婦の座に戻つたわけですが、そういうふうに一人の独立した人間としての基本的なもの——経済的な活動と経済力というものを把握してしまつたものですから、主婦の座に戻つても、ただ座つてゐることが、自分自身でどうしてもできなくなつてしまつたのです。そうして今自分は妻の位置に在つて経済活動をするならどうということができ

る求めないのでなくて、みんながそういう理想的な形があることを知つて、求めてゆく努力が必要だと思ひます。

司会 ありがとうございます。以上で大体自営の方からの報告発表をしていただきましたから、これから、職場に勤務していらつしやる方から伺いたいと思ひます。初めに愛媛県の藤井さんをお願いします。中学校の教頭をしていらつしやいます。

藤井 先程坂西先生から、戦後、一方においては婦人の進出を叫んでいるが、一方においては婦人の進出を妨げている現状ではないかというお話がありました。私は昭和二十八年度末の人事異動においてそのことを痛感しました。それは婦人教師に対しての首切り問題が起つたことです。来年度においては生徒数が非常に増加しますが、その増加に伴つて必ず先生の数がふえなければならぬわけですが、愛媛県においてもやはり教員がたくさん増員されなければならぬのに、それに対して一名の増員の予算もないというわけでした。それでどうするかという問題ですが、それはいまも笑い話になっていますが、三万トン級の先生を辞めさせる——三万円以上の先生を辞めさせる。それから次に持つてこられましたのが、共稼ぎの問題。結局そのしわ寄せは女教師のところへグツと参りました。一番問題になつたのが、補欠による異動です。愛媛県においては、二月

県議会特別退職金条例を設け、退職金を普通よりも一・五倍くらい多くもらえることになりました。今年辞めれば倍からの退職金もらえるから、という餌をもって誘われたのです。

初めは非常に親切に持ってこられたのであります。どうせあなたは首が長くはないから、今年辞めればどのくらい退職金もらえるか計算してごらんないかい、そしていいと思ったらお辞めになったら、というのが第一回の勧奨方法だったのです。それにつきまして女教員も計算して考えてみました。今八十万円もらっても、二年三年経つ中にはそれだけで食べているとマイナスになってくる。やはり現在のこうした状態においては勤めていることが幸福な道であると確信を得た者は断乎として蹴ったのです。第三回目の勧奨は、もし辞めないならば、山のほうに飛ばされるかも知れない。または島のほうにやられるかも知れないと、だんだん勧告がえげつなくなつて、時には脅迫されることもありました。そういう状態から、若い女教師は、自分だけが勧告を受けて他の人は受けてないような錯覚に陥って脱落してくるというみじめな現状になりました。この表は（表掲示）勤続年数による実績を示したものです。勤続年数二十年以上の者が、男子は一七七名で、そのうち辞めた方は一二名ですが、女は二四名の中で半数の一名が辞

めております。年齢的に見ても、男子は四〇歳以上が一九三名の中で一二名ですが、女は四三名の中一一名辞めたという現状で、今回の勧告がどのように強い力を持ってきたかということが窺えると思います。

特に問題になりましたのが共稼ぎの問題で、ある一人の優秀な女の先生ですが、父兄からも、またどなたがごらんになつても優秀な女教師ですが、共稼ぎの線で浮んで参りました。その浮び方が、同職の場合、御主人が先生だということ、俸給が揃まると四万円、五万円になるからお辞めなさいと言つてこられた。その先生の言ひ分では、同職だから計算した場合は出るというけれども、それでは御主人が百俵でミカン山を持ち、桃山を持ち、さらにたくさんのお金を得ている、一方奥さんが収入の多い先生であつた場合は堪えておいて、同職だけで稼いでいる先生を共稼ぎで退職させるのは、と突っ張つて、三十一日までぎりぎりによつたけれども、最後の脅しは、「あなたが辞めなかつたならば、この町の教育予算に大きな影響を及ぼすから辞めてくれなければ困る」と追いつめられ、三月三十一日、涙をのんで、「勧奨により退職いたします」と退職願を出した状態であります。

もう一つは悲しむべき勧奨ですか、今までの音楽専科とか体操の専科などの教員を、ほとんど引上げて学級担任に

るべきでないと思つております。
同会 次に秋田県の一関さん。県の広報係に勤務していらつしやいます。

一関 女が自立するには経済的自立を図るのが第一で、それには先ずその職場になくはならない職業人に成長すること、を考へなければならぬという立場に立つて、お話を進めて参りたいと思ひます。

仕事を持って四年近くになりますが、今の広報という仕事、これは自分の心から熱中してやれる道場でありまして、できる限りこの仕事で伸びてゆきたいと思つております。ところが最近になって、果して自分がそのポストに適し得るかという不安を持つて参りました。絶対に必要である広い基礎知識、殊に行政関係や、経済・社会機構などに對する判断力の基礎となる知識に自信がないということが反省させられたのです。職業人として自活する目的に向つて進むためには、どうしても不足な面を補つていかなければならぬ。どうしたらいいか、その方法を考へてみました。基礎知識を得る方法は、手取り早く本を読むことです。が、活字に写されたことだけでは納得のいかないことが多く、系統立って勉強もしたいと思ひましたが、月の大半を出張している状態なので、大学に入ることもできませんので、どうしても通信教育による方法しかなかったわけで

今年はずつとゆきました。お母さん方に聞いていただきましたが、教育がほんとうに大切であつたならば、このように全然経験のない先生達を、大切なお子さんの学級担任に持つてゆく、そして予算の裏付けをばつておいて、そういういい加減な人事でそこをカバーする。もう一つは、一つの級に五十人、七十人の生徒を入れて、級が減つたことによつて先生が減つたのをカバーをしているという現状です。要するに、教育の効果の低下という方向に持つていって参ります。中には、古い女教師を辞めさせたいとお考えになりましようけれども、私達から考へた場合に、やはり辞めまつ一つの条件としては、自分から考へてみて、自分は力がないから教師として資格がないと思つた時には堂々と辞めましよう。もう一つは、自分はそう思はないけれどもPTAの方から、この先生は力がないと言われる場合にも反省して辞めるべきと思ひます。もう一つは、後進に道を譲ることが妥当であると思ひます。もう一つは、年齢が四十、五十過ぎたとか、俸給が高いから辞めなさい、ということに對しては、日本の教育を向上させるために、辞めてはならないと思つております。一般婦人勤労者の勤続年数を高め、俸給を高める一つの足掛りになると信じておりますが、女教師は、そういう脅しや文句の中で、おびえて辞め

す。さて通僧教育を自分の生活に取り入れようという時に、費用の面での問題にぶつかりました。費用を捻出する方法として、時間と支出を合理的に使うこと——時間を計画的に使うに費用を生み出そうと考えました。しかし米だけに通僧教育の費用を生み出すことができないで、今後どうしたらいいかということ进行研究しているわけです。

周朗を見廻しますと特殊な技能……タイプとか漢記とかを除いて、ほとんど働いている方は一般事務員であります。一般事務員がより仕事を巧くやって行くためには、どうしても仕事の基礎となるための一般教養を高めてゆかなければならないと思うのです。

次に職場における成長を望む時に、その職場の長官（一例えは現状の場合は、職務規程を始め、いろいろ現職員として必要な規定と申しますか、そういう技師の面々熟練してゆかなければならないと思います。お茶注ぎ等に迫り廻され、保守的な仕事に力を費やしているに拘わらず、そういう域を脱し切れないに在る現状で、どうしてもこういう能力は身につけてゆかなければならないと思います。

こうしたことは、私達のいろいろな経験から、自分の環境とか仕事、又は健康・知識面を含めた能力、経済面、そういうものを総合的にみて自分の働いている目的にどうして近付けてゆくかという方法を考えた時、すんでその機

たが、行政整理のために首にされた後、東京で簿記学校を出て、中小企業の経理事務員をやりました。そして不況に喘いでいる会社の金融難と税務署のことなどで、身体をこわしてしましまして、山形に帰り、現在失職中です。

婦人が職業を持つ必要についてと、皆さん共通の問題は、他の方におまかせいたしまして、私はもっと、中小企業の特別の立場から具体的に話したいと思ひます。

まず、婦人の能力を高める機会について、中小企業の経理事務員の場合、なんと言いましたも使用者側の雇むところは簿記ができ、得意先との接合、また税務署とも銀行とも交渉できるという広汎な知識と技術を完全に習得している者という工合で、大会社の事務よりずっとたいへんです。ですから簿記については、一応簿記学校を出て、税務署関係では、税務課などで備す説明会に自分が欠かさず行くことです。銀行や得意先の交渉については、ある程度会社の内容がわかってきませんとできませんが、繊細な職業意識と、それに合わせた高い教養を持たねばならないと思います。銀行と税務署のことで、私の小さな体験から考えられるのは、売買をする時に、一般の商業会社の事務員であっても、商業簿記はもちろんのこと、銀行簿記も工業簿記も知っておくべきだということです。銀行簿記を知っていると、銀行の交渉が比較的に容易いですし、税務署に提

会を求めてゆかなければならないわけですが、現在働いている女の方便は、そうしたことを考えるまでに達しておらないと思います。そういう自覚を促すためにも、私は次のことを是非今、婦人部の組織の力を通して設けてゆきたいと思っております。

第一に職場内に研修会を数多く、特に女が参加できる機会を作ること。次に、一般的知識を高める方法としては、聴講制度を、大学に、使用者側との話し合いで設けてもらうこと。これを單行にはいろいろ事情がありますが、特に私の地方では女が働くということを、なにかせいたくなく、このように考えられたり、女の人自身が隠昧な気持ちで、そうした環境に甘んじている現状なので、このことに關して正しい認識を周囲に与えるために、現在働いている私達自身が職業人としての実方を示すことが先決問題と思ひましたので、婦人がどういうふうにその職場で、職業人として熟練していったらいいだろうかというような題目を選んでお話ししました。

司会　ありがとうございました。それで、つぎには形勢の

以前中小企業に勤務しておりましたが、現在失業中でいらっしやいます。

高石 秋は戦前戦後を通じて六年間、鉄に凝めまし

出す書類の中で、売買だけの会社でも、原料とか在庫とかいう工業簿記的なものを含んだものがあるからです。要するにいままでお話ししたことは、職業意識を強く持ち、自分の仕事を愛することによって、職業能力が高まる。この高める機会についても少し言うなら、大きな会社は、婦人部やグループでお互に研究し合つて、講習会を開いたり、専門家の話を聞いてもいいと思います。しかし、中小企業者の場合は、会社の中のみではどうしてもこういうことは不可能です。こういう場合は、社会団体に呼び掛けるなり、同好の人にすゝんで呼びかけて、グループを作つて大いに職業能力を高める機会を作らるべきだと思います。又、このグループの問題ですが、現在の状態では、とにかく中小企業に労組を作ることは不可能です。

と云いますのは、株式会社は株式協同とかを自分で作っており従業員を持っているところは徒弟制度が大部分です。日本の中小企業は九割を占めていますが、労組もなく健康保険にさえ加入してないところが多いのです。こういう職場に働く婦人は、案外多いのではないかと思います。この人達は労働基準法も適用されず黙々と労働過重に喘いでいるのです。この人達は比較的教育程度が低く自主性に欠けているため、現在の自分の境遇に不足は言っても、それに対して闘いをしないで、企業主に服従しているのです。

す。そうして自分の数に閉じこもり、周囲に眼を向けないのではないかと思います。これは労働過重と低賃金のための生活の窮乏からくるもので、これらを打開するためにも彼女等は全国婦人会議などに大いに問題を提議すべき休戚者でありながら、心身共に疲れたり、職業意識の貧弱さのために、それができない現状だと思っています。

大抵以上のような観点から、組織の必要を感じているのです。せめて労組の婦人部的の繋りのようなものがほしいのです。この人達は消極的になっていて、ますます悪い労働条件の中で搾取され、圧迫され、みじめになってゆくばかりです。一つの手近な繋りを持つことによって、よりよき職業人となり、社会の表面に浮び上がれるのではないのでしょうか。昨年も今年も、このような人達は婦人会議に出ていないようですが、婦人会議もこのような人達のためにあるべきで、それには、適当な指導と啓蒙があつてしかるべきだと思います。

それから、これは、ちやうど一昨日山形から上京する車中のことですが、私の隣に紡績女工さんが同乗していました。そして婦人会議に行くことやその他いろいろのお話しをしまして、それに対していろいろ意見を出さうとしたのですが、取り上げるような話が出てこなかったんです。ですから、結局片寄った人達が婦人会議に集まらないで、こ

みたかったので、その五年間の生活が続けられるような条件から、現在の職業を選びました。つまり夜勤手当がつく、語学の勉強になるという点です。

女が職業に就くことを阻むものはずいぶんたくさんあると思いますが、主な一つは、社会の機構、現在の家庭生活の様式そのものが、女子に不利なこと——この中には男子の無理解も含まれていますけれども——さらには女子自身の意識の貧弱と団結力の乏しさが考えられます。

私の職場は、周囲が外人のために、男女の差別はありません。経歴と本人の技術（無努力）によって、男女同等の相当な給与を得ることができます。けれども昨年十一月頃——今までは電通公社に属して雑公務員だったのが、それが電通公社の手を離れて米軍直轄となったために、いずれは解散という将来の不安が高まってきました。そのための退職金の問題、それから現在……これは昨年の暮から、全駐留軍の労働組合などで問題にしたことですが、人員整理に代る賃金切下げの問題、それから勤務についての上部からのとてもひどい干渉がありました。そういうことから、労働組合の必要を感じ、結成を計画しましたが、このことに対しては圧迫が強く、計画は流れ、且つその時の主動者と見られる人への不当な退職勧告など、例えは連絡のために軍の公用電話を私用に使ったというような理由を挙げ

の次には女工さんも、中小企業者もみんな出席できるようにすべきだと思います。

それから、私が国鉄で首になった経歴があると申しましたけれども、今になってみると、犠牲者が単なる犠牲者で終っていたのではないかと思います。首を切られた御本人が、その場限りで諦めていたという女の職業意識の貧弱さに驚くのです。むしろこれは、いちがいに職業意識の貧弱さとは言えないかもしれないが、私理の場合、婦人の従業員を嫌う企業家に、正当化されたのではないかと思います。というのは、辞めさせられた約九割の人が、結婚という職業に入つたのです。

司会 ありがとうございます。次に東京の堀越さんにお願いたします。米軍病院の電話交換手をしていらつしやいます。

堀越 私の場合は、必要からどうしても経済的に自立をせざるを得なかったのです。引揚げた後、母と弟二人——父は病気でございましたが、女学校に通っている妹を育て、どうしても生活しなければならませんでした。そのために、私が仕事の条件として選んだのは、高給であること、もう一つ態が良かったので、……その間に女子師範を出て学校生活の経験もありましたが、さらに終戦当時の外地での精神的ないたでも立ち上るために、上の学校に進

た不当な勧告もありました。独立後とはいえ、日本側の無力さを痛感されております。

現在の私の仕事は五年以上の学生生活の延長です。実は昨年学校を終えまして、自分にふさわしい仕事につきたいと焦りました。その結果は、年齢的な制限、男女の差別、それから卒業と同時に結婚したので、既婚ということから、思う職につけなかったのです。私は女子と職業ということについてしみじみ考えました。女子はいずれ家庭に入るもの、やがては子供を持つものと考えられているために、面接に行っても相手にされないで、女子に与えられるのは、男子の補助とか雑用に近い、いつ退職してもいい、責任のない仕事が多いのです。受け入れる側の考ばかりでなく、一方ではほとんどの女子が、仕事を、結婚するまでの腰掛的なものと考えており、オールドミスになっても、主婦になっても勤めるなんて恥しいという考え方、そして、結婚すればいい奥さんになりたい——いい奥さんという言葉にはいろいろ解釈の仕方がありますが、結婚によって退職するような同僚を心の中で羨んでいるという気風が、案外多く婦人の中に多いのではないかと思います。幸いにして職業を得ている婦人達は、その職業を自分のものとする自覚、努力が必要ではないかと思ひます。自分の職に完全に責任を持ち得た人だけが、自分達の要求を世間に向

でも勤め先に向っても養育することができると思っています。次に、現在の私にとって大きな問題は、家庭生活と職場をいかに両立させるかという点ですが、この点は、夫の理解によってどうにかやりくりしています。

困ることは家庭の雑用です。キリのないもので、夫と妻の二人で分担すること、それから食生活を合理化することなどを、話し合って実行しています。勤めから帰って夕飯の支度をしている側で、夫がその日に穿いた靴下を洗っているという姿は、脇目には私が恐妻のようにも見え、年寄などにはどういふ気持ちに映るかもしれません。今の私共には自然に思っています。その他主婦の時間のやりくりのために、新聞を読む暇もないときは、非常に些細なことですが、夫が背誦してくれるという、夫の理解と努力の上に私の気持ちが安定している形です。

けれども、私の場合、これで済んでおりますけれども、従来の日本の家庭の生活様式は男子中心の在り方が多いと思いますが、それをもっと合理化して検討してゆかなければ、女の人が外で働くのは難しいと思います。

又私の場合今のはこの程度で済んでおりますが、さらに深刻なことは、私達の生活の中に育児という面がふえた時のことです。自家経営の場合とはともかく、私の場合、例えば乳幼児を抱えて外に勤めるということは非常に

困難で、慾を言えば、現在許されている産前産後の六週間の休暇以外に、子供が離乳するまでの、少くとも六カ月以上の休暇がほしいと思います。しかし実際には、もしそれが実現されたとしても、女子自身自分の責任ある地位に對して遠慮しなければならぬことになり、また、今生理休暇が女子を庇うために与えられた特権だと言われて、女子の働く条件をひどく悪いものにしていきますので、それ以上の女子のハンディキャップになるようなことはどうかと思ひます。こう考えると、女子が外に出て働くということ、は、生理的にすでに無理で、それをなんとか解決しなければならぬということ、は、女子自身のお互の協力によるほかないと思ひます。

今私が考え、望んでいますことは、女の人が働いている職場には必ず附帯設備として保育所・託児所がほしいと思ひます。それも、安心して子供を預けられるような完全なものが必要だと思います。そのための何かの具体的な方法を、今日この席で皆さんに図りたいと思ひていますが、私の一つの提言は、例えば火災保険などのように、育児保険ともいふべき内容を持った一つの制度を考えています。実現は早急にはいかなないので、何年かの計画を立てなければならぬと思ひますが、原則としては同僚と、経営者側の負担とし、当分は、働くものも含めた三者負担も止む

を得ないと思います。

さらに、そこに行く前の一つのステップとして女子労働者、働いている婦人に呼び掛けて、労組の婦人部あたりでまとめて、単に自分のところだけという考でなく、働いている婦人達の便利と向上のために、具体的な案を練ってみたいと思っております。

司会 次に富山県の増田さん。ある中小企業の繊維工場に勤務していらっしゃいます。

増田 私は富山の小さい町の、中小企業の繊維工場に勤めています。大体今までの話を聞きますと、中小企業に、実際に働いているのは私だけだと思います。

日本の経済の中核をなすものは中小企業と言われていますが、中小企業の大体的様式は、大企業の指定工場のような関係で、大企業が大体独占事業であり、独占資本によって中小企業が苦しめられている現状です。私達の工場では、八割が女子従業員であるために、いつも低賃金で使われています。

特殊な条件としまして、小さな町で、ずっと周りが農家であるために、うちで百姓をやっているという関係上、食べて行かれるだけのお米はあります。現金収入がないためにそのお嫁さんとか旦那さんが、勤めているという状態なので、給料がある程度安くても質上させようという意図

はなかなか返きてこないのです。従って、労働者として給料だけで生活している人にとってはとても不利です。農家だけで食べてゆかれる生活ならいいが、両方持つということは、自分達が安い賃金で働かされるという根本の原因を作っていると思うのです。

又私達のところで働いているのは大部分が既婚者で、お嫁さん達は朝早く起きて田圃に出て耕作をする。そして会社から帰って又陽の沈むまで野良仕事をしなければなりません。そのために会社を休むことが多く、それに選利するということから、既婚者に対して会社はいい顔をしなくなります。お嫁さん自身も、うちでも働いて会社でも働かなければなりません。両方負担しながら働き、だんだん身体は衰弱するという悪条件にあるわけです。これは、私達の工場だけでなく、他の中小企業全体に見られる現象と思ひます。

大企業から較べると中小企業は賃金がいへん安く、勤めてから五年になっても、大企業の初任給よりちょっと上くらいです。どうして安い賃金で働いているかと言われるが、私達は働かなければ生活してゆけません。さっき宿島の方がおっしゃいましたように、男も女も自由に働ける社会が理想ですが、私達は理想のためでなく、生活のために必要だから働いている、それが職業を持つ第一の必要な重

要な条件です。安い給料でも働かなければならないのです。大体これだけの給料では生活してゆけないというので職安などに行く人がいます。すると自分の給料と聞か、あるいは、より安いところしかない、仕方がないのでそのまま働いている状態です。そこにもってきて、今年の政府の政策が緊縮予算であるために、金融困難から、製品ストックとか金利に追い廻されているという経営内容となり私達の工場も、余命いくばくもないという状態です。そういうのは私達の工場だけでなく、繊維工場及び繊維の商社は、ばたばた倒産している、その中で私達はどうかしたらいいのか。もっときれいな品物を織ったら売れるというが貿易もなにもできないし、国内の経済状態はだんだん悪くなり私達はほしいものが店先にぶら下っていてもお金がなくて買えない。だから、織物を織っても売れない。自分で苦しい理由が分っているながら悪循環のために真綿で首をしめられるように、苦しくなってゆくということで、どうしたらいいかわからなくなりました。

この婦人会議にくる時も、現場で「婦人会議に行くから注文があったらしてほしい。真綿に話合ってくるから」と話しました。するとみんなが「こうしてほしいあゝしてほしい」と言ったが、皆のいうことをどうして解決したらいいかわかりません。それで、この席上で、中小企業がほ

しかし、離別するに当りましても、経済力がなかったら、やはり不幸に甘んじて、そのまま悲しい妻の生活をしなければならなかったと思います。お蔭で市役所に勤めておりますので、生活には自信がありましたために、この離別も断行することができたのです。一人だけの子供は私が引き取りました。ただいま私と子供の、二人の生活をいたしております。

私は戦後外地から引揚げて参りました。その間、未婚遊の夫を待つ間、子供を抱えてあらゆる商売を経験いたしました。その当時は人員整理がありましたので、定取のある職に就くということは願っても適えられないことでしたので、生きるためには手当り次第の仕事をいたしました。しかし幸いにある方のお骨折で、市役所に入れていただき広報係をさせていただきました。

しかしそれまでの間に痛切に感じましたことは、女は自立できる技能を身につけておかなければならない、ということでした。自分の腕に技能さえあれば、こんな苦しい思いをしなくても済むんじゃないかと何度考えたかわかりません。ただいまでも広報係といたしまして、写真技術・印刷技術など、いろいろな面の経験を積んでおりますけれども、まだまだこれからタイプも習いたい、女だてらと笑われますけれども運転免許も取ってみたいと考えております。

んとうに苦しんでいる状態をお話して、どういう方向に持ってゆくかということをお話して、どうしたいと思っております。

まだ不十分ですが、討論の間に具体的な、私達の工場で起っていることをお話しして、皆さんの参考に供したい、そうして結論を出していただきたいと思っております。

司会 それでは次に、静岡の飯田さん。市役所で広報の仕事をしていらっしゃいます。

飯田 天龍川の辺りの今田という小さい町の市役所で、秋田の一関さんのおっしゃったのと同じ広報係の仕事をやっております。戦後間もなく始められた仕事ですので、広報の仕事はまだあまり進んでいませんが、最も好きな、適合した仕事として、張合を持ってやっております。私は、娘時代、女は家庭に入ることが一番正しく、よいお母さんになり、よい奥さんになることが女のしあわせであり理想であると思っておりましたのですけれども、今般ある事柄で夫と離別いたしました。このことにつきては、ある方が「女のくせに、おとなしくしてないからだ」という言葉を投げつけられたのでありますが、それには決して抗弁いたしませんでした。また、離別ということも決して悔めたことではないということは存じておりますけれども、止むを得ない事情がある場合は致し方ないと思っております。

す。どんなことでもやってみようという気魄を自分の根本にしてこれからの生活を生き抜いてゆきたいと思っております。

私は皆さんと違ひまして、学校を出ておりません。高等小学校だけの卒業です。これは、貧しい家庭に育ちまして、うちの手助けのためには、小学校を終えただけで当然であると思っておりました。多勢の子供を抱え苦闘する両親を見て、寮計を助けるのが一番の道であると思っておりました。ですから就職の場合、自分の理想どおりに選択はできませんでした。ただ働いてお金をとらなければならぬという気持で就職したために、腕に技能をつけるというところに重点をおかなかったのが失敗だったと思います。ですけれども、仮令学校を出なくても、自分がどうしてもやり抜こうという気持があったらいいと思います。男と女は、とかく女のほうが理想家と言われると同じように、学校を出た方と出ない方と比較しますと肩身の狭い思いをしますけれども、自分が一所懸命やろうと思ったら、その人達にひけを取らない、というように考えております。ですから、難しい本も漁って読みます。わからなければ二度も三度も読んで、納得ゆくまで自分を育てるだけの努力をいたしております。

こういたしますと、職場におりますと、一番先に参ります。

すのは「女のくせに」とか「出しやべり」という文句です。これを言われるのが、いかなる女にとっても致命傷だと思います。私ですら「女のくせに」とか「女らしくない」と言われるのは辛らい事です。その苦しさは耐えるだけの勇氣、その苦しさを一ふん張り頑張ると、あれで当然、という見方になってくるのじゃないかと思ひます。その苦しさを耐える間の力というものを、女の人がみんな持ったならば、女の人の上には大きな力になると思ひます。なんでもいい、一所懸命やろうと誠心誠意当たら自然にわかつてくれるのではないかと思ひます。また女の人が一所懸命やることによって、その人に隠された才能があると思ひますが、その才能の掘り出しにも役に立ち、男が誰でも伸べる何らかの才能を持っているのと同じに、女にもそれぞれ隠された才能があるにもかかわらず、知らないままに一生を終ってしまふ人が多いと思ひます。そういう面も、女の人が自覚して経験を積むうちに自然発見する、新しい自分が発見できると思ひます。これが女を上させる大きな力と思ひます。

幸いに私は上司の方々の御理解をいただき、ただいまでは広報を一人で担当しております、あらゆる協議会や学会にも出席させていただいております。広報協議会というのに始めて一人で出ました。このときの上司のお言葉が

かということに汲々としていることでしよう。ですから、サロンで飲談するというようなことは夢にも描かず、炊事とか育児・洗濯に終日を費やし、夜は足袋の繕いというふうに自らを酷使している現状ではありませんか。何事もありのままに甘んじている状態、それは自分が生産的な経済的能力を十分持たないという面に大きな原因があるのではないかと思ひます。もし主人の意に従わないで離婚されたら路頭に迷わなければならないから、仕方なく忍従しているという人がかなりあるのではないのでしょうか。こういう現状において私達職業に従事している者は、なにか一つの悩みを持っていると言えましょう。これを改めて全女性の方に認識していただきたいと思ひます。

さて私は、この職業を持っているということによって、積極的な経済活動をしたいと思ひます。結論的に申します、私の考えはできる限り多くの収入を得て文化的な生活を送りたいということです。

私達が社会的に向上する第一の条件として、高い教養を身につけることを考えますが、それがためには、物質の力によることが大きいと思ひます。もちろん知能とか品性は金銭では買えません、その素質を磨くために、学問・芸術など、あらゆる分野は、物質でなければ身につけ得ない場合が多く、さらに、今日の文明的利器は、ほとんど両面

「女一人で出して、県とか、上のほうからの連絡に支障はないか」ということでした。けれども一所懸命努めましたために、たいへん好評をいただきました。それから後は、どこにでも、絶対なにも言われずに出していただいております。富山で行われます全国広報主幹者会議にもお叱言なく出席させていただくようになり、今回の出席も、私よりも周囲の方々のおすそめによって、募集に応じたわけですから。

申しあげますればただ一言、女がその微力で一所懸命やるということ、これが大切なことではないかと思ひます。

司会 次は三重県の河村さん。小学校の教員をしていらっしやいます。

河村 私は小学校に奉職している者です。一番の願いはピアノがほしいということです。ピアノ一台あればどんなに生活がうるおい、仕事に疲れた時の心の救いになることかと考えるのですが、それをお友達に話しますと「夢のようないことを言っていないで、もっと地についたプランを立てなさい」と一笑に付されたのであります。けれども果してこれが夢でしょうか。

従業の家……現在でも、大多數の婦人は、経済活動といつても主として消費面に拘わり、いかに出費が少くすむ

なもののばかりです。これを使うままに使いこなすために、やはり物質は強大な力を発揮します。ところで多くの収入を得るためには、まず男女の俸給差をなくするように努力しなければならぬと思ひます。女子が決して男子に劣るものでないことは、幾多の事例が証明しているにもかかわらず、男子の支配下にある社会では、女性が高いものに見られるのは遺憾に思ひます。当事者に考えていただくと共に、私達も反省の余地があります。家のほうは職業より大事だと暫わんばかりのことを平気で口に出して、職場を単に金銭を得る処と考へ、職業に対する研究心をもちないで男子に依存するのはもってのほかです。こんな考えでは、やがては世の中からしめ出されるでしょう。いま一度大きな組織を持つことが必要と思ひます。ポイポアルの「第二の性」に「女は男性の支配する集団に組み入れられて、そこで従属的な地位を与えられる。女と女は同類の者として機械的な世の中の繋りで結びつけられるだけで、相互の間に統一された協同体が築かれる有機的な連帯性はない」と言っておりますが、私達が確固とした経済独立を得るためには、有機的な婦人の連帯性を持つことが大切と思ひます。

一方家庭経済の面を考えましょう。職業を持って外に出ると、往々家事が留守になって思わず費用がかかることも

あります。二重の労働で身体をこわすこともあり、

これらの愚を繰り返さないために必要なことは、家庭の科学化だと思ひます。家事労働の多くを占めるのは炊事と洗濯です。電気洗濯機はこの悩みをどんなに救ってくれるでしょう。それから、ガス・水道によって、働く婦人の悩みである時間を切りつめることができるでしょう。これには費用がかかるが、これこそ収入によって賄えるから、ここに収入を得るものの強みがあると覚えましょう。また、「時は金なり」と申します。限られた生命を持つ私達には時間が往々にして物質よりも大切で、この意味において、経済とは物質のみでなく、時の活用にも重点をおくべきだと思います。それによって自己の教養を磨くこともでき、主人のベター・ハーフとなることもできましょう。人間と生れた以上、男子と同等の水準を持つことは許されると思ひます。卑屈な考えを捨てて、娯楽活動に文化に、常に新鮮な考え方をもちたいものであります。

司会 次は兵庫県の中田さんをお願いいたします。労働研究所の助手をしていらっしゃる。

田中 自身職場婦人としての経験から、職場に出た場合、奥情に則した活動をしている労働組合の中に場を占めていないという点からあらゆる問題が山積していると思ひます。

この場合、年齢は全体の五割の人が二六歳から四〇歳までを占めており、しかも勤続年数が、総平均で六年九ヵ月そのうち四割を占める人が四年から十年の勤続者であるにも拘わらず、平均の手取り賃金一万五千円以上の人は、全体の三六%という少数で、六割近くの人は五千円から一万円の賃金だったのです。もちろん二年前の調査の結果ですから、短期的に、この数字だけではちょっと価値がわかり兼ねると思ひますので、そのことは討論の中で述べたいと思ひます。しかし以上の数字を申しあげただけでも、長年月・高年齢にもかかわらず、非常にこれらの既婚婦人が低賃金であるということははっきり示されていると思ひます。

もちろん賃金を見る場合、現在の職種が問題になります。調査対象となった婦人が比較的年齢が高く、又多くの人は小学校とか高等女学校の卒業で、専門教育を終了した人は全体の一・四%にしか過ぎず、それも多くが過去の教育しか受けていないため、現在の職業人としては、非常に無理な条件に立っています。しかも女子が就職後職業教育を受ける機会がほとんどないような状態の今日、非常に長勤続者であるにもかかわらず、現在与えられている職種は入った時と変わりません。現場労働とか、単純な事務労働とか、補佐婦とか炊事婦の職種が大部分を占めています。ですから、賃金の分布状態と職種の関連をちよつと言いまし

ます今日のお話の最も重要点とした問題の一つに、生産労働者としての職場における低賃金問題、二つには婦人が、家庭生活と職業を両立させようとするとき、婦人の上にしわ寄せの犠牲的なものがあるかという条件の上に立つてでなければ成り立つてゆかないという現状、この二つの点につきまして、問題をしばってお話してみたいと思ひます。言葉をかえて言うところの二つの問題につきまして、初めに、生産労働企業下の従来の労働組合の在り方、さらにはその中にある婦人自身として問題の取扱ひ方に、自分の問題でありながら取り上げ方がまちがっているのじやないかということ、それから家庭の主婦としての社会における経済活動の今までの在り方を再検討してみたいと思ひます。

職場における婦人の低賃金の問題につきましては、同様の男子労働者の平均賃金の四〇%、五〇%、あるいは六〇%であるという事実、賃金統計のすべてが示しておりましたが、それが女子の低賃金を示すものと常識的にはなっていますが、私はいまここに具体の一例として、神戸市内の紡績・百貨店・貯金事務・ゴム産業に働く既婚婦人——これは未婚に對しての既婚婦人で、離死別者も共働きも全部含めて——を対象とした調査結果を申しあげまして、さらにはつきりさせてみたいと思ひます。

ただれども、これだけではつきり女子の賃金が男子に比較して、疎密な意味でこれこれの差異があるということは即断されないわけですから、しかし、男女の賃金に差があることは、現表面に表れている／＼の就業条件と賃金との関係のほかに何か原因があります。その原因によつた結果が現在の男女の就業条件の差となつて表れているのですけれども、その原因を生み出したものと奥の原因を考えた場合に、最も大きなものは、古い伝統と習慣じゃないかと考えています。女子は労働体力が低いとか労働意識が低いということが通り相場のように言われているが、しかし現在の労働を見た場合に、近代の生産力はおそらく機械化、動力化の進展によって、男女の体力差はそんなに問題にならな

いと思ひます。労働意識にしても、男女共学の結果とか、私自身職場の問題を見ても、共稼ぎの婦人が増加している現状から、嫁入り前の腰折れという職業婦人に対する見方は、社会的な必然性から変るべきであると思ひに抑わらず、いわゆる婦人の労働力を、買われる方も、売る方の婦人自身も、従来通りのものの見方をする習慣と伝統が強いように考えられます。ですからそんなものが原因して、私達婦人の雇用の職を非常に狭くしています。

います。神戸市内の場合も非常に大きな企業で、労働組合が強いに拘わらず、あまりにひどい女子の低賃金が出ていくということから、今までの労働組合の在り方や、その中の婦人問題の取上げ方が、本格的な生産強化の問題ばかりを考え、根本的な男女の賃金差について、真剣な検討が行われていなかった点を反省すべきと思います。

そのためには、まず男女同等に就職の機会を得るための努力が必要だと思います。その裏付けをするために同等の熟練者となり、同等の實力を持つ必要があると思います。今までのような企業内の経営能力を勘案しての企業内の労働組合であっては限界にきていると思います。もっと、同じ立場にある婦人達の大きな団結によって解決してゆく必要があると思います。

それから既婚婦人の就職の動機が、経済的に申しました、その中でも一番多いのは、子供の養育費のためで、神戸市内の場合、子供の養育費は家庭の総支出の三割も占めていないのに、この婦人達の場合は八割から一四割を占めていることから考えまして、子女が教育を受けることは家庭にとってプラスとなると同時にさらに大きく社会にとってもプラスとなるわけでありながら、あまりにも家計における支出割合が大き過ぎる気がいたします。しかし今までのいろいろな婦人自身の教育の在り方から見て、これから

先の人間教育はどうしても必要です。そのためには、もっとも、国家がより大きい教育費の負担を考へるべきだと思います。

それともう一つは、当然、妻として、母としての場に立つ職業婦人としては、突き当る壁——つまり幼児の養育の問題、託児所の問題についても考へるべきであると思います。現状では数が少な過ぎるし、実際に職業婦人に必要でありながら利用されてないような行き方をしています。その問題について、もう少し具体的な在り方について考へると、先程どなたがおっしゃいましたが、私達が努力を売るといふ立場に立つて考へた場合に、企業家の方に経営の負担をかけるというのは妙な形で、やはり大きな国家の保障が必要だと思います。そんな問題について具体的にどうしたらいいか皆探と話し合ってみたいと思います。

司会 では和歌山県の石田さん。労働組合の書記をしていらっしゃる。

石田 私が経済的独立に目覚めたというのは、裸一貫になつて内地に出掛け、振り出されて、ぎりぎりのところに追いつめられ、夢中になつて、真剣に働くといふ問題と取り組んだときでした。人間が追いつめられた生活問題に当面した時に一番値くなり得るものだということを私の体験から言えます。

日本の家族制度の中で「勤労婦人は小遣い稼ぎをし、ほんの家庭の一助とする」といったのが世間の常識だし、本人もそのつもりですけれども、独立して家族を養

えている私は、特別な事情として同情心をもって見られることは心外に堪えません。社会では女が一家を支えていることを公的に認めないと思います。現在の社会の中においては経済的必要性を云云するが、その前に何とかして働かなければならない必要に迫られております。男に頼ってはいられない、男に養われるものだといふ考え方は許されないと、女性が時代の要求と共に独立したいという自覚をもって、一定の職業に就くことは切実な問題になっていきます。男も女も、社会機構の中では共同の責任者であります。実際生活に女子が携わり得る条件においてのみその地位が保たれるので、そうでない社会環境の中では表に現われて来ません。

職場になくなくてはならない女性となるために、實力を養うことが先決問題で、婦人週間のスローガンの通りです。

それには、職場で腰を落着けてその職業に徹底して行ける、ということから掴んでゆきたいと思います。物の考え方、見方、批判力、決断力、政治能力、直観力、粘り、情熱、融和、協力などということ、本気で一筋にぶつかって行つて、自分のものにしなければならぬと思います。

こうした一人でのたゆまぬ努力が各職場でされた時に、その人はなくてはならない存在になつて来ます。ポストは求めるものでないといふものかと思ひます。

なにか女性の経済的向上を阻んでいるかと、身を以て努力し、実践し、レジスタンスをやった結果はどうか。先程の人造もわたしも、職場から敬遠され、追い出されています。そういう事実があまりにも多いのを見て、女の人の経済的地位は社会機構の幽霊でがんにがらめにさせられ、個々の叫びではどうにもならないということを感じました。個人の力は弱く、団体の力は強いといふことは、皆さんも職場で身を以て体験させられておられると思いますが、横の連繫について、女のせまい視野を広くしなければならぬと思います。

婦人週間の行事にしても、女性の固執性を反省させられたい。一つの県では婦人週間の行事を三つも四つも個々に計画し、それぞれ時間をかけて持っている。各団体で持たないといふことはわかりますが、この週間くらいは、イデオロギーを超えて、妥協点を見出して、協同歩調でやって頂きたいものです。婦人少年堂あたりがどうして妥協するようにならないか、それが女性のセクトだと男子に言われますが、こんなところに、自ら掘った穴に入り込む危険があるのではないだろうか。

賃金問題だけでなく、もっと奥にある事情を自覚しなければならぬと思います。同じ賃金で働くなら男の方がましだという考え方に對して、女の方がどう解決してゆくかということとは、女の自身で明確にしなければなりません。ここでそれを皆様に見出していただいて、私が吸収したいという覚悟で来ております。

私の応募した感想の中で詳しくふれていますが、果して女性が男子に劣るかどうかは未知数で、社会は両性で構成されており、その人口の半分以上が女です。婦人問題は婦人だけの問題でなく、労働問題と同じに社会全体の大きな問題です。婦人問題は社会の片隅に追いやられて、婦人過問などと、ことさらのように取り上げられます。是非これを永久的な日常問題の中に取り入れて、この婦人過問の行事から得たものを実地に移してゆきたいと思っています。司会 ありがとうございます。では最後に島根県の尾添さん。町議会議務局に勤務していらっしゃいます。

尾添 私は、国引の神話で名高い大國生命をお祀りしている出雲大社のそばの町の、議会議務所に勤めております。

戦後職業婦人の進出が目覚しく、学校生活を終えた女性は一応就職することが常識となって参りまして、職業を持てることが婦人の当然の行き方であろうと思っております。

勤めと家庭の生活の両立を妨げていると思います。ですから、いわゆる男性の寛大な理解が必要だと思います。家庭にいて、働いている婦人がたしかに多いのはそこに原因があります。その上女同志、姑がお嫁さんの苦しみと同様しいという実例が、私の近所にもあります。つまり日本の社会環境が、職業婦人のために合理的でないと考えられます。ですから仕事を考えるためには、自分の生活を仕事に合わすということではなくて、むしろ自分の生活設計を立てるのに仕事に自由にできるように立てられなければならないと思います。

私は職業婦人として、合理的な暮らし方の一つとして、時間の上手な使い方に努めております。職業婦人になるとすれてくるとか、だらしないとか云われますが、これは結局毎日毎日時間に追いかけて、心の余裕を失ってしまふからだと思います。時間を上手に使うということは、時間を追いかけて廻すように心掛けてゆくことだと思います。私は一日の時間を、出勤前と出勤中と帰宅後の三つに分けて、それぞれの時間表を作っております。朝出勤前の時間表は、その日一日の生活のもととなりますから、充分ゆとりのあるように作っております。また働く婦人にとって一番の重荷は洗濯で、ためておかないで、帰宅後顔を洗うついでに洗う。日曜にまとめて洗いますと、洗濯のために日

これからの職業婦人が、職業を結婚後にまで延長させるにはどういう心算で毎日の生活を合理化したらいいかというところについて考えてみたいと思います。

これからの職業婦人として一番大切なのは、精神的にはもちろん、経済的にも独立するという自覚を持つことだと思います。働くということ、貧しいために止むを得ず選ぶ道だと考えるのではなくて、独立した人間の進むべき当然の道として、社会の一員として自立の一步をふみ出すところに大きな意義を持ちたいと思います。

ある統計によりますと、アメリカの場合、働く婦人の六五%が既婚婦人で、三五%が未婚者である。平均年齢が三十五歳であるというのに較べて、日本の場合は働く婦人の八〇%が未婚者で、平均年齢が二十三歳になっておりますが、これは日本の女性が、まだ職場に對する心構えが充分なくて、結婚するための腰掛だという考えで働いている人の多いことを示しております。それは女性自身で女性の職場を決めてゆくことになると思います。封建性の強い島根県におきまして「腰掛に終る」ということを考えてみます。一つは親が、娘の働くことは結婚するまでのお小遣いを儲けることという觀念をもっており、これは親の見得と虚栄からそう考えます。もう一つには、日本には女より男が上級の人間であるという考えが根深くはびこっており、

隔は破れてしまつて、月曜の仕事に差支えます。

それからサラーは両親に渡していますが、ささやかなから自分の収入を自分で切り廻してゆきたいと思つて、月給の三分の一を両親に渡し、三分の一を結婚資金として備えるために定期預金に、その残りの半部分を当座預金、衣類の調整に、残りを娯楽や修養に当てております。正しい判断力と常識を身につけて円満な人になる土台をつくると共に、現在の生活を結婚生活のための拠の場所としたいと思ひます。

戦後進出された婦人代議士の方も、先般の選挙の時に又少くなりましたが、この理由の一つには、女は融通がきかないということが言われております。その代議士の融通がきかないということは、ただいま新聞紙上を毎日のように賑わしている汚職事件などに現われていることだと思います。そこで私は女代議士の方は退くべきでなかつた、声を大きく叫びたいと思います。私達働く女性は、この時の流れに一刻も遅れることなく、家庭と仕事を両立させることに必死の眼を注いで、女が男より下級だという考えがなくなるまで、持場を退かないように仕事を通じて、女としての生活にプラスになってゆくように、一所懸命努めたいと思ひます。

司会 ありがとうございます。以上で十五名の方から

全部発表していただいたことになりました。

皆さんの御発表になりました御意見に対して、アドヴァイザーの氏原先生から、感想を述べていただきたいと思ひます。

氏原 いろいろ皆さんの御報告を伺ってみました感想を述べながら、特に私が気がついたことを申しあげて、これからの皆さんの御討論の参考にしていただきたいと思ひます。

論点はプリントになっております五つに大体まとめられるように思うのですが、それについて若干の私の感想を申しあげます。

一つの点は、婦人が職業を持つようになった動機という点についてであります。これは大多数の皆さんが生活の必要からと御報告になりました。たとえば、夫を失われて自分で自活してゆかなければならないという事情、あるいは、御主人が外地に行っておられて、そのためにその期間職業に就き、収入の途を得なければならぬというような事情を御報告になりました。

しかし、私考えますに、こういう、生活の必要から収入の機会を得なければならぬという事情は今日始まったことではないのでありまして、戦前でも多くの方が、必要に迫られて職業についていたというふうに思ひます。ここにお

らかといえは受身一方であったのが、戦後になりますと、初めは受身であつてもだんだん積極性を持つてきたのではないかという点を感じたのであります。この点は、私としてはたいへん嬉しいことであります。

ところが、そういうふうに職業に就かなければならぬし、また職業に就きたいし、また現在就いている職業をそのまま続けてゆきたいというのが大体皆さんの御意見であります。これについていろいろな問題が出されてきています。現在勤めておられる、あるいは自分で事業をやっている方が感じておられることの一つは、婦人の職業能力が不足している、男に較べて不足している、その可能性はあるけれども、その可能性が充分に発揮されていないという点じやなからうかと思ひます。そのために、お勤めの方であります、責任のある地位に就く機会に恵まれない、あるいは熟練者として給与の面でもあるいは待遇の面でも男子に較べて悪い状態に置かれて、ことに中小企業の方から強い発言があつたのでありますが、このために差別待遇をうけている、もちろんこれだけが原因ではないが、それが一つの原因になっております。そして多くの婦人は、

零細企業や中小企業の不熟練な職業に就いています。そこでは、大企業に較べて、あるいは専門的熟練の技能を持っているものに較べて非常に悪い状態に置かれているといひ

出での方は、そうでない方が多数出でかもしませんが、日本の婦人で収入のために働らいている人の数は、外国に較べても少くないのに、一般にはあまり問題にされませんでした。これは、御報告の中にもありましたように、婦人の職業というものは、婦人の本来あるべき姿ではないという考え方が支配していたからだと思います。ですから、農家の婦人が農業の手伝いをしたり、家庭の主婦が家事の傍ら、家内労働をして収入を得ていても、婦人が職業を持つていたとは考えられなかった。あるいは農家の方がお嫁入り前に紡績製糸工場に勤められる場合でも、独立の職業人とはあまり考えられていなかった。どちらかとい

えば、家計のたしめをするために止むを得ず勤めていたというふうに考えられていたのではなからうかと思ひます。ところが、皆さんの御意見を伺っておりますと、生活の必要から就職されたわけでありましたが、その結果と申します、その過程でどうしても婦人が経済的な独立をもたなければならぬ。あるいは経済的な独立がなければ社会的にも独立できないというふうに変つてこられた。初めは受身であつたが次に積極的になつたという感想を、私非常に強く持つのであります。戦前と戦後の違いという問題は、こういう婦人の職業についての考え方、あるいは実情の違いという点にあるんじゃないでしょうか。戦前はどち

問題が出されたのではないかと思ひます。またそういう技能の点で男と差異があるために、男の職場と女子の職場に分れている。そして女子の職場は相対的に狭くなつてきている。そこで、おおぜいの婦人の方が生活の必要に迫られて、待遇の悪い職場に集まり、ますます悪い状態に置かれることになつてくる。こういう面で、職業能力やそれを精神的な面で言いますと職業意識ということにもなるが、職業に対する考え方という面で、なお考へるべき点があると思ひます。

それと関連いたしました、そういう職業能力、職業意識を高めるためには、どうしても教育が必要です。教育として皆さんが強調されましたことの一つは、一般的な教養を高めることが必要だということです。この教養にしまして、古い、お茶・生花というようなことではなしに、それも大切でしょうが、それに加えて社会的なあるいは経済的な知識、またそれを理解し批判する力、あるいはある仕事を自分の考でまとめたり、人を指導するというような力を高めることが必要である。こういうことが強調されているのであります。

さらにそれに加えて、例えばタイプであるとか簿記をつける能力、あるいは事業を経営する能力、あるいは税金や金融の面での能力というふうな専門的な知識や能力を高め

ることが必要だという点が強調されたのではなからうかと思ひます。

その次に、こういう職業能力や職業意識の点で、婦人の中にはまだ問題があるのですが、それだけではなしに、社会的な偏見あるいは伝統というもののから、男子と女子とが不当な差別待遇を受けているという面がある。これは、例えば教員の方から御報告のありました、女子の教員を特に退職せよというしたり、あるいは給与の面で差別待遇があるとかいうことです。

その次の点は切実な問題ですが、女子が職業を持つという点になりまして、家事と職業、あるいは家庭と職業という問題がどうしても出てくる。そこでどうしても、職業を持つためには家庭生活の合理化をして主婦の負担を軽くしなければならぬ。一つの面は、家事のやりかたを機械化したり協同化して、家事労働を軽くする、そして職業能力を高めてゆく。もう一つは、家事労働というものは非常に雑多でありまして、時間についてもあまり制限がない。いくらやっても足りないように思える、少なくやってもうまくやればできるというような、実に複雑な性質を持っていると考えるのであります。こういう生活時間の面でむだなくやってゆけば、さしあたり家庭と職業を両立させる一つの途がある。特に重要なのは、家族の方の協力で、それ

程お話があったように、年齢的な制限とか、あるいは既婚者で子供を持っている、というようなことでいい勤め場所がない。したがって、既婚の方で子供をお持ちの方は、それだけ生活の必要があるにも拘わらず、いい雇用機会に恵まれない。こういうのは、戦後の婦人の職業上の大きな問題と考へてゐるのであります。

このように、いろいろ問題が出たのでありますが、それでは、この問題をどういうふうにしたら解決できるか。この点についていろいろ御意見がありました。その一つはもちろん各人が職業意識を強く持つてゆくという精神的独立が根本であります。これがなければ何事も行われないが、それだけでは不十分である。いろいろな形で、横の連繫をとって、組織的に問題を解決しなければならぬということが強調されたのではないのでしょうか。そこで生活協同組合の実情の御報告がありました。または育児保険についての御提案がありました。私が受けました感想を申しあげますと、おおよそ以上のようなことじゃないかと思ひます。

同会 どうもありがとうございます。ただいま氏原先生から皆さまの発表をまとめられながら、いろいろ御感想を伺いましたので、問題点をまとめてみたいと思ひます。

結局こういうことを皆さんが問題にしていらつしやるのではないかと思ひます。第一に婦人が職業を持つ必要に

があれば、家庭と職業を両立させることも比較的容易であるということが大抵の皆さんの御意見と思ひます。

なお残された問題といたしまして非常に重要と考えられたのは、育児の問題であります。これは、自分で事業をなさつておられる方は場所の面からみましても、生活の場所である家と仕事の場所と同じでありますから、比較的解決し易いと思ひます。しかしながらお勤めに出ておられる方は、どうしても一定の時間家庭を離れなければならぬ。そこで、育児の問題が非常に大きな問題になります。実際問題といたしましても、大体学校を出られてお勤めに出る。そうして、結婚の間の勤めはやさしい。結婚なさると、昔は辞める方が多かったが、戦後は結婚なさつてもお勤めになる方が多い。その中に子供が生れるということになりますと、なかなか巧くお勤めを続けることができません。そこで、自分ではお勤めを続けたいと考えながら止むを得ず辞める方が多い。ところで、大きな問題になるのは、こういうふうにして子供が小さな中は家庭の主婦として家に居られるが、御主人の収入だけでは足りない、また余裕がないということになると、家にいて出来る仕事——内職をなさる方が多い。内職の労働条件が一般にひどいものであることはよく知られてゐるところです。また子供が大きくなつて、もう一度勤め口を探そうとする時には、先

ついで。それからいろいろの事情から必要に迫られて仕事を持ったが、仕事を持ってみて、職を持たなければ一人前の社会人とは言えないということがはつきりわかつて、仕事を持っていることになつていへん生甲斐を感じ、婦人も当然職を持つべきであるという自覚を持つようになった、という御意見が多かつたと思ひます。

それから第二に、婦人の職業能力の問題。知識及び技術を含めた婦人の職業能力を高める必要性の問題で、これに関連して就職問題、つまり、雇用機会の問題も多くの方々の御意見に出ていたと思ひます。

それから第三に男女の差別の問題。これは自営の方の場合も、職場にいらつしやる方の場合も含まれていたと思ひます。そのケースは少し違つたかもしれませんが、女の人のあらゆる立場における共通の問題であると思われまふ。

第四に、家庭生活と職業の両立の問題。

第五に、いろいろなものを解決するためには協同の力による効果が上るんじゃないかという意見。

大体五つのことにまとめられるんじゃないかと思ひますが、いかがでしょうか。特に二番目の職業能力の向上並びに雇用機会に関する問題と、それから第三の男女の差別の問題に関連して、中小企業に働く婦人の問題が取り上げられたと思ひます。その他に取り落したことがありますのでし

よりか。

氏原 一、の職業を持つ必要について。これについては大体皆さん論じられたように思いますから、そのことを前提にして、あとの御討議を願うというこのほうが、時間の関係からどうでしょうか。

司会 一応問題を整理したところで、どれを取り上げて討議するかをおおかりしようと思っていまして、今、今氏原先生から御意見が出ました。大体問題は五つだろうとお認めいただいたのですが、第一の問題はすでに皆さんが問題にされ、それぞれ解答を出されていると思われまので、このことについては討議せず、第二から出されたらどうかというお話ですが、皆さんどうお思いになりますか。

(「結構です」という声あり)

司会 それではあと四つの問題が残ることになります。が、四つを一応議題として、一つずつ討論して参ります。どうか。それでよろしいでしょうか。当然一つずつはきり区切られないで、関連をもちながら出てきましようがそれで結構だと思いますので、御自由発言して下さい。もう一度申しますと、ここで討議いたしますことは、一番初めに、職業能力を高める問題、第二に、自営並びに職場に働く場合の男女の差別に関する問題、第三に、家庭と職

にさっきのようなことを申しあげたから御説明いただきましたという意味ですね。

一関 先程能力を高める機会として、研修会を持ってもらいたいということをお願いしましたが、私の職場では現在研修会というものが年五回行われております。これは係長以上と中堅幹部、男女一般職員、それから吏員の昇進試験に合格した人を対象としていますが、一回に参加できるのは予算の関係などで五十名と制限があります。しかしこれに参加する機会が女の人にはほとんどないのが現状です。その理由をいましては、それに参加するためには係長とか課長の推薦がなければなりません。人を使う立場にある係長・課長という人が「女の子は」と言って、男の人と同等に考えない。なにか男女の差別……女が仕事を持つことを正しく理解してない課長を持っている女の人、研修会が何回あっても参加することができないわけですね。

こうしたことは、女の子が仕事ができないことに結びついてきますので、なんとかして婦人部の力を通して、研修会をもっと多く作ってもらおうようにしたいと思っています。

私の職場に百名の女子がおりますが、一年に一回はこれに参加して、自分の働いている職場でどういうことをしな

業の両立の問題、特にこの場合に、育児の問題が大きく浮び上っていたと思います。

それから第四に、協同の力による解決法とでもいってべき問題に分けてゆきたいと思えます。

これは今日のあとの残りの時間と、明日九時から十二時までの三時間、合計四時間足らずで討議していただくわけですね。今日はその一番初めの問題をとりあげて皆さんに討議していただきたいと思えます。

職業能力を高める問題に関連して、雇用機会に関する問題もふくめて御討議願いたいと思えます。

◎職業能力を高めるには

河村 私が先程意見を申しました時に、なにかわたしが文化的なものを求めることについて、うわついているとか切実な問題じゃないかと思ひになる方もあるだろうと思ひますので、補足させていただきます。私は教師を職業としている関係上、自分に切実な文化的なものであるものを持っているという願ひであります。教師という生活をしている以上、自分が高い文化的なものを身につけていけば、教えている子供達に自然高い水準に達してくる、その点を充分お含みいただきたいと存じます。

司会 職業能力の中、一般教養をつけようと思うため

ければならないかということをしていろいろ自覚させて、植えてゆく機会としたい。そういう機会を通して、だんだんと、自分でも働かなければならない、こういうこともしなければならぬという目的が生れてくると思ひますので、その基礎になる頭を作るために研修会を作って、女の人に働く能力をだんだんと植えつけてゆかなければいけないと思ひます。

司会 全然女の方は出てないんですか。

一関 全部で十人足らずで、私も一回出たことはあります。うちの課長・係長は仕事に理解があるし、私も仕事の面では絶対男に負けない積りでやっておりますから。

藤井 研修会を作ってもらわなければいけないという受身の立場であります。聞けば百名の婦人吏員がいるという。学校でも同じような研修会があるとき出張するのはいつも男子の先生で、女子はいつも後に残されます。したがって学校内で研究会を開きまして——例えば近所の先生方と一緒にする場合——女はお客様接待をさせられる。男の先生達のお屋敷の支度をして、自分でまた後始末する。研究の場があるのに出れない。そんなことじゃいけないので、御教なんかに一切出さない、弁当を持ってきたらもうようり校長会にお願ひしました。以来そういうことはやっております。又婦人部がありますから婦人が出る研究会を

婦人自身の手で作っています。毎年三千人の女子教員が参加してやっていますが、この場を私達の手で作らなければならぬと思います。ですから経営者なんかにお願ひしますと言ってもやってくれるものではありません。

一問 私もう思いますが、私の方で調査をやった時なども、小遣い稼ぎとか家計の補助に働いているということとで考え方が安易なために、そういう機会を持とうとしない。それを理解させるためにも、まず上から作ってもらわなければならぬと思います。

藤井 自分の手で作らなければ絶対にできません。

同金 藤井さんに伺いますが、愛媛県金沢ですか？ 藤井さんは教頭でいらっしゃいますでしょうか。女の方がそういうポストにいらっしゃるからお宅の学校だけではできないのではないですか。

藤井 県全体としてです。

飯田 私はたいへん環境に恵まれていると思うので御参考に。

私の市で、私一人で広報係をやっておりますが、どんな会にもみな一人を出させていたいております。またもう一人私の課に、統計をやっている女の方がいらっしゃいますが、その方も、統計主事の受験資格の講習などにもほとんど出させていただいております。同じ県内の島田市では、

と思うんです。

石田 外郭団体としては、総評の中の地許的な団体があるでしょう。御存知ないですか。それは力がないのですか。

地方では地方の労働評議会の婦人部があるでしょう。

高石 私はもっと手近な方法で——東京ですとYMCAの中に、商業に従事している事務員の集りがあるんです。そういう手近なものから作ってみたいと思うんです。

田中 今の問題に関連して、愛媛の先生のように非常に組織立った条件の揃っている方は別として、中小企業の方が、揃わない条件の中でそういう組織を持つことは事実上難しいと思います。そのような場合に、職業能力を養成したいと思うときは、現在各県にある職業補導所を利用することも一方法ではないかと思ひます。

しかし、これも現状のままでは問題であります。ここで学ばる場合には、六カ月とか十二カ月という期間、全然自分の職業を抛棄しなければならぬので、生活費の問題があり、実際には利用し難い。ですから、本当に職業補導所を受ける必要のある人々が誰でも補導所を利用しうるいい方法を考えてゆきたいと思ひます。

森良 補導所に行く人は生活困窮者ということになって、いるからその積りでやってみました。しかし、見たところではそうじゃないようです。実態を聞いてみると、娘さん

統計を女一人でやっています。同じ島田市では、広報も一人でやらないかということで、試験的にやっています。熱海では、女子職員の差別待遇撤廃を盛大にやりました。私のところは環境に恵まれています。それにしても女の人とが真剣にやるようにしなければならぬと思います。女が依存性が高く、やらせてもまに合わないから今の境遇に甘れているが、一所懸命勇気を出してやってみたら、これは男よりもまだと思われ、出る機会もできるんじゃないでしょうか。

高石 この問題は、先程、私達の一層大きな問題としてお話ししたのですが、今までの皆さんのお話ですと、とても環境がよくて、婦人部とか、グループとか、あるんですが、私達中小企業に勤める者にはそういうことは不可能です。というのは、従業員が、女が五、六人いるというところはまずいいけれども、一人か二人、三人くらいというところだと、どうしてもそういうグループは会社の中ではできません。そういう人達はいろいろどういうふうにしてグループを作るべきでしょうか。社会的な団体の力を借りて、その中の一部份によってなんかやるとか、それとも同好の人を広く社会に呼びかけて作るとかいう方法しかありません。こういう方法の具体的なやり方がよくわかりかねますが、どうしたらいいか、皆さんの御意見をお聞きたい

で、生活の心配はなく、遊んでいるよりも、というわけが入ってきた。きびしい件があるが、割合困らない人が無料で習っている。実際毎日の生活に追われる人は技術を学ぶ機会がありません。私も戦後夫が帰ってこない間、戦争未亡人が習いたいといってくれば月謝を免除したり、時間をアレンジして、ほんとうに技術を得ればいい職業を持つことができるようになるからと思つて努めてきましたが、一人として技術を完成した方がなくて、私自身淋しい気がしました。どういう原因かという、毎日の生活に追われるために、二時間なり三時間の練習時間を割くことができない。勤めながらしようとするともとても疲弊が激しくてできない。そしてつまらない職やつまらない仕事におちて行くのをたくさん見てきましたから、どうかして補導所の面も含めて、そういう人がもう少しいい技術をつけ、いい生活を送ることができるよう方法を見つけたらと思つて、問題に出しておきました。

堀越 先程横の連絡……一つの組織を作りたいという話が出たが、私の方の場合に、労働組合を結成いたしたいと思ひまして、動きました実態を述べさせていただきたいと思ひます。

私と同じような仕事をしている人は、米軍直轄の者が二百人、その他に直接に個人会社などに使用されているも

の、公社として国際電話の仕事をしてる者などで、全体として相当の数に上ると思えます。組合結成の必要を生じた直接の原因は次のようなことでした。退職金の問題が眼の前にぶら下ったこと、賃金切下げの問題——実際には今までと同じ時間働きのながら賃金を切り下げられる、それからスケジュールの干渉——上部から宿舍などの問題で三交費にしなければならぬ、そのためには泊らないで済むようにするために、朝の六時から勤務をする——そういうことを押しつけられましたので、代表者を出して交渉したり意見も述べたりしましたが、軍部の命令だからということでは伝えられてしまいました。

ところで私達にとって不利なことは、それだけの人数がまとまって働いているわけではなく、各部門に五人乃至三十人というように、分れているから個人個人には意見があってもなかなかまとまらないことです。もう一つは、収入が低いという点と、時間的に都合がつくので大半が学生のアルバイトで占められている。アルバイトの人達にとっては、現在のボジションに対して、将来のいろいろな問題を検討するより先に、学校を続けるということが本来の目的ですから、あまり他の労働条件に関心がない。残りの、例えば日勤などを専門にしている人達にとりましては、割合に高額（平均二万円以上）を取っているから、自分一人の

生活には充分だということなどです。その上、人にもよりますけれども、一般的に相当派手な気風がありますし、そういうことから、なかなか横の繋り「みんなのため」という意識が高くないわけです。路をしましても、組合のこの、横の組織、眼の前にぶら下っている問題に対しても切実に感じないわけで、今度のことでも、一部の心ある人達の運動となって現れましたが、結局上部の人達から、お前達にはそういう必要がないだろう、組合を結成しなくても君達の意見は通るから、ということを言われ、指導者の一人には度度呼び出しがありまして、電話を私用に使ったとか不当に理由づけ、勤務成績が悪いから退職しないかというところになったのち、このことにつきまして、心ある人達は、どうすればいいか、退職金に関しては現在、場所によつては一月先という差を付けた問題でない人でも、あと何カ月か先には必ず閉鎖され退職という運命にあるわけですが、組織を作つてなんとか打開しなければならぬという意見が強く打ち出されぬ状況です。ですからお互同志に恵まれた一つの組織をすでに持っていて、婦人部などで活動できる人達はいへん辛いと思いますが、私共のように、現在個人個人は恵まれた条件にあるけれども、将来のことを考えますと、問題はとても切実になってくると思えます。

以上のようなかたがで私共は組合を結成しておりませんが、他の進駐軍の労働者はほとんど結成していると思うんです。その人達のストライキとかデモ、いろいろな行事があります時には、私達は勤め先に連絡になる。協力してもらっては困るという、そういうこっけいなことがあります。その時に軍部の方から一つビラが廻ってきました「従業員組合活動は何等阻止するものでない。組合員がその意志をもって組合を結成したいと思う時に妨げるものではない」というです。ところが私共が作ると思う時には作れない現状です。

加藤 先程氏原先生のお話にもありましたように、女子の職場が狭くなってきたということは、ただいまの職業能力を高める問題とも、またこの次の、男女の差別問題にも関連があると思いますが、先程どなたかのお話にもありましたように、徐々に女子の職場が狭められている。男子が自分達の労働分野が女子によって脅かされているという声も高いが、一般的に社会の不況の問題がそうさせるのでありまして、男子の労働分野を脅かすのでなく、それは直ちに政治問題に直結している問題であると思えます。

古市 能力を高める一つの方法といたしまして、意見発表のときに言いましたように、私等の婦人会の事業休とし

て、生活協同組合を持ちました。この方達は全部家庭で家事に携わっている婦人でありまして、当然経済知識は白紙です。その婦人方が月一回寄りまして、現代の日本の経済がどうなっているかというようなことや、生活改善や政治というような問題を、専門家に来ていただいて講習を受けております。その時に、非常に皆さん出席率がよろしくて、ただいまのところ、生活協同組合はだんだん地方にも及ぼして、これがますます大きくなるうとしております。そうして、仕入等、全部の面が全部女の手によってなされて、次には大きなクリーニング業とかマーケットを営もうとしております。

資金関係も、生活協同組合でしたら税金も免除されておりますし、発展の過程にあります時には、一昨年から百万程度の資本も出していただくことになっておりますので、そういう面で私達は経済能力を作っております。

同金 生活協同組合のことで質問したいのですが、組合員は何人くらいで、どういう形ですか？

古市 主婦の店というものを九軒ほど持っていて、それを経営しているのが主な理事です。私は薬局ですから全然これには入っていませんで、ただ理事長として活動しております。その主婦の店に六十人乃至百人の会員がおりまして、お互に講習を受ける時には託児所の代りになり、今日

は共同仕事をすると、共同託児をするという方向に動いております。

司会 今までに与えられた経済能力——職業能力——を高めることに關する御意見として、個々では解決がつきにくい、組織の力で盛り上げて解決しなければいけないじゃないか、具体策としては生活協同組合とか労組の婦人部とかその他いずれにしても団体の力で解決するのが早いんじゃないかというのと、もう一つは、中小企業につとめている方、その他組織を持たない方達は、職業能力を身につけることは困難であるから、この場合には、地域的に何らかの組織と連絡をつけるか又は公共補導所等の施設を利用したらいでしょう。しかし、それは現状では女の人の能力を高めるにはまだ不備である、等が指摘されたと思いますが、その他に能力を高めることに關して、御意見がありましたら。

高石 今の問題ですが、中小企業の問題に戻りますが、先程奈良さんのお話ですと、折角職業補導をしてあげようとしても途中でやめてしまうというのは、一般給与や職業意識も薄いからそんな結果になるのだと思います。そういうことは中小企業の場合、大いに言えることです。又私の知っているラジオを造るところでは、たくさん部品のありまして、それを造り上げるまでには、家庭工業に毛の

や授産所その他の社会施設も同じです。そうしてみますと、地域の施設問題と言いますのは、単に働いておられる方の問題だけでなく、家庭にいるお母さん方の問題でもあり、子供さんの問題にもなると思います。

それで御意見伺いたいと思いますのは、地域のお母さん方の組織や、あるいは組合の組織の方なんかは、そういう問題についてどういうふうにお考えになっているのか、あるいはまた現にそういう活動があるとすれば、どういうのがあるだろうかということをお聞きしたいわけです。

要するに社会施設というものは、本来職場の施設であるよりは、特定の町とか村の施設のわけです。ところがそういうものは比較的職場の施設に比べると遅れていると思います。とくに、中小企業などでは職場施設としてやる余裕がないから、地域でやるよりほかに方法がない。私も詳しいことは知りませんが、外国の例でみますと、職業に就かれる方は、その町に大きい職業補導所があって、そこに一年なり半年なりかよって、職業に就かれるというのが大体的なコースだときいている。ところが日本の人は、男も同じですか、学校を出られるとすぐ会社に入る。職場の施設も充分ないから、養成工になれる人は数少ない。そこで、あとの人たちは先輩の仕事を見よう見真似で覚えるという状態です。中小企業のほうには徒弟制度があ

生えたような下請工場がたくさんあります。そういう所に働く人達は、その日その日によって仕事が変わります。それから印刷工場の文選工とか、ミシンでワイシャツを造るとか、小さな家庭工業的なところに勤めている女の人は、その仕事自体職業補導の内容をもったものもあります。そんな場合には、どんなふうにして組織を作ればいいでしょう。

氏原 職業補導だけでなく、社会施設全体について私はこう思います。今お話に出ましたように、職業能力を高めるという点についてみると、一つは職場と申しますが、工場なり官庁でやられる場合と、もう一つは、職業補導所のように県なり市なりでやられる場合とあるわけです。日本では大企業が自分のところでやっておられるところが多い。その反面、地域の職業指導施設、あるいは託児所の問題でも同じことと思いますが、地域の施設が比較的小さくかたされて、職業補導なんか、非常に深刻な問題で、今お話がありましたように、そこに行かれる方は比較的余裕のある方で、ほんとうに困っている方はなかなか行けない。これは内職の場合も同じで、ほんとうに困っている方は、工賃の安い単純な仕事にしかつけない。これは男と女と較べた場合、婦人の方が一層そういう機会に恵まれないから、労働条件その他が悪くなっている。これは、託児所

ったが弊害があって禁止される、という状態です。すると町なり村にそれに代るべき施設ができなければならぬと私は思うが、そういうものに對してどういうふうにかえておられるか。そういう運動があるでしょうか。

中山 ただいまの、職業に就く場合、学生に学資金を貸付けると同じように、一定の職業を覚えるまで資金を貸付けていただいて、覚えてから月割か年割にして返済できるようにしていただいたいと思います。

一關 さつき、生活に追いつめられて補導所に行く機会がないということでしたが、補導を受ける月謝が高くて行かないことも多い。自分の地域の公共補導所に、なりたい種目がないときはどうしても私立のところに行かなければならない、すると高い授業料を払わなければなりません。大学に入って専門の知識を得ようとする人に奨学資金制度があるなら、働く人のためにも当然技能習得資金制度があつてしかるべきだと思います。一般に働く人のために、そういう制度は是非ほしいと思います。

飯田 市の現状をお話ししたいと思います。私のところは、ベッチン、コルテンの特産で、剪毛という特殊なものがあります。ベッチン、コルテンの毛を立てるために、小さいナイフで切る。一日に何十里歩く重労働ですが、女が進出してきます。市でも、技術養成会を一週間く

らい開きます。御希望の方はどなたでも受付けて、講習が済むと免状を登上げています。先般はトヨタ式織機の講習会を開きましたし、織物関係の技能者の講習会も開いております。県の工業試験所と共催で行っております。

また、しそ巻の産地ですが、しそ巻の串の竹を造る機械を入れました。それからミシンも入れました。未亡人・困窮者を対象にしているいろいろやっております。仕事を覚えたい方は願っていないで、どんどん利用するのがいいと思います。そういう要求は連絡を密接にとり市へどんどん出してくれると思います。

司会 今日の前定の時半を過ぎました。第一の問題について皆さんも話したいという顔をしています。第一の問題ですが、先程の氏原先生の質問——地域を中心とする職業能力を高めるための運動——に対して、いい例がありましたら御発言をいただき、なお問題があれば明日少し続けて討論することしたいと思います。

田中 私は、神戸市に住んでおりますが、職場にある婦人を中心として、各企業毎の集りでなく、企業を超えた婦人だけの集りを昨年十一月に発足させました。現在会員は百名足らずですが、それぞれの職場に分れていますから、非常に連絡が難しいので、いろいろの能力とか地位の向上を図るための機会は、月に一回乃至一回しか持たれま

せんが、昨年十一月から今までの経過を見て、遅々とした歩みながらも、団結しようと思えばやれるという自信ができました。一番最初の、市政に対する反映の試みとして、私達神戸の住民として税金を払っているが、職場婦人への還元がないので、できたら婦人会館のようなものを買ってもらいたい。その中には託児所のようなものも含まれますし、職業指導施設も含めてもらうという案を立てて市長に要求を出したいというところまで行っています。どこまで

具体的に行くか別問題ですが、やはり具体的な行き方として、それを一つの形にまとめて持って行けば何等かの形としては実現できるという確信を持っています。そういう問題も、ただ単に一つの府県、市だけの問題であれば済み消されそうなおそれがあるので、そのお心持のある各県、都市の方々が声を高めて団結の声を送ったならば、必要性の重要さがわかって、よりいい効果を生むと思います。

藤井 私のほうでは、婦人会が主体になりまして、細工業の織り方、むしろの編み方——内職の指導ですが——について先生を招聘して、週一回と決めまして、やっているところがたくさんあります。

それからもう一つ、現在の中学校で、職業・家庭科というのがありますが、将来の問題を考えた場合に、職業・家庭科を通じて訓練したい。例えば男子ならば木工

業、女子であればタイプライター、算盤を徹底的に教えている学校もあります。設備して学校内において大体の職業を覚えるという方向に、もっと、市とか県とかを動かし

職業能力のある卵を社会に出すことが必要だと思います。石田 私の県では、働きたくても働く場所がない。職業開拓の面を何とかしていただきたいと思っています。県に行く

と、あなたの技能を生かすところはないと言う。都県に行くところは一ぱいだという。すると、特技を持っていても、特技が宙ブラリンになってしまいます。司会 今の問題は大事な問題と思いますが、時間がありませんから明日に廻したいと思います。

今日討論されましたことは婦人の経済能力を高めるためには職場の研修会等には積極的に参加するよう個人も組合も努めること。組織で研修の機会を作ること。地域における職業指導所等の施設をもっと利用すること。但し現在に

指導所自体及びその利用過程等すべてを統合しての機能に不備な点が多く、目的達成に不便である。みんなの力で世論を大きくすれば、もっと効果をあげるよう向上させることができないのか。組織のない所は、職場にこだわらず地域単位に組織を作り、婦人の共通の問題としてとりあげる方法が考えられるということ。学校教育の中にもっと職業教育を取り入れて腕に技術をつけるべきだ、という

こと等だったと思います。

あとは明日にまわすことにしました。今日の第一部会をこれで一応終りたいと思います。

(第一日閉会)

司会 唯今から引続きまして、第一部会を開会致します。(第一日目、経過概要報告——記載省略)

昨日の問題に引続きまして、第二の職業能力を高める機会に關連して、婦人の雇用機会の問題に移りたいと思います。昨日の一番最後に、和歌山の石田さんから「職業能力を身につけるために非常に努力して技術を身につけたつもりであるが、どこかの職安に行ってもなかなか職がない、という問題をどういうふうに解決すればいいか」と、いうことが出されていましたが、その辺から討論に入っていきたいと思ひます。石田さんに初めに詳しく実情をお話ししていただきますように。

◎雇用の機会について

石田 職業安定所の実態ということ……ここに御出席のみなさんは、非常に恵まれた方が多い。けれどもみなさんがもし失職して、失業保険をもらいにいく就職係なんかに行ったら、今、ものすごいですよ。あふれてるん

です。特に私の界では、繊維関係の女工さん達がものすごくあふれています。職業安定所に一人の女の事務員がおり、「私は行政官庁の役人としてきりぎりのことをやっているけれども、どうにも仕方がない。自分もずいぶん良心的な苛責に苦しんでいる」と、職業開拓の面で必死に努力しているけれども、その人の力ではどうにもならない。私も、一つの技術を身につけなければならぬと思つて一生懸命連記を勉強して、大体検定も通つたので、さて働きたいと思つていますが、連記なんていう特殊な技術ですから、働く場所も限定され、なかなかない状態です。

奈良 英文タイプの技術を持っている人でも、実際に就職難です。ただ、英文連記ができる人は引つ張りだこそすけれども、そこまでゆくには相当な実力がなければなりませんし、習得する期間も長くかかりますから、それよりも算盤ができる人のほうが、就職難では思われています。

石田 そうすると、自分の職業を選ぶ場合も、技術を選ぶ場合も、普及性のある、手近なものを選ばなければならぬことになりませんが、算盤なんかですと、結局現場の職場に出た時、その人は補助的な、補助的な事務に追われるだけでしょ。

編越 そのことについて、私もいろいろ経験いたしました。昨年三月、学校を出るとき、自分の専攻した学問を生

たのですが、みなさま、いろいろ技術を身につけてもなかなか仕事がないから、なにかしら自分自分に適した、新しい道を開拓してゆくという考えが必要じゃないかと、私は痛切に感じています。

司会 高石さん、失礼ですが、今、失業中ですね。お仕事を探していらっしゃるということについてお話し下さい。

高石 私達は戦争がきっかけになって職場に進出しましたが、男性よりも社会に出た経験が浅く、従来、女は「家庭」、男は「社会」という觀念から、男女共に「家庭と社会」という現代に変わりつつある時に、男性の人は未だに、戦争だったから女が、臨時に男子に代って、その地位にいたのだからという考えを固持しているのです。それで平時にもどつた今、わたし達が、男と女と同等の仕事をやろうとする時に、そういう偏見がわたしたち達の地位をおびやかすのです。ですから、この問題は、結局現代の微妙な環境における女の地位ということを、大いに認識しなければ解決できない問題じゃないでしょうか。

石田 その通りだと思います。

飯田 いっぺんにスカッと切り換えるのは難しいのじゃないかと思ひます。今、一般的に女の立場が低く見られ、又女の自身開合に消極的な人が多いと思ひます。積極的な人というのは、割合数が少なくなっているのではないかと。

かすような職場——今の職場は、私としてアルバイトだったわけ、一所懸命続けられる仕事じゃないところから、自分に適した仕事を探そうと思つて、公務員試験も受けました。仕事を探そう条件にはいろいろありますが、私に適した仕事は、ジャーナリズム関係とか、その他割合高級な仕事をと思ひ探しましたが、女子という条件だけで就職の機会がほとんどありません。新聞社などでは、女子は受け付けません。女子には過重な労働条件だからと言われました。現在女子の職業の分野が相当広がっていると言われていますが、割合に女子が迎えられる条件というのは、算盤ができるというようなことだと思ひます。こういうことは、考えられなければならない問題だと思ひます。

加藤 私もやはり、みなさんの悩んでいるのと同じ悩みにぶつかったわけでありました。私は過労、偏癇を出しましてから十年、散漫生活をしてきました。結婚前五年と結婚してから五年、その間先程お話しになりました育児の問題にもぶつかったのです。その結果自分は涙を流した育児の問題にもぶつかったのです。現在子供からどうにか手がぬけて、自分で働ける条件になって、さて何をやらうかと思つと、仕事がありません。今四十の年をふら下げて職場を探して、ベコベコ頭を下げてありません。で、私は、自分独自の新しい仕事を切り拓いて行こうと思ひまして、新聞の経営をや

積極的にやろうと思つてもできないでモソモソしている人もあると思ひます。そういう人達がだんだん積極的になり、又大勢になって、やって行くと、男の人の頭が徐々に切りかえられて来て、いい結果になってゆく、というふうにしかならない現状と思ひます。

尾添 学歴によって、雇用に大きな制限を受ける場合があると思ひます。私は、戦時中の動員されたため……というたいへん卑怯な言い方ですが、昇立の職業技術指導員養成所に入つたらすぐ終戦になり、男子の方が戦争から帰ってきたので、職を失いました。そこで生活改良普及員制度ができましたので、試験を受けました。その際受験資格を問ひ合はせ、資格があるから受けたのですが、試験発表の後で、試験には合格したけれども、採用の場合に、旧制の専門学校出でないからとか看護婦の免許がないから、三年以上の経験がないから、ということを採用されなかったのです。ですから、学歴なんかにはこだわらないで、本人の能力があるならば採用できるようにしていただきたいと思ひます。

松田 みなさんが今お話ししていることを聞きますと、このように考えられます。精神労働と筋肉労働とを比較しまして、みなさんは精神労働のほうをより以上のいいものと考えておられるようですが、このことについて私はもっ

とよく考えなければならぬのではないかと思います。私、唯今封建性の強い青森という県で、婦人少年室の協働員をお引受して、「有能な職業婦人になりましょう」という啓蒙運動をしました時、若い人達は、自分の個性を生かした仕事……たとえば、自動車運転手の助手のような仕事を望みます。でも母親が、虚栄心からか、封建性からか、それより事務系統のものを選ぶようにすすめるので、阻止されているという現状です。個性を生かした仕事に従事することが積極的に個人の能力を高め、かつほんとうの仕事の生命を築得るのではないかと思います。その場合に突当る母親や年寄との時代感覚の差をどうして解決して行くかが問題であると思います。

私、考えますには、——市の社会教育委員の仕事もしておりますが——社会教育委員会にうって来て、母親学校とか母親学級というようなものを設けてもらい、母親が時代に即応した頭を持つように、教育したらどうかと思います。みなさんのいいお知恵を……四つこの青森だけでなく、全国の皆さんのお知恵を拝借したいと思います。

司会 唯今までに出された「婦人の雇用機会の問題」についての御意見をまとめてみますと、婦人に対する雇用機会が、とりわけ高度の知識・技能を必要とするポストが婦人なるが故に、能力をもっていないもなかなか得られない。

それを得る対策として、婦人自らが、より熱意を示して積極的に努めることにより、世間の偏見を矯正する。自分で新しい仕事を開拓する。個性第一主義で古い観念にとらわれず、肉体労働や従来男性の分野とされていた仕事にもとび込んで行く。等でしたと思います。

藤井 自分の持っている特殊技能を生かすということにつきましても、東京であれば範囲が広いから選があるかもしれないが、小さい町では、タイプライターの技術を持っていたても、職に就くチャンスは少い。そういうことも、私達が若い者を指導してゆく場合には考慮に入れて、就職しやすい特殊技能を持たすよう指導することが必要だと思います。昨日言われましたが、ただ、タイプライターが流行るから殺到する、編物に殺到する、そこに一つの問題があると思います。

卒業生のことをいろいろ考えますが、大体、非常に楽をして金を儲けようという、そういう考えが親にも子供にもある。その考えを除けば口はいくらもある。ここに、就職口を阻んでいる面があると思います。

それともう一つ、終戦後、職業安定所の斡旋によるよりも、知人関係で入ってゆくものが非常に多いために、正しいルートを通して、しかも未亡人の子供あたりを入れようとしてもなかなか入れない、採用してくれない。あそこは

い人が多い。

それができれば、応用範囲は広いのですが。今お話のタイプとかなんとかは、非常に実学的なものと思うが、婦人の方でも、もう少し、職業と直接関係なくとも、関係の深い応用範囲の広い学問をされるということは、一つの解決になるんじゃないかならうかと思えます。うまい実例が挙げないで、男の例ばかり挙げて失礼ですが——。

藤井 わたし同感ですが、女性がそうした道に入っていくのには、困難性があるんじゃないでしょうか。女子が理論的なものをするために工業学校に男女共学で入って行けば、落されてね。

氏原 女の方が機械工になったら、という意味ではありませんがね。そういう職業というものはあるんじゃないですか。例えば先生とかお医者さんとか看護婦とか、幅の広い職業ということにはなりませんか。

堀越 女子が幅の広い専門を持つことにつきましても、私の場合を申しあげますと、教育社会学会を専攻いたしました。

卒業しますと、例えば社会福祉司・児童福祉司等の資格がえられます。それから出版社とか新聞社とか、又は校正の仕事などと、相当幅は広いが、受験の際に一つのポジションがあります。「福祉司」という仕事は女子には幅が広くて

親がないとか貧しいとか、けちをつけられる。それよりも会社の知人関係で入れたほうが、家柄がわかっていてとかで、就職口を譲られる面がふえてきていると思います。こういう面はやはり労働者あたりで考えていただきたいと思えます。もっと職業安定所は正しいルートをつさなければならないようにしてもらいたいです。

司会 今のお話では、職は頭を切り換えればいくらもある、ということですが、一応、若い年齢層の場合でしうね。

藤井 卒業生です。ほんとうに苦しんでいるならけちはつけられないと思うが、やはり考え方が甘いんじゃないですか。

氏原 こういう点はどうでしょうか。

今、就職の問題が、特殊技能と就職ということになったわけですが、一般に男子の労働者の場合ですと、日本では技能習得が理論的に行われてない。技術的知識を職人さん達は、あまりもっていない。全くかんとこつで仕事をするので、非常に仕事の幅が狭く、一度失業すると、もとの職業を生かす範囲が非常に狭く、むずかしいという面があると思います。最近でも、例えば機械工などでも特定の仕事をすれば、非常によくできるが、計算をしたり、図面を引いたり読んだり、また、複雑な計量器をつかったりできな

向いているが、もしも家庭に入った場合、家庭と両立はできない。どうしてもしたければ地方に口があるから、かないか」と言われました。東京という都会では、女が高度の教育を受けても幅が狭くなる。専門が広いということだけで解決がつかないと思うんです。

田中 私のはそう具体的じゃないですが、自分の仕事の関係で、昭和二十三年から二十七年までの間の職業を持っている人の統計を見ましたが、女が職業に就く数というものが、男に較べてふえる率が高い。それを産業分類で見ますと、男は製造業にふえているが、女はサービス業にふえている。たしかに行政官庁のほうには、女に実力をつけようとおっしゃるが、まじめに能力をつけようと頑張ってきた人が、就職にぶつかってした場合に、社会は女の能力を要求しているのではなく、男の仕事を容易に引受けて、はいはいと言うことをきく女しか雇っていないという実情であり、まじめにやっていると実際に矛盾を感じます。

奈良 もう一つ違った点から申しますと、先程、藤井さんや松田さんとおっしゃったように、なんでもする気になれば職場はあるとおっしゃいましたが、例えば高石さんの場合、東京で失業して、山形に帰っている。税務関係やいろいろの方面の知識を持っているのに、どうして仕事がないのかというと、中小企業に勤め、労働条件が悪かったの

で、身体を悪くして辞めてしまった。だから、何でもいからと言ふことになる。悪い条件が眼の前にぶら下っていても、それに飛びつくことになりません。しかし、一方にそれを高めなければならぬという使命がありますから、何にでも入るということには大きな危険があります。

氏原 今、婦人だから職に就けない、能力もあるし資格もあるが、就けない、という問題が出ているわけですが、やはり婦人の雇用の問題として、一番大きな問題だと思います。適当に就職口がない、それでも働かなければならぬいから、止むを得ず、悪い条件のところに集まる、ここに問題の重点があると思います。

松田 先程の私の発言は、なんでもすれば仕事はあるというのではなく、特性を生かし、そうして能力を発揮してゆかなければ、という意味なんです。

石田 田中さんの御意見に関連があるんですが……。男の手伝いみたいではないかと思つて、個性を出すと思つて、出て来られる。だから張切らなければと思つてやると、あいつは個性が強い、管にも棒にもかからない、あんたはよく仕事ができるが、あんたの仕事が減らしてもいいからサービスをよくしてくれ、労働組合の書記であれば、その実力はわかってるが、それは男がやるから、あんたはもう少し愛嬌をよくしてくれ、というのです。それに反抗した

ので頭首になりました。

増田 そのようなことは労働組合の中でもあります。女がバリバリやると、使いくいと幹部が言う。男の人が女にお茶を持ってきたと、言うから「同じじゃないの」と笑いながら、お茶を汲んであげるけれども、ちょっとバリバリ仕事をやり過ぎると、あの子は扱いにくいと片付けられるんです。

同会 今出ている問題はもちろん雇用機会云々には関係ありますが、その後に出てくる直接の職場の問題だと思いますので、今の論点にもどしたいと思ひます。

氏原 学校の先生方は比較的平等な方でしょう。何故平等になったのかということをお話し願えれば……。

河村 しかし、先生にも、ものすごい男女差が出てきたんです。例えば就職する場合でも、女が辞めれば、あと女を使つて下さればいいが、新採用の場合は必ず男でなくちゃ、という方が多く、女の新採用は、三十歳以上はだめなんです。三十歳ぐらいが最も適当な、女の円熟した時期なんですね。だからわたしの友達でも、突然免状状を持ち、ほんとうに技能のある方ですが、一旦戦争で辞めたために、現在三十七歳ですけれども、勤められない。もし勤めるならものすごい辺鄙なところに行かなければならない。だから実際に勤められない、という条件にあります。

加藤 それは私も経験がありますが、突然三十歳代は円熟して一番いいが、反面、女の特長な、出産とか育児とかに直面するので、どうしても学校では嫌いです。男の先生と同等と言ひしても、家庭という負担があるものですから、男の先生のように時間も遅くまでいられないし、なるべく五時よりも四時半ということでも早く帰りたいし……。河村 その点についてはわたし達、目覚めていると思ひます。

堀越 私の経験ですと、学校の教師の口も探しました。小学校の免状もありますが、中学・高等学校のほうでも、できたと思ひましたが、正規則試験を受けて通りましたが、でもなかなか就職口がありませんし、もし個人的に、つてがあって講師の口があったとしても、講師が入っても正科になるためには試験を受けなければならぬから、その際に女子で家庭を持っていたりしますと、なかなか他の男の先生と同じように、同じような成績でも試験では採用されない。万年講師でいなければならぬ。ですから、やっという差が出てきているんです。

中山 唯今の雇用の問題ですが、雇用の係の方がほとんど男性だと思ひます。会社の人事係も。男子はほんとうに理解が足りない。女子に向いた適正な

職業として、サービス係に廻すということであるが、男子の都合のいいように使われていると思います。雇用の係に女の人を持ってきていただいて、個々の能力を生かすようにしていただくようにしたら、女の人も職に就きたいのではないでしようか。

司会 世論を起して、人事を担当するポストに女の人をおくよう、みんなが努めることはいいですね。

今までのところを少し整理しますと、就職する際に女の方は非常に難しい。年齢とか、女の人であるという他に、とくに家庭を持っている……既婚という問題がからまると、ますます条件が悪く、就職しにくくなってくる。どこでもいいから就職したいということになると労働条件が悪くなる、ということが問題にされていると思います。なにか、非常にいい解決法をしているという、明るい例がありましたら……。

河村 私の宇治山田市は、三重県でもただ一人と言われている女校長があります。その方がいらっしゃるために、女子が採用されるという場合に、かなりいいように引っ張って下さる場合があるのではないかと思います。だから、さらに進んで、地教委なんかには女の方が入って下されば、ますます女の方が就職するのに便利じゃないかと思われるのです。

た。それで、少しは替けるなと思われて広報に廻されたのです。だから女の人の置かれる立場は、長い眼で機会を捉えるという他、方法がないと思います。その中に適所を見付けて、適性の目的を達して、女の人をそれぞれ位置に就かれた時に、女は使えるな、と見方が変わってくるんじゃないかと思うんです。

藤井 今の意見、同感です。私が教頭に就きます場合、泣いたんです。しかし実際位置に就いてみようと、なんでもない。教頭は男がやるものと思っていたが、自分が就いてみると、こんな簡単な仕事はない。だからやっぱり自分が開拓者になってゆくことが必要だと思います。気に入らない職でも、自分さえしっかりして、開拓して、力を認められ、転換してゆく下地を作らなければ、女性に対する男性の信用はない。だから、築いてゆくことが必要じゃないかと思ひます。

氏原 雇用の問題の中で、みなさんは一人一人が就職するときのことを問題にしたのですが、もう一つ大きな問題として考えられるのは、男女を含めて、求人より求職の方が、絶対的に過剰だ、そのためにとくに婦人の雇用の範囲がせまくなっているという一番最初に出された問題、これは具体的結論は出ないかもしれませんが、大きい問題ですから、一応記録に止めておいていただく必要があるの

司会 今の御意見は、高知の中山さんの御意見と同じようなものです。重要なポスト毎に女の方が入っていない、ある程度理解してもらえらんじやないでしようか。

古市 現状では雇用問題を取り上げます上に、一応雇う方の側の意識が変わらない中は、女の結婚条件とか年齢条件を問題にする。経営者側の側の切り換えがなければならな

いと思ひます。第二は、適材を適所に当てはめたら解決できると思ひます。

氏原 去年の会合でもやはりこの問題が出まして、八方ふさがりになりました。これはたしか四国の方で中学校の校長先生をやっている方だったと思いますが、その方が発言なさった。要するにここに集まっている人は、どなたも婦人の中では、比較的いい地位に就いている人たちである。だからこの人たちが一致団結して後進の人たちを引き上げるというか、弱い立場にある人たちを守ってゆくのは一つの途ではないか、という結論だったと思います。

飯田 昨日も申しあげた通り、私、引揚げてから三年間は職に落ち着けませんでした。その間というのは、自立したためになんでもやりました。肉体労働でも、閑居でも、なんでもやりました。その中に機会ができましたが、最初から今の仕事が出来たわけではありません。仕事に就いている中に、市職の募集があったのでそれに応募しまし

じやないでしようか。

司会 もっと討議したいのですが、かなり長い間討議しましたし、又、おそろしくこの場で切り切れる結論は出ないと思ひますので、この問題については、この辺で打切ることに致します。

討議された結果を簡単にまとめますと、できるだけ自分に合った技術を身につけておくこと。同時に、融通性のある広範の知識もつけておく必要がある。

それから、できるだけ社会のしかるべき地位に婦人を多く送るよう努力する。その地位に就かれた方は、後進への下地を作るために、後退しないで進んでほしい。

社会一般の人、とくに雇い主の頭を切り換えてもらうように、みんなで働きかける。

少し消極的だが、自分からできるだけ機会を捉えて、適職を得る方向に向って常に準備を進めてゆく。等となるのではないかと思います。ではその次に、第三の自営の場合又は職場における労働条件などにみられる婦人なるが故の不利とか男女の差別待遇などについての問題に移ってゆきたいと思ひます。御意見がありましたら……。

◎男女差について

河村 差別待遇というよりも、先程の、能力を向上させ

るところにもからんできませんが、唯今男女共学が行われているのは、男の子と女の子は同じ一般教養を持たなければならぬからで、そうしてこそ始めて女が男と同じようにあらゆる広い職域を持つことが出来るのだと思います。しかし多くの家庭においてお母さん達は、男の子と女の子をやっぱり差別して扱ってなさるんじゃないかと思ひます。女の子は、中学校に行くようになれば台所やお洗濯の手伝いをさせられ、そのために相当勉強をひかえなければならぬが、男の子なら無条件で勉強だけさせるといふようなことがあると思ひます。そういう点で、お母さん方がもっと目覚めていただきたいと思ひます。

松田 私は雇用主として、自分の職場にいる婦人の働きぶりを紹介したいと思ひます。私の事業は、重労働が多いので男の人が多く、女の方は少いんですが、みんな相当自覚をもって働いているんです。何故かといえば、雇用主が同姓の女だからだと思ひます。ですから、できるだけ自分のような雇用主に女の方が多くなれば雇われている婦人達が、教養は低くても、自覚をもって、ほこりをもってやっていくと思ひます。

司金 つまり働き甲斐を感じているんでしょね。これは、さきほどの、女の方が重要なポストに就く必要があると言ったのと同じような意味がありましょね。

が、小の方に行くとは絶対守られていない。一日十時間も十一時間も働かされる。そういう人達は労働基準法を知っているがどうにもならない。現在決められていることも守られないのに、もし規定が十一時間もなかったら、そういう人は十三時間も十四時間も働かされることになる。ですからそういうことはもつとまじめに考えてもらいたいものです。

高石 私の場合も、初任給にお話にならない差別がありました。そこでわたしが考えたのですが使用者側からすれば、女性の実力がわかり兼ねるんじゃないかと思ひます。そういう理由から、女の人を男の人より安く使っているんじゃないかと思ひます。それで、女の方が実力があって、ほんとうに差別する理由がないというように使用者にわかれれば、いくらか女の給料をましてくるんじゃないかと思ひます。これを実証する経験を少し持っておりまして。

司金 具体的にどういうことですか。

高石 私の初任給がずいぶん安かったんですが、その間に努力して男の人と同じような仕事をやりました。主に経理の方ですが、その結果使用者側から女性ほどくらしい使えろかという意識が消えたんじゃないかと思ひます。それで少しは給料が上りました。

飯田 みなさんのお話伺うと、私はあまり恵まれていて

一聞 わたしの方では、給与とか昇格とかにおいて表面に現れた男女の差別はないことになっていいます。しかし、実際の仕事の上で差別待遇があり、夜の仕事を男は続けてするが、女の方は一週間に六時間よりすることができない。男の方は隣側の情をもつて言うのですが、私達にすれば、仕事を続けたいと思ふのに帰らないと言われるとくやしくなります。現実の問題として女の方は、男の人より通勤手当が少ししか支給されないし、出張の場合も、女が一人で旅館に泊るのはまことにお金の掛りでしょ、という事で、男の方はかなり頻りに出かける。従って、出張旅費の支給にも大きな差がつくのです。

増田 残業をもつとやりたいと思うが、一週間に六時間しか超過勤務ができないために、金銭支給の面で云々と言われましたが、その問題は根本的に、もっと考え直す必要があると思ひます。出張手当とか残業手当をもらわなければ生活できないという重大な問題を落して、出張すれば手当が出る、超過勤務をすれば手当が出るということで吐き口を求めようとするのはいいじゃない。給料が安ければ賃上げの要求をすればいいと思ひます。公務員の方は、一般に頼り過ぎると思ひます。もっと労働組合を強化して、実質的に労働基準法を守るようにしなければなりません。私達の方は、中小企業でも中の方だから労働基準法は守られる

申しわけないが、こういう例もあるということでお話ししたいと思います。

就職する時に、いくらで生活できるかと言われて、三千円と言ったら、三千二百五十円くれました。それから、一週、五号体上げてくれました。最近、後から入った男がどんだん上るから、「給料並に働きますよ」と言うのと「そう言いなさんな」と言いますけれども、あんまりその差が目立つので、給料表を持ってきて、その人の就職経験と、給料との比較表を作ってみたら、男女差だけじゃなくて、年齢・学校というものが含まれていることが分かったので。市役所に八年もいる女の人と一年半ぐらいの男と同じだったり、六年いる男よりも二年いる女の方が多かったり、いろいろあります。これはいいに言えないなと思ひました。しかし男はどんだん昇給になるが、女はいつまでも賃金補正だったり、ということがあります。

奈良 官吏の場合は決っていますが、中小企業の場合が問題になると思ひますね。

堀越 飯田さんの立場は恵まれていらっしやるが、同じ官公吏でも私の妹の場合は違います。東京の官庁に勤めていて、任官して、自分の事情で一旦辞めたが、その後、再び同じように官庁に勤めました。以前五年間ぐらい同じような仕事に責任を持たせていたでいてやっていました。

で、元の官庁からの推薦状でもそのことははっきり示されている、つまり実力を持っていたが、結婚していることと、女であること——はつきり課長さんからも言われたが——そのためにいつまでも任官しない。結局三級俸給くらいで、公務員の基準の一番低いところそのまま止まっている。という例もありますから、結局、上部の方のものの考え方に左右されると思うんです。

藤井 大体賃金の場合と労働条件の場合に男女差の問題があります。

賃金の問題ですが、私達女教師も、非常に男女差がありました。それにやっとなつたのが終戦後ですが、そこで私達養護におきましても男女差があるというので、ずいぶん県庁に交渉し、組合の中にも持って行った結果、現在では同一賃金制にしたがって、少しも差のない状態にまで持ってきました。

先程静岡の方がおっしゃったように、賃金体系を互に知る必要がある。ただ、男女差がある、男女差があると云っていたのではない。同じ学歴、同じ勤務年数なのにと急所を衝いて行けば、向うがどうにもできないように追いつめられる。だから女性ももっと動物的なものを研究して科学的に突込んでゆく能力を持つ必要があるんじゃないかと考えます。

佐とか、家内労働法みたいなものをやったどうか、その点はお考えにならないですか。

司金 今の氏原先生の言われたことについてお考えのある方がありましたら……。

高石 そういうことをあまり知りませんから、お聞きしたいと思います。

増田 私は中小企業に勤めています。大体従業員は五百人くらいですが、案外取られていると言えませんが、労働組合は富山県でも指折りに強い。それで、組合員のサトル活動したいなものは、他の組合に負けていないと思えます。大分活発なので、女の人達も目覚めて、政治的にも、教育委員とか町会議員の選挙の時はおきます。今度も教育委員の場合はトップで入りましたが、どうしてそういうことになったかという、自分達の立場がだんだん苦しくなる。昨日もちょっと言いましたけれども、製品が売れないとか、金利に追い廻されるとかで、経営者が苦しくなったから今まで会社に言えは賃上げもなにもできなかったが、今では全然ためなのです。繊維関係の工場とか商社がばたばた倒れるために、こげつきになって、会社が金のやりくりができなくて、給料を払うために、百円で作った品物を、損するとわかっていながら七十円、八十円と割って売る。後になると何十万の赤字になる。経営者自身も大企業に押

それから今の中小企業の問題で、これは私の近所の紡績会社のことですが、その会社は非常に賃金が低くおまけに、男子と同じに働いていても差があるということに気付いて、女工さんたち百人くらいが結束して、その問題を解決いたしました。そういうように、自分達の置かれている状態を考えてみる必要がある、一人でぐずぐず言ってもだめです。

高石 そんなにたくさんいるところなら羨ましいですが、四、五人くらいではどうにもならない。どうしても解決できない問題です。中小企業独特のものになりますしね。

氏原 ですから、賃金その他の差別待遇の問題は、一つの官庁なり会社なりの中でもあります。これは今のうちに団体協約を結んだり、あるいは賃金規則を改善して、ある程度なくすることができる。ここで男女の差別を設ければ基準法第四條違反になる。それでも事実上の差別が行われればどんな苦情を言っても解決する。しかし、さっきの雇用の問題と関連するのですが、婦人が多い中小企業等とか内職とか、ごく賃金の低いところがある。これは、大企業の問題に比べて、非常に深刻な問題なのですが、労働協約や賃金規則だけでは、解決できない。

そこでどうでしょうか、最近問題になっている最低賃金

取されるから苦しくなりますが、結局私達労働者はもっと苦しくなります。大企業というのは独占資本で独占されていますから、中小企業はなんとも浮び上る暇がない。もっと中小企業に対する政策が取られたらいいからいいんですけれども、現在ではとても望めない。わたし達の工場もいつ倒れるかわからないのがほんとうです。これ以上会社に對してなにを要求しても獲得できる望みは全然ないんです。

司金 今、中小企業の問題が出ましたが、このことと、先程の中小企業に働いている人達の賃金の問題、それに関連して、最低賃金の問題について、氏原先生にお話を伺ったらいかがでしょうか。

氏原 最低賃金について先程お話がありました。賃金は団体交渉で決めるのが根本ですが、昨日からお話が出ておりますように、零細企業、あるいは家内労働みたいなところでは、団体交渉をやるうと思っても労働者の組織化がむずかしい。だから賃金は手放しに低くなってしまっています。直接の使用が悪意があるなしに拘わらず、大企業から抑えつけられて、一番きつめな思いをするのは、下積みで直接働いておられる人たちだ、ということになるわけです。こういうところには婦人はばかりでなく男子も働いているが、とくに婦人が多い。だからこの低賃金問題をなんとか

か解決しなければならぬ。そこでいろいろの方法が取られてきたが、一つは、最低賃金法や家内労働法と呼ばれるもので、一種の団体交渉の補助をするものだと思ひます。労働基準法の中にも、賃金審議会という規定があって、地方に地方賃金審議会、中央に中央賃金審議会をおくことになっている。賃金を最終的に決めるのは労働大臣ですが、その賃金審議会は、労働者の代表と使用者の代表と、中立の委員の三者で構成されるわけです。そうしますと、組織のできていない人達も、代表をそこに出席するということになる。そこで議論したり、産業の事情や地方の事情を話し合つて賃金を決めるわけです。労働組合のあるところでは団体交渉で決つた賃金を、もし使用者が払わなければ、労働組合の力で、払わせることができるが、組織のないところでは、代表が出て賃金を決めても、使用者が破つたらそれに対抗する手段がない。そこで、国が強制力でもつて、使用者に払わせる。こういうのが最低賃金の趣旨と思ひます。それから家内労働法などですと内容が複雑ですが、面白い例を申しますと、家内労働の工資表を、必ず人目に立つところに貼つておかなければならぬというのがあつた。そうすると、どの会社ではいくら工資を出しているかということが一目瞭然にわかる。すると家内労働をやっている人も、表を見て、うちの会社はよその会社より安いとい

うことで、意識が目覚める。ですから最低賃金というものは、大それたことをやるわけではなく、ごく当り前のことで、組織されていない方たちの賃金を守るための立法だ、こういうふうには考へてゐるんです。こういうふうにしてゆけば、組織されていない人達の賃金問題も、全部はできないが、ある程度、解決できるんじゃないかと思ひます。中小企業の問題になりますと、やはり中小企業の労働者が組織を作ると同じに、中小企業の企業家が、先づ自営の方からお話があつたように、組織を作つて解決してゆくというのがやはり根本になるんじゃないか。税金の問題にしても金融の問題でもそうじゃないかと思ひます。そうなりまうと、そこに動いてゐる人も、ある意味では利害一致するということになるわけですから、その辺では協調できるんじゃないかと思ひます。つまり大企業に較べれば中小企業は圧倒的を受けてゐるから、その差別待遇をなくすために、自らも、また政府も努力しなければならぬ。中小企業は輸出産業の中で大きな位置を占めてゐるし、また、われわれの日用品の大部分を造り、さらに、大企業の部品を造つてゐる基礎になつてゐる。このように日本の経済にとって大切な産業を、もっと大切にすることが必要だと思ひます。ことにそういうところには婦人が多い。だから日本

の経済の中で家内工業がどういふ地位を占め、どんな役割を果しているか、どんな条件にあるのかということに、よほど関心を持たれることを、私としては望み次第です。これはたいへん難しい問題なので、一口には申しあげられな

大企業の職場の問題というよりは、ある一つの地域の問題だと思ふ。最低賃金法とか家内労働法とか、そういう中小企業の問題を解決するために、どうしても地域的な運動をしなければ解決できないということになるわけです。

同会 今の先生のお話に対して御質問がありましたら……

そこで私の意見ですが、大企業の労働組合の婦人部の方などは、自分の家族の中でも、お母さんが自分で内職をしておられる方も、きょうだいで中小企業に通つておられる方もあるわけですから、職場のことばかり捉われず、もう少し町のことに関心を払つてやったらどうか。又地域の婦人団体などでも、これは非常に婦人の経済活動としては重要な問題ですから、そういう問題を取り上げて、いろいろ世論を起したり、実情を報告したり、あるいはそういう立法を促進することがなされるのが望ましいのじゃないかと思ひます。イギリスの最低賃金法では、婦人の力が非常に大きかつたといふます。

古市 その法律はもう実施されるんですか。
氏原 いや、実施されそうもありません。
古市 そこが問題だと思ひます。

飯田 今、先生のおっしゃつた意見と少し違つてゐるかもしれませんが、私のところの中小企業者の一部分の人達の取つてゐる行動を御参考にお話ししたいと思ひます。私のところでは繊維工業が盛んです。それでその人達が作つてゐる繊維組合、協同組合などが、県補助の申請をする、市でも、援助してゐます。又そういう組合にすら加入して

氏原 じゃあ意見を言わしてもらひます。家内労働でも中小工業でも、日本の労働組合と言ひますのは会社の労働組合で、名前も、何々会社従業員組合ということになっている。だから労働組合の方は、自分の職場のことについては熱心ですが、自分の住んでいる地域のことにについてはあまり熱心でない。ところが中小工業というのは小規模で、ばら／＼になつてゐる。しかし、一つの地域を見ますと固まつてゐるわけですから。例えば川口なら鋳物工場が集り、桐生なら織物というふうになる。だから地域としては中小企業の労働問題は非常に大きな問題です。家内労働でも、鼻緒屋は、一カ所の長屋三棟くらい全部鼻緒造りをやつてゐる。ですから、そういう中小企業や家内労働の問題は、

いない人がずいぶんあるわけですから、それには中小

企業相談所があって工場診断とか商店街診断とかそれ、経営の合理化等の診断を無料でやっています。

藤井 唯今のことにしまして、先程申しましたように、織布会社の女工さんが固結しましたが、足並が揃れそうになった。そのとき地評の婦人部が応援して、最後まで切り抜けることができました。非常に力強く固結されました。奈良 静岡の飯田さんのおっしゃったこと、氏原先生のおっしゃった組合と違ふのじゃないですか。こちらの方の組合は小さい企業の組合で、先生のおっしゃるのはそこで働いている人達のことじゃないでしょうかね。

氏原 両方含まれているわけです。
司会 さっきの氏原先生のお話に、中小企業は企業体自身が危いから、それを支えるために大企業に対して組織を作る。そして労働者も応援する。一方、労働者は経営主達に対して労働条件をよくしてもらおうよう交渉するため固結する必要がある、とおっしゃいましたね。飯田さんは前者を言われたわけですね。

増田 中小企業のことですが、私の附近の町に鉄物をやっているところがあります。そこに働いてその人達が「自分の商社は経営が大変だが、あと半年このままの状態をもち続ければ、他の商社の知ったところが二三潰れるから、自分達は助かる」と、昂然と言っている。だから、あんな

達の考えは違ふ、そうすると、潰れる商社に働いている人が給料をもらえなくなるから、あなた達の造ったものを買わなければならない。そうすると結局あなた達の店も危くなる。と言っても、分らない人が多い。とても重要な問題だと思います。

司会 他に御意見が御ありですか。中小企業の問題については大体、先程先生が言われた方向に持って行かなければ解決できないということでしょう。

増田 特に強調したいのは、もっと政府は中小企業に対して対策を練っていただきたいということです。九割までが中小企業であるということを忘れていただきたい。

司会 政策を要求すると同時に、もっと世論を強く起こすことも必要と考えるでしょうね。そのために先程から言われている固結が必要でしょうし、いろいろあると思います。

では、中小企業の問題は一応この辺でおきたいと思います。

唯今、勤め人並びに自営の場合における男女の差別に関する問題について討論しているわけですが、賃金問題から、特にしわ寄せされている中小企業に働く婦人の問題が詳しく語られてまいりました。それでは次の問題を出して下さい。

期昇給が主でした。しかし、現在は定期昇給だけになっております。無学昇給は、私は二〇〇%いただいております。本俸と地域手当を合せたものの二〇%です。

司会 他にありませんか。

増田 賃金体系と言われるとちょっと困りますが、中小企業の場合は、労働規約に決まっているけれども、学歴とかによって、初任給は同じでも昇給する率が違ってきます。それをどういう基準でされているかわからないですけれども。

司会 聞いてごらんになったことはありませんか。

増田 聞いてもわからないです。何が何パーセントというふうに決っていないんです。

司会 すると、ひっくり返って……科学的じゃないわけですね。まず男の人は、とか、女の人はということが入ってくるでしょうね。それに対して先程組合がたいへん強力だと伺ったんですが――。

増田 賃金のことについていろいろ調べて、体系を作るべくやっていますが、それについては、大企業とか官庁の方に話してもわからないと思います。理窟では決めるが、自分達のところでは適用しないんです。矛盾があるんです。

黒石 いつも中小企業のことです申しわけないですが、私

田中 労働基準法によると使用者と労働者とが対等の立場に立って労働条件を決めると言われていますが、実際問題として考えた場合、労働協約というでき上ったものの中に入れて込むに過ぎません。決めるのではなく、最初から枠ができています。労働協約の中にある給与体系が、能率給的なものでなく、生活給・扶養家族給に偏っている場合が多くその枠の中に入ってしまった。後から結果を見てさわぐようなことが多い。皆さんは御自分の賃金について、どういうふうに考えていらっしゃるかということを知りたいと思います。

司会 皆さんの勤め先の賃金水準並びに体系に関しまして、どれくらいの知識を持っていらっしゃるか御披露して下さい。

藤井 私なんか、ちゃんと決っていますから。

堀越 私の職場の場合は、たいへん恵まれています。米軍直轄に移る前は準公務員待遇ですから、最初に入りました時は六級職の一号俸でした。私より先につとめていた大抵の人は七級職、八級職になっていました。米軍の方に移りました時も、一応それを基準にして計算されましたので、給与の点では恵まれています。その他に語学給というのを得るために毎年一ぺん今までは試験がありました。その試験に好い成績をとれば昇給するわけですけれども、大体定

のところはお話にならなかったのです。私、経理をやっております。決算報告も出すんですが、決算報告をやるというぶん赤字が出る。会社そのものが法人組織になっていきますけれども、株を持ってるのは社長の兄弟とかで、社長の家族の生活の金やなんかもみんなくるめられて、私のやっている経理は税務署に出すためのものになっていくんです。それに対して組織もなにもないからどうにもしようがありません。それをどうすることもできない。こういう会社がいっぱいあるんじゃないかと思えます。

司会 それでは給料の標準はどうして決めるんですか。
高石 中小企業の、ラジオ屋さんならラジオ屋さんの同業の女の事務員がこれくらいだから大体これくらい、ということ、きめるわしくお話しにならないです。

氏原 昇給などというのはないですか。

高石 それも、何かの機会に、仕事ができる人間だということとがみとめられると上げてくれたりしますが、ちょっと確実性がないですね。

田金 勤めていても頼りないわけですね。

高石 だから、そんなところで勤めたくないです上。

尾添 私の勤めているところは地方自治団体で、勤続年数が多ければ、条例によって、一年一回、定期昇給があることになっていますが、その他の昇給制度はありません。

司会 怠慢とか真面目を見分けるのは？

松田 工場係がいつも見廻っていますし、私のところは実務についた仕事をしますのではっきりします。少しの暇でも休憩室に行つて煙草をのむとか、少しの間でも自分から考えて生産能力をあげるという態度がはっきり分ります。

午前と午後には、基準法に定められた休憩があります。司会 そういう基準法を守った上で、成績をあげた者は認めて行くんですね。

松田 手当も、一定の額は決っております。これだけという額は決っておりますが、そのほかに……。

司会 普通の賃金というのはどういう標準できめていますか。

松田 年齢と、職歴です。私共の方は、ほんとうの技術面が多いですから。

司会 あと、賃金の問題だけにこだわらないで、引続いていろいろな労働条件について、ひっくり返って討論していただきます。

飯田 議会事務局に勤めておられる方がおっしゃったように、女の人が積極的に出たら道が開ける。「実力を育てましょう」のスローガンにびびったりしていますが、自分をほめるようですが、とにかく私も体当りでやってきました。

条例による制度も予算の関係で全然実施はされずに、上の人の考えだけで給与がきめられます。町の議会の事務局なので、男の書記の方は議会がある時とか委員会がある時は、要請速記に出てゆく。私は議員さんのサービス係だからというところで、全然委員会や議会の席上に出してくれない。

これではいけないと思つて、自分の仕事をサボつて、階級の下の要請速記をして、すぐそれをまとめて、男の人が整理する前に課長のところに持つて行つた。積極的に自分の能力を知ってもらわなければいけないと思ひました。それで認めていただけたと思いますから、きたる時にはいくらか月給が上がるだろうという期待を持ってるわけです。このような所では仕事の実証をもって、体当りしないといけないと思つています。封建的で、ものすごいですから。

松田 うちあたりは、中小の小企業のまた小ですが、一定の労働協約の線にそつて、賃金を支払つております。そうして、労働の能力、扶養家族の事情等を見まして、年に二回、中元と年末の手当という形で、一定の線のほかに加減します。

司会 加減というところ？

松田 精勤状況を加味するというわけで、この人はよく勤めてくれる、この人は怠慢だということ、加減してプラスしてゆく、ですから別に不平はありません。

「あれにやらせればなんとかなれる」ということで、先頃も、議会の速記者が病気のとき、私がやらされましたが、なんとかまゝとめてしまいました。女でも相当やれるということをもみんなに知ってもらえろというのが一番いいと思います。積極的にどんどんやってみることですね。

藤井 男女差の問題でもあり、女子の地位の向上に関することでもありますが、私の例を挙げますと、教頭になりました。毎年校長候補に争うが、それなのに何故校長が実現せんかという問題です。私も長い間教頭生活して考えました。結論は、女は男と違って酒なんか飲めないというところ、男子との隙りが持てないというところにある。男は、少々ぼんくらでも、そういう術にたけていて、教育委員・市会議員と仲好くなって、あらゆる糸をもっており、その糸がぐんぐん上つて行く。女性には絶対そういうものがない。そこで、婦人部あたりがなんとか女校長にしようと思つても、ある城までは達するが――最高点で候補には上がるが、教育委員会に持ち込まれた場合は必ず他の男子になる。ここら辺りに、女性の進出してゆくことが狭められてゆく理由があるような気がする。実力じゃない。これをみなさんに考えていただきたいと思ひます。

高石 それは女の一つの限界じゃないかしら。

氏原 婦人の方は正にそういう目に遭つておられるわけ

だから、そういうことをなくしてゆくことこそが大切で。

藤井 どういうふうに打開するかということですが、教育委員会や組合の人事機関に女性をたくさん送り込んで、女の意見を吐く場を作ってくることが必要です。ところが女の人は、人事委員になりなさいという、嫌だとポストを持つことを拒否する。ところが、女の進出を拒むことになりですね。

中山 待合政治と言われているでしょう。それにはやっぱり女の人の考え方……一人もそのような社会に女の人がいなかったから待合政治に偏ったと思います。女の人が自覚して、どんな政界にも進出して、そんな待合政治をなくすように努力していただきたいと思います。

司会 職場の問題は大部分出たようですが、自営の方が事業を経営していらっしゃる場合、女であるために困るというような問題について。

中山 私の場合、唯今では仕立だけしかしていません。布地を扱いたいと思ひまして、金融業者（信用組合など）に貸し金（金）を借りようと思ひましたが、女であるため、よそから引揚げて来たために、まだ信用がありません。他の男子の業者の方には金融してくれませんが、女には貸してくれない。私と同じ敷居を持った人がたくさんありますけれども、女で布地を扱っている店はありません。男の人は

んか、店が潰れて逃げてしまったりするが、女の人はお金のことに関して固いと思います。女の人ほどこまでも責任を持つと思いますし、自信もあるんじゃないかと思ひますので、もっと女の財政力を認めていただきたい。

司会 結局男の方の頭を切り換えて、女の方を認めるようにして、という意見ですね。

松田 私共株の運営面は徳田が広く、原木として山に立っている木を相手に売らなければなりません。中には中間搾取のような機関を通らなければならぬこともあります。どうしてもお酒を飲まして話を決めることになりま。何々敷を相手にしますと、お酒が廻り回らない仕事です。女としてそういう面をどう対処しているかと言いますと、運営自体に精通した支配人を使い、自分がお酒の席に直接出なくても、支配人を通して意志が通るようにしています。

司会 支配人は男の方ですね。すると結局女の社長さんでは難しい点を男の人にしてもらっているわけですね。女の人でも無理なく出席できるようにならないものではないでしょうか。

松田 まだお酒をなくすということにはなかなかできないんです。

古市 技術を持った方でしたらそうでもありませんが、

家庭婦人が始めて商売をなさろうとする場合に一番困るのは、資金面のことだと思ひます。その場合に、未亡人は決して個人の男から借りないのがいい。何故かという、男というのは女一人だと野心を持ちたがり、そして知らない間に精神的にも肉体的にも隷属させる場合が多い。ですから中小企業金融とか未亡人金融がありますが、そういう面に金を融通していただいて、小さくてもいいからしっかりした正しい商売を始めるようにしたら、必ず成功すると思ひます。

氏原 それから昨日、婦人の方は資金の面で弱いという御報告があったが、これは別に事業をやられる場合だけでなく、家計の場合でもそう言えると思ひます。婦人だけでなく子供でもそうですが、収入を得た場合、給料をそっくり家長に渡して、あとお小遣いをもらう、財産主性というふうなものが家長に集中してしまつて、婦人にな。そのために婦人の地位が弱くなつて、事業をやられる場合にも、男はそういう資本を作り易いが、婦人は資本が作りにくい、という面があるんじゃないかと思ひます。

古市 私の例を申し上げるならば、主人は建築業で、三十人くらい人を使つております。全然財政は別個です。初めから別個にしまして、生活費の大体半分を、私のほうからと主人のほうからと出合っています。そして、私が働

いて残したお金はいろいろな金融面なんかに応用いたしまして、少しでもふえるように心がけ、唯今では主人の会社に出資し、取締役になつています。そういうふうな面でも、高松の方でも皆様に、変つた家庭だというふうに言われておりますが、私は、夫と妻がそれ、職業を持っています。合は、対等の責任で家庭経済を負担し、余分は、各目の財産として蓄えることは当然と思ひます。夫が働いているのに生活費を出さないからといって、妻一人が自分の収入を全部なげ出して家計を支えて行く考え方は、従来の女の間違つた忍従の精神の表れでもあると思ひます。家庭は夫と妻と半々の共同責任で運営されるべきです。その意味においても、婦人も男子と同様に経済力を持つべきだと思ひます。

司会 予定の時間が過ぎましたので、まとめてみたいと思ひます。

「職業をもつ婦人に関する男女差の問題について」ということを論じ合つてきたわけですが、大体初めに職場のことが問題にされ、主として資金のことが深く討論されたと思ひます。資金を、できるだけ女も男と同じように上げてもうために、対等の技術、奥力を身につけること、積極的に機会をとらえて自分の能力を発表すること、その他に基準法を守らせるように見守る。つまりその方法としまして

は、労働組合などを作って、組織の力でやる。各自が資金体系を把握して、不審な点があれば科学的に分析して使用者の方に話を持ってゆく等の意見が出されました。それから今の資金問題に関連して、非常に労働条件の悪い中小企業に働く婦人の問題がある。これを解決するについては、まず中小企業自体の運営問題がある。それをみなで力て安全なものにしなければならぬ。同時に、平行して、そこに働く婦人の労働条件に関して中小企業者に当るべきである。

それからその他のことをひくく申しますと、女が当面する困難な問題として、まだ残っている古い世間の考え方の方に大きな問題がある。お酒を飲まなければ商談が成り立たないとか、経営してゆく上に不便であるとか、重要ポストにつく場合も、お酒を飲むという特殊な技術がなければ駄目であるというまちがった偏見を打破しなければ解決されないのではないか。特に自営の場合には、「女」という古い觀念からくる不利が資金面に出てくる、というようなことが耐えられませんが、いかがでしょうか。

氏原 その最後の点は、事業をなさる方の場合そうですが、後で家庭のところで御議論になると思いますが、勤めている人の場合も同じだと思います。婦人が経済的に独立するというのは、職場だけでなく家庭でも同じであって、

たように、妻の性格とか精力が非常に素晴らしい場合、それから子供のいる場合は、近所に託児所とか保育所の設備が完備している場合、主人のある方は、主人が妻と同等の家事をやったり能力のある場合、その他に、お母さんとか家族で、子供を見て下さる方がいる場合、それ以外は妻一人に負担が掛ってくるということでした。私の場合は二歳の双子と五つの子供がいますから、子供の成長期としては大変大切な時期で、私自身が小さい時、母親が幼稚園に勤めていて、毎日母親がいない生活を経験して、子供心に、なんとなく淋しい気持ちを感じていたことを覚えているので、なんとかして子供達と一緒に生活できるような立場で職業を持ちたいと考えた結果、戦災者でもありますが、タイプライターを一台持っていましたので、さらに持っていた物を全部売って、もう一台買って、二台のタイプライターで自宅教授を始めました。ですから、外に講師としても出ましたけれども、一週間三回で、二時間とか四時間という小時間でしたので、その間だけ子供を母に頼んでみました。私の場合、母が同居していたけれども、私は、年寄りの母親に孫の面倒を見させるということ、あまりいいことと思いませんでした。年を取って来ますと、子供の面倒を見ることは相当大きな負担ですし、それから、私の母自身も一人の女性であるという立場から、その人の一生というものは

家庭は家族員の協力で成り立っているのですが、この協力には、それぞれの家族員の独立が前提にならなければならぬというところは強調してもいいと思います。つまり収入を得ても全部取り上げられてしまうことでは、職場の方に男女差はなくなっても、家庭では男女差があるということです。

司会 一応この問題を打ち切って、次の家庭と職業の両立の問題に移ってゆきたいと思っています。

(休 憩)

司会 それでは再開したいと思っています。第四の「家庭生活と職業の両立について」という問題を御討議願います。どうぞ御意見をお出し下さい。

昨日みなさんから五分ずつ御意見発表願いました時に、たいへんうまく実施している方が多かったようですが、困難に出遇っている方もあると思います。

◎家庭生活と職業の両立について

奈良 自分の場合をお話ししたいと思います。昨日お話ししたように、私が仕事を始めた当時は、夫がシベリア抑留中で、子供が三人おりましたから、夫がいなくても家庭と職業という問題が前に出てきました。そこで私が考えたことは、昨日、両立の場合の根本条件として話し

たいへん大事な問題です。それが年とって若い先が短くなれば、ますます人生が貴重なわけですから、それを私の都合のために使わせたくないという気持ちがあったので、母親に子供を頼んで外に出るという方法をとらなかったのです。ですから、私が自営していた場合は、家庭と職業を両立させることができたわけです。

司会 お宅でお仕事をされている場合に両立させたという一例をのべられました。職場に出ている方には、いい例がたくさんあったと思いますので、苦心・工夫された点を発表して下さい。

河村 私は教員としておりまして、唯今一年生を担任しておりますが、その子供達に、まず今日帰ったら「こんなことがあった」とお母さんにおっしゃい、と申します。ところが自分の生活を考えてみて、私にも今一年生の子供がおりますが、その子供が帰ってきたら、私はいいんです。私の母がおりますけれども、母の考え方と私の考え方とは大分違っております。それだけに自分の子供を理想的に世話しやれないのに先生をしていいのかしら、という悩みを持っております。ですから、家に帰ればせいぜい子供の相手をしようと思えます。ところがそうすると自分が伸びる時間というものがなくなってしまうんです。いろいろ考えてみて、いいと思うことをやってみました。

例えば子供の服なんかは、思い切って全部既製品か、仕立屋さんに頼みます。それから靴下の類いなんかもやらないことにしました。自分の時間の方が大事だと思いたいです。主人と較べてみますと、主人は学校から帰ると全部自分の時間です。ところがわたしは、まだそう言いながらもういるなことがありますが、何だか矛盾を感じて話し合っていますけれども解決できません。それはわたしの家庭で解決しなければならぬ問題ですけれども、それが悩みのです。

司会 御主人はなにも手伝ってくれないんですか。

河村 話し合っても、主人の性格として手伝ってくれないんです。自分にいろいろな野心があるんです。文筆生活をやりたいというのが、そのために私が犠牲にならなければならぬかという思いがあります。一人の人を守るために自分を犠牲にするのが果して自分の愛情かしらと思えます。自分にもなにかやれるというような野心があるんです。そこにおいて、愛情の問題と、自分が伸びる問題に、ほんとうに悩んでいます。

司会 今の問題、どなたか解決法を……。

高石 私は未婚者であって経験者でないけれども、私が考えますには、家庭と職業を両立させるには絶対に夫の理解がなくちゃならないこと、それから、託児所が普及され

れてきたが、奇特じゃなくて、悪徳と思えます。私の場合は、お互に話し合って二人一緒に伸びるよう努めています。で現在では家庭生活と職業と両立しております。というのも、私達は二人だけの生活ですから案外たやすく実行できているので、もしお姑さんやその他の家族がいた場合には、難しい問題でしょうと思えます。しかし、そのような場合でもお互にいろいろな面で考えて、解決しなければならぬことと思えます。

それと、先程の高石さんの保育園の問題ですが、完全な人に任せたいというのは同感ですが、今の場合に、その施設さえも少い。例えば地方の例は知りませんが、東京の場合に、私の住んでいる近所で預けようと思っても、預ける施設が近くにない。職場の近くにもない。それが自分のこれからの困難な問題となっています。そういう問題を考えますと、どうしても託児所をふやすこと、でなければ職場で附帯設備としてもらうこと、或いは、私達の手でやることを考えなければならぬ、ということをも具体的な一つの考えとして持っています。

司会 今、御主人の問題と託児所の問題が出ていますが、御主人の問題から片付けようと思えます。それに関連して……。

一蘭 夫の理解ということをよく申しますけれども、具

て、衣食住が全面的に改善されなければ難しい問題だと思えます。そして託児所の場合、そこに預けてもなんだか心配だ、なんていう託児所では有名無実です。結局お母さんより以上に子供の面倒を見て、子供をよく育ててくれるというふうな、専門の人達が集まっているという託児所であってほしい。衣食住では、もしどこかで、職を持っていられる方が出るとか、こういう全国会議にいらっしやる場合、誰かお家で……お母さんも誰もいらっしやるなければ、留守を預ってくれる家政婦さんが必要です。その場合にこれも安心してその人に頼める、というふうなものでなくちゃ、だめなんじゃないかと思えます。

堀越 私の場合、結婚いたしました時にいろいろな方から、御主人を伸ばしてあげなさいといわれ、「主人のために女の人が犠牲になった場合に、果してそれが本当の愛情か」という問題が出ましたが、このことについて私としては、片っ方だけが伸びるということは、これからの家庭生活には不自然と思えます。男と女と伸びっこをしなければならぬ。そのためには、片っ方だけの犠牲では成り立たないと思えます。同じような成長をもとにした家庭生活でなければなりません。夫のために妻を犠牲にするという結婚に対する考え方は切り換える必要があるのではないかと思えます。今まで女が犠牲になることが奇特のように思わ

体的にどういう理解が必要かということになりますと、家事労働が今まで主婦の手に集中され過ぎていたと思えます。御主人が出勤する時に、「おいネクタイ、ワイシャツ」、子供が学校に行く度に、「お母さん、服、下着」とすべてをお母さんに頼って、衣類のしまっておくところから何から、お母さん以外は知らなかったということではいけない。家内の衣類を始め、整理整頓することを家の中の人知らなければいけない。それが細かくなってきたと、例えば味噌汁はどのくらいあって、買わなければいけないとかいうことまで、子供から大人からみんな知っていて、お母さんがいなくてもやりくりできるというふうな家庭内の状態を保っていなければ、働きたくても働く時間というものが生れてこないと思えます。

吉市 女が職業を持つ場合、勤めも自営もどちらにも共通ですが、家庭を営んで、しかも子供のある場合、愛情という問題を非常に大きな問題として考えなければならぬと思えます。経済的に独立したとしても、愛情の継続を求したならば私達の人生というものはマイナスになってしまふと思えます。女が経済生活に忙しいと、どうしても、自分で主人の身の廻り全般に気を遣うということができなくなる。そういう場合に男子側の言い分として、長い間の封建性の然らしめたところで、非常に進歩的な人でも、口で

は理論を言いますけれども、家庭に入れば必ず妻に対して服従を強いる。しかし妻が外に出て仕事にばかり熱心で、旦那さんを構わないとしますと、どうしてもそこに愛情の融解を来す。この愛情の問題をどうするかということ、経済的な独立と共に最も大切なことだと思いますので、こういう問題を解決するためにもう少しみなさんの御意見をきかしていただきたいと思っています。

加藤 唯今古市さんがおっしゃったように、愛情の問題は最も大切ですが、夫と妻が協力し、お互いの職業を理解し合うことによって、そこに愛情も生れ、夫は妻を庇い、妻は夫の難儀を庇い、そこに愛情の融解は来たさなと思います。しかし例えばこの間の新聞記事にもありましたように、「朝の味噌汁が食べられないから、そういう妻はいけない、又、夕方帰ると、妻は一日の仕事に疲れて夫を玄関に迎えないから、そういう妻には愛情を感じない」とか、そういう夫の横暴主義がどうしても今の社会にはまだまだあると思いますので、むしろかしい家庭もありましょう。私の場合ですと、幸い夫が進歩的な考えを持っているので、その点うまくゆき、仕合せに思っています。やはりそこには夫の努力がなければならぬと思います。わがままを言い出したときがないことで、夫の努力というものは、愛情を築いて行く上に根本的なものじゃないかと思っています。

た。そのうちに会社の社宅に引越しましたが、相も変らず旦那さんは掃除したり、先に帰ると夕方御飯ぐらい炊くというふうにはやっていたり、同じ社宅にいらる人が、この旦那さんなんでもやる、なかなか親切らしいというので、旦那さんに「あんたはそういうことまでやるんですか」と言ったらいいのです。一度や二度ならいいが、何人もがいうので、しまいに早く帰ってもなにもやらぬで新聞を読んだり雑誌を読んだりするようになりました。世間の女の自身もそういう考えを持っているんで、折角の試みもくずれてしまうのです。

堀越 男の人の夢といいますが、わがままといいますが、昔から男の人は結婚すると妻に要求するものがやはりあるんです。そういうものに対して、あれは話し合っていたことと違うからという、破綻が起きると思います。私達夫婦の間ではいぶん話し合いましたし、私自身の気持の中で、お互いに愛情を持ち合って結婚したにしても、そういう理想と違った場合には、離婚すること止むを得ないし、主人の方もそういう考え方ではないかと思えます。ですから、一期一夕にこういう問題は解決することじゃないかと思えます。結婚生活は生産性から、毎日毎日築き上げていくものだと思います。私共の場合、実は近所の懇話会から表彰状を頂きました。たいへんおほめの言葉ですけれど

田中 今、努力とおっしゃいましたが、たしかにそれが必要ですが、最も根本の問題は、男も女も、家庭生活の今までの見方を考え直さなければならぬ。表面に表れた細かい動作による心遣いだけが愛情だと思わないで、もっと大きな眼で、心の奥にある奥の愛情を見つめ合うことが必要ではないか。新しい正しい、人間関係を認識し、お互に同等のベター・ハーフを求め合うように心持を切り換えなければならぬと思います。そういう根本的な愛情というものを持つように、家庭生活の見方を変えなければいけないんじゃないか、それが根本じゃないかと思っております。

高石 先程、婦人の職業能力を高める機会について、という時にもお話ししましたが、結局この問題は、亭主教育というよりも男性教育の問題だと思います。従来は女は家庭、男子は仕事であったが、現在は男女共に家庭と社会という現代に変わりつつあるということを、男性の全部に理解してもらわなければ。前のような偏見を固執してということ、認識不足で、男性の自覚に俟つものと思います。中山 男性の自覚を俟つと言われましたが、女性の方も、男性を甘やかすくせが抜けてないと思います。

増田 私のところでも職場結婚をした人があります。二人共働きで、間借りして生活していましたが、そのころは、奥さんが炊事をすれば旦那さんが掃除したりしていまし

も、世間一般の考え方からすると、たいへんな皮肉でして、それは仕方がないと思っています。ですからこういう問題は、お互いの話し合いと、たゆまない努力が必要ですよ。

河村 男性の社会の中で、やっぱり、男がそんなことをやっているのはおかしいな、と見る眼が強いでしょう。すると自然、主人の社交範囲が狭められる。その結果、上に行けば行くほど、だんだん認められなくなることが多いんじゃないかと思えます。そういうことを主人の口からも聞きますし、そんな点でも迷うこともあります。もっとも自分の主人がだんだん高いところに行けば嬉しいですからね。いろいろな社交方面を持つことはいいと思えますから、ある程度自分が負担しなければならぬというふうな現状だと思っています。

司会 一応まとめますと、家庭と職業を両立させる上の夫に關することですね。直接夫婦の間で話し合って、夫に理解してもらって、夫と妻は同等のものであるから、どちらも自分を殺すことのないように、職業と家庭を両立させるように協力、努力するべきだ、ということ。個人的な解決は一応できても、世間の圧迫が強いために、それに堪えられない場合が多い。ひどい場合になると、それが夫の出世をも妨げる原因になり兼ねない、ということでした。氏原 伺いたいのですが、御夫婦職業に就いておられる

方で——同じ職業に就いておられる方は当然そうでしょうけれども——それぞれ自分の職場のことや、御主人の職場のことをお話し合いになりますか。

堀越 私は話し合います。

氏原 それから御主人のお友達——つまり奥さんの社交の範囲と御主人の社交の範囲は別ですか、一緒ですか。

堀越 私の場合一緒です。例えば、結婚披露の時に、主人の学校の同級生全部をお招きいたしましたし、私の方もお招きいたしました。会社の方も、二人でなければお互に往來をしないことになっていますから、いらっしゃる方もその数りでいらっしやいます。

氏原 この問題は、私自身大いに悩んだ問題です。

一つの点は、先程から大分議論が出た、職業意識と申しますか、婦人に職業意識があると同時に男にもある。お互に職業を持っていることを尊重し合うということが大切じゃないかと思ひます。これは協力の心構えとなります。逆に言いますと、家庭生活という面についても、お互の立場を尊重し合うということが、心構えとしては必要じゃないかと思ひます。これには、お互に職場のことを話し合ってお互に事情に通じていることが必要だと思ひます。私たちの場合のようにやっている仕事はひどくちがっており、お互に時間が不規則な場合には、特にそうでしたが、夜おそ

く帰って来ましても、こういうことで遅くなったと思えば腹も立たないし……というようにことになると思ひます。ところが全然知らないでいると、なにをしているのだろうかという気持ちにもなると思ひます。

もう一つわたしたちの場合も、家内の友達の範囲とぼくの友達の範囲と全然一緒で、出る時も一緒に出るというようにしていましたが、こういうことになりましたと、方々から監視されてみたいで、生活をきつていくことに社会的責任のようなものを感ずるという面があると思ひます。そうしますと先程の社交範囲という面から、家庭と職業との両立という問題を解きほぐせる一つの緒があるんじゃないかと思ひます。けれどもぼくの経験ですと、たいへんぼくは意気者であつたせいか、やっぱり家内の労働は非常に過重になってしまふ。ことに不便な生活をしていたので特にそうです。母親と一緒にいて手伝ってくれたのでやれたのですが、そうかといって応援してやればいいが、私も時聞がたいへん不規則で、なかなかやれない、というようなことで、現実問題としてはわたし自身どうしたらいいかわからない。そこで、みなさんの御意見をたいへん面白く伺ったわけです。

司会 託児所の問題も織り込んでお願いしたいと思ひます。

加藤

私は、いい保育所の例を紹介し併せて、ここに起っている問題をお話して、みなさんの御参考に使いたいと思ひます。石川町の保育所は、預けている子供の数が七十五名くらいです。その子供達のお母さんがどういふ生活生活程度で、どういふ日常生活をしているかといひますと、失業対策救済工事に出ている方が多く、お母さん達は朝七時までに現場に出かけます。出かけるまでに子供を連れて保育所に預けるから、朝四時頃起きて御飯を炊いて、主人にも食べさせ、子供にもお弁当をつめる。婦人は、三時にしまつて帰るんです。お母さん達の現場仕事は、背中にくのくらしい大きな籠を背負って、その籠に、男の方から砂をたくさん入れてもらって、それを百五十米ぐらいあるところに運ぶんです。一回運んで中腰になると、背中の砂がある(空になる)。一回運んでくると一円二十銭、十回運んで十二円、婦人は満足で帰る。どうして走るのがと見ていると、一回運んだ目印にカードを一つもらう、二回運ぶとカードが二枚、なんとかして一日のカードを合計もらいたために籠が空になると駆け出す。聞いてみますと、大体一所懸命やつて一日百八十円から二百円の稼ぎ高になるそうです。そのくらしい働きますと、家に帰ってお炊事をやるとき、いろいろの周りを這って歩くようになる。とても体にこたえるんです。先程どなたかのお話に、完全な保母さんがは

しいとおっしゃいましたが、私達のところは、保母さん達のやり方がよくて、親も及ばない面倒の見方なので、感心しています。大小便の面倒まで見ます。ほんとに町の方から感謝されています。

ところが、現在、保育所に対する国庫補助が、八割と決っているのに、どういふわけか四割しかきていない。八割が国庫補助、一割は県、一割は町ということで保育所の運営が円滑にゆくわけです。それで、三月の初めか二月の終りに、保育所に子供を預けているお母さん達が集つて、保育所の所長さんからお話をきいたところでは、「二十八年度に五十万の赤字が出た、町役場が臨時に立替えて、どうにかやっていったが、とてもこのままでは、来年は運営は困難だ。そこでこの保育所に子供を預けている家庭の生活状況に応じて、幾段階かに分けて一カ月いくらと、額をきめてお金を出してもらうことにしたい。だいたいの額は百円乃至二百五十円位」ということでした。そこに子供を預けたいという家庭はまだあります。私も働きたいからなんとか子供を預けて下さいと係りの方に頼んでいます。が、断られている現状です。

そこで私は、その町でささやかながら地方新聞の仕事をやっていますので、自分でなんとかして保育所の一つの援けになり、世間一般の人々の保育所に対する関心を高めた

いと思ひまして、三月二十七日に、婦人の方の演説会を主催し、利益のうち七千円だけ保育所に寄附しました。みなさんも世論を大いに高めて、保育所がもっと無理なく運営され、多くの人が利用出来るよう努力していただきたいと思ひます。

尾添 唯今の保育所の建設に対して、それから、国の補助金を多くしていただきたいというこの再確認の意味で申しあげたいと思ひます。私の町に、幼稚園と保育所と二つある。幼稚園は比較的中流家庭の子供が、義務教育を受けるまでの幼時教育を受けるところとなっております。保育所は失業対策等で出ていらっしゃる方のお子さんを主として預っているが、その保育所が定員一ぱいになったので、幼稚園の一部で保育することになりました。そうしますと、幼稚園に通う子供は比較的服装がいい。そこで保育所に通わしている親は、折角自分が一所懸命仕事をしつづけた金で、生活を維持するために働いたお金で、子供の服装を整える。結局、働いても生活の足しにならず無駄だからと、働くのをやめて、家庭で子供をみてゐるという現状です。だから保育所建設に国の補助金を多くしていただきたいとお願ひするわけです。

田中 保育所がどんなに足りないかということですが、既婚婦人の調査を、二年前にしました。神戸市内の五つの

ので、實際上経営困難になります。こういう問題も、経営の問題に大きくかかってきます。

司金 まだ討議したいことはたくさんあると思ひますが、時間がありませんので、保育所問題をまとめてみます。保育所の絶対数が足りないということ、今あるものでも経営難を来していること等が、全国的な問題になっている。解決するためには世論を起して政府に働きかけなければならぬ、ということでしょう。

保育所のこととは後刻議会で問題になると思ひますから、残念ですが一応打ち切りまして、最後に今までに出された問題を一審初めから通しまして、細かい結論まではいかないかもしれませんが、少しでも解決する途に持つてゆくためにはどんな方法が考えられるかということについて、二、三分の間に御意見を伺いたいと思ひます。どういう方向に向つて努力すべきでしょうか。

◎解決への途

増田 今まで私共がやってきたことですが、婦人少年室が主催で、昭和二十五年から毎年定例会をやっている。金風・繊維・機械工業組織を含めて、毎月一回やることになって、この次の議題はなに、と決めることにして、労働問題とか給料とか話し合っていますが、今度五十回目を迎えます。そういう旗の驀りを持って、やってきています。

企業を対象にしましたが、回答率が少くて、五、六〇%、集めたのは三百六十三人の票で、その中三分の一が子供のいない、いわゆる共稼ぎ、残りが子供もあり、複雑な家族構成の方で、その多数の中に五十二人の学齢未満の子供の数があつた。しかしそのうち現在保育所を利用している人は全くありませんでした。過去に利用した人が二名くらいありました。全然利用しない人の中には、お婆さんがおられますからとか、妹がいるとか、利用しないで済んだし、利用したくてもできなかった人もあります。同じ時期に、保育所の数を神戸市内と兵庫県について、調べてみると、兵庫県下で三百ありました。全県で三番目に多いそうですが、神戸市内は三カ所しかなく、預る時間は午前八時から夕方五時まで、この時間では、実際必要な人は利用できない。それで、どうしても子供を預ける必要がある人は、ほかの適当なところへ子供を預け、一月三千円も費用を引かれてゐる。自分が稼いだものから三千円も引かれ、あとの残り二、三千円が家計の足しになるということで、奥にみじめなものだと感じました。どんなふうな形で保育所増設の要求を持つて行つたらいいか、又保育所はあっても利用されにくい実情をどうすればよいか考える必要があると思ひます。

藤井 社会保障制度に対する補助費がなくなったという

福祉研究会という名前がついてゐます。県下でただ一つの女の集りということになってゐます。

中山 私、昨日からみなさんの御意見聞いていまして、自分の地域の婦人の繋がりがないために、肩身が狭く感じました。やはり婦人は婦人同士、お互に手を繋ぎなければ向上してゆけないと思ひます。第一に團結して、ある程度の組織を作つてゆかなければ役に立たないと思ひます。

石田 今の方々の発言の通りで、和歌山県でも、婦人が團結することを急じています。それをなんとかしてこの機会にまとめていただきたいということを強調してゐるんです。

藤井 二日間を通じまして一番問題になったのは、やはり婦人に対する男子の問題だと思ひます。それで、ここらで喋っている問題を、婦人だけの問題としないで、必ず男子に訴へることにしたいと思ひます。

加藤 みなさんの討議されたことを一貫して考えてみますと、どうしても平和ということと政治ということとを論ずる以外には解決できない。唯今の保育所の問題も、再軍備に経費が取られるために、かくもみなさんの期待に添えないのです。

司金 たいへん急行列車で出していただきましたみなさんの御意見をまとめてみます。

討論の途中でも度々出てきましたが、組織がなければ解決できないということ、組織も、個々の組織だけでは限界がある。個々の組織がさらに横に手を握り合って、大きなものにしてゆかなければならないということ。

それから、これも集団の力でするのでしようけれど、男性に対していろいろ実情をうたえて理解してもらい、協力をしてもらおう機会を作らなければならないということ、それから多くの問題は、平和及び政治の問題と関係があるので、そちらの問題とも関連をつけて考えなければならぬ、ということが言われたと思います。

どれを見ましても個人では片付かない、多人数の力によって解決の方向に持ってゆかなければならない、ということが言われると思います。

はっきりしたまとめをしませんで終えますことは申しわけないと思いますが、総会の席上で報告並びに討論が行われると思いますので、これで第一部会の会議を終えたいと思います。どうもありがとうございました。

第二部会 家族従業者（農家商家）などの場合について

（農家・商家の経営に参加するには、経営参加のため知識・技術の習得、家計・赤字・副業、生活の合理化）

出席者

青森	盛	や	す	子	（農業・主婦）
東京	田村	滋	子		（セメント・建築材料卸・小売業主婦）
富山	服部	シズ	オ		（農業・主婦）
愛知	野田	英	子		（毛織物小売業・主婦）
奈良	吉田	秀			（農業・主婦）
岡山	井口	秀	子		（農業・主婦）
広島	木津	和	直	子	（農業・主婦）
徳島	佐東	光	恵	子	（農業・主婦）
香川	大浦	し	め	の	（教員・主婦）
福岡	平島	久	子		（薬局・主婦）
佐賀	柳川	み	どり		（農業・主婦）
長崎	出口	ウ	タ		（農業・主婦）
大分	佐藤	寿	晃		（農業・主婦）
宮崎	小林	綾			（生活改良普及員・主婦）
鹿児島	榎八重	い	つえ		（農業・主婦）
アドヴァイザー	東大助教	日高	六郎		
司金者	婦人少年婦人課	内藤	つね		

司会 只今から第二部会の「家族従業者(農家、商家など)の場合について」の討議を始めたいと存じます。

昨日から大変心配なことで、ゆづりもよくおやすみになれなかった(笑)という方もあるようでございませうが、いろいろばたのお話をいつも顔を合わせている人達でなくて、少し違った人達とするといった軽い気持ちで進めていたのだと思います。初めに十五人の皆さんお一人ずつから五分ずつ、大抵皆さんの感じをいらしやることを先に話して頂きます。

それでは最初に青森県の盛さんからお願ひいたします。盛 私の住んでおります農家は単作地帯で、昔からの農業形態がずっと残っている所でございます。それでそういう形態のためか、非常に封建性というものが根強く残っております。大切な農業経営の計画とか、実際の生活面におきまして、家長といいますが、一家の主人の権力が非常に強くて、実際に仕事をします若い人々は、単に労働力を提供するにすぎないありさまであります。農業の経営によって得た収入とか支出とか、そういう面については若い人達は全然それに関係することができないというような場合が大部分なのです。

とくに私の申し上げたいのは、育ちざかりの子供をかかえたお嫁さんの場合なのです。実際に台所をしたり、それか

ら子供たちのや家族の飲食物を手がけたり、被服の面を保持したり、そういうような実際の面を担当する若いお嫁さんは、全然そういうような収支の面に、つまり現金の出入というところにタッチできないのです。それこそ除外されているという言葉が、非常によく当てはまっていると思います。ではどういうふうになっているかと申しますと、いわゆるへそくりにたよっているわけですね。私は、そういうような形態は根本的に間違っていると思います。

それで経営についての計画とか、それについての収支、そういうものを若い人々に任せてくれることができないのでしたら、せめてある一定の額のお金、それもあまりぎりぎりでないし、多少の余裕をもたせて、その経費の中からこれこれのことをやれ、という程度に任せてほしいと思うのです。またそういうふうになかなか任せることができなくても、ある一定の金額だけでも任せて下されば、家計をつける上にも、また生活全体を合理化し、むだを省く、能率的に生活をする、そういうようなことにも楽しみをもてやっていくことができると思います。

で、もしそういうことさえもできないとしたならば、私は最小限度こういうことをお願いしたいと思うのです。それは田でも畑でもかまいませんから、とにかく若い人たちが自由にすることができると、つまり自分たちの考えで経

営することが出来る土地を、少しでもいいから与えて下さい、というごとなのです。そういうわずかな土地でも、私たちはできるだけ勉強をし、考えて能率的な農業をやってみたいと思います。

たとえば一番能率的な農業といえますのは、私が考えますのに、やっぱり家畜を飼うことだろうと思います。台所にはたらく主婦のごくわずかな心遣いで、たとえばゴミ箱に投げ入れられてしまうようなものをまた利用することが出来るわけです。たとえばにわとりとか豚はそういういろいろなものを食べて、それを私たちの欲しているものに換えてくれるわけです。このように、初めはごく小さいことから始めていいと思います。たとえばにわとり二、三羽とか、小さな豚の子一頭であるとか、そういうごくわずかのものから始めてみても、それから生れてきた卵が栄養の改善にもなり、そしてまた余ったものはよその必要な人に売ることによって経済的な余裕となつてまた私たちのところに帰ってくるわけです。

私のつたない経験をお話しますと、田が大体五反歩で、りんご園が七反歩くらいあります。そのりんご園の下は全部レッド・クローバーの早生栽培にあてております。そしてそのクローバーを利用してホルスタインの乳牛を二頭飼っております。それから台所の残りものと、その早生栽培

のレッド・クローバーを主にして豚を二頭飼っております。夏の間は放し飼にして、全然飼料を使わないような方法で、にわとりを十五羽ばかり飼っております。そして田の収入、りんごの収入などの大きな収入は主人の父が管理し、家畜から入る収入は私自身が管理しております。こうして、大体一年間にどのくらい収入が入るかということの目安がつけば、生活を計画的にすることもできますし、また合理的に考えることもできます。また実際にむだのない生活もできると思います。私達は農業を始めてから七年になりますけれど、どうやら機械化といえますが、できるだけ人手をかけないようにいろいろな機械を大々利用することができました。そして生活の合理化と、生活の水準を高めることに努力しております。

ですから私の申し上げたいことは、農業生活における婦人の経済活動ということは、現在の段階では、経済力を婦人にもたせてほしいということ、その一点につきると思います。

司会 どうもありがとうございます。それでは次に福井県の服部さん、お願いいたします。

服部 只今の青森県の方とよく似ているのですが、私の方は、やはり米の単作地帯でございます。

まず生産面について考えてみますと、婦人はとにかく朝

から晩まで大いにはたらく続けているわけですが、仕事の計画を立てたり、あるいは実際にその仕事を進めていくということは、ほとんど世帯主がやっています。それを統計的にみますと、男が仕事の配分をするというのが六六%、女子がするというのが二〇%、これはほとんど未亡人の方でございます。それから男女共というのが一四%ございます。ですから女は仕事についてほとんど意見をのべないまた意見をのべても通らないという有様で、不満があってもとにかく牛や馬のごとくついて行つてはたらく、そんな状態で、もちろん増産の意欲とか、仕事に対する積極性などというものは、当然生れるはずがないと思います。

それから消費面からみますと、財布をもっているものは、大部分がやはり世帯主なのです。家計を管理するのは男が七九%、女が一%で、これもほとんどが未亡人です。男女共というものが二%で、部落によりましては男が九五%という所もあるのです。ですからお金がある時は、小さいものを買います時でも、いちいち、何々のお金を下さい、といつてはもらひません。そんなような現状で、まったく、「婦人の経済活動はいかあるべきか」といっても、経済的に活動の分野がないといつてもいい状態にあるのであります。

と、このように考えるのでございます。

そこで大きな予算や計画、あるいは支出の状況については、家族みんなで話し合ひで決めていくことが大切だと思います。そうしますと家族のものはその実情を理解できますから、たとえば肥料についてみますと、金肥が非常に高いということがわかりますと、それじゃあ自給肥料を生産しなければならぬと考えるようになります。また教育費が非常に大きいくるということがわかりますと、子供たち自身からアルバイトをやろうというように発展するだろうと思ひます。また私たち婦人は、生活のどこかにむだがないだろうかと反省しまして、生活の改善をして予算をそこへ回すという工夫も生れてくると思ひます。更に一家の収入が支出に比べて非常に足りない、どうにも困る、というようなことがわかりますと、何か副業をしよう、たとえば家畜を飼おうとか、野菜を作つて売ろうというように家族みんなの積極的なより上りから、経営が改善されていくだろうと思ひるのでございます。

その次に必要の問題として、家計簿の記入ということがぜひとも必要になつて参ります。それから「生活はいかにあるべきか」というような問題が生じてきますが、それらの問題については婦人団体が個人の生活と密接なつながりをもつて、婦人の心からの要求を真剣に研究しなければ

とくに福井県の方は封建性が強いのと、それに仏教がかなりさかんで、婦人自身も、女は従うべきものという気持ちでおります。ですからこの現状から抜け出さなければ、とても生活の向上とか地位の向上などは認めないと思ひます。

そこで先ほどの統計で申しましたように、男女共にいうのが大体いいと思ひますけれども、それより進んで、むしろ家族全部ですべての計画を立てたり、家計の管理をしたりするのが理想的であると思ひます。

で、私は農村の場合、こんなふうに進んだらいいのじゃないかと思ひます。たとえば農家経営の面は男の方が受持つ、衣食住の家庭生活の面は女が受持つ、散策費というふうなものは、小学四年以上になれば子供たち自身にさせる、年寄には園芸とか興業とか趣味、そういう面をやつてもらつて、それぞれ分働して管理する。そんなふうになりますと、婦人の場合、一年間の収入から何%かが生活費に充てられます。そしてそれから一か月いくらかという予算が生れて参ります。その限られた一定の金額で衣食住その他の面にいかに最大の効果をあげていくか、というところで婦人の経済活動の分野というものが生れてくるのじゃないか。その一つ一つがその方向に進みますと、本当に生きたものとなって生活と結びついて真剣に考えられてくる

ばならないと思ひます。

とにかく、婦人が生涯にも家計にも参加するということ、それが第一の先決問題であり、次に家計を分割管理するのがよい方法であるということを申し上げたいと思ひます。

司会 ありがとうございます。それでは奈良県の吉田さんをお願いいたします。

吉田 私の住んでおります奈良県の奈良盆地は、四方山にかこまれている平地で、大阪の悪影響ばかり受けて、それでいてとても封建的な農村なのでございます。

私は結婚しましてから瀬戸内海の沿岸の氣候のいい所に住んでおりましたので、今までは比較的楽な苦勞のない家庭生活をしておりましたが、ここへ船りまして、娯楽も、刺激もない単調な生活は、本当にたえられないものでした。周囲の圧迫や、また家族との摩擦などで、壁打ちして、こんなことではつらい、なんとかしてよい生活をしたと思ひまして、一つ一つ気づきましたことを実行しはじめました。

まず衣食住の面についてしていることを申し上げます。私が一番強調したいのは、全部現地解決主義ということなのです。たとえば庭に掘った泉水や水田などに効魚を入れて淡水魚を飼ひ、奈良県の一歩頭点である蛋白質

の補給をするということでしたが、これは何分土地の狭小が、ちつともわかりませんでしたので、失敗してしまいました。

それから水田の畦や堤などに大豆を植えることを考えました。これは肥料もいりませんし、私の家ではこれで、みそや醤油、納豆などを作って、一年中の食用に供してあります。

また日当りの悪い庭先にはくぬぎの桐木に椎茸を植えておきますと、賢秋にこのように気持のよい椎茸が生えて参ります。まず二、三十本ありましたら、自家の食用以外に進物用にも大変重宝します。砂糖の代用として蜜蜂を飼いい、油は菜種・大豆・胡麻・落花生などを作つております。

私の家は庭先がとても広いものですから、あらゆる果物を植えております。梅・柿・みかん・いちじく・桃・ぶどう・ぐみ・すもも・なつめ・ゆすら梅などがあり、春にはきれいな花をめで、秋には自家製のペンチでこれらの果物を費束するというような生活は、都會生活の奥方にはとてもわかつて頂けないことと存じます。経済的に何れも恵まれておりませんが、うるおいのある日常生活を楽しんでおります。

この他漬物・梅干・グリーンピース・黒蜜などの販路を

いと思ひますのは、前にとてもきれいな水が流れていることとあります。主人が念願の水力洗濯機を作つてくれることをあてにして待つております。何分山手のように急流ではないので、落盤が十分とれないのが問題です。しかしこれができたらいまの高い電気洗濯機にあがれる必要はなからうと思ひます。

このように片手間を利用して増収をはかつておりましても、やはり農家の実態はとても苦しいものなのです。これはなぜかといろいろ考へてみましたが、肥料代や機械購入費が高いこと、農産物が安いことにも原因がありますが、同時に農家の主婦自体の頭の切替が先決問題だと思ひます。結婚式にしても年々派手になっていく現状ですし、本人の幸福や将来を少しも考へずに、親の虚栄心のために飲食に莫大な費用を使つております。衣料にしても、一時の流行だけでなく、質や値段、丈夫さなどをみきわめる知的教養がほしいと思ひます。

ふだんの食生活は、単調なものです。正月その他なにかの折にはそれこそ随走をうんと食べるのです。それもレバーなどのような外見の悪いものは、栄養があつても敬遠して、外見のいい高いものを食へるという傾向があります。主婦がこのような状態では、いつまでたつても農村の家庭は心の貧しさから抜けきれないと思ひます。私は高

たくさん作つておいて、冬季にこれを出して、チキンライスをなど作つております。マヨネーズなども自家製の方がおいしいと子供たちも大喜びいたします。

衣の面では、奈良県ですすでに山間部で羊を飼つてホームパンなどを作つておりますが、私はアンゴラ羊を飼つて毛を取りました。

このように立地条件を利用すれば日常生活を豊にすることができます。自然の恵みはたえまなく私たちに与えられておりますので、太陽熱を利用して暖かくなった水を風呂水や炊事に使つたら、ずいぶん燃料の節約になります。私の村は山間ですが、薪の輸送には相当の費用と労力が必要です。そこで近頃では改良カマド、圧力釜などを使つて、ずいぶん燃料の節約ができました。こうして、わらは、なわやむしろ・ござなどを編んで、現金収入をあげております。

農村生活で一番支出の多いのは医療費だと思ひます。蚊が多い、はえに悩まされるとこぼしながら、いつになつてもその対策が講ぜられないのが現状でございます。便所や台所や下水、これらの改善はぜひとも必要なのですが、これは経済的な真村が必要ですから、共同して補助でも受けなければ不可能なことです。

私は主人の郷里に帰りました。日常の生活に一番ありがた

い知性と教養をもつた農村婦人として適した人間になつたと思つております。何ごととも積極的、建設的な主婦の心構から生活の切替をし、人生を楽しく快適にくらし、よりよい社会をつくるということに協力しながらつくしたいという考えをもつております。

司会 それでは岡山の井口さんお願いします。

井口 私は問題とか方法については討議の時に申上げることにいたしました。農家の婦人の実情だけについて申上げます。

私は岡山県の北部で農業をいとなむ純農家の主婦でございますが、父は公民館の主事、家では小さい二人の子供をかかえ、主人と二人で耕作面積、田畑合せて六反あまりと、乳牛二頭、鶏十五羽ばかり飼つて細々とくらしております。経済的にも時間的にも余裕のない、日本従来の五反百姓でございますが、私のせまい範圍でみました農村の奥情は、農村の妻は不当に早老だということを感じます。母として養として労働者として、三重の重荷を負わされ、経営主のいうがままに黙々とはたらき、従順で献身と忍苦の一生を捧げ、老いと疲れがありありと顔に出るので

す。館率の悪い設備で大家族の世話をやり、また外に出れば男同様に労働をしなければなりませんし、修養とか娯楽と

いうものにはおよそ縁がないといっているくらいで、人間らしい生活とはあまりにも縁遠いものだと思っております。私の村にも公民館がありまして、婦人の教養を高めるためにいろいろと努力をはらっているのですが、大切なことだと思いがら、その教養をつむひまがございません。朝は五時から夜は十一時、十二時と、腰を休める暇もなく激しい労働に追いまわされ、家事とか育児方面はすいぶん犠牲にしていますので、なんとかしたいと考えても、それは経済に伴わないのでございます。少しでも教養を高めたいと、本や新聞を購もうと思っても、昼間の疲れで眠ってしまつて、時々ラジオをきいたり、あるいは新聞の見出しをちよつとみるくらいのこと、社会の動向もわかつたりわからなかつたりの状態でございます。昼間本でも読んでいけば、本ばかり読むからあの家の畑や田は草が生えるのだ、と笑われなければなりません。私も本を読むのが好きなので、私の田畑だけは年中草のたえたことがありません。(笑聲)

何の希望も楽しみもなく、半ばあきらめたような状態で、忙しい忙しいといつて生きている婦人が大部分を占めております。

岡山県でも南部の興除村は機械化されて有名な村でございまして、ほとんどの農家が体を使う農業から頭を使う農

それからもう一つ取上げたいことは、産婦計画ということで、この問題を取上げて皆さんにお考えをおききたいと思っております。

司会 ありがとうございます。それでは広島の本津和さんをお願いいたします。

本津和 私は広島県の東北部、中国山脈の分水嶺に当る所で、海抜六百メートルの積雪寒冷地帯に住んでいる農家の一主婦でございます。その零細農の主婦の立場から申上げたいと思います。

私は結婚までは都会で生活しておりまして、嫁ぎましてから農村の生活をしたわけですが、私が日頃からとくに考えておりますことは、農村および農村婦人があまりにも恵まれていないということです。その原因はいろいろありますが、結局私たちの住んでいる地方は地理的に恵まれていないということ、それから経済的に貧困であるということ、それから農村の封建性が根強いということ、これらがその主な原因だと思ひます。家族数五、六名の場合としまして、一町一反以上を耕作していかなければ純農として立ちゆくことができないのです。そうでないものは農業以外に収入を求めなければならない現状なのです。

婦人は朝から夜まで、家事労働の他に男子と同じ農業労働に従事いたします。ですから肉体的にも時間的にも全く

業へと切替えられ、なかなか進歩しております。私の地方でも最近、カルチベーターとか脱穀機など、ぼつぼつ機械化されつつありますが、まだまだほとんどが肉体的労働に依存している方が大さうございます。機械化は誰しも望むところですが、いまの農村の経済事情ではなかなか実現しようもありませんし、五反百姓ではとても不可能だと思っております。

農家の婦人がいま一番何を求めているかと申しますと、経済的地位を高めること、家事労働、農業労働をいくぶんでも軽くし、その時間で教養をつみ、婦人の地位の向上をはかることだと思っております。

経済力の貧困は農家の経営に大きな関係をもつて、直接私たち婦人の日常生活にひびいて参っております。台所の改善をしたいと思ひましても、経済に余裕がないためにできないという実情でございます。

それで私は、農家の婦人の経済的地位を高めるためには、何でもよろしいから副業を一つ取上げて、それをプロセクトとして完結させていくということが大事だと思っております。そしてそのプロセクトであげました収入は、子供の学費の足しにするとか、台所の改善の費用にするとか、家内の小遣を自分で賄っていくというふうにしてやりたいと思っております。

恵まれておりません。このような農村婦人の現状を打破して地位の向上をはかるためには、どうしても生活の合理化が必要です。そしてその合理化を遂行するためには、どうしてもある程度経済力が必要です。農村は現金収入も少く、時間的にも恵まれておりませんので、家族の協力と理解によつて適当な時間を作り、現金収入を得るために副業を取入れて、これを生活改善にまでもつていきたい、というのが私の前から持ち続けていた考えなのです。それではどんな副業を取入れたらいいかということになりますが、農家の副業の場合は、打算的方面のみに走らず、それから生ずる利益は少しでも農業経済の一環として、生産性を高め、経済力を高めるために取入れるというのが使命ではないかと考えます。

で、これから私は、私の実際やってきたことを申し上げたいと思ひます。私の家は田二反、畑三反の貧しい零細農です。戦前まではむしろ人並以上の生活を続けてきました。が、終戦の方は耕作面積がせまくなり、おまけに主人は公職をやめましたので、とても経済的に困ったのです。それでこのような生活を続けていったのは先でとても困るから、いまのうちになんとかしなければならぬ、ということを実際に考えるようになりました。それにはまず消費経済を合理化するという事です。それから農業のかたわ

らでできるような副業を収入したい、ということをも主人に提案いたしました。さういふ主人も賛成してくれまして、前に申上げましたような考えのもとに、主人とも相談しまして、農業経営の中に中小家畜を入れようということ、いろいろ苦慮しました結果、山羊一頭、細羊二頭、鶏三十羽入れました。山羊と細羊は主人が受持って世話をしてくれ、私は鶏の世話をして参りました。現在鶏三十羽で鶏卵二万四千余円、鶏糞二百十貫の利益をあげております。この利益を私の家では、生活をよくするためと、それから農業経営の面に使っております。それから先はまた次の機会にいたします。

司会 次に徳島県の佐東さんをお願いいたします。

佐東 私は山村の農業経営をしております農家の主婦でございます。で、具体的なことはあとにまわして、婦人に経済力がないのは何故か、ということを考えてみたいと思います。私は、婦人が生活能力をもちながら、その自覚がないために現在にいたっているのじゃないかと思ひます。昔から「女三界に家なし」というような、いかにも婦人を無知無能者扱いにした言葉がありますが、これは女性が一たん結婚しますと夫に養われるもの、たとえ婦人が生活能力をもっているにしても、それを出さないのが兼ねてあり、美徳であるとされて来ました。こうした畏い間の因習

教養をつむ時間でもできると思ひます。

それともう一つ、家計簿をせひとも記入したいと思ひます。それによって年来に、その一年間使った家計簿をみまして、その中からむだを見出すことも、また消費されたお金が生産的であったか、あるいはまったくの消費であったかということもわかるわけです。

こうして一年の終りにもし余裕がありましたら、私は夫婦がそれぞれの名義で同じ分量を貯金したいと思っております。それから最後に、先ほども申上げましたが、農村の婦人はもともと自分の腕、自分の働きに対して自覚をもちたい、それが私の第一の願ひでございます。

司会 ありがとうございます。それでは香川の大浦さんをお願いいたします。

大浦 私は今まで皆さんおっしゃったのと、ちょっと立場が違ふのです。というのは、私は女子教育に少しずさわった関係から、教養のしあわせという意味で、農村の婦人のあり方ということを考えてみたのです。

私の県も皆さんがおっしゃったのと同じような状態ですが、婦人が非常にはたらく世に経済的な実力をもっていることが、どのように家庭に影響をおよぼしているか、ということをも一つ二つ申上げてみたいと思ひます。

私が預っております子供たちが不良になった場合、この

は、民主的になりました現在でもなお強く残っているような気がいたします。

農業経営について婦人の労働力というものは、大きな役割をもっております。それは誰しも認めているのですが、自ら積極的に、建設的に生活設計の片断をこなすことができないのは、農業婦人の労働が非常に過重であるために、教養を身につけるという時間の余裕がまったくないからだと思います。

で、農村婦人として一番必要なのは、この教養を身につける時間をなんとかして生み出すということです。そのためにはどうしても生活を合理化し、また簡素化しなければならぬと思ひます。その一つの方法としてラジオの利用があげられます。たとえばラジオの聴取表を作りまして、自分のききたいと思う番組の時間に、できればラジオの前で衣類の補修であるとか、調理のようなものをいたしまして、一石二鳥の効果を得らうわけです。

それから私がぜひ実行したいと思ひますのは、婦人の副業でございます。農業副業を除きました家事の片手間に適当な副業をして、現金収入をはかって少しでも生活を高めたと思ひます。農村婦人が過重な労働をするということとは、根本は生活に余裕がないということでありまして、婦人の適当な副業をして豊かな生活ができましたならば、婦人の

子供の家庭訪問をしてみますと、たいていはお母さんが経済的な実力をもっていない場合が多いのです。それで、子供が何かほしいものがあったら、お父さんにはよいわな、い、お母さんに買ってほしいといつても買ってくれない、それで仕方がないものだから、ちよつと米でもすくって、それで内緒金を作つて買う。そういうことから、終戦後の混乱の時には、子供たちが樹をもって非常に悪い遊びにふけたことがあり、これはいけないと思つたのです。

それからもう一つは、お父さんが財布をもっておりますから、家庭の支出というものが非常にいびつになっているのです。たとえば、お父さんもしくはおじいさんを主にした、家の体面を保つ面に非常に支出が増大し、子供のこと婦人のこと、家族全体の楽しみのためというようなことにはきわめて低額の支出しかされないのです。そのために子供がいじけて親をみるといふことがありまして、私はこれは、もっと女の方が、自分がはたらくだけの経済力を手にもつて、そして家族全体のしあわせのために正しい支出をしなればいけない、こういうことを痛感いたしました。

で、現在の農村ではやはり経済が豊かであるということ、は幸福の一つの条件なのです。だから、しっかりと旦那さんに協

力して収獲を上げる。それと同時に發言權をえて、しあわせな消費生活をしていきたい、こういうふうに思うのです。ですからそのために、やはり封建性ということは問題になります。その封建性を打破する意味で、さっきどなたがおっしゃったように、私は経営面の分損ということを上げているのです。たとえば相当に現金収入になる仕事を、お母さんに任せて頂いて、その収入をもって比較的恵まれない箇の支出に当てる、それと同時に、お母さんが頭をはたかして、家庭の消費と生産とを直結し、合理化を計る、つまり自分のうちで消費するものを計画生産して金銭支出を抑える、というようなことを考えています。

司会 どうもありがとうございます。それでは佐賀の柳川さん、お願いいたします。

柳川 私の村は佐賀県の中央の南寄りにございまして、戸数が三十戸、そのうち稲農家が七戸、兼業農家が七戸、その他十五戸は非農家でありまして、部落全体の耕作反別が三十四町歩の部落でございまして、

私のうちの家族構成を申し上げますと、七十六歳の舅、これは農協組合長をいたしております。それに六十七歳の姑、これは病身で無職でございまして。六十四歳の母、これは私の奥母で、農業・家事の補助をしております。それから四十三歳の主人は県会議員をいたしております。長

女は大学二年、次女が高校二年、長男が高校一年、次男が中学一年、三男が小学五年と、合計私まで入れて十名です。

私の一日の生活を申し上げますと、五時半頃起床して、母と二人で炊事からお掃除をいたします。父と主人の出発まで、身のまわり、子供の世話、朝の来訪者の接待、それがすみましてから耕作作業に着手いたします。その他来訪者の依頼ごと受付、控の文書処理、たまには部落の仕事を行います。夜は夜で、子供の勉強、来訪接待などで、就寝が十一時になることもままございまして。こういう環境の中にございまして。

公務のために忙しい父と主人を送り出しましてから、七反歩の耕作をし、五人の子供の勉強もみております。

私が終戦直前なれない農家の仕事を始めてから満九か年になります。この間、部落の皆さまや農協の皆さまの限らない温かいお世辭のおかげで、なんとか今までやって参りました。この結果、自分で考えたことを、農家の経験者土台にしてお話をしたいと思っております。

なお私の部落は生活改善モデル部落というものに指定されております。部落の婦人が全部寄り、経済面のこと、生産面のことなどについて真剣なお話し合いをいたしております。

まず初めに、家庭内における経済活動の面から申上げたと思います。

まず第一番に、やっぱり家庭の中の収入と支出が家族全部のものに公開されないという点、経済的な計画も立ちませんし、何もできないと思います。それで私たち婦人が全部寄りまして、婦人の熱と力によって部落の主人の方々に家計・収入と支出を任せてくれ、ということ強く申し入れました。その結果、いろいろな難儀も出ましたが、いまでは主婦の方が一切を受持つことになりました。そして御主人には小遣金をいくら、子供たちにもいくら、というように具台に配分しているわけでございまして。

その次に申上げたことは、生活改善のことですが、私は多忙と時間不足のために、本当に今までのしきたりや家庭内の道具、その他来客接待などで、生活改善の必要を痛感いたしました。それで部落の婦人会の方々と話し合いました。衣裳住の改善に力を入れて、徐々に改善いたしております。

その次に大切なことは、婦人が消費面だけでなく生産面に乗り出さなければ、婦人の経済的地位は高まらないのではないかとことです。それで私たちの部落では、その方面についての協議もいたしました。多くの主婦たちは主人任せで、肥料のこと、耕作のことなどをおぼえようとして

ない向きがございまして、婦人もその方面の勉強をするようにしました。

それから農家の大半は計画的でないと思っております。それで私は、少くとも農家の経済におきまして、十年間の見通しをつけ、その中で貧乏勘をつかまえる、というようになことを考えたいと思えました。自分の家はこの時が労働力が余るから、この時にどんな副業を始めようとか、それからこの時に一番お金がいるからこの方面で貯蓄しておこうというようになことです。さらに十五年間区切って次の設計を立てる、というようにしたいと思っております。

その他農村には古くからの慣習やしきたりというものがありますから、そういうことについて老人の方とあまり口論をしないで、じっくり改善していきたいと思っております。台所の改善・道具の使い方、家のしきたり、さては副業を思いつくにいたしました。これらは労働力のバランスと家庭の経済力を十分に知ってから始めまして、多角的な経済の改善を行って行きたいと思っております。

それから、いままでの婦人は、知識や技術を身につける時間と方法がみつからないので、たとえば生産組合と手を結ぶとか、研究会にとびこむというような方法をとっております。

また、婦人会の内を、教材別に組織して、農村主婦の環

というものを作り、生産面のこと、農村経済のことを研究いたしたらどうかと思います。

また農業の商業化といいますが、資金の融通や生産物の販路の面などについても主婦の関心を高めたいと思います。

まだ他にいろいろございますけれども、あとに譲ることにいたします。

司会 それでは長崎の出口さんをお願いいたします。

出口 私は十九歳をかしらに下は十歳まで、六人の子供の面倒をみながら、私たち夫婦と長男のほかに男の雇人二人をおいて田畑九反歩を耕作、年間三十万円の所得を有する農家の主婦でございます。

全所得の六〇％を他の方面に支出しますので、残りの四〇％を教育・衣食・交際・娯楽・旅費などにあてていますが、重労働をします私たちの健康を保って、子供を育てていくためにはあまりにも少い金額です。しかしどうしてもこれだけでやっていかなければなりませんので、できるだけ生活の合理化をはかり、無駄をなくすることに努めています。それにはまず住居の改善が第一だと考えまして、四十年近かった家屋の台所・風呂場・食堂・かまどなどの改善をいたしました。改善の前と比べると、燃料費が約六割ですみ、年間三万円ほどの節約になりました。

生産面といたしましては、台所の残り物やふすまを利用して、豚と鶏を飼って自給飼料の増進に努力する一方、蛋白質や脂肪分を自給いたしております。

以上、私の経済活動について簡単に述べましたが、これによって経済状態を健全にするための一部の役割を果たすことができた。しかし経済状態はいまも決して余裕のあるという状態ではございませんが、さほど苦しくないところまでこぎつけることができました。

なお私も農家の主婦といたしましては、農業経営・農業技術について、男子と同じような実力を持ち、男子の立場から女としての立場からも十分検討した農業経営を行わなければならないということを感じている次第でございます。

司会 ありがとうございます。それでは大分の佐藤さんをお願いいたします。

佐藤 農村には婦人団体がありますが、主婦ということとは共通でも、官吏の方もあり、町家の人もあり、それぞれ生活も環境も異なりますので、婦人会に入っても、農家の主婦の問題はちっとも解決されないのです。

いままでも皆さんが申されましたように、封建的な家族制度の残骸というものは、ほとんど農村にばかり残っているような気がいたします。都会の方などから、主人やお年寄

食の面では、白米にのみ頼らず、保有米のあるうちからなるべく間食を取入れて、六カ月の配給を二月半くらいにちめることができました。また蛋白質や脂肪分を自給するために養鶏・大豆・菜種・落花生・胡麻を栽培いたしました。みそ・醬油・油・黒砂糖などは自家製で十分間に合せております。

衣の面では、和服と洋服の無駄をなくするために、戦後新調するものは、家内中洋服を用いることにいたしました。

農家の面では、お手伝いのご褒美をかねまして、子供たちと家族一同日給りのピクニックに出かけます。

特別の場合を除くほかは、男の子から女の子供まで自転車を用いたしますので、交通費はいりません。

女中は二十七年まではおりましたが、二十八年度からは子供が自主的に分担作業をしてくれましたので、雇い人をやと一人減らすことができました。

教育の面では、農家の子供でも大学程度の教育を受けさせておかなければ将来困るということばかりで、大学習望をもってありますが、長男は高校でやめ園芸方面を専攻させまして、自由に実験・研究をいたしております。また農閑期を利用して技術の向上をはかっておりますので、本人も満足しております。

の理解があまりのようなお話をきいておりますが、私共の部落ではいまだにお年寄りの方が封建的で、何でも自分が経験してきたことが最もいい、間違いないということでおしつけるというような状態で、女自身はほとんど子供を産むだけで、育てることについてはお年寄がいろいろと発言するという有様です。

家計においても、男の人が独り占めして、金の出し入れはほとんど女の人にさせてくれない、話してもくれない、という状態でございます。

私は女の人が外に働きに行くことだけが経済力をもつものではなくて、農家の主婦が、その労働に対する代償を得るということも、その一つだと思えます。その代償をどういうふうにして生み出すか、ということでございますが、そのことについて申し上げてみたいと思えます。

大体において、いままでも農家経済の大半を占めます収入は、お米と麦、それから私どもの農村では、牛馬を売ることでございます。ほとんどの家庭が年間二匹ないし三四の仔牛を売るわけでございます。この仔牛の買入れはほとんど男の人がしていますが、飼育は私共がします。それで、飼育方法とか、いい牛、悪い牛の見分け方、とかいうことをお互に勉強いたしました。こうして、女の人がちょっと飼育方法を考えるか考えないかによって、牛がよくなる、

悪くなるということが目に見えてわかり、牛の値段も一万五千円ぐらの開きがでています。そして牛が高く売れた時には、主人が、お前もよく手伝つたからお金をあげようということになり、五千圓や一万圓くらいをくれます。いままですと、子供が学用品を買ってほしいと申ししてもお父ちゃんにもらいなさい、といっていましたが、そうしたお金が入りますと、学用品なども自由に買ってやることができ、子供も、母親を頼ってくるというようになり、また、ちょっと功利的にきこえますが、それは、鶏を飼うにも、牛を飼うにも、子供が協力してくれますので、それに對してお礼をするというわけで、決して金で手なづけるといふような意味ではありません。

そしてお金を自由に使うということ、また牛や馬を売るときに値段の上り下りなどによって社会の経済状態が自然とわかって参るようなわけでございます。いままでのへそくりでしたら、こそそ使わなければならなかったのを、公然と、家庭のものと一緒に使えるようになりましたので、婦人の地位がそれによって上ってきたということが、次第にわかって参りました。

岡金 ありがとうございます。宮崎の小林さんにお願いたしました。

小林 私には俳諧生活者の妻でございますが、いまから五

それからまた、婦人が機業について非常に不勉強であるということ、種播きをするというような場合でも、何の種をまくのかわからないといったような状態です。

生活に計画性がなく、家計もやりっ放しのようです。殊に交際費の無駄と、主人の小遣が非常に多いのが目立ちます。機耐飲みの非常に多い所で、男の人は審とさわると機耐を飲んで楽しむが、婦人にはこれといった楽しみはないのです。

それから農村は、血縁・地縁が強く、それから離れては行動ができないのです。何か改善しようと考えても、村八分になるのではないかと、という恐れがあって、それを打破ってすすむということがなかなかむずかしいのです。

また農村の方たちは、仲むつまじそうにくらしています。が、実際に当たってみますと非常に嫉妬が強く、排他的です。

以上は悪い面ばかりをあげましたが、今後もっと伸ばしてゆきたいと思う点をあげてみます。

農村を歩いておりまして感じましたことは、いい意味のかあ天下の家庭は非常にうまくいっているということ、です。ですから結局は、婦人がもっと積極的に、機業の面にも消費の面にも発奮力をもつということ、つまり勉強してもっと自分に力をつけるということが大切だと思いま

年ほど前に農林省に生活改善課ができましたとき、宮崎県の最初の生活改良普及員になりました。そして農村の生活改善の仕事をしておりますが、その立場から感じましたことを述べたいと思います。

私は農村の生活を實際にいたしませんものですが、第一の課題は、農村の発展を把握することです。宮崎県は、私の県は農業県で、六〇%が農業を営んでおりますが、宮崎県は地理的に孤立しておりますので、文化がなくて、後進県という汚名を頂いているような状態です。氣候的には光や熱に恵まれていて、工夫すれば生産をもっと上げられるのですが、台風やその他の原因から、勤労意欲が低くて、全国的に低位生産の土地で、そこに住むと日向ぼけになるというようなことをいわれております。

そして私が農家の婦人の現状について知りましたところは、やはり前に皆さん方がおっしゃいましたことと同じようなことですが、生産者でありながら消費面に対する発言権が非常に少ないということです。お魚一尾買うにも主人やしゅうとの財布から出してもらおうという状態です。なにかにつけて婦人が責任をもつということが少いようです。また人権のいい土地柄だといわれておりますが、おとなしい人がよいとされ、そういう気風から封建性を破ろうとするような氣力に欠けているようです。

す。

それから度々お話しに出ましたが、家計簿の記入ということは非常に大切なことだと思えます。私がこの仕事につきました初めのころは、家計簿の記入が第一に大切だと申しまして、誰もそれにとりあう人がないくらいでしたが、それから五年たった現在では、家計簿をつけておられる家庭が相当に多くなり、関心も高まってきました。さて、こうしたことも農村の発展からしますと、みんな協力してやる、グループ活動として行うということが非常に大切なことだと思えます。家計簿をつけるにしても、自分一人ではなかなかできませんが、グループ活動によってみんなで励ましあいながらいたしますと、それがうまいくということがあります。

それから家族がもっと仕事を分担して、子供たちにも上手に仕事の割振りをいたしますと、時間が生みだされて、もっといろいろな生産面に力を入れることができると思えます。

それから小規模な消費組合、または日用品の共同購入というようなことによって時間の節約と、経費の節約をはかりたいと思います。

それから農協を振興させて、お豆腐とか油揚げとかいうものは、原料を持って行けば、作ったものを配ってくれると

いうようになればいいと、そのような理想を描いておりません。

それからもう一つ最後に、恋愛セーブルを盛にして自分のうちで不用になったものを、お互いに安い値段で交換しようということが必要ではないかと思ひます。

同金 どうもありがとうございました。それでは農家の最後の一人、鹿兒島の樫八重さんをお願いします。

樫八重 私は零細な農家の一主婦でございます。皆さんが農村の封建性をおっしゃいましたが、本当に男尊女卑の一番ひどいといわれております鹿兒島の、それも一零細農家の若い、力のない主婦ですから、その具体的な状況を訴えて、皆さんの御意見を、おうかがいしたいと思ひます。

私たちのような農家の女の、とくに若いお嬢さんの経済的な力は、ほとんどゼロなんです。どんなふうかといえますと、お魚売りがきてきようはどうかときくと、お父さんがいないから買いませんと答える。ほとんどそうなんです。

それからこんな方がいらっしやるんです。私の近所ですが、世帯主の弟さんのお嬢さんが流産なさった、子供が生れたのなら産生もできるのですが、流産だったので無理して、四日目から働きたんです。一月くらいしたら熱を

ことを口にするのはいやしい下卑なことだというような考え方があつたのです。消費生活の合理化も、そんな因習を打破することから、はじめなければいけないと思ひます。

同金 どうもありがとうございました。それでは以上で農家の方のお話が終りましたので、これから商家の方に意見を出して頂きたいと思ひます。福岡県の平島さんをお願いします。

平島 私は体一つで満州から引揚げて参りまして、リュックサックに地下タビという姿で野菜屋から始めまして、元手がふえるごとに、資本はかかるが、儲けの率のいい仕事に次々と移って、只今洋裁店と薬屋を営んでおります。

商家も商店でございますが、私の体験から申しますと、商店の主婦というのは、ちょうど今まで農家の方が訴えられたように、一人で三役も五役も兼ねた激しい肉体労働の制約には、商店の一員としての地位が低くみられている場合が多いのでございます。これは私が考えますのに、主婦が商店の経営方面に積極的でないからだと思います。それに夫の理解が必要なんです。なぜなら、現在夫の仕事に頭脳的な協力をしていられる主婦がかなりいるのですが、その夫たちが妻のこの働きを十分活用してない場合が多いからです。妻のこの働きに対する知識とか経験とか思ひつきなどを夫たちがその商売に十分活用していきましたら、妻も働きが

出しましたが、家長としての兄さんがお金を出さないから産生もできないのです。私も放っておけなくて、里に行つて、一晩泣いて頼んで、僅かなお金をもらつてきたのですが、それで医者に通いして、半年くらいつと、よくなることはよくなったのですが、いまでもちよつと嫌い日には薬気がするといつてぶるぶるふるえている。そんなみじめなお嬢さんはさらにあるんです。

そういうのを見るにつけ、私もどうにかしなければならぬ問題だと思ひました。ご存知のように男尊女卑ではあり、おしゅうとさんの権力が強いので、私たちみたいな若い女にはなんにも発言権はないので、それで自分たちの方で、切拓く余地がないかと考えて、やっぱりいままでも皆さんがおっしゃったように、女が現金収入をはかる方面に積極的に働くよりほか道がないと思ひました。たとえばなるべくひまをさいて、農業の技術や知識を習得して、主人のよき相談相手になり、よい働き手になって、主人の借入をえる、また副業をやつて現金収入をはかる。そのような仕方でも、まず発言権を得ることがどうしても必要だと思ひます。

それからまた鹿兒島という所は、お金のこと、経済的なことを口にするのをいやしむというふうな傾向がまだあるのです。男の人でさえそうですから、まして女がお金の

いがあり、喜びがわくだろうと思ひますし、またそこから夫婦の愛情というものも深まって、妻の能力もみずみずしいものになるだろうと思ひます。

一方、妻も、ただ店に出て客に接するというだけでなくて、商店経営を積極的に勉強したいと思ひます。この商店経営の勉強については、私の体験を通して商店の主婦の一般的な欠点をのべてみたいと思ひます。

まず自分の店の大局的なものをつかんでいないのです。たとえば自分の店の販売方針とか仕入計画なども知らないし、また自分の店の帳簿をみたりつけたりしない人もかなりいるようです。それに仕入れなどいろいろなん面についても夫に任せきりという人がまだかなり多いのじゃないかと思ひます。それで、たとえば売上上げばかりを気にして、資本の回転率というものを考えない、または忘れがちであったり、あるいはとなり近所に目がくれて、たとえば自分の店は女性向きの商品を扱っているのに、向いの店でネクタイがよく売れるという、自分のうちもネクタイを売ろうというところで、結局は売れ残つてしまふ、それから旦那さんは正札主義でやっているのに、お客さんが、正札のことを自分がいかに何を買わずに逃げてしまふ。そういうことから「あなただけですよ」といってこっそり値引きすると、しまいは、「あそこはおかみさんは値引する」(笑聲)と

いうことになる。そんな話を私はかなり耳にするのである。

二番目に、常識的な経済の知識、法律の知識が足りないということ。ですから、金を儲けるためには必要な金はお金に換えなければならないのに、女というものはとくにお金をけちけちして、大きな商売のチャンスを見逃がしちゃうのです。

それから一つのこと、たとえばネクタイなら、ネクタイを、原価以下で売った方がいい場合に、それを見逃がすことをせず、ぐずぐずして、結局大きな儲けを損してしまふ、ということがあるのです。

それから商店雑誌とか経済雑誌などを読んでおけると、政局と社会の事件が経済にどんな影響をおよぼしているとか、それからそれが自分の店とどんな結びつきがあるか、というようなことがわかるのですが、そういうことについてのもっと視野をひろめていかなければならぬだろうと思います。私はよくNHK第二放送の十一時の「商店の皆さんへ」というのをきいておりました、ずいぶん啓蒙されております。

それからとくに私が申し上げたいのは、動産、不動産の売買、貸借とか、妻の財産権、相続権などの法律の知識が足りない、これは私自身もいつも痛感しておりますが、新聞

とかラジオ、それから婦人雑誌などが大いに取上げて私たちを啓蒙して頂きたいと思ひます。

第三番目は、自分の店の税金について認識が足りないと思ひます。税務職員がうちに調査にきて、夫がおらなくても夫に代って答えられるようにしたいと思ひます。そのためにはうちの家計と店の現金とを区別して、たとえば店の金でちょっと子供のおやつを買ふというふうなルーズさをなくしたいと思ひます。私たちもついそういうルーズなことをやりがちなのですが、そういう点についてしっかりした認識がありますと、夫に対しても妻の発言力が大きくなるのではないかと思います。

それから四番目には、妻自身の貯金を持つことだと思ひます。これはもちろんへそくりでなくて、夫も承知の上の妻自身の名義の貯金がほしいと思ひます。これには、もちろん家事などの生活技術の能率的にしなければなりません、それはあとの討論にゆずりたいと思ひます。

このようにして引揚げてから八年間、夫とともにわずかな金を元手に店をもりたてて参りましたが、現在いくぶんか生活に余裕ができて参りますと、なんとなく物足りないような気が起きます。これは私が今まで個人経営に没頭して、社会との結びつきが弱かったからじゃないかと思うのです。そこで商店の妻の横の連絡機関というものを設け

てほしいと思ひます。農村には、いまうかがいますと、生活に即した婦人会とか生活改善会というのがあることがございませぬ。商店にはそういうものをきいたことがございませぬ。商店の婦人組織でもって、商店経営の研究會、講習會、あるいは保育所・養老院、あるいは金融のことも考えたい、また消費者であり、販賣者の立場である商店の主婦の立場から、対外輸出にも大きな力になりたい。更にこの主婦の組織で世界の女性と手をつなぎたいと思ひます。その第一歩として、商店の主婦たちの組織というものはどうしたらいいのか、皆さんの意見をうかがいたいと思ひます。

司会 ありがとうございます。それでは愛知県野田さんをお願いいたします。野田 私は毛織物小売商の家族従業者として、働きはじめてから十年ほどになります。初めは私も主として販賣方面だけを担当しておりましたが、なれるに従って仕入とか帳簿・金融、それから仕立の方の監督などを受持つております。使用人がおりましたも、私共主婦が店の仕事を受持ちますと、いつも育児や家事との二重負担で家事はかなりの苦痛を感じます。家事使用人や職人がおりますが、主婦としましては経済方面の監督も必要です、子供の精神生活のことも他人に

任せてはおけないものですから、どうしてもそういう負担が多くなるのです。

私の場合、店が個人経営になっておりますが、帳簿なども複雑で、なかなか理解しにくいことが多く、こういうことについての講義をきく機会というものが、ほしいと思うのです。

また毛織物を扱っておりますと、流行やいろいろな関係で値段の開きが大きいので、国内の経済のなりゆきとか輸出入の現状とか、対外政策の如何とか流行の推移というようなことをいつも油断なく見守る必要があります。でも終日店に出て働き続けていますと、ラジオや新聞による知識など、なかなか得にくいのです。

小売商を営んでおりますと、就業時間というものに制限がありませんので、これにはいつも悩まされます。朝、起床時間前にたたき起されたり、夜十一時ごろまでのんべんだらりとお客さんがいたり、本当に、家庭生活をもつものにはとてもたえられない状態でございます。また炊事の仕度をする夕方の時間がお客さんの一番多い時間で、大変困っております。現在、労働者には八時間労働という法規がありますが、私ども小売業の家族従業者というものは、八時間はおろか、十四・五時間にもなるのです。そして、田舎商人だから当然だとして顧みてはくれないのです。そうか

いって一軒だけ早くしめてしまおうということも、利害関係とに敏感な商人として、なにか割切れないことです。

私はいつもこういう生活の中にあつて、とにかくなんとか制度として、小売業者の就業時間の均一化ということを図って頂きたいと思ひます。そして小売業者の就業時間というものが決まれば、婦人の大きな負担が軽くなり、いくらか明るい気持で生活をエンジョイすることができると思ひます。

司会 ありがとうございます。それでは最後に東京の田村さんをお願いいたします。

田村 今まで農家の方、それから商家の方のご意見をたくさんかがいまして、私は住んでおります場所も東京ですし、仕事も商店の主婦で、老人もおられませんし、わりあいありがたい立場にあるのではないかと思います。私の現状を申し上げますと、商売はセメントや建築材料の販売で、主として官庁とか会社、一般土建業者、左官屋さん、それから細かい小売まで多岐にわたります。そのために男子を三人、女子を三人、その他店の手伝いに一人使つてやっております。私が結婚しました時から、主人も全然の繁人で商売を始めたので、最初から二人で仕事を分担してやつて参りました。ですから非常に皆さんのお話と違つていのではないかと思います。

た主人は留守がちなので、店に働く人の指図もみな私がしています。店には女の人も働いていますが、女の人には責任をもつて仕事をやらしてもらいたい、また仕事を始めた以上は結婚後も必ず続けて頂きたい、ということをお願いしております。結婚して仕事をもちいるということは、すべての点で婦人の地位を上げる上に一番いいことではないかと思ひます。

司会 どうもありがとうございます。以上でこの第二部会の十五名の方からの御意見の発表が終つたわけでございます。

(休 憩)

◎農家・商家の経営に参加するには

司会 それでは只今より討議に入りたいと存じます。先ほど皆さんからたくさん問題が提出されたわけですが、一応それをとめますと、大体農家・商家を含めて、経営の面に婦人がどのように参加するか、という問題、それに伴つて、農家でつと農家労働と家事、商家でつとお店の仕事と家事をどう調和させるかという問題が起つてきます。

それから家庭生活の面でもいろいろと問題が出まゝし、消費生活を合理化するためには家計簿をつけることが

けれど次々と子供が生まれましたし、いろいろと困難なことがありました。どうしても私がやらなければならぬので、とくに店の仕事や帳簿のことは、主人が外部に出ますので、どうしても私が責任をもつてやらなければならぬ人がない、どうしても仕方がないのでやりとおしてきまして。

只今店は、男の人が販売面とか物の運搬をし、女の人が店にいて、店の事務と店の小売、電話の連絡、帳簿一切をしております。営業態は株式会社ですが、帳簿一切を私どもがしております。二十五年から只今まで四年間、青色申告をしていきます。

私は最初自分の仕事は主人の仕事の助手ではないか、という気がしました。しかしその後いろいろ考えまして、そういう考え方を普通の女の考え方をぬけていないのではないかと反省しました。一部の仕事でも一所懸命やつた場合は、もう助手の仕事とはいへなくなつて思ふのです。その一部がなければその経営全体というものは成り立たないわけですから。そう気がつきましてからは、とても仕事に張合を感じるようになりました。

それで私の仕事の経理の面からいろいろと商売をみていますと、外部で働いている男の人には気がつかない点に気がつくことがかなりの助言をすることもできます。ま

必要だということを、多くの方がおっしゃいましたが、家計に婦人がまだ参加できない状態が問題ではないか、という意見が出されました。

それから衣食住につきまして、生活改善の具体的な問題がたくさん出されましたので、それも消費生活という面であつていききたいと思ひます。

またそれらの問題を解決の方向にみちびいていく方法として、婦人団体の活動とかグループ活動によつてそれを解決していききたい、という意見や、社会的な施設を大いに充実しなければいけない、というような意見も出しましたので、それらをまとめて協同活動という項目で扱つていききたいと思ひます。

さらに政治の面までは時間切れで御意見が少なかったようですが、討議の時にはそれらの問題も含めてゆきたいと思ひます。

なお、縦は家計に参加させないという農家の現状が多くの方から報告されましたので、この部会は「婦人の経済活動はいかにあるべきか」というテーマによつて討議を進めるわけですが、それに絡んで婦人の立場というものを十分に討議する必要があるかと思ひます。

この部会は農家の方が十二名、商家の方が三名で、なかなか農家の方が優勢というようない感じがしなくてもありませ

んが、家族従業者としては同じ立場でございますので、どうぞ仲よく討議をして頂きたいと思ひます。

それでは婦人が農家経営又は商家の経営に参加するのはどうしたらよいか、今後どのように進んでいったらいいか、というふうな面から入っていきたく存じます。

服部 先ほど私、経営への参加へ入ることを大いに申し上げましたが、それは家族会議によることが効果がると思ひますので、一応申し上げたいと思ひます。

私の主人は小学校の校長なのです。子供は、長男が大学一年で長女が高校三年、あと中学二人、小学校一人で、私は終戦後農業をはじめましたが、もと小学校に勤めておりました。現在、水田を八反、畑を一反ほど作っております。自分が実際に土の中に入ってみていろんなことを感じました。その頃は婦人会がなかったもので、婦人会を作ろうという事になり、私の仕事が多忙になったわけでございます。そういうことで、私の家では私が農家経営に参加するといふのではなく、家族の者が参加してくれるという形になったわけです。私は非常に忙しくなりましたので、計画を立てていくことがまず大事だと考えました。私の家の合所には黒板が立ててあります。それに一日の仕事は勿論もっと長期にやらなければいけないこと、いもの値付とか、あるいは肥料をやる時期とか、婦人会の役員会や、PTA

たちが分担してくれまして、お百姓の方も、できることはほとんど手伝ってくれます。

出口 私も只今おっしゃったように、台所を改善しまして、全部壁を黒板にして、月の作業予定表と、それから月中の作業面の予定計画表と、またもう一つは三度三度の食事の献立表を書き、また戸口先には何何の仕事というふうに、使用人にも一切わかるようにしております。

また、どうしても農家経営の最大の仕事は動力ですが、男子が差支えがあっても主婦の手で経営できるように、私も主人と一緒に発動機の講習に行ったり、牛・馬の飼育を心がけました。普通の場合、農家ではなかなか主人と話す時間もないのですが、うちでは主人と相談してやっております。

柳川 私は自分で農業を経営しなければならぬような立場でございます。主人にも加勢をしてももらえないものですから、自分で生産方面のことを一所懸命、それこそ附近の昔からのお百姓さんに敗けないようにと思つて研究いたしました。

一番初めには、農業改良課の方とか普及員の方々を、それこそ引張って参りまして、うちの田をみて下さい、今はどれくらい肥料が必要でしょうか、というようなことを、ききながら研究してきました。おかげさまで、もとか

の集り、そんなことを何でも書いてあります。それは私のだけじゃなくて、みなさんの予定が書いてあるんです。子供たちは入學式だとか遠足だとか、それから給食のお金がいととか、雑巾を一枚もって行かなければならないとか、そういったようなことを何でも書きました。主人も、いつ何があるということを書きました。

それを見ますと、家中の仕事が大体わかってくるんです。ですから、今日お母さんはこういうことがあるといえれば、子供たちは家事をやってくれますし、私が会でおくれば仕事を手伝ってくれます。私としては、手間がないのに外に出ることはどういふものかと非常に疑問をもったんです。その時に六年の子供の綴り方に「私の母」という題で、私の母は非常に昔もので、農業をしているけれども、近ごろいろいろの方面に出て勉強をしてくる、そして新しい教育のことを姉と話し合つて、ずいぶんわかるようだ、と書いてあるんですね。

黒板に掲示することを續けて参りますと、そこにいろいろの仕事に対する都合が自然に生れてきたんです。それが発展しまして、会議をもつという事になり、現在、毎週土曜日に行つております。土曜日はごちそう日に行つておりますが、食事のあとで、いろいろな話し合いをいたしております。そうしますと、うちの中の掃除などは子供

らお百姓をなさつていらっしゃる方々に敗けないほど、未だ妻も収穫を上げることができ、皆さんからどうしたのかと褒められる程でした。それから私の村には普及員の方とか農協の指導員の方とか、たくさん出入りなさるようになりました。

それでこういうふうな生産面の方のことを研究して参りますと、肥料のことやら排水のこと、それから農業の改善、それから機械の導入というふうなことにまで考えがおよび、更に税金のことにまでも考えがおよんで参りました。近ごろ私の村の婦人会では、みなで、税金のお話し合をしております。

そして私は自分で農業経営をやっておりますと、主人と共働きをしているというふうな、自信をもつことができた。婦人の方々とも本當に協力して、本當にいい発展をしているのではないかと、いま楽しんでやっております。

同会 只今の柳川さんのお話は、どうして参加するかというよりは、もうすでに自分で行つていらっしゃる御経験ですね。先程そうでない面がたくさんあげられたようですが……。

大浦 私はここにいらっしゃる方は大変立派な方で、いわば地方の先覚者の方だと思います。私がみております農家の女の方は、もう子供がこぼれそうになつても田植をし

ているし、それから泥と汗にまみれて、子供がワンワン泣いてもお母さんはやっぱりまだ田圃で働いている。そして子供が赤痢になって手おくれで死んでしまふとかいうような実態をみておられますと、私はそういう人たちのために、できるだけ婦人を農業労働から解放してあげるということが、婦人の地位を一步高めることじゃないかと考えます。お金を儲けるということが婦人の地位を高めるという意見も成りたつけれども、もう少し日本の農業を合理化し、収支がつくようなようにして、女の人を農業労働から解放してあげたい、と私は考えます。それについてまたご意見がいろいろあると思いますが。

本津和 農業労働から解放とおっしゃいますけれども、日本の今の農業では機械力が入らない米作を主とする場合が多く、婦人が大きな労働力になっているんじゃないでしょうか。

井口 私もそう思います。

本津和 婦人を労働から解放したわということとは、機械力を入れた場合に云えることで、入れられない場合は軽減といった方がよろしいんじゃないでしょうか。

大浦 私はそのような意見が出るだろうと思っていたのですが、あまり婦人の労働が過重ですから、一歩ずつでも婦人が農業労働をしなくても経営が成りたつ方向にもって

いきたいと思つたのです。

樺八重 私もいまの方がおっしゃったように婦人は農業労働から解放された方がいいと考えておつたんですよ。それで家事や育児を一所懸命やっていたのです。それはなにも男性依存でなくて、力のいる仕事は男にやってもらい、うちの仕事は私が引受けて、それが正當な分担だと考えておつたわけです。そうしたら、どうしてもそれでは養育力が出ないんですよ。それだけではなく、経済的な積極的な生産の方に働きかけなければ養育力が出ないんです。鹿野島という所は、結婚して、おしっこくさい子供を男の人に抱かしたらいかんという土地なんです。そんな所で女が労働に参加するということは、とても負担なんです。お風呂なども、水を男の人に汲ませちゃいかんということがある。私はそれに黙って抵抗してきたんです。そして自分の仕事を生産方面に進出させていったんです。それでいまはずっと私の発言権が強められたと思つたんですよ。

平島 私いま鹿野島の方がおっしゃったように、女の人の中、育児とか料理とかいうものは女がしなければならぬ、という觀念があまりこびりついているんじゃないかと思ひます。そういうのは男がやってもいいだろうと思つたんですよ。(笑) たえば男にも洗濯やごはんごしらえをさせたらいんじゃないか。させたらというとお

かしいですがね。私はさいわいリュックサック一つで引揚げてきましたから、生活改善ということとはとても便利だったんですよ。主人も、私が商売が忙しければ私の品物も洗濯してくれましたし、ごはんもたいてくれました。私が店でお客さんと接して、ごはんたたく時間が外れそうな時はです。夫も針をもつて、ふとんぐらい、掛布なんか大きな針でいいですからね。(笑) ふとんのつくろいなんかもしてくれました。そういうふうな女の人の頭に、もっと、衣食住の雑用は男にもさせていい、という気があつていいと思います。それには旦那さんと話す機会をしゃちゅうつくるといふことですね。夫婦でありながら日本の家庭は、旦那さんと話す機会が少いんじゃないやありませんか。ちょっと考えたら、夫婦だから小さいことまでわかっているだろう、と考えられますけれども、案外小さいこと、機嫌なところまで知らない人が多いと思うんですよ。まずおしゃべりでもいい、むだ話でもいいですからね。しゃちゅう夫と話すチャンスをもつといふことですね。そこから農家でも商店でも、自然、話す機会が多ければ多いほど自分の生活というものが話題になると思ひますよ。農

家経営とか商店の仕入とか販売のことなんか話題に出ますからね。そこから私はほぐれていくんじゃないかしらと思つております。

佐東 只今平島さんがおっしゃったことについて私はこういうふうに考えるのです。その一つとして、婦人が婦人の特徴である仕事、すなわちいま男の方にも洗濯やお料理をさせていい、というお話でございましたが、やはり前からしております仕事を婦人がしましたら、それだけ船率が上りやすいのじゃないかと思ひます。主として家事労働に婦人がつき、その余剰力を副業にいかすというやりかたがいいか、男にも女の仕事をさせるし、その代り女も男の仕事と一緒にするのがいいか、ということですが、私の村に、そのどちらにも該当するのがございます。

それは一つは、自分の家のお仕事がすみしたら、仙人の家に雇われてでも仕事に出る、その代りに家にはまだいくらでも補修すれば済むような衣料でもうっちゃらかしておいて、ずんずん新しいものを買って、そして日々の現金収入を得るために外に出て働く、また一面に、家事の仕事を一所懸命して、現金収入は得なくても、家のやりくりをうまくして、そして割合生活の面をゆたかにしている方とあるように思ひます。それで皆さんにどちらの方がいいの、か、ご意見をおきかせ願ひたいと存じます。

盛 私には家事を男の人に無理やりにやってもらうというよりは、ご主人と協力してやたらよいと思ひます。つまり農家の場合ですと、主人と一緒になって仕事する場合が

非常に多いわけですね。そういう場合に、女の人でできる仕事を女の人が担当する、比較的重労働は男の人にしてみらう。ですから男の人に家事をやってもらおうというような考えでなしに、主人と一組になって、ある一つの仕事をやる、というような方向も考えられていいんじゃないかと思えます。ある一つの仕事、たとえば種をまくというようない仕事の場合に、その仕事の中でも、土を耕すというより比較的軽い仕事は大体主人にやってもらう。そして種をおろすとか土をかけるというような軽い仕事は女の人ができる、そういうふうな男の人と同じ仕事をやるということではなくて、女の人、女の人の綿密な細かい注意を利用して、それに適した、またはそれを伸ばしてゆくような仕事をする。そういうふうな、ある一つの仕事を男の人と協同してやるというように考えていったらどうかと思うんですけれども。

佐東 私ちょっと附加えますが、女の人が家にいて家事をする、そのかわり、農繁期などは女の人が外に出て、夫の仕事に協力するようにしていきたいと考えます。
司食 そうしますと青森の盛さんのおっしゃるのは、生産活動に婦人も参加する。けれども、男子も女子も適正なものを選んで仕事は分担してやるのがよい、とおっしゃるんですね。

まして、臨機応変に仕事をしたらよいと思います。私はまだ日本の社会一般は非常に物見高くて、人のうちを覗きたがり、あそここのうちは旦那さんがこういうことしている、というような露口が非常に多いので、そういう点で妨げられている点が非常に多いと思うのです。ですからまずそういうところからなおしていかなければならないと思うのです。

出口 私の家では朝晩子供が片附とお掃除は手伝ってくれますが、なんといっても経営面が広うございまして、一緒に朝から作業に出かけるようにしても、おそくなつてから上ることになります。それで家畜の世話とか水汲みの仕事などは、子供が遊びに行つて帰つてこない時は主人がやるというように、主婦一人に負担がかからないようにしています。台所の改善などもやりまして、数分間て食事の用意ができるというように、全部分担作業です。

日高 経営面といいますと、結局頭を使う面と体を使う面があるんですね。それで頭を使う面にどの程度参加しておられるか。もちろん農家のことですから、労働力は提供していらっしゃると思うんですが、その前の方で、今年はどういう計画でどういうことをやっつてどういうふうにする、というようなことについて女の人がどの程度発言しているかということ。それからもう一つ、兼業農家

それから佐東さんののは、もう少し生涯から下った形ですね。家事の方をよくやって、余裕があれば生産も手伝うという……。

佐東 私の申上げるのは、家事の方をおろそかにしてでも現金収入を得るのがいいか、それとも自分の家で夫と協力して生産面をしまして、その残った力を自分の家で家事の整理と副業をしてゆくという二つの行き方のどちらがいいかということです。

田村 いまのお話でございすけれども、私どもでは、商売の方では主人と私が全然表と裏の仕事を受持つてやっております。それでも家事の仕事がどうしてもはみ出して。そういう場合には、そういうことは本当にめったにございませんですけれども、たとえば大晦日のような場合は私の仕事の方が多いものですから、主人に子守をやってもらったりします。

それから家事の仕事だけやっておりますと、女の人がどうしてもみじめなじめじめした気持ちになりやすいんじゃないかと思ひますので、やっぱり生産活動の面に参加した方がいいんじゃないかというような感じがいたします。

小林 私は家庭において、男はこういうことをすべきじゃないとか、これはどうしても女がしなければならぬのだ、というふうなことでなくて、家族会議や話し合いにより

と専業農家、あるいは耕作区別の経営ではかなり事情が違ふんじゃないかと思うんです。そういう点について、自分の所、あるいは自分の近所で専業と兼業ではこういう違いがある、そういう例があったらそういう問題も出して頂くといいんじゃないかと思うんです。

盛 どのように経営に参加しているかということでは、若い人たちは労働力を提供するだけであつて、計画面には全然参加できないんです。若い人たちといひまして三、四十代の人たちが経営主である場合は割合に問題は少ないんですが、五十、六十代の人々が主権をにぎっている場合に、若い人たちはどういうふうにして計画面に参加していけばいいか、ということの方がいいんです。

その実情をいたしまして、私たちの方にこういう例があるんです。六十代の人々が権力をにぎつておりまして、その人が作付の面積から、何をどういう品種を植付けるか、そういうことはもちろんのこと、財布をしっかりとにぎつていて、自分の考えだけでその財布のひもとくわけなんです。若い人というのは御夫婦とも非常に働きもので、その家の収入は全部その人たちの働きによるわけなんです。けれど、若い人たちは何ともいえない。結局自分たちのとった収入がお父さんに行つてしまふということを、不思議だと思ひます。で、結局夫婦二人ともあまり激しい

労働のために病気になるってしまった。病気になることも、静養するだけのお金がないわけです。そういうことを年々、た家長に話しても、その人がお金を出してくれない限りは、病院にも行けないわけなんです。そういうのが私たちの方の農家の実情なんです。

ですからそういう場合には、どうしたら実際に労働力をもって生産をあげる人たちがお金をもつことができるか、そういうことのいい方法があったら教えて頂きたいと思っています。

日高 いま問題が出ましたけれども、結局女の人といましても、つまり娘・嫁・主婦・おしゅうとめさんという年齢的な差で相当のちがいがあるだろうと思いますが、そういうことも頭に入れて進めて頂きたいと思っています。

櫻八重 いま日高先生のおっしゃったことにそうかどうかわかりませんが、私も、結婚してから八年になりましたが、八年前のことを考えますと、いま私はずいぶん家の中での地位が上がったように思っています。どんな方面から上がったかといえますと、最初は農業でも何でも、全然私は素人でしたから、全然働きがなかったわけなんです。主人も半素人だったんですけれども、それで先程女の特性を生かすということが出ましたが、たしかに私の家庭ではそれがあてはまるのです。ノートに書き残すというようなこと

に何を植えるかという計画だけをやってくれます。私はそれを耕して種をまいて、全部やるわけでございます。私が財布をにぎって、肥料を買うのも、種をまいたり苗を作るのも全部やるわけなんです。

司会 そうすると、お宅では兼業ですね。

吉田 ええ、兼業です。

服部 先ほど青森の盛さんから、若い人が生産に参加するにはどうしたらいいか、という問題がございましたが、私たちの農村にも同じ問題があります。農協婦人部というのがあって、その会合では、いい意見がでるのですが、それをおうちにも帰っても、おうちでは実行されないのです。

このごろいいお婆さんかあって、たとえば二四Dなどにしても、それがどんなにいいと思っても、うちの人が取入れてくれないんですね。私は、やはり婦人がその家庭内において発言権をもつということが一番大事だと思うんです。

司会 先ほど仕事の分担の問題や副業の問題が出ておりましたので、それについて少し討論して頂きたいと思っています。

先ほど、生産活動に積極的に参加するより生産労働から解放されたい、というご意見が出まして、その続きとしま

は、主人は面倒がつてしまいました。それで私がそんなことを、一年々々やっておりましたら、いつの間にか、今のようにな立場になってしまいました。去年、春のこやしをいつやったか、どれくらいやったかときかされると、それを私が答えるんです。それから青森は去年は何月にやったか、いつ時分がよかったか、何月が失敗したか、ということをもみな私にきくようになり、そんなことで計画の主導性を私がにぎるようになったんです。そんな関係で、自分で金庫の中から金を出して、お婆さんが自分で魚を買うのはうしろののののの、といわれるんですが、近所ではかかあ天下だといわれるくらいになったんです。ですから自分のうちで主導性をにぎるようになったら、発言権は自然と出てくると思うんです。

日高 お宅は専業ですか。

櫻八重 農業だけで食べられませんが、農家を多角経営にして、鶏を飼ったり豚を飼ったりしているんです。田圃は一反七畝、畑が四反、それだけです。

吉田 私の家では科学者である主人と私と、それから十六歳になる母と、子供が中学二年の男の子と小学校六年の五人暮りでございます。

主人は仕事をもっておりますから、全然田圃の方はかまってくれません。三反半ばかり耕作していますが、母は畑

して、男子と女子との適性に依じて仕事を分担するという形で参加するというご意見も少しあったようでございます。から、こんどはその辺から討論して頂きたいと思っています。

櫻八重 その分担するというのが、さっきからおしゅうとさんがちょっと除外されているように、すけけれどもね、女の地位、私たちの地位を高めるために一番のがんだ地位がおしゅうとさんである以上、そのおしゅうとさんを無理に退けても、除外しても私たちの地位の向上はできないと思うんです。それでそのおしゅうとさんをどのくらい利用でなくて、同姓として、また私たちも年々から除外されることはいやですから、除外ということを考えないで、おしゅうとさんにはおしゅうとさんとしての力で参加して頂いて、私たちは私たちで主婦として参加し、主人は主人として、みんな参加してやっていく。たとえば育雛の場合を考えますと、なっぱを刻むのが一つの大きな時間にかかる仕事なんです。それをおしゅうとさんにやってもらって、私が緻密ですから餌を配合する、それから主人はお掃除とかそういうことをやってもらう。そういうのが一番スムーズにいくように思います。農業経営の場合でも、花の栽培の時でも、交配やら授配やらは主人がいたしまして、花やなんか小さい労働ですから、種をまいて水かけなど私がしましたり、母には移植などしてもらって、そういうふう

に参加してもらおうととてもスムーズにいきます。そんなような経営の仕方が私たちの一番いい方法のように考えます。

司会 ご老人と若い方、それから男の方と女の方で仕事の分担を分けていくわけでございますね。

樺八重 そして同じ仕事に三人ともかかるというのが、それが一番いいように思います。

出口 農家の主婦といたしましては、家事と野良仕事との二重労働でございますが、労力の余るような特別の家庭を除いては、婦人も外に出て働かなければ経済が成り立ちませんので、家事方面に要する労力なるべく少くしまして、台所の改善をして、素早くお炊事をすませて少しでも早く外に出て働けるようにしまして、それで私は朝炊事の時間に養鶏の餌をやりますし、長男は温床の四反歩くらいの手入れをいたしますし、使用人が牛馬の餌をやりますし、豚は主人がやりますし、子供が食卓のあと片附からふき掃除をして出て行きますし、一家みんなで一緒にやって、一緒に働きに行くようにやっております。

司会 前に少し出たと思いますが、その生産面に参加する場合、全体をみなでやるというのと、それから全然、本業と副業を分けて、女の人が副業的なものを受持つというのと、二つ出ていたようですが、その辺のところはいかが

司会 そうしますと、大体屋敷鳥の樺八重さんと同じような立場になりますか。一つの仕事を別に分けずに同じように参加していく、そういう立場になりますか。

盛 いえ、ですから……。

柳川 全然別の問題に考えていらっしゃるんじゃないんですか。

司会 先ほどご意見の発表の時、婦人の経済活動の段階として、家畜なら家畜、養鶏なら養鶏をやって、それを初めから終りまで管理して、それから上った収入は全部自分の金として自由に使う。そういうふうな方法によれば婦人の経済的地位も高くなる、というふうな御発表があったと思うんですね。そういうふうに初めから自分の仕事の分担というものはっきり分けて、もちろん副業も農家と関連がないわけじゃないんで、つながりがありますけれども、はっきり区別してそういう形で受持つのか、それとももつと農家全体の中に含めて、男の人と同じように、全体の立場でやるのか、その辺のところを少しうかがいたいと思っ

田村 その分担の問題ですが、私どもは商家ですけれども、やはり農村の場合でも同じようなことがあると思うんです。

それは一つの例としては、商店では奥さんが私どものよ

でしようかね。

盛 いまの副業と家業とを分けるかという問題ですけれども、私は農家の立場としましては、多少利益が上らないにしても、副業というものは、副業をやることによって家業にプラスするものでなくてはならないと思います。ですから副業と家業と、表と裏一体になって、そして全体がプラスになるような、そういう副業が農家の副業としては一番適当だと思います。ですから副業自身の収入ということに主を考えないで、副業は農家の経営の一端といえます。一角として、その副業をすることによって農家全体の家業というものが前進していくようなものを選ぶべきじゃないかと思ひます。

司会 それでは女の方がそれをやる場合に、表裏一体になった、本業・副業みだいにありますけれども、それを含めて、そのどちらにも女の方が参加する、そういうふうなご意見ですか。

盛 ですから今の分担の話になりますけれども、結局、副業をやる目的がまあ現金収入にあるということは、皆さん同じだと思いますが、もちろん女の方がその副業の収入を得るということは第一の問題ですけれども、そういうふうな問題の中でも、副業が単に副業であってではない、ということを上上げたいんです。

うに経営面とか帳簿や経理の方をやって、その反対に旦那さまが販売面をなさるという場合がございます。ですから農村の場合でも、奥さんが記録的なことをなさって、旦那さまが生産面の方をなさるといふ場合がありうると思います。ただその場合、必ず責任をもつということがいいんじゃないかと思ひます。そうしますとその仕事自身が起きた仕事になるんじゃないかと思ひます。

木津和 我、実際に鶏をやっております、仕事の分担を分けられないと思ひますね。鶏なんかですと、鶏舎のこととか飼料とか糞なんかから全部観察していかなければならぬですね。ですから仕事の分担をしますと、よく注意が行届かないんじゃないかと思ひます。ですからある一定のことは自分で全部やるようにして、突発的に事故が起きた場合は隣機、心算にやってもらうようにする、というのが一番いいんじゃないかと思ひます。

仕事の管理の面からいいますと、仕事の分担を決めておいた方がいい、鶏の場合、他の面も融通性をもって、家族のものが理解してくれる立場で、突発的な事故のおきた場合に融通して仕事を分担してくれるのいいんじゃないかと思ひます。

司会 いま問題にしておりますところは、農家では女の方がよく働いている。けれど、女の人の働きは一般にはな

なかなか認められない状態にある。それを認めてもらうために、今までのようにただ御主人にいわれて働くということでは駄目なので、まず現金収入を得ることが必要なのではないかと、という考え方があるわけです。そうした考え方が、いかげなものでしょうか。

大浦 私近所で乳牛を飼っている所があるんですが、その乳牛の搾乳とか牛の手入れなんかは奥さんがなさっていらっしやるんですが、飼料とかいろんなものを調達してくるのは旦那さんがなさっているんです。それで奥さんが、これは悪いことなんですけれども、近所で乳がほしいから分けてくださいという所へ夕方と朝と分けてやるんです。それでお金が入りますのを奥さんがみんな自分のふところに入れて子供の学用品にあてたわけなんです。旦那さんがそれじゃあたまらんから近所に売るのはやめろ売るにしても一カ月勘定にしないさ、ということ、いよいよ一カ月まとまったところで自分が取る(笑)というようになつてしまつて、それで結局そういうことはいけないわけなんです。

それでも一軒の所では、おばあさんが若い者に世帯を譲ったものだから、大変小遣いに難儀する。それで、私に雛を二十羽くらい買ってくれ、飼料も調達してくれ、管理は自分がするから、生れた卵は自分の収入として小遣に

すが、私のうちは母の内職で非常に経済的に助かっているんですよ。ですからその点、和といいますが、平和に分担してやりますと、経済的な面でもうまく調和できるんじゃないかと思ひます。

司金 いまのお話は、家庭の中で話し合いがうまくいけば、誰がどこを受持つてもそんなに変りないということになります。

大浦 婦人の地位を高めるといふ意味で、ぜひ農業部面を分担して、ある程度女の人が直接的な奥収入をもつ方がいいと思ひます。

井口 一つの仕事を責任をもってやるということは、例をあげますと、乳牛の場合ですけれども、小さい時からいつともかわいがって世話しておりませんと、大きくなってからそばに行ったら、ほかの人だとボンと蹴って全然よせつけないんです。小さい時から管理しておりますと、乳牛とこのうのはよくなれてなんでもさせます。そうしないと、大きくなつてお乳をしほつてお金を儲けようという段になつてから、女の手におえなくなるんです。

司金 一部を分担するのがいいということになります。

柳川 私の部落では、家計簿を通じまして、これでは農業の経営が成り立たないから、どうしても副業をやらなけ

したい、だから自分の小遣は一銭ももらわない、それを自分の小遣にするから、というふうにして、若い人も、それもおもしろい。じゃあ私たちがえらい仕事はやってやるから、というんでやっているんですね。それがお嬢さんの場合はなかなかしにくいんですね。だから私は理想としては、家事と農業経営の分担といいますが、女の人が比較的男の人の力を要しないでやれる、たとえば育雛というふうなもので、すね。ちょっとむずかしいですけれども、子供を育てるような気持で四十日くらい雛を飼いますと、一日の手数料が三円ございますからね。死なせないで手入れをすれば五十羽くらい飼いますと百五十円、そうすると四十日で六万円です。そういうものを奥さんがやって非常に成功している所がございます。

私のうちも農地解放で貧乏になつて、年寄に小遣をやれないものだから、育雛を始めまして私の母が年に四回くらいやっております。五、六年前からやっておりますけれども、最大で六十羽から七十羽やりますと、女の人というのは子供を育てた経験がございましてかわいがりますから、九〇%から九五%くらい育つんです。そうなるとおやと思うほど収入があるんでございます。

そうすると孫に何か買つてやるというんで助かっているんですよ。私は外に出ますから飼料などを調達してやりま

ればいけない、生産が成りたないというので、私どもは副業に入りまして。副業といひましても、佐賀の田舎ですから、生産面にもやっぱり男の人と一緒に田圃に入りまして、いまは農閑期ですから、むしろとか、なわなをやっております。副業の方にいたしましても、女の人男の人と一緒に協力して、むしろを織つたりして、その収入は全部出して、一家の経済を建直していくというようにやっておりますから、自分だけで副業の収入を得るということとはありませんけれども、副業に母が参加するようになつてから、経済的にもずいぶんらくになり、力も出て参りました。

それからこれは別の問題ですけれども、私は今まで農村の方々から農村の婦人の年寄が非常に理解がないということをよくききますけれども、私の村ではむしろ年寄の人に理解してもらひまして、いままでもよく、おしゅうとさんがものわかりが悪いとか、おしゅうとさんは歳をいじめる、ということのみ強調されてきて、若いものは当然権利があるからいばつていい、というふうな見方を本當にいまの若い方がしているのじゃないかという危惧を私はもっております。それで若いものは年寄を尊敬するという念は……これは本當に別の方面のことになりますけれども、そういう気持ちももっていないと、これからの農村は若いものが力を

もつただけではいけないのじゃないか、ということを私は自分の村を通じて本当にいま痛感いたしております。

司会 只今のは直接の取入がなくても、みな一緒に働いて、そして分ける時にその仲間に入れば、それでいいじゃないか、というような意見ですね。

柳川 そうして書くわけです。全部一切書く、収入支出は全部公開すること、そういうふうにして私の部落ではやっております。

日高 皆さんのご意見を大体うかがっております、実は問題が出るんじゃないかと思つて待っていたのですが、もちろんこの討議は、婦人の経済的行動という問題ですから、婦人の問題にかたよっていくのは当然だと思つて、ただ、いま柳川さんが最初の方でちょっとおっしゃったように、日本の農家経済というものは、いま実際に非常に苦しい状況におかれている。日本の農家経済を高め、ゆたかにしていくためにはどうすればいいかという、そういう根本の問題が一つやはりあるんだと思つて、いままでの皆さんのお話をうかがっていますと、たとえばある小さな土地の中からできるだけたくさんのお金を得るように工夫していくとか、あるいは多角的な経営をやるとか、そういう意見がたくさん出てきて、あるいは肥料とか品種とか、そういうご意見が出てきているわけなんです、そ

ほとんど一日五、六人しかかかるところを、カルチペーターでやりますと八反ぐらいできますので、一日ですみます。機械は、次から次にいろんな種類が入ってきますから、今度はうちで買う、今度はおとなりで買うということ、修理も分担してやっております。

日高 それは何軒でやっているんですか。

出口 二軒でやっております。おおぜいで機械を購入してやっている人もありますが、あれはみんな無責任に使うので、よく故障を起したりしますが、私どもはとても大事に大事に、二軒でお互いが責任をもって使うようにしております。

司会 協同ならば機械も入る、ということですね。

出口 はあ、やっぱり一万から三万くらいしますから、一軒ではなかなか次々に機械を買入れることはできませんし、二軒でやりますと次々に買えて、七つ八つ持っております。

司会 機械を入れる必要があるというご意見が出たんですけれども、機械を入れてから婦人の仕事はその通りに減っているのでしょうか。

服部 只今の機械を入れるということですが、それは大変いいことだと思いますし、そういうふうに協同的にだんだん進めていくとよいと思いますけれども、非常に

うすると結局、だいたい大浦さんがおっしゃったように、婦人がますます過重な労力を背負わなくなつてくれない、そういう矛盾に当然ぶつかるといふ感じがするんですが、そこをどういうふうにか切りぬけていくか、そういうことについてもう少し何かご意見があったら出して頂きたいと思つています。

柳川 これはやはり農業の機械化によらなければ、どうしても農村婦人の農業労働というものは軽減されないのではないかと私は思っています。私のうちあたりで、麦の土入れをいたしますにも、手でいたしますと一日に半反もできませんが、機械でいたしますと一日に、四反も五反も土入れができるのです。

司会 いま機械を入れて婦人の労働力を軽減する、というご意見ですが……

平島 私、農村のことはあまりわかりませんが、農家の方のご意見をききまして、いまの現状としてすぐ機械は買えないんじゃないかと思いますが、となり、近所の協同の力というのはどうなんでしょうか。

出口 私の所は機械はとなりとみんな共同購入しております。畜力でも脱穀機でもカルチペーターでも土入れの機械でも、みんなとなりと共同購入しております。反別も作業人員も大体等しいものですから。草なんか手ですれば

機械が高いんです。それから草も高いんです。ですからそれだけ収入が他へ出されなければならぬことになりましたので、閑業の面で、婦人の労働というのとは軽くなつていかなんじゃないかと思つています。

それでそういう方面も大事ですけれども、生産物の価格という面も考えていく必要があるんじゃないか、あるいは販売方法というような面も、農協とかおおぜいの力でもって解決していかなければならぬんじゃないかと思つています。

司会 機械を入れるのもいいけれども、値段が高いということですね。農産物の商品としての価格が低いから、割があわないということですね。

大浦 私の村では、零細といたつて香川県は五反、六反の反別で、結構多角的にやっておりますが、それでも一町以上の農家では、機械を入れることによって能率をあげるの、ますます貧富の差がはなはだしくなっております。貧富はともやききれない、よそと取れないで機械化をしたために負債ができてくるというふうな状態になつて、それをなんとかしようというので奥さんも、子供も豚を飼うとか牛を飼うとか養鶏をやるといふように、多角経営をやつて、ますますまきがなくなつていく。従つて、収入は相当上るんですけれども、結局大きくなるだけで生活

128

うふうにして技術や知識を身につけるか、ということが問題になると思いますが、これから積極的に学ぼうとする時に、どういう方法があるか、ということを出して頂きたいと思ひます。

小林 私の県の例ですが、比較的若い主婦の方たちが、自分たちは本当に農業に関する知識が足りないから、グループでもって勉強しましょうということになり、夜、定期的に集って、技術の普及員を招いて、テキストに従い、いまはどうしたらいい、というふうな、時期を追って勉強しているグループがございます。そういうふうなやり方が非常にいいんじゃないかと思ひます。

司会 グループで勉強することですね。先ほど佐賀の柳川さんの方からも、普及員や経験者の方を積極的に招き出すということができていたが……

柳川 それが農業技術を身につける一番早道じゃないかと思ひます。農協の方や普及員の方は、よく言えば十分に指導して下さいますから、その方々からよく聞いて、その通りにやればよいと思ひます。

司会 技術や知識を身につけるということで、いい方の面だけでなくて、困難な面も出して頂いた方がいいのではないかと思ひます。

大浦 積極的にやる女の人がありますとね、さっきもか

るということに悩むもの一つとして、農村では、先ほどいいましたように、お嫁さんの地位が非常に低いことがあげられると思ひます。技術を身につけるためには一つの試みをしなればならない。成功するか失敗するかということとは、新しいことを試みる場合は半々くらいなんです。それで成功した場合はいいけれども、失敗した場合はさんざんいわれるんです。うちの人からいわれるだけでなくて、世間から物笑いになる。それが一つのがんになっていきます。

それからいまの劇案、あれをやつてすぐあとで子供におっぱいをやらなければならぬという場合、非常に注意しなければならぬ。劇案の使用は女の人にとっては危いわけですね。ですからその方面の技術は、子供をもつ女の人にはちょっと試みられない、ということがあります。

盛 私には女の人一般に本を読むということが不足んじゃないかと思ひます。ことに農村の人は、いろんな障害があつて本が読めないということが多いのでしようが、いろいろの困難があつても、本を読む習慣をつけるということが、知識を得る第一歩じゃないかと思ひます。

司会 そうしますと、知識や技術を身につけるには、先ほどからいろいろ挙げられておりますが、只今おっしゃつた、本を読むこと、それから一人ではできないから、グル

かあ天下というお話が出ましたけれども、男おんなとか、行きすぎるとか、そういうふうな、出る釘は打たれる式に周囲からあれこれ口きかれるということがありましてね、御主人が集会に行った時など、あんたとはあれだから、ということでも難儀的にいわれ、奥さんがやっていることを、ほめているんだかけなしているんだかわからない、満座の中でそういうふうにかかわれたりする、ということがあつてよいです。

柳川 それでも農村の経営の実情をみますと、かあ天下の方がずっとよくいってあります。(一同)「そうですね」と合つちをうつ)かあ天下の方がずっととんどんお金が多まっています。

司会 ここにいらっしゃる方は皆さん積極的にやっています。しゃるようですけれども、一般的に農村の人たちがその問題についてどういうふうに関心を抱いていらっしゃるか、ということをもう少し皆さんのごらんになっていらっしゃる状況からお話頂いたらと思ひます。

佐東 私の方では婦人会の活動の一つとして、婦人教室を開講し、農業経営に関する事をとりあげていますが、もっとも出席する必要がある方が比較的少なくて、できている方の出席が割合に多い、という状態です。

櫻八重 私は女が技術を身につけるとか知識を身につけ

る活動によるのがよいということになりましたか。けれども婦人が積極的に学ぼうとするには、いろいろの非難にたえるだけの勇気がいるということですね。何か附加のこととさせていただきます。

吉田 知識を得る一つの方法として、これはまあ前途遠望な希望かわかりませんが、いまでも有名入とか農村青年はたくさん海外に派遣されておりますけれども、主婦の方で一回も派遣されている人はありません。家庭の主婦でも、経済生活の一番ゆたかなアメリカだけに、一番日本人に合っているといわれるようなドイツとかイギリスとかいうような国の家庭もみせて頂けるような、そういう機会を政府の方からつくって頂いたらいいんじゃないかと思ひます。

司会 政府の方からですか。(笑聲)

盛 さっきの本のことですが、むずかしい専門的な知識の本や農業理論でなくてもいいんです。通俗的な農業雑誌から始めてもいいんですから、本を読むということがぜひ、日常の食事と同じくらいに考えるように、気楽に読めるように、そういう気持が必要だと思ひます。

司会 農村改良のために普及員が相当入っておりますが、実際に皆さんの立場はそういう人から指導をうけたいという時に、それがラクにできるようになっておりますで

しょうか。

大浦・左東 たいていできますね。

司会 そうしますと、利用しないのはその気持が少いということになりませんか。

盛 私の方なんか全然ないですよ。

司会 場所によって違うんですね。

佐東 私はラジオを利用してあります。ラジオの時間割を作っておき、雨降りの時とか時間のやりくりをして、ききたい時間に作業衣の補修をするとか調理をするとかいふふうにして、耳から勉強する。仕事の手を休めないでできるということだと思いますから、らくにできるわけですね。

平島 勉強するという面に意見があるんですね。けれどもそれは本を読む、ラジオをきくといっても、きき放し、眺み放しじゃなくとも勉強じゃないと思います。よく鑑聴……あの人はよく本を読むけれども何もできない、というふうな人がおられます。女はおしゃべりだけれどもものを発表する力がない、ということですね。それと同じように、本を読んだりラジオをきいたりしたら、ちょっと口でも一度いってみるとか、メモするとか、それを反すうする必要があるんじゃないかと思えます。そうしないと本当に自分の知識というものにならないかと思えます。

んけれども行かせてください、といって出てきて、そこで自分のきいた話を家に帰ってみんなに話す。そうすると、うちの嫁はいいことを習ってきた、おいしいもの作ってくれたというんで、出した方がかえっていい、というように関心が高まりました。

司会 学ぶにもいろいろ工夫がいるわけですね。

柳川 出してもらうということが第一ですから。

司会 そういう方法は役員の方がおやりになるわけですね。

柳川 自分で研究しております。

出口 本を読むこともいいことですが、なかなかできにくいので、農閑期を利用して先進地を視察した方がいいというところで実行しております。よその農産物の見学ですね。

司会 それでは、時間も参りましたので、第一日の討議を終りにしたいと思います。

(第一日 閉会)

◎家計・赤率・副業・生活の合理化

司会 それでは第二部会を始めることに致します。引続きまして家庭生活の面につきまして、皆さんがいろいろお考えになっている問題について討議したいと思います。生

す。勉強の仕方が下手なんじゃないかと思えます。本は眺みっ放し、ラジオはきき放し、それでももう安心してしまふんですね。それで本当に自分のものにならないことが多い。労力をかけても結局損なことが多いんじゃないかと思えます。

司会 婦人の知識を身につけたいという考えは、一般に以前より強くなっているわけですが、農村におきましてもそういえるわけですか。

一同 そうです。

司会 そうしますと、そのためにどういう方法をとった方がいいかということで、本を読むとか、ラジオを利用するとか、ということができましたが、それもただきき放しじやだめなんで、それを利用するという態度がまだ足りないんじゃないか、というご意見が出たんですね。その辺のところの工夫につきまして……

佐藤 大分の方の農村に参りますと、ラジオなんかもございませんし、ほとんどがそういう文化的な機関に恵まれておりませんから、婦人会とか講演会とか、とにかく出てきてもらってお話をきかせる。その出てきてもらう方法がないのです。それでその引出し方法ですが、おいしいお料理を研究して、集りから帰ってそれを作り、こんなおいしいものを習ったんですから、今度はお料理じゃありません

産が一つの経済活動としますと、消費面も一つの経済活動とみられるわけでございます。それで只今から、私たちが家庭の消費面での経済活動をどのようにしたらよいかについて討議をすめたいと思えます。その場合、いろいろ妨げになる社会的な問題、広くは日本全体の政治という面にもぶつかると思いますが、そういうところまで討議を進めていきたいと考えております。

それではまず家計の問題に入りたいと思えます。皆さんの討議の中には、家計を家族の間で公開すべきであるという御意見もありましたが、まだ、もう少し低い段階と申し上げますか、多くの婦人が家計などということを知らされないような立場におかれている。だから家計が家族の間で公開されるという状態に早くもってゆかなければいけないということが問題とされていきました。さらに細かくは家計をどういうふうに分けようかというところで女の人の発言が弱いために、お金の使われ方が婦人の生活に関係のある方面には非常に少くしかいけません。そのために婦人の生活は非常に救われない状態にあるというようにも出ていたと思えます。まずそういうふうなところで、現状として、どういう問題があるか、今後どのようにしていったらいいかというふうなことで討議をして頂きたいと思えます。

服部 家計簿について申しますと、私の方では大体三十五パーセントが現在つけております。つけていないのが六十五パーセント、大体において非常に無計画だということが言えると思います。私は部落の婦人会に呼び掛けまして、家計簿をつけることを強調したのですけれども、非常に難しいもので、先日話が出ましたように、自分で自由にできる分断がないということが多いのです。ですから最初とはにかく自分だけの分、自分だけと申ししても子供の方も含まれますけれども、そういうことから来いまして、そういうことで始めました。そういうことから来いまして、現在ではいま申し上げました程度につける方が増えて参ったのです。そうしますと、非常に消費という問題に関心を持って参りますし、いくらか自分の範囲だけでも計割が立つのじゃないかと思ひます。

それから進みまして衣食住に分けて書く。私自身について申しますと、現在ようやく五年目になって予算を立ててつけるところまで参りました。特に現物の記入を重視しなければならぬということが、皆さんがおつけになってよくわかったのです。

同会 家計簿は一番最初自分の分だけつけるようにというの、その場合どの程度入るのですか、自分の分だけというのは買物するときだけです。

どもの実情を申し上げますと、高校の女子を対象として調査したのですが、(一)夫の収入を妻は知らない、収入額は知っていない。(二)定額が渡される。入用の都度渡される。(三)妻の知っている収入は全部妻に渡し、臨時の収入は夫が持っている。(四)収入を全部妻に渡し、家庭の収支一切を妻に任せる、という四段階に分けて教科書に載っているのです。それに対して農村の女の子は、このどれが一番いいと思ひますか、という調査をしますと、七十人のうちたった一人だけ、収入を全部妻に渡し、家庭の収支一切を妻に任せる、というのに丸をつきました。ほかの子は、夫の収入を妻が知らないということは不思議だ、然し四番目はちょっと行き過ぎる。収入額は定額を渡されるか、入用の都度渡される、これではちょっと不満だから、ぜひ三番くらいにはなりたい、という意見が高等学校の生徒の意見でありました。

これから考えると、非常に私たちの生活に対しての世間一般の評価というもの、まだこの段階から出ていない。特に農村では(四)の場合が多いということを指摘したいのです。

そこでこういう会議の際に、当然であるべきは四番だということをもひとつ強調して、その線を確立することが、女性の地位を高める所以ではないか。こういう世論を喚起す

服部 そうです。同会 そうするとお金は御主人とか、お姑さんが持つて居るのですか。

服部 盆とか暮とかにお小遣いを貰いますから。

田村 そういう場合に、主婦がお金を実際に取扱いにならなければならないけれども、子供の学校の月謝を払うとか、生活費を支出するとか、大体見留めておつけになって、おためしになっているのですか。

服部 それはいままでございませんでした。

田村 そういうことから始めたら、およその見当はわかると思ふのですが、自分の金銭の必要量も記入できるのじゃないかと思ひます。

服部 つけてみてよかったですと思ひますのは、うちの全体に関連した分が多く、うちの人みんなに関心が持たれて、全体が隠し立てのない生活に進んで来たということが取り柄だったと思ひます。

同会 家計簿をつけることについて、まずつけるべきだということが出たのですが。

大浦 その前の段階ですが、消費生活の責任者は当然女であるべきだと思います。それは経済的に女の方が力のあるなしに拘らず、家庭生活の収支を預かるものは女だという基本線をはっきり憶えつけておきたいと思ひます。私

ることが必要じゃないかということを考えます。

大浦 農家の場合は月給取りと違いますので、同じようには扱えないと思ひますが、収支を妻に明らかにすること、ぜひ実行したいものです。

同会 それでは家計簿というのではなく、家計ということについて話を進めて見ましょう。収支は全部妻に知らさるべきだということですね。

小林 それは私は難点があると思ふのです。男の人は妻に隠して楽しみをしたい。非常に労働をしていますから、男の人同士でお酒を飲んで遊ぶ機会が多い。それでそういうことが明らかにできないという現状じゃないかと思ひます。

盛 現状がそうですから、大浦さんが云われたように、家計は妻にまかせようにしたい、そのためには世論を喚起したいという、こういう問題じゃないのですか。

本津和 根本的な問題になるのですが、農家の貧しい経済なんですが、貧しい経済ですのに見せかけだけのものが多。もっと肝心な実生活に重きを置いてほしいのです。私それを言いたいのですが、たとえていいますと、冠婚葬祭に見せかけだけに金をかける。それなのに毎日の副食とかそういう実生活にはとてもしつてお金をかけないのです。それをバランスがとれるように、実生活に

重きを置いたらどうかと思います。

司会 只今大浦さんの方から、家計は女の人にまかされなければならぬ、全部公開されるべきだという御意見が出たのですが、農家の実際としては男の人が労働が激しいから遊びもあるもので、公開できないのだからという御意見がでていますが……。

出口 私、大浦さんの四番目に入りますけれども、少し出過ぎていたかもしれませんが、婦人が時間的に長く家におります関係上、どうしても金銭は女が持っていないと都合が悪いので、これはべつにかあ天下の意味ではなく、子供の学用品などの小さい金の出し入れを、いちいち主人に貰うようでは不便ですから、婦人で出し入れをした方がいいと考えます。これには自分でやっておりますと、支出されるのがわかるのですが、主人に全部やっておりますと、現金をいくら持っているのかなど考えます。主人の持っている現金の額を私の頭に入れておいて、自分が一切の収支を賄ってやっておりますと、自分でも収支がはっきりわかり、子供にもいくら現金があるということを一切知らせておきますと、子供も他のほしいものをあと廻しにして月謝を請求してくれますので、その点いいと思います。

司会 いま問題点は収支ということですね。支出はまた

のように赤字々々でいっておりますと、一緒に労働しておりますまして、男が隠れて道楽する気持は起りません。なんとかしてやっていこうと努力するようになりますね。

田村 それに対して都会でも同じことが言えると思います。それはされる、されないの問題じゃないと思うのです。たとえば私工場地帯でございますが、足りない、足りないといながら、夕方になれば居酒屋はいっぱいのお客です。たくさん飲んでたださきゆうきゅうの家計を破綻させるということは、夫婦の間がうまくいっているかどうか、生活に対する話し合いが、できているかどうかということが基本の問題じゃないかと思えます。

平島 大きい商売の方はわかるかもしれませんが、小売販売店はわからないのですよ。小売販売店は現金がしょっちゅう出入りしますし、入った金を主人が持っておりますので途中で使ってもわからない、二、三年あとでなければわからないのですよ。

平島 結局奥さんが帳簿を見たりつけたりすれば、ある程度は握れるものがあるかもしれませんね……。

田村 帳簿をつけていればほとんどわかりますね。お金ばかりでなく、品物の管理をすれば、はっきりつかめます。

司会 農家の場合も知らうと思えばつかむことができま

次の問題にして、収入の方は農家ではサテリマンと違いますが、非常に複雑ですね。どの辺まで女がはっきりつかむことができるかどうか、その辺のことを。

樫八重 私が近所の若いお嬢さんに、いま大浦さんのおっしゃった側の方をしなければいけないというのです。ところが使う立場に実際に立ってみると、どうせ足りないお金だから、責任を背負いきれない。それで男に任せて少しづつ貰った方が責任が軽くていいというので、女から男にこの大きな権利を呈上している傾向があります。

司会 どうですか、その辺は、女は大変だから責任を逃れて男に渡す。

樫八重 どうせ足りない家計ですから、そういうふうになつてしまふのです。

柳川 私はそれについては女の方は少し頭を働かしたから、うちの収入を知るのにはわけないと思うのです。農家の収入はお米の供出と麦の収入と、副業によるお金とはっきりわかんと思うのです。うちの収入は全部知ることができるとも、自然にわかんと思えます。収支は簡単に女がつかめると思います。

井口 私も同感です。男が隠れてお金を使うということは、家計の中に余裕があるからだと思ふのです。私の家庭

すか。

盛 ただしサテリマンの方のようにきちんとは出て来ないんです。たとえばその年の作柄で供出の数量が非常に動きますし、超過供出と義務供出とは、一俵について千いくらの開きがあります。だから超過供出が非常に多くなればそれだけ収入が多くなるし、義務供出が多い場合はそれだけ収入が低くなります。そういうふうには非常に差がありますけれども、やっぱり家計をしっかりとつけて、そういう資料を手につけておきますと、大体、一年にどれだけいるかということがわかるわけです。家計をつけるといふことは、金銭的な意味において全体を正確に知らなくとも、とにかく大きい点を掴むという上から、家計はぜひとも女の人がつけなければならぬと思えます。

日高 お嬢さんが収入をしっかりとつかめないう、そういう面ありませんか。

盛 現状はそうですが……。

大浦 長男のお嬢さんですが、弟妹が五、六人あって、女の子が三人くらいいるのです。そうするととてもやけを起しますね。働いても働いても私たちはお膳一枚、糊一枚買えないで、妹がみんなお膳に持っていつてしまふ。私たちは里からこんなに持って来て、牛馬の如く働いて、ほんとうに黙になる。もったいなくならないものかと痛切

に感じているのです。これは長男自身も感じています。私の知っている長男の子が、兵隊に出るときにこういうことをいったのです。僕は絶対にうちに帰って来ない。うちの両親のようなやり方をしておつては一生楽にならない。一生軍人になるか、死んで帰るということを言つた子供がいます。その子はそのためかどうか知らないが戦死しました。その弟があとをとっているのですが、その弟が来て、わしはなにをやってもしょうがない、女の子の嫁入りにこれこれかかる。田からの収入が少いから、田だけでやっている農家はもっとなんとかならないかということをお母様がお父様に使つたことが大切なことになってくる。その点では収支を家族ではっきりする。そうして母が賢明に使うということが大切になってくる。その点よそではどうですか。嫁の立場は非常に弱いということは……

樫八重 私の働きはどれくらい収入になったのか、どんなふう自分の働いたお金が使われたかを知らしてくれと言っただけで、敬遠されてしまふんです。敬遠されるだけでなく弾圧されるのです。女が弱いといえどもそれですけれども、それを敢えて言えは私みたいに非常に敬遠される。それも部落の女同士から敬遠されるのです。それが恐ろしくて普通の心臓じゃ言えないのです。

服部 お姑さんからやはりそういう状態を受け継ぐのです。……

盛 ずっと先になるのですか。お嫁さんがお姑さんの年輩にならなければ駄目でしょう。

服部 お嫁さんがきてから五、六年ですけれども、一家が一冊の家計簿で、お嫁さんが全部つけているのです。

吉田 収支を公開するのは、みんなして協力してつければいいと思います。台所に鉛筆と家計簿をつけておいて、子供が使ったときには子供が、おばあさんが使ったときにはおばあさんがつけるというように、鉛筆をふらさけておいて一人々々がつけてみたらわかると思いますけれども……

田村 私どもでは家族だけでなしにその人が入っているの、入金はあるが入金伝票を書いて出す。お勝手の方は女中さんにお金を渡してつけさせていますが、全然他人の間ですけれども、全部明らかにします。収支が明らかですから主人の交際費も店の者が全部知っていて、明るくやっています。

吉田 管理は主婦がしたらいいと思います。

樫八重 私は結婚当初、家計簿をつけ始めたのですが、そのときお姑さんが使つたらお姑さんがつけたらいいと思ったのですが、家計簿をつけるのに一番反対だったのは姑

盛 お嫁さん自身も悪いのですね。折があれば隠していくら自分で持っていて、それを家族には教えない。お母さんはお母さんで、なんか機会があれば自分で持っていて、隠して教えない。そういう点が非常にありますね。ですからそういうことでなしに、もっと建設的にならなければいけないというように、やっぱり啓蒙する必要があるのじゃないですか。

司会 そういう状態からどういうふうにしたら抜け出されるかというところが問題ですね。先ほどことに長男の嫁の立場は非常に辛い。どうやったらそういう状態をうち壊せるかというように出ていきましたが……

服部 さっきの鹿見島の方から、お嫁さんが自分で積極的にならうということを話せたいという御意見がございましたが、私の近所ではたいへんうまいっている例を申し上げました。そのうちではお姑さんが大体収支の全体を知つてやっていたら、来られたお嫁さんがやはりその通りやっていたら、だから私はお嫁さんへすぐ行くという段階はちょっと難しいので、やはり現在のお姑さんたちがまずそういうふうに進んでいったら、お嫁さんもそういうふうに進めようと思うのですが。

司会 お姑さんがみんな知っていれば、お嫁さんも知っているというのは、あとから誰か受けるというのですか。

吉田 私どもは兼業農家でしたから、母も教員だったものですから、非常にうまくやっております。

小林 農家の現状としてはそれぞれの人をそこへ引きつけるということはまだできないと思います。ですから主婦なら主婦がなにを使つた。学校へいくら出したということを一々々に聞いてつけなければ、なかなかそれはできないと思うのですけれども。

日高 しゃもじを渡すというのはいくつくりのときですか。

樫八重 私どもの方の習慣でしたら、お姑さんが死んだら、後家さんになると弱くなるので、息子の子の代にならばお嫁さんのものになるんですね。

盛 そうですね。

大浦 それは家庭の封建性だと思ふのです。家長制度がまだ残っている。女の一生を考えると、お嫁の時代は非常に辛い思いをして、旦那さんが戸主になるとちょっと羽振りなきかして、旦那さんが死んだらまたまた小さくなってしまふ。そういう封建性を打破して、みんなが楽しく家庭生活を送るようになりたい。お年寄も収入の道を傳じて、もっと家庭生活を明るくしたいと思うのです。

司金 両親の収入と若夫婦の家計を分離するという意味ですか。

大浦 そうじゃなくて、昔は隠居ということがあって、親が年をとって息子がしっかりしてくると、家督を譲って隠居の立場になる。そうするとお父さん自身発言権が小さくなる。悪い息子になると自分勝手にやりたい。奥さんいままでも辛い思いをしたのだから、これから自分の思うようにしようということになります。

井口 そのことにつきまわしていい例がございませう。私のところからちょっと離れたところなんです、お母さんがお小遣いがないから、お米をそっと娘のところに持って行って売って貰っていたのです。お米が少なくなっているのがわかって家庭争議が起きまして、別世帯をやっていくという事になったのですが、年をとって別世帯になってもやっていけないので、息子の方からお母さんに一年に何俵かお米をやることにして、いままでの暮らしを全部出させて、解決をつけたうちがあります。ある程度年よりにあけないと、そういうことになるのじゃないですか。

司金 そのうすことと一軒の中に二人の主婦がいる形ですね。どちらかに実権があると、実権のない者がそういうことをすることになる。

井口 農家はお金をとらなくても、お米でも豆でも麦で

も、知らない間に売れるものはいくらでもありますから。飯米が足りなくなつて始めて問題が起る。(笑)

盛 それを専門に働く人があるのですよ。

吉田 安くたたいね。

柳川 私はその問題について、根本的な考え方から、家庭内で一対一でやりますといろいろの弊害が起りますけれども、部落全体の婦人が一緒になって密合いを持つとか、会談を持つとかしまして、これをどういうふうにするか、うちはどういうふうにするかというふうには、全体で力を合せてぶつかっていいけれど、お姑さんなんかもあると思えます。私の村でもモデル部落になりましてから、部落全体で力を合せようということをやっていたら、簡単にそういうところから始めたら、割合にスムーズに解決されました。部落全体の婦人が団結して、その方面に当たって行くことが必要じゃないかと思ひます。

田村 柳川さんの場合を例にすると、部落の有力者の方たちが先立ちになってやっていると、気がするのですが、その人たちが反対した場合、押して行くということができませんか。

樺八重 普通はそれなんです。封建性の強い鹿児島でも、相当の年輩の有力者の方で、昔から奥さん、奥さんと

言われているような人で、進取の意がある人があって、そういう人がリーダーになったら、わけなくついて行けるだろうと思ひます。でもそういう人が私たちの場合ありません。私たち婦人会に出しても、四十五以上の方に押されてしまっているのです。よいリーダーがいらないということが致命的で、いつまでも改善できないのです。

井口 お姑さんとお姑さんの会合を聞きまして、お互に話しあつて、お姑さんとお姑さんのいい例を取り上げて、二組でも四組でも書き上げて、広く公開して進めていくのが、私はいいと考えております。そうしたらあの家がこんなだから、私の家も無茶言っちゃいけないということがお姑さんにもお姑さんにもわかつていいと思ひます。

司金 皆さんは家計のやりくりを受け持っていて、いろいろの工夫をしていらつしやると思ひます。先には農家の方から、どのように支出の面を考えていらつしやるかということに入つて行きたいと思ひます。

吉田 先ほど服部さんもおっしゃったように、計画的に消費生活をやることが一番大事だと思ひます。最少の支出で最大の効果を上げるようにしたいと思ひます。

それからつけ放しでなく、必ず反省して検討してみる必要があると思ひます。

司金 計画的にという御意見ですね。ことに皆さんがどういうところを重点をお置になつていらつしやるのですか、計画といふにしても衣服も、食べるものも、住宅の修理も、その他いろいろあると思ひますが、それから先ほど話が出ましたように、記帳ができない人も多くあるわけですが、皆さんの御意見は家計簿をつけないといけない主婦が中心にならないといけないことにまよつておりました。そういう立場にある主婦としていかがでしょうか。

小林 その計画的に使わなければいけないということ、まずなにか一番緊急を要するかということ、やっぱり家族が話し合えばわかると思ひます。ですからそれを上手に使つて行くことですね。農村の方を見ますと、秋にお金が入りますとなんだかつまらないものをむやみに買つてしまつたりしているように思ひますが、そのところを話し合つて、衣服を買うときにも衣生活の設計というふうなことも非常に大切なことだと思ひます。

柳川 私どもの部落では家計簿をつけないといけないというふうには、生活改善をやつていきました。農家ではお金がほしいそれにはどうしたらいいかということで家計簿に入つて参りまして、部落全体で共同の家計簿をつけて話し合いを持ちまして、その結果を反省しました結果、一か

年の収入ははつきりわかりますから、収入から支出の分—肥料代・税金等を全部差し引いた残りを十二で割って、そうして一カ月の計画を立てるといふ進め方をしております。端境期はなんにも買わないといふような無計画な家計はやっていけないという話し合いをして、割合によくしております。現在実行している方が何人もあります。

司会 柳川さんのところから理屈的な話が出ましたが、やはりモデル村になっていらっしゃるからだろうと思えます。何年くらいかかりましたか。

柳川 私の母が二十年前からやっております。(喧声しきり)お姑さんがお嫁さんをいじめるということは、こちらに伺って始めて聞きました。

盛 十二に分けておくということでしたが、被服費はどうするのですか。

柳川 本年は佐賀の方は農協の御指導で、害虫駆除などを動力噴霧器でやりました。お蔭さまで反当り九俵、十俵でございまして(噴声が洩れる)割合楽な生活をしておりますので、三反強以上のお百姓は県庁の部長級以上の収入があるというような状態で、衣服のようなものは割合に買っております。

盛 被服費は割合にまともったお金を必要とするわけですが。そうしますとまともったお金を十二に分けた中から

柳川 はみ出すところはいっしょうけんめいしまつしていらっしやるのですが。

司会 柳川さんのところでは、生活費に使える金額を十二に割っておくということですね、よその例を少し紹介して頂いたらと思いますが。

服部 私部落の方のことは申し上げないで、私個人のことを申し上げたいと思います。私のうちは計画的にやるという意味から、大休年末に家族会議を持ちます。そのときに来年はどういうことをしようかということ話し合います。いままでの生活改善の面から見ますと、最初に台所改善をやりました。その次は衣の方の新調に重点を置いて、今年は食の方をもう少しおいしいものを食べようというところに進んで来しました。そのことはみんなの話し合いできめます。それで予算が大体ついてますから、一カ年の収入からそれだけ大体出して、残りを貯金なども少し見まして、残りを割って月額を出します。それで私どもの方じゃ家計簿がいくつもあるのです。全体的なものは私が持っていて、私の家計簿から主人の小遣いがいくらか出ております。主人は家計簿を持たない性質なものですから、私も大ざっぱに見て月ぎめで出してしまします。長男にいくら、長女にいくら、次のは中学ですから月にいくらかと決めてやっています。それぞれに皆家計簿を持たしてあります。

出すのですね。

司会 十二に割ったものが食べるのにぎりぎりというような感じを持ちますが、衣服の購入費まで相当に含めるような金額になるわけですか。

柳川 なるところもございまして、ならないところもあるらっしゃると思いますが、とにかく一カ月にこれだけ使っているという目当てをつけることが目的で、そういう方法をとっております。

田村 さっきの、現物をやはり金銭に見積っておつけになっていらっしやるのですか。

柳川 それは難しい農業経営簿になりますから、私どもの部落では農業経営簿が今度部落で世話会青年部の方が、五、六名でつけるような指導を農協の方と普及事務所の方からして頂いて、私たち主婦がつけているのは簡単な家計簿です。

田村 毎日の消費するものは当然入るわけですね。それがないと家計全体が見渡せないでしよう。

柳川 当然入ります。お米などはありますからつけませんが、つかったものだけは全部ごく簡単につけておきます。

田村 衣服費は相当金額が張りますが、はみ出さないのですか。

小学校五年の子供でも、母より何百円と書いております。

ですから物を買う場合には非常に計画的になるのです。そういうふうな計画を立てて進んで参りますとたいへんいいのじゃないか、衣類の新調は話し合いで希望を出しまして、取捨選択して来年に廻すとか、今年買うとかして参ります。

盛 農家としてどうしてもなければならぬ作業衣はどうするのですか。

服部 それは通過するわけです。みんなわかっていますから……。

井口 私のところはいつも赤字々々できゅうきゅうやっておりますから、どうしてもやりたいと思う台所改善などは、お金があってもなくてもやるといふ計画でやっています。私の部落で改善をしたのは私の家一軒ですが、便所もお風呂も台所も、お金もなしに改善しました。農協から借りたり、親のところから借りてやっていったり、お金があるからやっただけという言われましました。借金までしてやったのだといいますと、借金をしてまで台所を直そうと思わんとおっしゃるが、借金をしてもやったら、主婦の日常働くところが楽になるので、苦面をしてでもお金を産み出してます。どこから出そうと思わなくても心構えがあれば少しづつは返して行けます。計画を立ててやるということとはで

きないのですか。

司会 借金をしても婦人の生活に関係のある方面にはお金を使うということですね。借金の話が出ましたが、家計の苦しさ、やりくりの難しさという面にもふれてゆきたいと思います。

本津和 私どもは非常に恵まれていないのです。村の状況を申し上げますと、赤字を出すのが半分以上です。予算を立てようと思っても立てられないところが多いです。収入と支出を較べて、支出が通かに出ることをわかつていて、山があるものですが、ぼつぼつ山の本を伐って穴を埋めたりしているのですが、根本の問題は収入と支出のバランスがとれないということです。

井口 山の本を売った収入があるわけですね、本津和 それは収入とみなすよりよいよせれば儲けたときにそれを残るのです。それを当てにすべき俸賃のものじゃないのです。

司会 赤字が非常にひどいので予算など立てられない状況だ、穴埋めするのがいっぱいということですが、その点を。本津和 現状としてどうにか収支がつくなっているのが半分ですね。あとは赤字ですね。

日高 その赤字の原因をどういうふうにお考えになつて

うなんです。予算なんか立てられないんです。どうしても最低生活するのに二十万以下では予算が立てられない。ところが実体は十六万しか収入はない。支出だけは来年の参考にしてつけておられますが、予算の方は立っていません。今年は子供が入学するから服だけは買わなくちゃいかな、赤ちゃんが生まれるから、どうしてもその用意はしなければ……。

司会 皆森はいかがですか。

盛 耕作反別が多ければ非常に楽なんです。五反、六反になりますと、支出はつけられても全然収入の方と合いませんから、やっぱり予算を振り振るというのとはなかなか難しいですね。

佐東 耕作反別は二町近く、収入が二万九千五百円、支出が二万九千四百円ぐらいある農家で、収入は麦・落花生・みかんときまっておりますから、農協に借金をして、麦でも売ったら農協に払い、お諸を売ったら農協に払いして、プラス・マイナスしてみると一年の総計が百円ぐらいの収入になりますけれども、借金をしては払い、また借金をするというように、いつまでも借金から抜けきれない現状です。

井口 やつと払ったと思ったら、また借金しなければならぬのです。

いるのですか。

本津和 最低生活で現金を出さないようにしているのですが、収入が少いのです。

井口 土地によって三反くらい作っていてもお米が十俵とれるところもあるし、私のところのように五、六俵しかとれないところもあります。一町作っても三反作っていても同じになるということになりますので……。

本津和 余体的に収入が少い。お米も一回しかとれませんが、なにを作ってもそれはできが悪いのです。

盛 それを補うための副業は？
本津和 それは主に麦を作っていますが、いくらもとれないから、山に入って木を伐ってくるわけですね。日雇をするわけです。一世帯が五、六人として一町一反やらなければ平均がとれないのに、六反しかない。足りないから稼ぎで補うのです。

司会 稼ぎというのは山で木を伐るのですか。出稼ぎにいくわけですか。

本津和 出稼ぎも多いところですね。昔からアメリカなどに……。山の本を伐ってしまったらもう先がないわけですから、副業を考えるわけです。

司会 ほかの方はいかがですか。
日高 私の方は貧乏の専門なんです（笑）ほんと

司会 小林さんも改良普及員として方々回っていらっしゃるのですか。

小林 農家によって非常に苦しんでいらっしゃりながら、おつきあいのためにどうしても出さなければならぬので、そういうところに非常に無駄があると思うのです。

司会 現状としては非常に無駄があるけれども、全体としての赤字の上で、もし無駄をなくしたとして、その赤字が越えられるような状況ですか。

小林 その点よくわからないのです。よくわからないけれども、そういう無駄をほんとうに検討してなくしていって、ある程度やっていけるのじゃないかと考えますけれども……。

田村 大体農村の人口について皆さんどういうふうにお考えになつていらっしゃるのですか。

本津和 子供が多いところが結局……。しまつしてある程度節約できますけれども、子供が多ければどうしても抜けきれない。計画出産といいますが、働き手があるので五六人は雇むのです。考えている人は極力制限しております。

田村 収入に対して人口が多ければ非常に無理ですから……。

司会 家族数と家計の苦しさということを関連させて皆

さん感じていらっしやいますか。

井口 切実に考えておりますね。

司会 手間が増えるのはいくらに？

出口 手間が増えるのは十年くらいに、子供が六人で働き手が二人でしたら食い潰すだけで、事実上どうしても借金から抜けられません。果樹でも植えなければ子供を嫁入りさせることもできないということになります。

大浦 これは農業科の生徒がやった原価計算ですが、結論を申し上げますと、石当りの生産価格四千八百六十八円と出たのです。指導した先生のおっしゃるのにはこれでは少し無理がある。一割五分増しにしたものが大体農家の生産費だということです。そうするとこれに千円くらい加わりますから、五千七、八百円石当りかかるのです。これは支出です。生産費ですから、そうしますと私の方では反当りで大体七俵、よいときは八俵、九俵とります。こういうふうには農業技術が進んでおりますから、見積りは少くても実際収入が七俵半を割ることはほとんどない。そうしますと、五反作っておりますも相当な赤字です。ですから子供がたくさんなくて、たとえば両親と長男夫婦という非常に少しの家族で生産を挙げているところは、ほとんどん俵がよくない。ところが五、六人も子供がいて、生産されたものはみな自家消費されるところは非常に苦しんで

ような教育を受けないで百姓の出稼ぎに行っている状態です。二、三男の人はどうして暮すかということが、日本の農業にとって一番考えなければならぬことだろうと私は思います。

日高 赤字の問題は統計的には朝鮮事変が始まったころから、米の値段と外から買ういろいろな農産物商品です、あるいは生活の必需品、そういうものの物価との開きが十分大きくなっている。それでなにかそういうことを切実に

お感じになっているかどうか、その点を。

本澤和 私の方は瀬戸内海から十里ほど奥に入るのですが、買うものは非常に高い、売るものは輸送費がかかって安くなる、それで昔からアメリカやハワイあたりにたくさんに出稼ぎに行くところなんです。分水嶺で、山の中ですから値段がそれにつれて上っているのです。

井口 鶏なんかを飼いましても、何羽以上は税金がかかるということ、なんでもかんでも税金がつくし、売るのは安くて買うものは高いし、税務署だけだったらまだや

って行けるのですが、それが個人の収入に入りますから、住民税やなにかにも響きますよ。

司会 ちょっと待って下さい。赤字になりますと皆さん興奮しますから（笑）負債が重なる、借金で苦しんで返しようもなくなったときはどうするのですか。

おります。ですから切実に産児制限という問題がとり上げられております。

井口 貧乏人の子沢山といつて、貧乏の家ほど子供がゴロゴロして、教育を受けさせないのにお金がないから、中学も出さないで百姓をさせる。手があるから機械力を使わないで、えらい労働をいつまでもしている。子供を制限して子供の教育をさせてやりたいし、農家の経済として三人しか教育をつけてやる力がないのです。

出口 子供は、学校がありますので、そうはいえませんが、非常に忙がしくなれば人を雇わなければならない。農耕していない女の方などに子供を預けておいて自分は農耕するというわけで、教育が普及しておりますから、子供をあまり労働力としてあてにしませんね。子供はかか

司会 東北ではその問題はどうですか。

盛 やっぱ同じようなことですね。

司会 農家の赤字の問題が出てきて、一つには子供の数もう一つはその収入が少な過ぎるのじゃないかということが出ていました。

柳川 耕作反別は少ない、二、三男はどうなっているかというところが、これからの農家の一番大事な問題じゃないか。二、三男はいくらかの田圃を持って、そういう

本澤和 それは終戦のときに一時農家がよいときがありました。それが、そのときに一応解決ついたので。そして一応借金が整理できたのですが、それからまた始まっているので、その間がいくつもないのです。

井口 借金が重なって田圃を売り山を売って貧乏をしようのようですが、前の生活が忘れられないので、また借金をしてやっていくので、しまいは家だけになったり、またなりつつあるうちもあります。

本澤和 引揚者や疎開者で百姓やっていた人はほとんど出て行きました。やって行けないんです。

司会 農家の赤字についてはどういうふうにかかるとか、またその赤字をどういうふうにか減らしていったらいいかということが問題点だと思うのですが、その点を。

日高 赤字が婦人の方にしわ寄せされて、婦人が非常に苦勞するという問題を考えて頂きたい。どうやったらその赤字から逃れることができるか。というふうなことで進めて行きたいと思います。物価の問題ですが、売るものは安く、買うものは高いとか、税金のかけ方がいろいろの形でかけられて非常に困るということが先ほどから出ておりますが、いかがですか。

吉田 赤字について悩みながら、また赤字を作っているのが婦人じゃないかと思ひます。冠婚葬祭に虚栄心のため

どうしても商人に渡されるので、その憂いがないために農協の方で内金を渡すのです。

それから村内全部に放送設備ができておりますから、たとえば今日の夕方、「午後十時ごろ阪神に出すのは出荷します。」という朝の市況が手に入りますから、市況がよかつたらどんな出荷します。そういうふうにしめますから、肥料も扱うし、農協の仕事がうまくできているので、皆さんが五十パーセント以上一緒に出荷しております。

佐藤 農協婦人部の結成の状況をお聞きしたいのです。

服部 私の方は上から作れといつてべつにお話があったわけじゃないのです。ちょうど私が婦人会の会長をしておったときでした。そうして方々に農協が生まれておったのです。それで私は実情がわからなかったもので、よそのを聞いてみて部落でこういう会ができていっていることを話したのです。私のところは九十九パーセント農家なんです。それでぜひそういう会を作つて、それと一緒に婦人部も同じ要領で進んだらよからうというので、組合長さんにお話したのです。ですから根本的に下からできたのです。

佐藤 婦人会の会長と農協婦人部の会長と一緒にですね。服部 私の方は九十九パーセント農家ですから、同一で

進んでいるのです。

司会 農家としては、毎日消費する食物や衣服だけでなく、肥料その他の面で、相当大きな購入があると思います。が、その面はどうでしょうか。

木津和 農協そのものがやっぱりわれわれ同僚費しいので、あまり活躍できない立場にあるのです。

司会 仕方がないということですか、現状は……。

井口 お米の肥料は差を売ったときにとるようになって、非常に私の方は融通してやってくれます。出資金にしても、ボスはたくさん借りて貧乏人は借りられないということとでなく、一律に一万円借りられるようにしています。一万円以上借りるときは人の名前を借りて借りるわけです。

司会 肥料の値段などがいろいろ問題になっております。先ほど買うものが高いという御意見が出ております。その辺で自分たちの売るものと買うものの値段についてお考えになったことないですか。

大浦 米で切実に感ずるのですが、私は今は供出しませんけれども、昔は供出しておつたので、供出の価格を知っておるでしょう。米が足りなくなつて買いますと非常に高くなるのです。たとえば政府の買上げ米と、私たちが買つて食べる米との間に非常に開きがある。いまじやほとんど開と変りないほどの開きがある。それをなんとかねえ。売

る人もこんなに安く売っておりながら、町の人はこんなに高く買つておる。これがなんとかならないかと思ひます。盛 私の方はお米の間の値段が供出より安いのです。ですから町の消費者の人たちも、お米のたくさん出るあたりは配給米を全然断つてしまつて、闇をかうのです。(笑声、嘆声)

司会 女の方が赤字を克服するために副業をやる、そのために女がますます忙しくなつて、赤字の苦しさが女にかかると思ふのです。

木津和 私共では節約では間に合わないで、積極的に現金収入を得る道を考へているわけです。今、養鶏をやっていますが、家族が協力してくれるので大したことありません。

司会 それはど女の人に負担にならないでできるのですか。

木津和 養鶏は何時間も時間をかけることはないのです。一日三、四回、一回に三十分もあれば大抵用事が片附くので、ある程度利益を上げれば家族が協力してくれますよ。

盛 副業の場合に考へなければならぬのは、副業をやることによって本来の農業経営に支障を来たすというか、本来の農業経営が影響を受けることを考へなければいけないと思ふのです。たとえばわら工品というのが副業に大き

く取り上げられるのですが、ただしわらは堆肥のもとなんです。堆肥というのは農業の原則から言うところ、田から上つたものは全部田に戻すというのが理想的なんだそうです。けれども副業をしなければならぬので、ある程度わらを田から持ち出すのは仕方がないので、副業々と目先の金に氣をとられて、結局田の地力を弱めることになる。地力というのは今年、来年にはすぐにはわからないかもしれせんけれども、長い目で見れば本来の農業経営の方が非常に悪くなつて行くわけです。ですから副業のときに、程度ということ考へなければいけないのじゃないでしょうか。

榎八重 副業の問題なんです、私たちが零細農は養鶏でもなんでもやっぱり本業なんです。

司会 副業を含めて生計を高めるといふことですね。盛 一つ申し上げたいのですが、副業はただ内職的に努力を非常にたくさん投入しても、それから得るお金が少い

としたら、私も少し考へなければならぬと思います。女の場合ですと、小規模な畜産ということが非常に能率的じゃないかと思ひます。副業の能率といふことをもう少し考へなければならぬ。たとえば家畜ですけれども、家畜の食べるものは人間が全然食べることができないものでよい。そうして非常に土地が廻くてもできる。そういうよう

なものを利用して、捨てるものを一度家畜の腹を通して、家畜に生産して貰う、そういうような考え方を女の人はもっと持たなければならぬと思います。

司会 女の人が生産に参加するときは、もっと能率的にしたい。働きに対してそれだけの利益がなければつづらないじゃないかという御意見でございますが、大事な問題ですから、この点討議して行きたいと思ひます。

本津和 農家の場合は算盤では収入が少くても農業経営の一環としてそれをやることによって農業生産を高めて、収入を得られるものが多い。それで私のうちじゃ養鶏・飼羊・山羊を飼っておりますが、私のところは牛の本場なんです。五反、六反あれば牛が飼えるのですが、二反しかないから牛が飼えない。牛が飼えないから中家畜をもって来て、鶏糞などを畑に入れますから、以前からみて地方が肥えて来ました。

佐東 生産面を高めるということじゃなく、生産コストを高めるということで、乳牛を飼っておりますが、私の例を言いますと、みかん畑を経営するのに乳牛を入れていいます。そうしますと先ほど青森の方がおっしゃるように、家畜の腹を通してやるということは、同じ肥料をやるにしても、そのままやっても家畜の腹を通してやっても変わらないとすれば、家畜の腹を通すことによって乳牛も飼えます

農村に参りますとよく考えないで、ただがむしやらに働いている傾向がみられますが。

小林 私が開いた例ですが、一般の低いレベルの人たちは、目先の利益に動かされて、アングラ鬼がいいという借金して買ってみたり、あれを飼ったりこれを飼ったりで、結局非常に困っているという例を聞きました。

司会 家計が苦しいと長い計画が立てられないので、結局損な結果に終るといふことですか。

盛 農業は気候によって非常に左右されるので、私たちにはどうにもならないということもあるのです。

司会 赤字をなくすということですが、節約の方はあまりお話に出ないですね。

日高 女の人の立場として、女の方の支出を節約する面はほとんどないのじゃないですか。

盛 一番下の方なんですから、それを節約したら餓死しちゃいます。(笑)

司会 気候といえ九州はたびたび災害がありましたね。そういう場合非常な赤字が出ると思いますが、その辺の事情を。そういうときに農家はその打撃をどういうふうに受け止めていらっしゃるのですか。

井口 自然の天災に遇ったのじゃございませんけれど、私共が農業に入った動機が、主人が戦後の栄養失調か

し、その腹を通した牛肥は早速みかん畑の肥になります。また搾った牛乳や、とれた玉子を全部安く売って高い魚を買おうということでもなく、自分の生産した牛乳や鶏卵の新鮮なものを食べることにすれば、安い生産値で家族の栄養をとったことになります。

盛 結局能率的だということになりますね。

櫻八重 いまの副業して豚を飼ったり鶏を飼ったりしても、お金にならないうことですね。算盤をはじくのは大切なんですが、一年々々はいたら、私の経験からしたら、豚飼いは、鶏飼いは、どちらかというと不利なんです。大体波が三年毎、二年毎にくるのでね。卵価の低落するときもありますし、豚なんか四十円の時も百三十円の時もあります。二万円出して買った豚が二年飼って一万八千円にしかなかったときもありますし、四千円で買った子豚が一年で三万円に売れることもあります。ですから豚の親を売ったら必ず豚の子を入れておくというように、現在に換しそうな傾向であっても入れておく、鶏も三十羽飼っていっぱいいっぱいですけれども、三十羽売ったときは二十羽なり十羽入れてずっと続けて行くということが大切だと思ひます。

司会 やっぱ長い目で計算して、高い収入として返るようになるといふことですね。

ら肺結核になって、非常に費用がかかってやりきれないということなのですが、それで栄養を十分に取るため、農協から借金をして乳牛を入れました。そうするとメソコを生んでくれたのですが、内臓炎になって駄目になってしまったので、また借金をして十四万円で買い込んだのです。それで九万円ほどの借金ができてしまったけれども、またメソコを生んでくれたので借金だけは返せることになったわけですが、なんとかやれるという希望を持っていたのでやれたのですが、希望がなければやっていたいけないうね。

司会 そういうときはお宅では借金を最大限に利用しているというお話ですが(笑)希望を持ってやるといふことが一番だということですね。

本津和 希望っておっしゃいましたが、技術を修得すれば損しないでやって行けると思うのですが……。

司会 大きな災害に遇ったときは、どういうふうにやっていきますか。

日高 それから病氣などになって医療費が嵩んだ場合、どういうふうにやっていますか。

出口 一方的な農家は天候相手の災害にすぐベチャンコになりますから、多角的にやることですね。

盛 土地があればそれができるのでね。

大浦 そんな場合、まず学校をやめさせるということば

ございせんか。

出口 なんとか頑張りますね。学校にやらす会社にやっ
たという例が、私の方にたくさんあります。前はよかった
けれども、いまはじりじり弱って、非常に困っているとい
う家庭ですね。

小林 私の県は非常に災害が多いので、あきらめの農業
というくらいで、あまりいっしょうけんめいにならない。
去年、おとしはあまり災害がなかったので、そういうと
きにいっしょうけんめい蓄えなさいということを言ってい
るのですが。

日高 災害の援助費の分配はどうするのですか。

出口 それは反別によつて来りました。

盛 とても狭い面なんです、今年は天災で非常に減収
している向がある。そこで今年は天災だというわけで、義
務供出が非常に少なかった。ところが突如にみますと天候
が回復しましたおかげで平年作以上だ。そうしますとそこ
に幅ができる。その幅をどうするかというと、非常に備け
たという気持ちが緩みになって、どんどん消費してしまふ。

田村 家計を家族のみが知る必要があるということだ
したが、女の人の働いた分は何かの形で女の人のところま
で廻ってきているのでしょうか。

田村 商業をしておりますと、商品による収入はつけら

きなさい。これは主人にも見せないで雑巾の底にしまつて
おきなさいということになる。

野田 そこをみんなが相談して、お嫁さんに使えるよう
なお金を渡すということできないのですか。

大浦 そこに持つて行きたいというのが私たちの願いな
んです。

野田 結局、帰するところは封建性が邪魔をするといふ
ことになるんですね。

本津和 自分が主婦になる場合、家人と一緒に働くから
権利を持っています。かか天下の家はほとんど主婦が握
っている場合が多いです。

司会 お嫁さんは働いているのに使ってお金に非常に不自
由です。働いているのは認められていないのですか。

大浦 それは当り前なんです。手がいるから嫁を入れ
たのですからね。

司会 働くのが当り前なら収入は当然そこに戻ると思う
のですか。

柳川 私が明るい例を申し上げますと、奥さんが四十八
なんです、その方が全部実権を握って、御主人には三千
円、長男に千円、長男のお嫁さんに五百円というふう
の始めに分けて、それによって生計をやりくっていらっ
しやる。そうして緊で発表なさいましたときに、長男には千

れるけれども、主人だけの突然の収入がある場合がありま
すので、主人だけで別な帳面を持っておりまして、その収
入を書き出してくれるので、予算の中にくり入れて明らか
にして使っています。

樫八重 うちは、発言権は同等に持っていますけれど
も、本津和さんもおっしゃる通りに、配分しようといつも
も配分できない。女の方に貰うといつても自分で貰えない
という事情ですから、ほんとうに貰っていませんけれど
も、べつにそれ自身不平じゃなくて、結局お金のないこと
が不平になる。

大浦 若いお嫁さんの場合仕度をよくするところは、極
端に言つと一生使えるものを持つてくるのです。嫁家では
なんにも作つて貰わない。小遣いはなかなかくれません。
それで儲けができないものはうちに帰って、さに行つ
てお母さんから儲けりを買つてくる、そんなふうにしてお
嫁の時代はさとの仕送りで暮らしている子供が生まれてくる
と、普段清・負いのこ・乳母車から始まつて子供預りまで
持つて来ます。ほとんどすべて持つて行きます。娘一人持
つたらたいへんなことになる。

野田 お嫁さんが自分だけ使えるお金貰えないのです
ね。

大浦 小遣い貰えないから、三万円なら三万円持つて行

田、お嫁さんには五百円、それは男女別権じゃない。お嫁
さんにも千円やるべきだ……。

盛 お嫁さんにはほんとうはもっとやってくれなければ
ならないのですよ。子供がおりますから。

田村 その額についてはなにか基準によつてきめられて
いるのですか。

柳川 御主人は酒を飲むし、奥さんは化粧品を使うから
このくらいでということ……。

田村 消費の多い人が余計貰うということになります
ね。

盛 それはやっぱり民主的じゃないですね。

柳川 お嫁さんはお嫁さんをはじめという意見ばかり
出てるようですね。そして若い者は若い者の意見を聞
きばかりが能のようになっておりますね。

大浦 お嫁さんは決していじめているというように思っ
ていない。それが普通だと見ているところに問題があるの
です。

樫八重 家庭の平和が嫁の忍従によつて保たれているう
ちが多いのです。お姑さんがそれを当り前だと思つてい
る。

盛 周囲もそう見ているのです。

服部 私の部落の婦人会の会合で話し合つたときの状況

を申しますと、先ほど出ましたようにお嬢さんと旦那さんというよりも、年寄りと若い者という対立が強いのです。そのことは男の方からも言われました。最近の傾向として、私の部落では暮にお嬢さんも五千円、息子さんも五千円貰って、それ以外に若い者が出稼ぎに行く場合は若い者の収入にしようという話が出ました。周囲の人もうらやましいというので、まねをしはじめ、だんだんそれが拡がって行き、次第に若い者と年寄りの家計が別になって来たので、生活が非常に難しくなってきました。

司会 収入の多いところは分けられるのですが、収入の少ないところは分けられないので問題が出てくるということですね。家計の中でどの辺が重点で、現状はどうなっているか、また皆さんがどういう方向に進めてやって行きたいかというのを各費目について……

日高 農業経営に必要な道具・機械をどういう仕方で買っているか、そういう問題も出して頂きたい。

盛 一定のきまつた収入の中ですから、家族みんなで相談して、やっぱり重点的にやるよりしょうがないのじゃないでしょうか。私たちがしたら一番先に生産に必要なものに重点を置きます。機械を買うという方面に重点を置いて、それができたら、その次にはやはり住宅の方の生活改善、それができてから次には衣服の改善、そういうふう

らば問題が起るという点からくるのです。その流れてしまってお金が多いのです。

田村 それが普段の家計費に対してどのくらいですか。年間収入の倍くらい出てしまおうとか……

盛 水田一町歩の経営——私の方では普通一反歩から普通ですと九俵くらい上ります。いい年ですと十二、三俵上ります。そういう家庭でどのくらいかかるかといえますと、四十万くらいかかるのです。計算して御覧になればわかると思います。一俵の値段が供出ですと三千四百いくらか、超過供出ですと四千五百いくらかになります。それで計算すれば分ると思います。

司会 そういう方面に家計費が流れることが非常に大きいわけですね。

盛 家計とのつりあいというのでなく、つき合いですね。あっちのうちから呼ばれたから、うちのやるときは必ず呼ばなければならぬ、というので費用がきまるのです。

井口 とても義理言うことがあるのです。義理につまされてしようことなしに使いたくないお金でも使うことになる。

司会 家計にも義理が響いてくるということですね。

井口 自分では改善したくても、非常に悪く言われるの

に乏しい家計の中でも重点的にやって行かなければ、なかなかできて来ないのじゃないかと思えます。

司会 生産に重点を置いて始めるということですね。

盛 全部少しずつ分けるというよりは、たとえば生産の方の設備ができてからも、と生活の水準を高める方に進む。最初には人としての過重労働からの解放、それから生産費を安くする。私たちはそういうふうなやり方、生活を考えて、そっちの方から入って行くように努力しています。

田村 宮崎の小林さんから冠婚葬祭の費用が多いという例を聞きましたが、うちの女中の例で申しますと、その女中のうち、うち中働いており、本人も一年足らず私のうちで働いているのですが、今度お嬢さんを貰うので、お前の貯金を全部持って来いという親からの指図が来たのです、どの程度使っているのですか……

小林 それはその家によって違いますから、十万円とか十五万円かかることもあるけれど、その家によってですからわかりませんが、私のところはそのときの飲み食いに使う費用が多いのです。有効に、娘にミシンでも買ってやりましょう、生活に役立つものを持たせましょう、新世帯に必要なものをというふうなところに使えばいいのですが、いろいろな人を呼ばなければならぬ。それを呼ばなかった

です。

日高 義理の問題で、青森は本家・分家の問題が非常に残っているのじゃないか。

盛 私のうちなんか先祖から言いますと四百年近くになるのですが、そういうふうな薄い先祖でも、盛の姓がついていれば必ず呼ばなければならぬ、呼ばれるのはいいけれども、呼ばれれば必ず御祝儀を持って行かなければならぬ。そうすれば必ず五百円以下は持って行かれないので、そういう無駄な費用が家計と関係なしに行われるのです。

野田 愛知じゃ食の方じゃなしに衣の方にかけるのです。お嬢さん三人いれば財産がなくなるのです。愛知は紡績に女の方が九州方面から働きにいらっしゃるのですが、その方たちが衣を主にいらっしゃるので、そのために食が修めになるのです。

本津和 それは残るからまだいいのです。

野田 必要以上に見栄を飾るのです。冠婚葬祭に相当費用がかかるというのを伺いましたが、御先祖の法事に人をお呼びになるのですか。

盛 私のうちではやっておりません。法事それ自体が非常にお金がかかるのです。私のうちでできるだけ質素にやっても、一度法事をするとな万円くらいかかります。そ

れを無理にきりきり切ります。止まらないうちがけでい

小林 農村では楽しみが少いので、冠婚葬祭を楽しみ、あ
すこで呼んでくれたからうちでも呼ばなければというので
す。甚しいのはお葬式があれば一杯飲めるというので喜び
ます。そういった楽しみがなさが大きい原因だと思いま
す。

司会 冠婚葬祭の出費はある意味の娯楽費を含んでいる
という意味ですか。

盛 私たちのところはそうじゃないのです。娯楽費は娯
楽費で結構抜けてなく楽しんでるのです。休みの日はお
金をくすねて映画を見に行く、そういうことは結構楽し
んでいて、そのほかに冠婚葬祭をやるのですね。

柳川 そういうふうな面で冠婚葬祭にお金がいるとか、
お嫁さんにやるのにそんなに費用がいる、いつまでもそう
いうことを言っておっては駄目です、どうやって改革してい
くかを考えなければいけない。そういう方向に進むために
は、私たちが改革しなければ、私たちの子供がお嫁に行く
ときにはしますまいということを書いて実行しました。こ
れだけの御馳走しかないということを書いた者がきまます
と、年寄りの守ります。一人一人やろうと思うと幣割があ
りますから、一緒にやって共同でやって行きたいと思いま

小林 家庭の中に楽しみがないということが根本じゃな
いのですか。

司会 農家では自分のうちで物を作っているの、自
給できることが多いわけですが、それと家計の関係など
のようにお考えになっているか、これもやはり婦人の労
働の問題と絡みますので、取り上げたいと思うのです
が……。

吉田 私のうちでは自分のうちで消費するものはほとん
ど作っております。お米も油も胡麻なども作っております
ので、買うのはお魚とお肉くらいのもなんです。

司会 そういうやり方をして、女の人の労働が多くなる
ということはありませんか。

吉田 私としてはそんなに忙しいということはないので
す。

司会 農業もやっている、家事もやっているという立場
の方は、その問題をどういうふうに考えていらっしゃるで
しょうか。

日高 生活が非常に苦しい、それを切り抜けて行くとき
に、自分の家なんでも一応自給できるものは自給して、
できるだけ現金支出を少くして行くということ、それがい
たいどの程度までできるものか、ちょっと疑問を感じた
のです。そのうち感でなにか別の立場から意見があるた

司会 農村では非常に無駄がある。それは一人々々では
できないから、多勢がより集ってやるということですね。
盛 お葬式なんかの場合は、采配を振るのは死んだ人の
家の者がやるのじゃなく、そのうちの一番近い親戚が来て
全部やるんです。

井口 そうですね。死んだ家の者は親戚に任せているとい
うので、村の関係のない人が来て、世帯も経費の方も全部帳面
につけて、これだけ使いましたというて出すのです。派手
にするのも質素にするのもやる次第です。

司会 農家のそうした習慣を改めなければ、家計も合理
化できないわけですね。

平島 冠婚葬祭も派手だし一方では映画なんかにくすね
て行っているというお話がありました。それは娯楽が個
人本位になっているからだと思います。農家の方たちは農
協とかなんとか団体活動が活発ですから、お婆さんならお
婆さん方で、グループになって団体の遊びを、そうしよっ
ちうでなくても、お盆のようにやるということは考えら
れないでしょうか。

盛 やっていますよ。

井口 踊ったり歌ったりやるのですが、それにも食べる
ものがつくのですね。

らどうぞ。

大浦 私のうちの昔の実態ですが、私が嫁いで参ったと
ころは四反ほど作っておいて、それからほかに年貢も入って
いました。両親がそのときやっていたことを申しますと、
ほとんど村としては中流以上の収入があったのですが、昔
から農家であった関係から、ほとんど現金支出をやりました
ん。男の姉妹が子供を連れて益と正月にくるときだけお魚
をちょっと買う、その程度で、お豆腐も豆を持って行って
お豆腐を賣ってくる。その他衣服を買うことは現金支出に
なりますが、棉を自分で作って、その綿を紡いで賣ってし
たのがまだいまでも残っております。そういうふうにしてほ
んど現金支出をしておりません。いま私たちが婦人会で
見っておりますと、やはりその線に副ってやっています。最
近はいろいろ機械ができましたが、豆腐なども簡単にで
きます。そういうふうにしてすべて自家生産をやっている
関係から、お姑さんというものが非常に力強くなってい
る。ほかからくるお嫁さんはその家庭の習慣になじむまで
はすっかりお姑さんの指図を受けなければならぬ。です
からいろいろな技術を持ってお姑さんが非常に尊いこ
とになってくる。私はある程度農作物を有利に換金して、
できるだけそういう労作から解放されたいと思うのです。

野田 ちょっと質問いたしますが、自給自足ということ

につきまして、労力をかけて家庭で主婦が作るよりも、購入した方が安い場合がございます。たとえば私の方の一の宮というところでは糸が安く買えるので、綿糸や羊毛の原糸を買って農家の人が手機式に織るのです。そうして織ったものよりもお店で買ったものの方が安い場合もあるのには……。

小林 農家は現金支出を嫌うんですね。

司会 家計全体が貧しいから現状としてはどうしても自分のうちで作らなければならない状態があるのです。しかし方向としては大浦さんのおっしゃったことになりました。

出口 農家は現金収入がないために閑を問題にしないで一銭も出さんようにして手機を織るのです。それが現状です。

盛 結局お金がないからですね。

司会 消費者という立場で物が高いということが先ほど出ましたが、このごろは主婦連などは非常に物価の問題を取り上げているのですが、農村はどうですか。買入人がこれは高くても悪いじゃないかということを言えば、物価もそれによって動くと思うのですが、村の方ではどうでしょうか。消費者としての要求ということですね。

野田 消費方面から言いますと、婦人は一般に物価に對

して盲目的じゃないでしょうか。そのときの値段に對してかなり盲目的に高いといつて敬遠し、安いといつては飛びつくという消費心理が多分にある。結局目覚めという問題になります。経済方面に目を開いて、物価の動向を見守る必要があるのじゃないですか。

司会 物を見る目というのはどうでしょうか。

野田 ないですね。ほとんど消費心理ですね。

大浦 そこで私が申し上げたいのは、田舎の学校でよくできる子供は月給取りの子、戦時中から疎開して来ていた子供は良くできる。卒業式に御ほうび頂く人は、あれも大阪から帰った人の子じゃないか。あれは朝鮮から引揚げて来たうちの子供、地から育った子供に誰がいるか。あそこにいるあれはお父さんが先生だから……（笑聲）そうやってくると農村の知識水準を問題にしなければなりません。私たちが苦勞しても知識水準が上らないのです。

司会 この部会は、ほとんど農家出身の方がいらっしやらない。現在やっていたら、戦後派の方が非常に多いのです。農村に行つて、会合で発言されるのは引揚げか、疎開の方ですが、この第二部会もまたその趣きがありますね。大浦さんもそういうことをおっしゃったのだと思うのですが……。

柳川 私終戦後百姓を救済しましてから九年になります。

私一人で経営しているといつてよいのですが、百姓の共稼ぎよりも良い共稼ぎはないのじゃないか、朝から晩まで肥料のこと、農耕のこと、全部話合せてできますから。

それで農村の高校でも出た女の子はお百姓にお嫁に行きたがらない。それは仕事が過重である、経済力が豊かでないということに原因しているのだ、そういう方面を打開して、高校を出た女の子でもお百姓に行くようにこれからの農家を改善して行ったら、農家は発達、発展して行くのじゃないかと思ひます。共稼ぎをして行くのは百姓が一番いいということをお百姓の娘さんに強調して頂きたいと思ひます。

司会 家族従業者として共稼ぎは非常にやりい形だといふわけですか。

櫻八重 そう思ひますね。

出口 私その点で、どうしても畑と炊事で私の方が忙しくなるので、主人に相談して、五時に上ることにしました。ちょっともったいないと思ひますけれども、炊事をゆつくりして、洗濯をやっております。一緒に働くとき女が自主的に主人をそこまで持つて行くように上手に扱うといふことが必要だと思ひました。

司会 農家の相続が世上問題になっていますので、ふれたいと思ひますが、現在は均分相続で、女の子も相続でき

ることになっており、これも婦人の経済力を高める一つの要素になると思ひます。

吉田 大抵私の方は長男が継いで後は皆放棄しております。

井口 分家をしたときだけ分けて貰つて、あとは放棄しております。

司会 それに對して女の方は疑われないのですか。

井口 放棄しないと農家の経営ができなくなります。

吉田 お嫁に行つたものは大抵向うに財産がありませんから、大抵はしがりません。

田村 行くときに相当かかっていますから……。

日高 御主人が亡つたあと奥さんが全部放棄する方が多いですか。長男がいた場合、長男が全部相続して……。

出口 財産は全部長男に譲り、次男には遺産をさせるなどやっております。

田村 お姑さんに年にきまつた額のお金をやるということはないのですか。

櫻八重 女の立場からお姑さんにそれだけやってあげなければいけないと思ひます。

大浦 その場合女が、旦那さんが亡くなった場合は当然遺産を相続すべきだと思います。そうしなければ次にくる息子の嫁さんの良否いかんにかかつて、自分の運命を支配

されるので、その点を申し上げたいと思います。

盛 遺産相続をして分けますと、現在ですと結果としてちりちりばらばらになってしまつて、結局村にいられなくなり、大抵なくなつてしまひますね。現金があればよろしいのですが、大抵農家は不動産で持っていますから、それを分けてしまへばそれだけ生活できないから、不動産を売って金に換える。あとはちりちりばらばらになる例が多いのです。

田村 たとえば地所をお母さんの分としていくらか分ける、お母さんがそれを長男に貸したような形にして、年いくら貰うというふうに、実際の自分の権利として貰うという形にならないものでしょうか。

出口 後妻に入つた場合はそういうことをしますが、自分の子供の場合はそういうことはしないですね。

櫻八重 鹿嶋局では隠居料として、お婆さんがとつておいて、長男に作らせておいてお米で貰うとか、労力だけ長男が稼いでとるか、そういうことは多いですね。

野田 零細農家が兄弟が五人以上ある場合は、土地なり現金を分ける余裕がない、その場合、三男はどうなっていますか。

本津和 職業を求めて外へ出ます。あきらめてしまつてけです。

田村 私共は若いものですから、相当協力していこうという気持は強いのです。ただ商家には、周囲との協同ということは全然ないんです。そのことは私、ちょっと農家の方に質問したいと思つていたんですけれども、戦時中は農繁期の共同炊事というものがあつて、私も三ヶ月ばかりお手伝いに行つて喜ばれましたけれども、今の現状はいかがでしょうか。

柳川 私の村では協同の面については、共同の噴霧機を買つて共同の害虫駆除、それから品物は共同購入という、共同の面には一所懸命努力いたしまして、主婦の家事に使う力を一所懸命やるくいたしております。農繁期の主婦の負担は、家事と農業労働の二重になつて大変なんですけれども、共同炊事に頼みますと、家事労働が全然なくて農業労働一本に集中できますから、本当に助かつております。これは部落全体が協同的な精神をもつということが一番大事じゃないかと思ひます。

小林 私はそれについて、相當に協同精神が進んでいるといわれる部落の、その指導的な立場にある男の方から聞いたことですが、農繁期の共同炊事をなさつたらいいじゃないかと申しましたところが、戦時中、無理やりにした

司会 相続させるものがないから、子供は一人か二人にしておこうということはないのですか。

盛 まだそこまでは行きません。

司会 あとは野となれ……というわけですか。(笑)

盛 そうですね。

本津和 次に財産税の問題がくるでしょう。お母さんが受けたのじゃまた相続するときに払わなければならぬので、それを避けるためにしませんね。

◎協同活動

司会 それでは最後に、婦人の経済力を高めるための協同活動について考えてゆきたいと思ひます。これについては今まで討論の過程において度々論議されてきたところでもありますが……たとえば婦人が経営参加するための技術や知識の習得はグループ活動によるのが効果的であること、また妻や嫁にも家計を公開しなければならぬが、それは家計簿の記入や消費生活の合理化の問題と共に、婦人が中心となつて部落擔つて行へば、案に実行できるといふこと、また農家の貧しさを克服してゆく一つの方法として農協などによる共同出荷がよいという御意見が出ておりました。今までの皆さんの御考えを台せると、婦人の経済活動を活発にするには、協同活動が必要であるということ

時はどうにかやつたんだけれども、それがだめなんですよ、というんです。どうしてかという、いろんなものを持ちよる時なんかでも、共同炊事という一番悪いのを持ってくる、大根でも人参でも、シッポのような悪い所を持ちよつたりなんかして、仕事の分担にしても、あの人はあんないいことをしている、というようなことがあつて、そういう面でなかなかむずかしくてそれができない、というようなことをいわれたんですけれども。

柳川 私の共同炊事の経験を申しますと、お野菜は全部持ちよります。そうしますと私の村では、じゃがいもでも玉ねぎでも、持つて行く時は、共同のものであるからいいものを持つて行く、というふうにみんないいものを持ちよります。

それから共同炊事は、農業普及員の方に指導してもらひまして、それに加勢して頂く人をよそから一日二百五十円で二人ほどお頼みしてやつて参りましたが、農家の男子の方にも大変喜ばれて、今年もぜひやろうというんで、今から眼切っております。公民館の炊事なんか、釜やら何からそろえている状態でございますけれども。

司会 柳川さんのは非常に理想的な、非常にいい例としておろかがいしたわけですが、小林さんのおっしゃるような状況も、まだまだないわけではないということでしょう

ね。

服部 経済生活における婦人の地位という面から見ますと、どうしても問題は婦人の団体を通じて行くよりほかはないと思うのです。その力でやらなければどうしても封建性を打破することもできない。私はまず部落からだと思います。部落の婦人が手を繋いで氣をつけて行くこと、若い人たちは実力をつけて行くこと、自分たちが実力をつけて勉強して、遠慮しないで進んで行くこと、理窟を築めること、そのことは台所改善の例があつて、私のところでは一軒を除いて全部改善しましたが、それをするのに男の会合を三回開いて、それと同時に婦人の会合も盛り上げて行つて共同してやつたのです、それと同時に保育所も国の補助でできまして、その結果非常に喜ばれ、保育所の幼児が増えて来ました。常に生活と結びついて婦人が協同して動いて行くのが一番の道じゃないかと思ひます。

司会 婦人団体としてそういう問題を取り上げて行くという事です。佐賀の柳川さんや服部さんは、婦人団体の活動によって、種々の問題を解決していらつした経験者ですが、今後大いにその点は強調したいところですね。ではこの辺で……。

第三部会 婦人が内職をする場合について

(内職の実態・内職と家計との關係・内職と家事との關係・内職と家族との關係)

出席者

宮城	津村順子	(洋服内職・主婦)
山形	高橋圭子	(コケシ人形・内職)
栃木	石井園子	(日本語教師・主婦)
群馬	中山千代子	(絹物内職・主婦)
東京	征とくを	(製本内職・主婦)
神奈川	伊沢みち	(ミシン内職・主婦)
石川	中田菊	(洋服内職・主婦)
愛知	竹中英子	(ミシン内職・主婦)
滋賀	岡田はる	(製反内職・主婦)
京都	花浦トヤ	(ミシン内職)
兵庫	岡崎喜子	(毛布行商・華道教授・内職主婦)
鳥取	高田文子	(絹物内職・主婦)
熊本	成松ツヤ子	(養鶏内職・主婦)
宮崎	白方静子	(乳牛飼育内職・主婦)
鹿児島	財部つき枝	(主婦)

アドヴァイザー 労働科学研究所員 坂寄俊雄
司会 金 着 婦人少年局婦人課 木下雪江

司金　とうもありがとうございます。それでは御覽間や御意見もあると思いますけれども、初めに皆さんから実情を述べていただいた方がよろしいと思いますので次に、鹿児島の財部さんにお願ひしたいと思います。財部さんは奄美大島からいらっしゃった方です。

附部 私は一般婦人の中でも主婦並びに未亡人、特に子供をかかえた母の立場から内職について考えてみたいと思います。主婦が外に勤務する仕事をもつことは、主人や家族の世話をする責任上、往々にして家庭を犠牲にする場合が多く、両立させようとすればなかなか努力が大変で、氷柱が困難であります。その点、内職は主婦の使命を果して、仕事ができる気やすさではありますが、経済的に他に勤務するような収入が上げられません。右のような煩瑣・長所をとくと考慮して、最小の犠牲を払い最大の収益を得るようにならなくては、最小の内職の重点であると思います。私の住んでいる奄美大島は、一年を通じて雨が多く、耕地は山畑が多くて動力の使用が不可能の上に、家畜の利用すらできない土地が多いので、労力の調合に収益が少うございます。山野にハブという毒蛇が住んでおりますので、思ひきって早朝から夕方までの仕事ができません。又、都市はすべて消費都市で大きい工場がありません。以上の点で主婦の現金収入の道は開けていないために、農村都

ださなければなりません。戦争中はこの島の特殊性を考慮に入れて、時の政府は本土における企業整備を大島だけ適用を延ばして住民の経済面を保護してくれました。そのため住民は昭和十九年まで本土の人以上の収益を上げることができました。その収益のため住民は祖國に絶大の信頼を寄せています。八月八日のドレス声明以来住民の耳にきこえたのは聞れやかなおさの音でしたし、働こうという意欲に燃えていました。ところがどうでしょう。通貨が日券(軍票)から日本円に切りかえられましたとき、三倍になったのですが、手に握ったのはほんの少しの現金でした。というのは、住民のほとんどが多額の借金をしよっていて、それも三倍にして払わなければならなかったからです。物価も三倍になってしまつて復讐罪より苦しくなり、物価は漸次下つてはきましたが、下ると同時に収入が少くなつて三倍の借金はますますふくれるばかりです。日本政府は三月までに大島のために十億の復興予算を使用するのだと聞かされて期待していましたが、何一つ産業が始められず、市町村に入ってきた平衡交付金は市町村吏員の増俸となり政府の人々の調査費となつてしまひ、特殊街・旅館・船会社は太つて、住民はますます細る一方であります。ここで私は一定の職業の得られない主婦に内職を与えてもらいたいというスローガンのもとに團結し、負担の一端でも

道の開けることを希望してやみません。(拍手)
司会 どうもありがとうございました。それでは次に神

奈良県の伊沢さんをお願いいたします。

伊沢 我、神奈川県の伊沢でございます。授産所の仕事を主にやって参りました。夫は製鉄所の工員をしております。子供は四人おります。私は今から、労働省でもお調べになつておられる通り、世帯主の収入だけでは家計の維持が困難な家庭の場合の内職をお伝えしたいと思ひます。私と一緒に内職をしている方達は、子供を三、四人抱えている方が多く、なかなか外へ出て働けないので、やはり内職をして家計を助けるよりほかないのです。この内職希望者のなかにはこんな仕事をしていただければ、家事もおろそかになり、身体をこわしてはつまらないと苦しい家計簿を見つめて暮している方が、たいへん多いこともお含みお願ひしたいと思います。

私がやってきた内職の実績を申し上げますと、中間搾取が多く、内職者の労働価値を認めず、内職者はいくら安くても仕事をと思われているようです。実例を上げますと、ミシンで既製品を縫う仕事ですが、糸は自分の物を使い、ペンツ一枚六円、ステチコ一枚十八円、ブラウス一枚二十三元、ワイシャツ一枚三十五円くらいで、そのときより一、二円の上下があります。手袋刺繍五円から九円くらい、これは一時間から二時間はかかります。ネックカーフは大きいのが一枚四円、小さいのが二円くらい、ほ

とか、日本製品に裏評判がきたりするのではないでしようか。よりよき製品をつくるためには、よい技術を獲得することも必要です。それには内職をするために必要な技術を親切に丁寧に教えてくれる職業指導機関ができることを願ひます。それに公立の家庭内職取次所が、横の連絡を保ちながら、数多くできることを希望しております。現在のように広い地域に一つの授産所があるだけでは、仕事を求める人が多いため、お役所仕事ではかどらず、不親切な上に罪人のように冷たく扱われるので、仕事をしたくてもなかなか行きにくくなります。そして遠いので交通費や、子供の小さいなどかきり、安い工賃では働かない方がよかったですという例もたくさんあります。私は力の限り働き、同じ境遇にありながら他人の収入をうらやむ今の生活を捨てて閉居したいと思ひます。そして私たち内職者を守ってくれる法律ができることを望みます。これができるとが社会福祉の一番先を行く問題ではないかと私は考えております。(拍手)

司会 ありがとうございます。その次に群馬の中山さんどうぞ。毛糸機械編みをやっているのですね。

中山 私の家庭は専売公社に勤めております夫と、小学校の五年と二年の男の子と四人暮しです。戦争による十年間の空白は夫の収入の上に大きくひびき、私の内職がなく

かに紙袋・造花・おもちゃ等いろいろあります。しかし工賃は一時間五円から十円くらいで、内職の通り相場でございます。一時間五円では一日八時間働いてもわずかで、仕事のきれる場合や家事の都合等もありますから、一箇月二十五日働いても千円足らず、千円では保管所の費用にもなりません。もともと家計の助けにするつもりで働いているのですから千円では仕事をしたかありません。そこで時間を長く働きます。朝は四時から夜は十二時までも働くので、子供は放縦され、家事はおろそかになり、世間の人々からは内職者とさげすまれて、心もからだも疲れはてて働く意欲をなくしてしまふのでございます。内職者というその言葉が私にはどうしてもいやに耳にさわる言葉です。この言葉が貧困者の代名詞のように使われてきたものでしょうか。このへんで何とかもつと職業意識を高めるような言葉にかえることをお願いしたいのです。子供をかえり見る間もなく働く人のためには、保育所が必要であり学校へ行く子供には学習クラブが必要になって参ります。しかし子供を預けて内職しても、その費用すらかせげないような工賃ではますます家計を苦しめるばかりです。それに加えて投げ売りをするにも問題があるのではないのでしょうか。製品を安く売るために品物に工賃をあまりでないのではないのでしょうか。ですから既製品はだめだ

ではどうしても生活していくことができないので、五年前から現在の毛糸機械編みの仕事を始めました。それまではレース編みや、造花の内職などをしておりましたが、これらの仕事は中間搾取がはげしく、一か月働いても幾らにもならないので、このように単純に数でこなす仕事よりは、何か技術的なものを身につけなければいけないと考え、当時長男は四歳、次男は一歳でしたが決心して、私の住んでいる町には教習所がないので汽車で通いました。しかし毎日通うことはできないので、一日だけ機械の操作を覚えていただいて、翌日からは家で練習しました。そしてどうにか仕事を覚えて、今では収入は月六千円程度です。そしてこの仕事の性質上、秋から春が多く夏は少くなります。工賃は私どもの田舎町では一般に安くて、デザインなどによって多少の相違はありますが、大人もののセーター三百円から三百五十円くらい、カーデガン四百円から四百五十円くらいいただいております。そして一か月に十五枚から二十枚くらい編み上げております。お客様は大体毎年今まで編ませていただいた方や、その方が紹介して下さった方が大部分で、みんな直接注文を受けております。この仕事を始めたころはそれほどの注文もなく、町の毛糸専門店から下受けをして仕事を続けていましたが、間に二人ばかりの人が入るため、現在の収入よりは一割から二割くらい

は少なくなっておりました。現在では年々お客様がふえてきて、春先から秋口にかけては注文に応じきれないほどです。しかしどんなに仕事に忙しいときでも、一たん引受けました以上は責任をもって丁寧に仕上げ、自分の氣にいらぬ製品はお客様に上げないようしております。そんな関係から少々おそくなくてもいいから、ぜひ頼んで欲しいという方も増えてきて、どうにかお得意様が固定してきたいようです。この仕事は単純な数でこなす仕事と違って、どんな小さなものでも自分で考えて計算してつくり出すのですから、仕事に興味も多く、常に新しいスタイルも勉強しながら、仕事そのものを楽しみながら続けております。次に内職をする上で問題となることを申し上げます、まず第一に健康でなければならぬと思います。私は毎年二回ずつ健康診断を受けております。これによって常に自分の身体に自信をもって明るい気持で仕事を続けていくことができます。

次に問題となることは家族全体の理解と協力です、これがなくては肉体的にも、精神的にも過労となって、とうてい仕事を続けていくことはできません。朝は家中一緒に起きて、各自受持ちの仕事を決ませ、家族を送り出した後すぐ仕事にかかるようにしております。そのかわり夜は夫や子供たちの希望によって、できるだけ仕事をしないで一寮団

うかと申しますと、田が非常に少く、つくりたくても田がないというところに、農村の経済問題の非常な情実があります。田舎にも安月給取りも未亡人もおりますし、一人前の百姓もできない者もおりますので、そういう層がいわゆる内職を非常に要求しております。

私のやっております内職は近くの洋服の真地工場から出るヤール幅で五十ヤール巻いた大きな着物を、裏反と申しまして、その布から出る糸なんかを切り取ってごく低級な仕事ですが、それを一卷すると三十円の工賃をいただけるのです。普通それをするとい日三反くらいこなして九十円になります。それから私の方では日本刺繍が圧倒的に多いのです。日本刺繍というのは、ちょうど美濃紙大の大きさのものを一枚しますと百三十円、それが四枚縫きになりますと四百円の工賃になります。美濃紙大の日本刺繍を一枚するには、昼から夜へぶっ続けて働かなければ百三十円の工賃がいただけるというような状態ですから、一日百円ぐらゐの働きをしても月三千円にはならないのです。私が特に考えました点は、家計のために足しにしようと思つて一所懸命働いたところで、私のように途中で病氣になって、三月間も静養をしなければならぬのでは、内職をしても何が益があったかということになりましよう。先ほどからお話がございましたが、あまり金にきゅうきゅうとして、

らんの時間を過ごすように心がけております。このことを考えてみなければならぬ問題だと思ひます。母親が忙しい仕事をもっている場合、つい仕事に追われて、子供たちを叱ってしまったたり、勉強も見えてやれません。それですから、一日のうち夜の時間をむだにするのは惜しいという方は、せめて三十分でも一時間でも子供たちとともに遊び、学び、家族と語り合う時間をもつということは大切なことだと思ひます。このことによって自分自身の身体を休めることもできると思ひます。それから忙しい中から自分の仕事の時間を生み出すためには、能率的な機械を使ってやるということが一番よいことと思ひます。私は今後もこの仕事を研究し、勉強しながら続けて、その収入によって家計を助け、明るく楽しい家庭生活をつくり出すような努力をしたいと考えております。(拍手)

司会 どうもありがとうございます。それでは次に滋賀の岡田さんどうぞ。

岡田 この中には農村の方が少ないかと思ひますが、私は純農村に生んでおりますので、農村の内職について申し上げてみます。農村にでも内職問題はかなり切迫した問題になっております。お百姓さんのことは皆さんにわかっていただけないかも知れませんが、田を一町位耕作していなければ普通の生活をやっているかれないのです。けれども現状はど

内職をしても、結局私のように病氣になって倒れてしまつては何もなりません。病氣だけでなく、子供の教育にもやはり関心をもちなければならぬし、また主人の機嫌という点など、あらゆる方面に考えなければならぬ点があるのじゃないかと思ひます。子供の教育上からいうと、内職をして一所懸命働いているお母さんの尊い姿というのは、子供にはかなりよい影響を与えていると思ひます。私は前に教員をやっておりましたが、ごく貧しい家で、お母さんが氣ばつてやっていたらっしゃるような家で育った子供がいんじやないかと痛切に感じております。

それから次に今の内職に対する問題を一、二申し上げたいと思ひますが、組織化するということは先にもたくさんお話が出ましたからそれは略して、大林内職というものは家計補助的なものと考えられているために、社会的にも経済的にも、その労働に対する正当な評価がされていません。そしてこのような内職婦人の低い工賃が一般婦人労働者の賃金を低めることになり、また反対に婦人労働者の低賃金が内職婦人の工賃を引下げるといふ作用をするのだと思ひます。この意味から一般に働く人々は内職問題に関心をもち、また内職者も単に家計補助という考えを捨てて内職労働をりっぱな婦人労働として評価し、また評価されるようにしなければならぬと思ひます。そうするためには

労働者が、そして労働組合がみずからの問題としてこれに関心をもち、あるいは積極的に問題の解決に乗り出してほしい私は希望いたします。(拍手)

司金 それでは続いて京都の花浦さんをお願いします。
花浦 私は十三歳になる子供一人をかかえた未亡人でございませう。主人が戦死してから十一、二年になりますが、それからずっと洋服をやっております。ただいま婦人服の成服をしております。内職というものについては、神奈川県の伊沢さんがその実態を詳しくおっしゃいましたので、私はくりかえしませんが、伊沢さんのおっしゃった通りです。ほかの職業に比べますとまことに地味で、その報酬も至って安いものです。しかし子供をかかえて、ほかに外へ出て職を求めるということはできないのですから、自分が好むと好まざるとによらず、家において子供を育てながら生活してきたわけです。私はいつも思いますが、どんな立場にあっても、人間として、またその時代に應じた文化人として生きたいと希います。経済的な悩みは目下のところどうすることもできないほど切迫しておることで、しかしそれをどうして打開したらよい生活をもつことができるか、私たち一人一人がそれを真剣に考えなければならぬことだと思っております。寝ずに働く、休まずに働くということが、はたして経済的悩みを解決する鍵でしよう

うぞよろしくお願いいたします。(拍手)

司金 どうもありがとうございます。では、愛知の竹中さんをお願いします。

竹中 私も神奈川の伊沢さんや京都の花浦さんのように都会で内職をしている者ですけれども、私の家庭は夫と私の二人暮らしで、夫は名古屋中央郵便局に勤務しております。私は内職をはじめてからまだ一年ぐらいなので、種類もあまり多くないのですが、それでも今まで四種類ほどいたしました。内容はヤラコの下着等のミシン加工と造花づくり、それから輸出用の毛糸手袋の刺繍と手袋のミシン縫い加工と、それから今は折詰なんかに使われる人絹の紐に房をつける仕事をしております。工賃は一日八時間くらい働いて、ミシンの仕事で百円ぐらい、これは糸代は自分持ちで、アイロンの仕上げもしなければいけないのです。造花の仕事ですと六十円ぐらいでした。いまやっている房をつける仕事は一日百二十円ぐらいになります。工賃は大体こんなふうでした。二人暮らしで家事にとられる時間は少いといってもそれでも洗濯やら買物やら、外出をしたり、日曜日は教会に参りまして仕事は休みますのです。内職のできるのは月に二十二、三日ぐらいです。従って収入は平均して月に二千四百ぐらいにしかありません。私が仕事をしましたのは一年というはんと短い間なのですが、何度も

か。内職をする上で、健康ということが一番大切なことでありまして、不眠不休で働くということは、経済的悩みを解決する最善のものじゃないと思います。どんなにうまい意見や、すばらしい懸案をもち合せても、固い信念と実行力のないことはすべて失敗に終ると思います。私は貧乏であるがゆえに、知能が低下してしまおうというようなことがあつてはならないんじゃないかと思うのです。ただ食べて生きるということだけじゃないかと思つた。人間として、社会人として生きるということが一番大切じゃないかと思つた。

参考のために私どもの工賃を申し上げますと、婦人スカーフ一枚三十円、合オバーが一枚三百円でございます。技術としては自分が最高であるとは別に思いませんけれども、かなりの技術をもたなければその仕事をさせていただけないんです。だれでも生きていることは苦しいことだと思つてくれども、その苦しい中にも希望をもつということが一番大切だと思います。私はほんとうにいつ貰つりしようかしら、いつガス自殺しようかとそればかり考えて参りましたけれども、お元氣な皆様とこうして真剣にいろんな問題を考えることができて、もう百万人も力を得たように思います。これから先絶対に死ぬなんていうことを考えずに、強く生きていこうと思つておりますから、ど

仕事を取つかえました。なぜこのようにかえるのかと申しますと、結局内職の仕事はあまりに工賃が安いために仕事が続かないので、何かほかによい仕事はないものかという気持ちが起きて困るのです。どうしてこんなに工賃が安いのかと考えたのですけれども、内職の仕事はほとんど中小企業から出されるので、それらの業者は結局人を雇うより内職として外へ仕事を出した方が経費が安くつくからだと思います。また不景気とか、季節的な商品などで仕事が増減する場合に、内職にしておけば仕事がなくならないまでも責任をとる必要がなくて便利なんです。だから内職をするものは工賃の点だけでなく、立場が不安定で仕事に永続性がないんです。仕事のとぎれても文句をいっていくところもないし、常に仕事を探さなければならぬというところになってしまふのです。もっと公共の授産所が増えて仕事の中継ぎをしてくれる、そこへ行けば絶えず何か仕事があるというふうになればいいと思いますけれども、私たちの名古屋市の場合は、ただいまのところ市の授産所はあるんですが、その仕事の対象が生活保護を受けている人々だけに限られていて、一般に広く開放されておられません。愛知県の外部団体としては福利協会というのが仕事の斡旋をしているのですが、そこでも工賃が一般の場合とかわりがないので、遠くて乗物を利用しなければなら

ないとすれば、往復の時間と費用がマイナスになってしまいますし、からだも疲れるというわけ、だれでも利用するわけにいかないというのが実情なのです。安いから時間を長く根をつめて働かなければならないということは、内職をする婦人の健康を直接、間接にだけそれだけそこねているかと思うと、これは私は非常に大きな問題だと思うのです。

私たちが人間らしい生活をして健康を維持していくのにどうしたらいいかと思うのですが、かりに法律で協同組合をつくり、横の組織をつくって労働時間を定めたとしても、内職を主婦がしなければならぬという今の社会の経済状態が改まらないかぎり、やっぱり守られないのではないかと思います。私はそのことを考えると暗い気持ちになってしまふのです。原子爆弾が一度落ちたら何もかもおしまいなのに、内職しているのは意味がないんじゃないかという気がするのですが、いま日本に働かねば生きていけない女の人が多い過ぎるということが一番根本じゃないかと思えます。

それから私たちの愛知県瀬戸地方は、陶器の産地として町全体が陶器をつくる仕事につながっております。また有松・鳴海というしぼりの産地では、やはりどこの家もしぼりに関係した内職をしております。こういった地方の特

のでもありますし、二、三十円のものもありますが、大体安いのです。最高価格を上げる方で月に二千円です。最低の方は二、三百円という方もおりますが、それは小さなお子さんがいて時間がとれない方です。そんな方もみな喜んでやっております。

私の内職に対する感想を申し上げますと、一家のともし火である主婦として、その立場を重点的に守りながら少しでも経済面をゆたかにしたいと願わない人はいらぬだろうと考えます。家庭婦人の大きな仕事である家事労働も一応は評価するべきだと思えます。夫が亡くなったたりした場合、いかに家事労働を懸命にやっても、他からそれに対する代価を与えてくれません。夫が経済的に無能力であるとか、また未亡人になったというような場合は、必ず女は全面的に経済力をもたなければ生きていけないことになるのです。そうすると大抵の場合は家事労働を自身でやっつけなければならないと考えますが、私の場合には家事労働に従事していながらやっております。ではなぜ家事労働を重点的に生かしながらもどうして少しの収入でも得たいと考えるか、私の場合子供の教育ということに深く考えておりますので、ただぼんやりと家事労働をやっていたのでは、平凡な主婦に終わってしまう、漸進的な進歩

願物に結びついた仕事は年中仕事があり、また必要な技術も身につきますから、内職といっても一つの産業に結びついた安定したものになっています。こういう形で行われる内職、またそれが身についた特殊な技術を生かしてする内職なら、ある程度収入の面でも安定したものとなりましようし、それで健康の問題も解決されるかと思えます。できることなら内職をする人がみんなそうなるといいと私は思っております。(拍手)

司会 どうもありがとうございます。続いて鳥取の高田さんをお願いいたします。

高田 まず家族の状況から申し上げますと、主人は中学校校長をしております。長男は今年中央大学に入学いたしました。次女は高峯学校、次男が中学校三男が小学校六年生、それだけです。私のところは鳥取から五里離れた山奥で、汽車の沿線ですから交通の便はあるのです。しかし三百人足らずの小さな町で、雑居村ではございません。十人ばかりで内職のグループを作っておりますが、大体グループの方はみな一家の主婦で、御主人の収入で生活しております。私たちの内職はこうした輸出向けの手芸織物です。(見本を見せる)これをつつくと四十円、一日に二つはできます。二つ作ろうとすると相当時間を切り詰めていかないとできません。工賃は平均四十円と申しまして、六十円

も見出せませんし、いかにして消費面を少くするかというやりくりのみでは至って消極的なのです。その生活はゆたかさがないとて、さびしくてつまらないものになるだろうと思えます。子供もある程度の節約心が必要ですが、あまり節約々々では縮こまって朗らかさがなくなってしまうと思えます。私は夫には言わないで本も買ってみようと思うこともあります。女の子の身につけるものも夫に言えない場合もあります。主婦は一日の家事労働をできるかぎり縮少して、時間を生み出し、内職することが必要になつてくるのではないかと存じます。そのために計画性をもたなければなりません。これは内職と家事との関係のところで討議したいと考えますので、ここでは省きます。

次に、主婦が健康をそこなったならば、いかに内職に夜を通してはげんでも、それはかえって逆効果となりますから健康第一で、私は睡眠を十分にとっております。この私の零細な内職ではほんとうに子供の本も買ってもらえないので、養鶏と山羊と羊をやっております。それから畠が一反ありますから果樹園をやって、柿を百本ばかり植えて成果を挙げております。その山羊の肥え、羊の肥えを柿に持ってきています。これらも総合的な収入面に加わって参りますので、これなんか計算に入れますと私の零細な内職もそう悲観したものでもなくなります。多少町がかった場所です

ので、そうした職業的なものをやるのにも苦心がいります
が、またたいへんな楽しみもあります。最後に私が声を大
きくして申し上げたいことは、内職の工賃が安いことと
す。グループの方々は、それでもありがたい、ありがたい
といって喜んでやってくださいますけれども、ありがたい
といったださるのに対して、ほんとうに少しでもこれ
をよくして上げたいという念願で一ぱいなのです。私一人
で神戸にでも出かけて貿易商などと交渉しようなどと考
えることもありましたが、それは無謀なことでしょう。なん
の力も持たない女一人をなんで貿易商が相手にしてくれま
しょうか。私の一番の願いは特技を持たない主婦の手内職
に対して、組織活動がほしいということが胸一ぱいなので
す。組織活動はいかにしたらもてるか、皆様の御指導をい
ただきたいと思つて、鳥取の山奥から出て来たのでござい
ます。(拍手)

司会 それでは次に東京の恆さん、どうぞお願いいたし
ます。

恆 昨年田舎から東京へ出て来たばかりでして、主人は
二十年來の結婚慶進をしております。子供は六年生の男の
子と三年生の女の子の四人の生活です。たゞいま幾本の内
職をしておりますが、まだ最初でなれないものですから、
工賃は一月で千五百円がよろうな感じです。大体千枚で

四十円ということですが、それをしますのには、なれた人
で朝八時から夜十一時までかかります。私ぐらゐの年配に
なりますと、職を獲すとしてもなかなかありませんので、
一所懸命やっております。それで今月は最高三千円という
ところまでこぎつきました。ところがこの工賃は、製本屋
さん、印刷所などでは千枚六十円、あるいは七十円ぐらゐ
なのです。それが同じ町内で私たちの手に渡りますまでで
二十円、二十五円という中間搾取で安くなつていくわけ
です。その中間搾取がないと、千枚七十円ですと三千枚で二
百四十円になりますから、内職としては申し分のない工賃だ
と思ひますけれども、中間搾取のため、私自身そういうも
のの隆路をはっきりと見つともどうすることもできません
。それをどうしたならばいいかということが、私の考え
なければならぬ、また実行しなければならぬ、また社
会の方々にもそれを応援していただきたいことです。それ
にはどういふ方法をとっていったらよいか、最近ず
つと考えておりましたが、私は私たちが一人々が声を大き
くして中間搾取をなくするといつてみたところで具体的に
な案が立たないかぎりには、どこへ訴えようといふところも
ありませんから、具体的な案として、私の理想を申し上げます。
大体内職をする方は、大抵は最低生活者といつても過言
ではないと思ひます。ことに未亡人の方が相当多いかと思

います。生活扶助を受けている方もおりますが、子供を
かえて家事その他一切やって、内職で普通生活の水準まで
達することはなかなか困難です。それで中間搾取をなくす
方法をとることが、ある程度の生活の向上をはかること
になると思ひます。その方法は福祉事務所か未亡人会とか、
日本婦人会とかそうしたところに内職部という部門を設け
ていただく。それにはおのおのが自覚をもつて立ちあがら
なければならぬ、内職者自身の盛り上げる力が大切だと思
ひますけれども、横の連絡をとるために機嫌になつて奔走
する人がなければならぬと思ひます。私たちのように今
日がある、追られた生活をしておりますと、右から左、西
から東とび歩いていたらすぐに今日の生活にさしつかえ
てきますから、それには白い羽根や、赤い羽根を売る婦人
会あたりの、その任に當つていらっしゃる方々に御理解を
得まして、内職部というものを設けていただく、組織の力
をつくる、そうして横の連絡を密にするとともに上に伸び
る、労働省とか物産庁とか、そうした所へ横の連絡をとる
こと、それが大切じゃないかと思ひます。私たち内職者自
身はそう思ひつつも実行する時間を持たないのです。話が
前後しますが、内職者自身が時間的な経済観念を案外もっ
ていないと思ひます。朝御飯をいただいたら、さしあたり
夕御飯をどうしようかということであつて頭がこんがらかつて、

経済観念どころではなく、ただ毎日の生活をかむしに
働くというのが、内職者の大半の輿情ではないかと思ひま
す。金銭的な経済観念はいうに及ばず、時間的な経済観念
にめざめ、生活の合理化をすること、それをしなくては、
内職者としての資格はないと思ひます。それはどうしたら
よいかといひますと、八つの子供ならその子供のできるよ
うな家事やお使いなどをさせ、ある程度子供にはしつかり
とした自主的な氣持を養ふということが主婦としての大切
なことじゃないかと思ひます。そうすると生活の合理化が
実際に行動して、内職時間が相当生み出せると思ひます。
食事時間も、子供に食を起しなさい、お水をそこにかけな
さいといひだけは働かしつつ、手を動かすことが内職の能率
を上げる大切な秘訣です。一分一秒でも働いて一家の経済
を支えるのですから、ことに私などは主人が二十年からの
療養生活ですので、経済力は全然ありません。私の二本の
腕、それだけが一家の経済を支えてきたのですから、物
質的な経済観念、時間的な経済観念というものは、ほんと
うに自然と強くなつて参ります。それから内職者自身は自分
のことばかり追われていて、社会の窓をのぞく余裕を案
外もたないと思ひます。それでは内職者としての自分の生
活向上は望めないと思ひます。社会だとか、家庭だとかい
う区切られたものでなく、家庭は社会の一細胞だといふこ

とをはっきり自覚して、家庭の向上がはかれれば社会の向上もはかれる、従って国家の経済がゆたかになる、そこまで進んでいって、なおかつ世界の情勢にまで内職者自身、主婦自身が目を向けていかなければならないと思います。

最近原爆の灰の問題でつくづく思うのですが、南方の海城でまかれたその灰が私たちの台所に直接影響するというようなスビッド時代でありますから、私たちのほんとうに今日の時代ではないと思いますので、内職者自身が時間的、経済、物質的、金銭的な経済と、広い分野に視野を深め、高めていくことが一番大切なことだと思います。その点から私たちは組織を作り、さき程申しました縦、横の連絡を密にすることが大切な問題じゃないかと思ひます。そうすれば工賃も自然によくなり、長いものに巻かれるという隸屬的、封建的思想を打ち破ることもできると思ひます。私の今日申し上げたいことは、内職者の組合結成ということに重点をおいて皆様の御協力を願いたいということ、それで一ぱいでありませう。よろしくお願いいたします。

(拍手)

司会 内職者の組織化の問題は皆さんから出されておりますが、あとの討議にまわすことにいたしまして、続いて石川の中田さんをお願いします。

中田 さっきから洋服の内職で、私も驚いたほどの安い賃金のお話をうかがって、これでは私の内職は極楽だな———と思つて、自分のことに対して感謝の氣持が湧いてゐるのです。

私の主人は中学校の教員です。現在は主人の収入で一家の経済は均衡を保っております。子供は男の子ばかりで、大きいのが中学校の三年、下のは五年生で、私の仕事に主人も男の子二人もよく協力してくれました。工賃の問題でさっきからいろいろお話がありました。私の自分できめてお金をいただくのですから、皆さんのようにそんなに安い賃金ではありません。店の方が安く仕立ててほしいというときには安い値段でお客様の意思にまかせ、それからこれは少し丁寧にしてくださいというときには少し高いくたいて念入りの仕事をするわけです。大体一日八時間で取捨二百五十円というところを見当にしております。

私は十五歳の時母親に死なれ、結婚するちょっと前、火事で家が焼かれ、ちょうど終戦前後でしたが、主人に五年間結婚に病まれました。そんなにかい経費をもつておりませんが、今その経費を振り返って見ると、受けたときは悲しかったり、情なかつたりするのですけれども、その半面なんともいえない、いいみがきをかけられたというか、子供の教育上も、こんなことにならなければこんな結果が得

られなかったという大事なことが、知らぬ間に大きくなつて来たということに気がついております。私がミシンを買ったのは、昭和五年に師範学校を卒業した翌年で、親にも相談しないで自分で買ったんです。母親が死に、男ばかりの家庭だったので、とても私の力では一家の経費——二十何年前です。それから和服でした。手に負えないのです。その時分私にはなつかしてこれをやってのけたという氣持が始終わいておりましたので、家の遺物を縫うためにミシンを買いました。ミシンの目を荒くして上糸をゆるめると、

ほどくときにとても便利なんです。そんなやり方で銘仙以下の遺物は全部ミシンで縫いました。ふとんのようなのは一日に二枚も三枚もできるんです。ところが教員をして共稼ぎを十八年間やり、ようやく恩給のつく四年前に主人がわづらいました。当時私は小学校に勤めておりました。校長さんの俸給が高年二年を出た男の子の工賃の月給と同じくらいです。ですから家へ帰ってからこたつへ入りながら編物の内職をやったのですが、驚くなけれ、一月の月給と同じくらいなのです。そんなおもしろい生活をして、昭和二十三年にとにかく主人が回復し、今の仕事に復職してくれました。このとき家庭に入るべきか、勤めを続けるべきか、随分迷いましたが、同僚はまだいいなさいというけれ

ども、療養生活が済んだとはいへ、そのころは新薬もまだありませんし、結核は決して三年や四年で簡単に治る病気ではありません。再発のおそれもありますし、五つと十のわんぱく盛りの二人の子供をおいて、私はどうしても家を離れることができず、ここに私の主婦としての内職が始まったわけです。

それで私皆さんに特に大きな声で言いたいことは、健康と、それから家庭の消費経費、これは内職より以上の女にとって大事な仕事だと思ふのです。特に食物のとり方、これはよく勉強していただきたいと思ふのです。私は結核というのは栄養をとらなければ治らない病だといふけれども、ほんとうに卵一つ食べないで、医者に一年かかったきりで結核が治ったのです。そういう点で食物の研究、特に子供の肉食の研究、こんなことがとにかく大事な研究材料じゃないかと思ふのです。

もう一つは女が家にとじこもってしまつて、社会人としての修養を忘れ、つき合いを忘れたら、将来子供にとって大きな迷惑だと思ふのです。私の内職は月四五千円になります。私は上等のものはやっております。夏生品が主です。そのほかには雑貨をあててほしいとか、ほかの店に持って行かれない仕事半分はあります。そういう仕事を受けるが、一方には近所の奥さん達のいろんな話

をお聞きするのです。そういうことからなんとかして婦人の地位を高められないものかと思つて、一所懸命に自分で勉強したいと思つたのです。それで映画も見たり、ラジオも始終聞くようにしてあります。それから婦人会・公民館・PTAの活動も忙しので、重要な役にはつかれませんが、月三日以内の仕事なら引受けますという程度でやっております。その他社会的な面では何かおもしろい会合や講演会があるときには、なんとか無理をして出席したいという慾に燃えております。

もう一つはお客さんの相談相手になるということです。生地の運び方、安い求め方ということについて、どんなふうなことを私がやっているかと申しますと、デパートにときどき安売りがあります。私の近所の店で白ネルが一ヤール九十円で売っていたのと同じ品物が、金沢のデパートで安売りのときに七十五円で出ております。そういう品物を、金沢に用事があるときに、一ぺんに十ヤールでも、十五ヤールでも買ってくるのです。

私は今日ここに出て最後にお願したのは、民生委員のお世話になっている非常に気の毒な家庭、旦那さんが長い病気をわずらっているというふうな家庭に対して、特に労働省・厚生省の方と連絡をとって、お金の補助でなくて、内職のお世話をしていただきたいと思う。病人は決して医

どん外で働いているということを知くに、どうして日本の主婦は、こういうふう採用することをきらわれるのでしょうか。その原因は家庭の設備が悪いということと、それから保育設備が不備のためだと思います。まず家庭とか保育の設備の方を改良して、能力のある主婦は、どん外に出て働けるようにしていただきたいと思ひました。それから、仕方がないので、家で輸出用の糸の長着を縫ひました。それは工賃が一枚六十円で、家のことをほうりっぱなしで夜中までかかっても二枚以上はどうしても縫ひません。肩は凝ってくるし、洗濯や繕ひ物は山のようにたまってきて、どうにも健康が続かないのです。それからまた商売をかえて、今度は毛布を売ってみないかとお友達から言われたものですから、それをやってみましたが、売りに行くのにかさが大きいものですから、途中乗物などで皆さんに迷惑がられますし、持って出歩かなければならないものですから、下の子供を連れて歩かなければなりません。それと家を留守にしなければなりませんので、そのことも気になりますし、また学校から帰って来る子供たちの食、荷物も考えておかなければなりません。おやつを買って子供たちに毎日手紙を書いたり、それから勉強の問題も出して出かけるのですが、子供たちが学校から帰って来てけをしな

いかしらん、火鉢をひっくり返しはしないかしらん、出薬だけでは治るものじゃないと思うのです。精神的な安定が必要だと思うのです。これをなんとか皆さんのお力でやっていただきたいと思ひます。(拍手)

岡野 婦人の経済活動はいかにあるべきかという問題について、ここ三、四年いろいろ考えさせられておりますので、こまかい点は討論のときにまわすことにして、私の経験したことを申し上げたいと思つております。まず家族は主人、私、それと小学校六年と二年の子供に幼稚園に行く子供の五人家族です。夫は今新しい会社を設立中ですが、なかなか予定通りにそれが進行してないものですから、収入はあまり当てになりません。現在私はお花を数えておりますが、それまでにいろいろ経費しましたことをお話したいと思ひます。

今からちょうど四年前にある事柄のために、主人は退職金も何もいらないで会社をやめてしまいました。そのときはそのような不安定な状態が長い間続くとはいえなかったもので、こんなときこそ良妻ふりをしめさなければならぬと思ひまして、就職しようと思つて入社試験を受けたのですが、面接のときに家族のことをいろいろ調べられ、主婦であつて子供があるからという理由でだめになつてしまいました。アメリカとかヨーロッパでは多くの主婦がど

けれども、封建思想と申しますか、体面というふうなことにとらわれて、そういうことができないので、そういう心の切りかえも必要だと思ひます。またわが国では昔から女子供などといって、女は子供と一緒に見られておりますので、夫のかげで従順にしていれば美徳のようにいわれてきました。が、男の収入が非常に減って、生活がぎりぎりです。また倒産などにあつて、いつ生活が脅かされるかわからない時代です。このごろの離婚問題は家庭経済の破綻が大きな原因をなしているとも聞きますので、女もじつと家で家庭と子供を守っているというだけでなく、どんだん外へ出て働きたいと思ひます。それから極法でも、健康で明るい文化生活ができるように、と願つておりますが、このごろ新聞やラジオでも貿易が不振だとか、金融引締めとか、困乏生活とか、苦しいことばかり聞きますのに、世の中は汚職とか、疑獄とか、大金が平気でやりとりされております。このようなことが平気で行われるのは、選挙にお金がかかり過ぎるからだと思ひます。選挙を公営にして、金がかなくても有能な人が立候補できるように、婦人がそういうことによく目を開いて、政界や財界を浄化していったらよい世の中ができるんじゃないかと思ひます。そういうことは不可能なように女は考えがちですけれども、過渡期にある現在ですから、いろいろ苦しみがあると思ひま

すが、働く女のために、またこれからの女性のために、ただの集まりということだけに終らないで、今後ともこの活動を続けて、国民のすべてが明るく楽しい希望に満ちた生活ができるようにしていただきたいと思ひます。(拍手)

司会 では次に熊本の成松さんをお願いいたします。
成松 私は私の過去五年間の内職のあらましを発表させていただきます。私の家庭は昭和二十四年にシベリヤから帰った主人、戦災者の私、七歳と八歳の子供をかかえて、しかも主人は農家の三男で、養蚕技術指導所長に復職しなければならぬといふ生活です。なにか私も働かねばいけなくて二人でいろいろと話し合つた結果、生活改善の第一歩として衣食住のことについて研究を始めました。次に申し上げます私の内職は衣食住の改善を目的としたものです。第一番に衣の問題ですが、和服は出費がかさばるのと活動的でないことから洋服にすることに話し合いました。次に食の問題ですが、味噌・醤油・漬物一切はわが家で作ること、一日一食は粉食とすることとしました。第三番目に住宅の問題ですが、これは解決できず、とうとう役所の一隅にまゐることとしました。すぐこれを実行に移して、まず食物の問題ですが、虫を借りて野菜を作り、味噌・醤油・漬物を自分で作るようにしました。それから鶏を十羽からだんだん増やして、最

高七十羽まで飼ひ、また、山羊を飼つて山羊乳をしぼる。イーストパンをつくるというふうなことをして食生活の困難な時代でしたが、栄養を補給するように工夫しました。家庭で消費した残りは、卵をお菓子屋に、お乳は近所の赤ちゃんに配つて、その利益が月四千円になります。衣類の方は、羊を一頭飼育しまして、この原毛を加工し一家の衣類とし、さらに別に買入れて、これを加工販売し、この利益は三年の間に約四万円という多額にのぼつています。主人の俸給もベース・アップで年々上つてきて、この間に幾らかの預金ができ、最も困難とされていた住宅を一軒買ひようやく最初の計画が達成されました。ところが昭和二十七年の夏主人が熊本市に転勤となり、熊本県養蚕試験所に勤務することになりましたので、家も家賃も売り払い、さらに十万円の借金をして、熊本市の郊外に家を一軒買ひ、これを下宿向きに改造して、四人の下宿人をおきましたので、家族とも八人になり、それに鶏十五羽、山羊一頭入れております。二十八年、去年のお正月からは主人の俸給を生活費にあて、下宿代・即代・山羊乳代はそっくり自由資金一万円、保険のかけ金四千円、その他若干貯金が築にできるようになりました。なお本年初め借入金返済もできた上に、現在の宅地百五十坪も買入れました。家賃もいすから肥料ができ、土地は肥え野菜はできる、野菜は人と家畜

で食べるというところです。将来は文化住宅を宅地の一隅に建て、後六年間に子供の大学の資金もつくりたいと思つております。以上が私の内職のあらましと、将来の目的でございます。これらを実行するには目的があり、自覚に基いたしかも生物の飼育という自分の趣味、主人の技術的援助とが相まち、暗いまた地味な内職の時代に私はこんななんの苦痛もなく着々と行つてきました。またこうやればいい、ああやると儲かるといふいろいろな理想論はだれでももっておりますが、実行に移すには本人にやれる能力がなくでは成功いたしません。人の命令や真似などで動くようではだめです。自分のやっている仕事に自信と誇りをもち、またその場所と体力とたゆまない研究が必要だと思ひます。

私の家の鶏は成鶏十三羽ですが、この飼料は一日三四円でまかつております。産卵の率は八十%、一羽につき月百円の純益がありますから、十三羽で千三百円になります。研究したことについては、あとの討議のときに申し上げます。(拍手)

司会 それではこけしのお人形をかいいていらっしゃる山形の高橋さんをお願いいたします。

高橋 私がこけしかきの内職を始めましてから五年になります。家庭の状況から先に申し上げますと、私は引揚げ

者で、父はこちらへ来てから山形の刑務所長として就職しました。現在は転任して岩手県の一の関におりますが、事情によって退職して、現在は無職です。一の関の方には父と母とおり、母は輸出向きの造花の内職をして、山形の私たちの方に送金してくれまう。兄弟は十人兄弟だったので、二人は結婚しまして、現在は私をいれて五人が間借り生活をしております。高等学校へ三人、中学へ一人、あと私と五人の生活で、こけしの内職を選んだという理由は私は結婚後に入り院してやっとうくなり、家に帰ってきたのですが、兄弟の教育費などがかさんでたいへん家計が苦しかったのです。ちょうど、その頃、父の転勤があったのですが、全部が父の転勤先と一緒に移りましたが、残った私達でなんとか生活しなければならなくなりましたが、私の健康と小さな弟の教育上から外で働かず、家の中でできるこけしの内職を選んだわけです。この仕事をした体から出た結論を申し上げますと、今まで皆さんがおっしゃったのと重複するようですけれども、第一に健康でなければならぬ、家庭生活を合理的にむだのないようにすること、第二にいろいろの内職があっても技術的なものを求め、それを身につけなければならぬ、第三に同じ内職をする人があれば、二、三人でもいいから団結してグループをつくる必要がある。山形のようなところでも、いろいろな産

物があって、こけしはその主な一つに上げられています。昔はすべて家内工業であったのが、現在は機械力を利用し大量生産されるようになり、業者が多くなりました。この人形に絵をかく仕事に必要な材料、筆・絵の具・墨はすべて各自が負担するのですが、工賃が安く材料代が上っても工賃が上らない。それで業者側へ申し出ても、仕上った製品のミスを指摘するくらいで、そのうち考えとかいって全然値上げしてもらえないのです。私は友人とかいって、工賃はどういうふうにしてきめられるのか、その方法を使用人に聞いて調査しました。その結果、製品を仕上げるときも、時代と嗜好についていけるデザインに心がけて技術をみがき、それで工賃が合わない仕事の場合には、理由をいって、値上げをしてもらえないときは断って絶対に仕事をしないというふうにしたのです。その結果として、今では業者の主人も折をみてはたずねて来て仕事上の注意を下さるし、私の希望も聞いてくれるようになりました。私と同じ内職をしている人が七人いますが、双方なつくのいくやり方でお仕事をいただいております。しあわせなことは県の方の産物の一つとして機会あるごとに県外にも紹介してくださっているのです、需要があります。県下にも業者が多いので、その下で営々と内職している方も相当います。私の住む米沢市内に現在六、七百人いますが、そ

の人たちを見ても、御主人が弱くて長いこと寝ていて奥さんが外に出て働かないとか、未亡人で子供が多い方とかいう方が多いのです。それから女学生・高等学校の学生がアルバイトでやっているのが非常に多いわけです。女学生の方の収入は、二年ぐらいの経験でもって千五百円から二千円ぐらいで、月謝・小遣いには間に合うようになっております。それから一人で働く場合には大体三千円から五千円の収入、これは二年ぐらいを基準としてです。それから主婦の方でやっていて一家を支えているという方は一万五千円ぐらい、私の場合は兄弟もたくさんおりますし、手伝ってくれますが、大体のところ月九千円から一万五千円ぐらいになっております。以上です。(拍手)

司会 その次に宮崎の白方さんをお願いいたします。

白方 私は四十三年間の人生の歴史と家財道具一切を外に置いて引揚げてまいりいかにして立上ったかということを申し上げたいと思います。私の家族は十人です。そして卒業している者は一人、大学に二人、大学を受けようとして予備校に入っている者は二人、高等学校二人、小学校一人、皆并立して行く者ばかりであります。そして主人は中学校の教員をしておりますが、八人の子供をずっと育てようというためには、主人の俸給はほとんど全部をいっていい

らい学資金にあてなければなりません。そこで私がどうしても立ち上らなければならぬと考えて、四十三歳になって初めて真剣に立ち上りました。そして今までは自分の特技を生かしてピアノの個人教授をしておりましたが、ピアノを外地においてきました関係上、それができなくなったので、今では個人教授の出稼ぎをし、五人ぐらいの弟子をもっております。一週一回三百円ですから月収千五百円になります。それから鶏を三十羽飼育しておりますが、資金の関係上十羽売って、千五百円ぐらいの収入を上げています。それから自給自足ということを目ざして年間の計画を立て、蔬菜園芸をしまして野菜を全然買いません。これは家族が多いのと、鳥が少ないということのために、収入にはなりません。それからもう一つ、これはどんなところでも実行できるものですから、御参考までに申し上げたいと思います。軒下の空間を利用して空気のなかから金を生み出すという方法なのです。私の家は相当大きいものですから毎年軒下に、終戦直後から六十坪のかわちを植えて、それにかぼちゃが四百個ぐらいになります。大きいのは二貫もあるのです、平均八百個ぐらいで三百貫程になります。十人家族を引連れて食糧難を突破したかぼちゃは私たちの恩人なので、これからもやめないうちでおります。食糧事情がゆたかになったので、今は代用食にするということは

ありませんが、それでも自分たちの食糧にした残りを売って二千円ぐらいの収入を上げております。また乳牛を二頭入れて、私と子供たち二、三人で飼育して、その牛乳から得る月収は、家の人たちで一日に三合ぐらい一人で飲みますので、その残りで六千円ぐらいの収入を上げています。それから二反ほどの田畑を汗水流して働いて菜種とか、蔬菜とか、米麦というものをとり、年収六万四千ぐらい上げております。だから月にしますと約一万五千円ぐらいの収入があります。それで現在家族が六人おりますが、私は六人の食生活を千五百円でやっていると置いてあるわけですが、私の一つの誇りは、やみ米を終戦後一度も買っていないことです。それで十人家族が健康で毎日働いております。

問題点はどこにあるかというと、それは婦人の実力を養成しなければならぬ。実力とは何かというと、それは組織と技術と教養と経済力と健康、この五つのものが完全に充実したときに、初めて婦人の実力が十分に経済活動で生かされるのだと思います。それを養うには不断の工夫と研究がある。それからもう一つ時間の抽出、これができないれば内職はできません。それはどう解決するかというと、生活の合理化とそれから生活に計画性をもつということ、これが大きな要因だろうと思います。三番目には家族の理

解と協力がなければ絶対にできない。それがあって初めて主婦の雑事が省かれて、余剰の時間が自分の教養の時間になり、内職の時間になっていくのですから、家族の援助がなければ婦人の経済活動は成り立たない。それからもう一つは社会的なつながりをもたなければならぬ。それにはどうしてもグループをつくる必要があると思っています。近所の人に呼びかけて集まって来た者が二十六人、その二十六人の人たちが経済活動の生産面と消費面について二年間研究しました。会員が毎年ふえて、今は四十人になっていま

す。最後に考えますことは、内職をあっせんしたり、職種選定の指導をしたりする婦人の実力養成の指導機関の設立、それからそういうことに對する法律の制定、職場開拓など政治的に解決しなければ婦人の経済活動も、また家庭の経済の確立も、国の経済自立もできないということです。

(拍手)

同会 どうもありがとうございます。では最後に栃木の石井さんからお願いいたします。

石井 今まで十四人の方のとても熱烈なお言葉を聞きましてボウッとしてしまいました。私のしておりますのは内職といっても、主婦のアルバイトといった方があたっているかと思ひます。

私がアルバイトを始めたのは、生活が困るからではなかったのです。大きな問題点は、健康で文化的な生活を営みたいということが一つです。それと潤いのある、明るくて楽しい生活を、夫や子供たちと一緒に母である私もしたい、ということ、もう一つは婦人の地位の向上ということ、それ、それは結局主婦が勉強をする、社会に出て大いに自分の意見を述べるとか、社会性を養う、自分の勉強をするということ。それからもう一つは子供のいいお母さんでありたいということ、そういう希望からアルバイトを始めたのです。私のアルバイトは、外人の宣教師に日本語を教えることなのです。私はお茶の水大学の文科を出たので国語の方は得手の方でございます。主人は高等学校の音楽の先生をしております。上野の音楽学校を出て個人教授もしておりますので、月収は月給だけで二万五千円、個人教授で一万円ですから生活をしていけないわけではありませんが、家族は私がおりますから大人三人、それから子供三人、私は数年前から女性の経済的の確立ということをしたいぶんいろいろ考えて、また実行もしてみようと思ひましたけれども、これは大抵の場合に大きなじゃまが入ってどうしても実行できませんでした。その原因というのが、なんといいても私は一家の主婦である、子供の母である、夫の妻である、また姑をもつお嫁さんという立場にあっ

たからだと思ひます。戦争前私はそれほどアルバイトということに興味はありませんでした。女子は家庭に入って子供を丈夫に教育し、そしてまた家の中のことを上手に切り盛りすればいいという觀念の方が多かったのです。ですから初めは動めておりましたが、一年半ばかりでできれいさっぱりやめてしまいました。今から十五年ばかり前になりました。ところが戦争になってだんだん物資がなくなつてくると、子供は大きくなる、夫は応召する、家は戦災で壊れる。

こうなつてくるといくら私でもあんなりのんびりしておられなくなり、なんとかして職につきたいと考えるようになります。ところが女性に職をもちますと、どうしても朝から晩まで働きますから、家の中のことがルーズになります。自分のいないときに子供が帰ってくるということは、教育上とても悪い事です。なんとかして、子供が帰るときには家にいてやりたい、そういうアルバイトがあったらしてみたいと考えておりましたが、ちょうどいいぐあいに今の内職にぶつかりました。これは朝八時に家を出て、午前中二時間、この時間はフリーで、私がおそく行けばおそくてもいいし、早ければ早くてもいい、向うは準備して待っておりますから、行ったらすぐそれから二時間ちょっきりやって、二時間すればそれで終つてよろしいんです。む

たことは話さなくてもいいんです。一時金が百円ですからあんまり悪い内職じゃないと思います。最初は一人だけでしたが、だんだんに外人がふえてきて、今は奥さんが一人、子供が二人おります。それからドイツ人ですが、この方が一人新入生で三人を教えておりますから、月収にしますと、どんなに私がなまけて休んでも、まあ月五千円より低いことはありません。私がこういうアルバイトを始めたのは去年の五月で、始めてから一年足らずしかありませんが、この間に家の改善をいたしました。これは台所を狭くして労力が半減できるようにしました。それから子供たちにはセルフ・サービスと申しますか、自分の床の上げ下ろしや勉強部屋の整理などをさせて、小遣帳をつけさせております。お風呂の水汲みなどもさせる。こうして考えてみると、たいへんいいことの方が多かったような気がするのです。規則的な生活を始めたために健康が良くなった、気が若くなって明朗になった。社会性が養われて、夫との話題が合うこと、それから夫婦げんかをしてモヤヤー・プレーができるからたいへんいい、(笑声)新しい仮名づかいも正確になる、英語も思いつくし、日本語の文法や敬語についても思いつくし、アメリカの風俗や習慣、社会生活などの知識もわかってきて、子供たちに教えるためにも喜ばしいことだと思えます。それにもまして収穫は、

夫は年にも似合わず非常に封建的で、妻を家庭の中にしぱっておくことが好きだったのが、それがだんだんにおおてきて、近ごろは朝は起きられなくても起きるし、靴ぐらひは磨く、ときでもないのにお茶お茶と呼ぶこともないようになりました。それから潤いのある生活と申しますのは、私たちの月給の中から子供たちを連れて海水浴に行ったり、スキーを楽しんだり、本を買ったり、私は歌が好きですから歌の会に出席したり、PTAに出席したり、大学婦人協会、これは副会長をしておりますが、そういうことも顔を出すことができる。なんともいえない楽しいゆたかな生活がだんだんとできるようになったのです。このようにしていけば、欧米の女性にも肩を並べていけるようになるのではないかと思います。まことにやってなことを申しましたが、以上が私の報告でございます。(拍手)

がここで討論されるようになるのだと思います。十分の間休憩いたしまして、それから皆さんから出された問題をまとめて、そのまとめたことについて順に討論を行っていきなさいと思っております。傍聴の方々もたいへん長い間静聴に聞いていただいていたにありがとうございます。

(休憩)

司会 それではまた引続き部会をはじめます。

先程皆さんから出された問題をまとめて討論に移りたいと思いますが、その前に、先ほどからここで御一緒に御話を聞いてくださいましたアドヴァイザーの坂寄先生から御感想を少し伺いまして、それから始めていきなさいと思えます。坂寄先生は労働科学研究所で長い間中小企業や零細企業労働者の家族の生活について研究していらっしゃる先生でございます。坂寄先生、どうぞお願いいたします。

坂寄 皆さん方から実際の体験を通じてまして、あらゆる問題が切実な形で出されておまして、私などが感想を申し上げるほどのこともないのですが、いろいろの方々のお話を聞きまして思いましたことを要約して申し上げます。たとえば先ほど兵庫の岡野さんから、主人の失業の問題とか、離婚の問題に対応するというような意味で出されておりましたが、この失業の問題ということが、非常に大

きな現在の意義をもっているのではないかということを中心点として感じるわけです。それと同時に皆さんの御報告の中にありましたように現在御主人の収入ではなかなか生活できないという問題、働かれる労働者の方の生活というものは絶対的にも相対的にも貧困化してきている、こういう中に問題があるのではないかということを感じるわけです。そのところに婦人が働かなければならないということが出てくるわけでありまして、そのときに現在の日本の家庭生活の社会的、経済的条件から婦人が勤務できないという問題が起ってくる。たとえば先ほどなたから御発言があったと思うのですが、勤めようと思っても家庭があるから勤務は困るというような事態が起くる、そういうような問題。それから皆様方からお話が出ておりましたように子供さんたちの養育のために家庭から抜けられない。あるいは社会が非常に強いので家を留守にできない、そういうようなところから、現在一般的には家庭婦人が勤務できないで内職するという問題が出てくるのではないかと、思うわけです。そうしますと、そこから始まりまして内職それ自体の問題が出てくるのではないかと、思うのです。そのときにまず当面の問題が低工資の問題ですが、これは皆さん方から非常に切実な形で述べられておりました。それと同時に低工資なために仕事を次々と変えていかな

ければならないということ、同時に、これは非常に強調された御意見が出ておりましたが、技術の問題というものが関連してきているのではないかと思ふのです。安いから移らなければならぬということ、それは一定の熟練というものゝを阻止する要因に当然なるわけですが、技術というものを高めるという問題で工賃の安いことを解決できるかということになるわけですが、技術をもつていてもなかなかその仕事がついてこないという問題があるわけです。こういう問題を一掃した問題として提起されておりますのがグループをつくるのか、いわゆる組織をつくる、そういう問題ではないかと思ひます。この問題は低工賃の問題、あるいは技術の問題、あるいは内職される方々の社会的な救済の発展、そういう意味においても非常に重要な問題であります。今おそろく一艘の問題になっておりますのは、組織やグループをつくらなければいけないということが言われておりながら、そのグループをどうして作った方がいいかという点で非常に悩んでいらっしゃるのが現実ではないかと思ふのです。どうやって内職者が手を揃ひ合うかという問題、この問題を是非大きく取り上げていただくことが現在の内職問題の大きな一つの問題ではないかと思ふわけでありす。先ほどこけしをやっていらっしゃる方から、沢尻には六、七百人ぐらいいるが、その方の七人ぐらいのグループ

は安い工賃だと拒否してやらないでいるという問題がでていました。その点、もっと深く掘り下げて、今度の討議のときに出していただけたらいいと思います。大体内職それ自体の問題につきましてはそういうようなことを考えるわけでありす。

それから家庭との関係、こういうような問題は先ほども申しましたように、造花とか、いろいろなものを作っている場合、内職収入それ自体が生活を支えるというような事態をひき起してあります。どうしてそういう事態が生じたかと申しますと、戦争によって、多数の未亡人が不幸にして出たわけでありす。あるいは戦後の日本の経済生活というものの低下から病人という問題が非常にたくさん出ておりました。御主人が病氣になつて倒れて、その家庭を支えなくては行けないというところから、家計それ自体を奥さんの内職によって支えるという問題が起きてきているわけでありす。そういうような意味において、単に家計との関係でも、家計に内職収入がどれだけ寄与するかという問題ではなくして、そういう大きな問題があるのだという点、これは先ほどもちょっと出ていましたけれども、貧乏な者は内職ではやっていかれない、たしかにそういう現実が私たちの調査にもはっきり出てきております。できるような条件をどうしてつくり出すかという意味

において、問題を発展的に取り上げていく必要があるのではないかというふうに感じます。

それから内職ともう一つ大きく関係のありますのは家事との関係、この面につきましても話が出ていたわけでありす。この中でももちろん家事の内部的な合理化という問題がありますけれども、皆さんからいろいろ出ておりましたように社会施設との問題、たとえば保育園、こういうものが政府発表の統計を見ても、日本においては非常に少ないような状態でありす。こういうような家事との関係を単に内部的な合理化だけではなくて、同時に社会的にどうやって合理化をしていくかという問題があるのではないかというところを感じます。それからあと家族との関係、この面につきまして、栃木の石井さんからでしたか、非常にももしろいお話があったと思ひますが、御主人が非常に封建的な方だったが、石井さんが外人の宣教師に日本語を教える仕事をするようになってから御主人がよく協力するような形に変わつてこられた、こういうところに案外日本の現在の働く婦人の問題として大きな問題があるのではないかと思ひます。内職と婦人の地位につきましては今度の婦人少年院の取り上げていらっしゃる終局的の問題ですから、今ここで感想を申し上げない方がいいのではないかと思ひます。

最後に全体的にみて、私非常に明るい感じをもちましたのは社会立法に対する要求というものが何人かの方から御発言がありました。こういうような点について、やっぱり今までの内職——戦前の内職と違って、内職をやっている方々の政治的な意識の高まりというものを非常に心強く感じたわけでありす。もちろん欧米諸国においては内職、あるいは家内労働に就事される方に対する社会立法というものは早くから不十分ながら成立しているわけでありす。日本では一般労働者における社会立法というものはものも非常に遅れているわけで、当然のことながら内職者に対する社会立法という問題が非常に遅れているわけでありす。社会立法に対する要求が何人かの方面の非常に切実なお話しを通じて出ておりましたが、こういうような問題につきましても話を交換していただきたいと思ひます。最後に労働組合との関係、あるいは労働者との関係を言われた方があります。また働くことをそれ自体に対する関係を言われた方もありました。こういう問題を最後にしほつて討議願えれば、非常に内職の問題について発展的な見通しのある討議ができるのではないかということを感じます。(拍手)

司会 ありがとうございます。今先生からのお話にもありましたように、皆さんから出された問題は非常に大き

な大事な問題となつてゐるわけで、それをこれから整理しまして、順々に討議していきたいと思います。これからしばらくの間整理の仕方について、大体もれなく皆さんの問題が入つてゐるかどうかについてお話しあい、それから討議に移りたいと思います。皆さんから出された問題をまとめてみますと、まず第一に皆さんがおっしゃったことは内職の工賃が非常に安いということ、それからまた技術を高めなければならぬが、その時間も余裕もないということ、このような低賃金や技術を高めるために内職者の組織をもつとよくつくつていかなければならないというふうな内職それ自体の問題がたくさん出されたと思います。次には内職収入と家計との関係についてはある方は家計補助的なものとして考えていましたし、ある方はそれを生活を立てるためのものとして考えましたが、今後内職収入をどう考えたらいいかという点があると思います。また第三番目には内職をするときに非常に長い時間後運くまでしなければならぬことから、内職と家事との関係をどうしていくか、それをどう考えて処理したらいいかというふうな問題が出されて、この中に健康の問題とか、留守の問題などが入ると思います。その次にはまた子供の育児をどうするかということ、それから夫との問題について、内職に対する夫の理解や協力がどういう形であらわ

いるか、それを高めるためにはどうしたらいいかということとを討議するときに入ってくるのではないかと思います。そのほかに何かありますでしょうか。

証 現在の社会立法がどの程度提案されているかということとを坂寄先生から伺いたいと思います。

司会 そういふ問題も討議の中に織り込んでいただくようにしたいと思ひます。

それから先ほど健康の問題がずいぶんたくさん出ていましたが、その問題は内職と家事との関連のところには大体入つてくるのではないかと思います。

中山 内職の問題ではないのですが、ちょっとはずれるかもしれませんが、今の日本では貧しい人は幾分努力しても貧しい。お金のある人は楽をして——楽をしてといううへんですが、どんなお金が儲かるのですか。そういう社会全体の経済の低さをどうしたら高めることができるか。

そういうことがないと私ども内職をしているものは永久に苦しいのではないかと思うのですが、そういう社会全体を明るくするにはどうしたらいいかということも取り上げていただきたいと思ひます。

司会 それには五番目のところで大きく取り上げてはいいかがでしょう。内職と婦人の地位というものを単に孤立的

れるか、先程、内職するようになってから妻に対する夫の理解が深まってきたというふうなお話もありましたが、そのような家族との関係があげられたと思ひます。

最後に今坂寄先生からもお話ありましたように、働くことについて皆さんはどうお考えになるか、内職をするということについてもつと自覚して、一般にも評価してもらいたい。それは低賃金を解決する一つの問題にもなるんじゃないか。またこういう内職の賃金の低さが、一般労働者の賃金を低めることになるというお話がありました。それが内職の問題を取り扱う上に非常に大きな問題を投げかけていると思ひますので、この問題も最後によく検討しなければならぬ、それには結局において内職するということとは婦人の地位にどういふ関係を持つかという問題になるかと思ひますが、これを最後に討議していただいたらどうかと思ひます。大きくわけて、大体以上の五つになると思ひますが、皆さんの中でこういう問題がまだ落ちてゐるんじゃないかということにお気付きになったり、またこの問題はどこに入れたらいいかというふうな疑問をお持ちの方は出していただきたいと思ひます。

伊沢 立法措置のことはこの五つの問題のどれに入るのですか。

司会 第一番目の内職の奨励について現状はどうなつて

に取り上げるのではなしに、今おっしゃったよりな形でこの問題を討議していただいたらいいのではないか、そうしないと内職の問題は従来のような形でしか取り上げられないのではないかと思ひます。それでは大体今のようなことで、五つの問題にしばつて討議を進めたいと思ひます。まずはじめは内職の問題ですが、このなかにはききほどからお話のあった仕事の断続の問題、低賃金や中間搾取などいろいろの問題が入つてゐます。現状についてはみなさまからのお話で十分明らかになったと思ひますから、それについてどうしたらいいかというふうなこともここで御一緒に討議していただきたいと思ひます。

◎内職の実態

澤村 私は綿物をやっておりますが、個人的な仕事を頼まれると、そこは女ですから感情問題が入つて、たとえはセーター一枚編んで二百円ほしいと思ひしても、幾らですかと云われると、百五十円くらいに言つてしまつて、それがだんだん伝わつて百二十円、百円と安くなつてしまふのですから今のようには学校の仕事をしたら方が工賃が高いのです。けれども普通の場合はそういうところを過すと中間で取られますからかえつて安い、京都の方のお話ですと個人のお仕事をなすつた方が高いのです。既製品をなすつ

た方が安くなるのですね。

司会 今のうちに内職の賃金の問題と内職の受け方についてまだ御意見があると思いますが、それについておっしゃってください。

花浦 私は初め近所の仕事から、始めて内職の皮切りをしたのですけれども、そうすると仕事が二、三枚でもある間は、ちっぽけな話ですが、これができたら工賃がもらえるから、これを納めておがずを買おうという安心感がありますけれども、それを縫い上げてしまうと、そのあとをどうしようという不安が始終あるのです。その不安をなくするために、ある一定の仕事が続くようなところがないかと思つて授産所へ行き仕事を探したらありましたので、それを続けられるよう頼みました。私達にしたら仕事の切れるということは死活問題です。それでその間に悠遊して近所の仕事を取ろうというので、工賃の問題とか何とかそんなことじゃなく、とにかく次から次から仕事を続けよう、切れ間がないようにと思つてばかりでした。それで現在になりましたら二進も三進もいかないくらい働かなきゃならぬ。八時間働いたり、九時間働いてそれでいいなんてこと絶対にないのです。一日に十五、六時間働かなければならぬんじゃないんです。それではいけないと思つても仕事がなくならないと不安ですからね。たれかのお話にありま

したけれども、工賃が安いからといって、次から次へといろいろなことをしてみても、結局いけないんじゃないかと思ふのです。それで自分で自信のつくまでそれをやり遂げる。進花だったら進花刺繍だったら刺繍というように一つのをやり遂げる、やり遂げるといったらおかしいですが、どこまで行つたらどうなるということがないですからね。けれども自分の技術というものを生かすために同じ仕事を続けてするということは結局仕事先の信用を得るということになるんじゃないでしょうか。私は洋裁学校なんか行つてませんし、初めは一つも縫えなかったんですが、それでも今でしたらお隣まで婦人ものは大体こなせるようになりまして。ですから既成品ばかり取扱わなくても注文が取れるという安心感が自分でもできます。あつちこつちと食いかじつていたら結局真じやないかしらと思ふのです。

司会 ただいまのお話は仕事が切れることが不安だから、生活のために授産所の仕事をなさっていくというようなことでございますが……

中田 私も内職は受えたらだめだと思ひます。私はやはり洋裁学校に行つていませんが、自分が非常に好きな仕事であるということと、私が始めたときはちょうど終戦後で、既製品というものが一つもなかった、そういう時代です。簡単なパンツとか下着というようなものから始めて行

て、すればするほど知恵がついてくるし、仕事も上手になると思ひます。もう一つは内職をする場合に、内職だけの範囲でお客さんと対応していただくのはだめだと思ふのです。私は小学校の教員上りですから、お客さんの話の中から子供の教育とか、家のいろいろなことについても相談を受けるのです。そういうことに對しても広い知識をもつていて相談のつてあげる。お客さんと腹を割って、ほんとに親しくお話ができるようにしております。「あそここんな生地が安く出ていましたよ」と言うのと「私にも今度買って来てください」と頼まれたり、今では生地を買つて縫ってくださいとおっしゃる、そうしたお客さんはずつと続けた仕事を頂いております。それから新しい仕事というものには本職がおります。私たちは内職でやっているのですから、そういう尖端を切る仕事には追いついて行けません。それであるべくそんな店へは気がねを持って行かないというような更生品を多く扱っております。絹物も機械編が非常にさかんでございますが、絹直しをしてほしいとおっしゃる方の方の仕事は私に主としております。そういう本職の方の目の届かない面、たとえば古い物をほどこということは、私はほんとうに自分の仕事について勉強になると思ふのです。ほどこしてその仕事を習うということなのです。私はそれで現在までの技術というものを身につけてき

たのです。背広も仕立てますが、ただの一日も人から習つたことはありません。みんな新しいものをほどこしては型の取り方を考えたり、紺物に出ているので研削したりしてき

てやっております。

司会 石川の中田さんは洋裁を獨自分でやっていたらしゃるわけですね。ミシン内職などを授産所から受けているわけではないので、内職ではありますけれども、それが一応身につけてきて仕事があり切れるという心配なくやっていくことができるという形だと思ふのですがほかに御意見ございますか。

高田 皆様方のお話を聞くと技術をおもちなのですが、私には技術がないので、技術がほしいということは始終考へますけれども、私のグループも皆技術をもたない人が零細な内職を続けております。私たちの仕事は技術をもちなくても仕事が切れるということがないのです。技術をもちても、今はやりの毛糸の機械編みなんかは行きあたり過ぎて仕事がないのではないかと不安があると思ふのです。洋裁でも和裁でもたくさんする人があれば注文が少くなるのではないかと不安があります。私たちの零細なかかりにそういう不安はなく、まあ中間業者の搾取が一番いまいましいのです。しかし仕事は十分あって応じ切れないほど持つてきてくれます。百も二百も持つて来

て、いつまでにしてくれといって、けんか腰なのです。その点大変いいと思います。

竹中 私が何度か仕事を変えたから、皆さんそういうことをおっしゃったのだらうと思いますが、都会の下町の、私たちの周囲でやっている内職の一般的特徴を申し上げたいと思います。工賃は、一つ仕事を長くやれば技術が身につくようになっていくと思いますが、こんなせちがらいいとそんなことじゃないと思うのです。いくら熟練しても、たとえばヤラメルを包むような仕事ですと人間の力に限度があります。それで精根尽きてしまつて、もっといい仕事がないかしらと思つて変えるのです。三年やっただからといって、初めは一日五十円でできた仕事が熟練して三百円になるということはありません。どこで聞いても一日百円になればいいというのです。内職といつてもいろいろあります。が、工賃仕事といわれる内職の実態というものはそうなんです。内職工賃にも最低賃金制というものができたらと思うのです。それはヤラメルなんかでも早く包めるようにはなりますが、それでも幾らやっても限度は越えられないのです。

伊沢 いろいろの問題が出ましたが、一つの仕事を続けていたいただきたいという希望がありまして、はたして一つの仕事が続くかということが問題だと思います。私、養護

所の仕事をやっておりますが、私たちの仕事は洋服といつてもほんとうに初歩、刺繍といひましても初歩なのです。すると時期によつてとも左右されます。夏のパンツとかブラウスは初夏だけで、初夏からは手袋が出るとか、冬になればマフラーが出るというように、時期があつて、変りたくないと思つても要らざるを得ないので一つのことに慣れるというのは仕事が一ぱいなければ慣れない。ですからこの変らなきやならないという現状をよくみつめて仕事を続けていくということにもつていかなくちや、私はだめじゃないかと思うのです。

司会 ただいまのは続けたいけれども仕事がなくなくなるから続けられないという御意見、それから竹中さんは幾ら続けても単純な内職の技術の向上には限度があるからだめなのだという事で、家内労働法のようなもので最低の賃金を抑えていきたいという御意見であつたと思うのですが、それについて私たちは今の低い賃金をどうしたらいいかという問題で法律の問題など取り上げていきたいと思ひます。

岡野 中間搾取の問題ですが、手袋の貿易をしている方に伺つてみたら、直接家庭に出しますと、白いものを出しても、子供がよごしたり、左右が違ふのをもつてきたりして、内職婦人が責任を重んじないと申しますか、半端ものがで

きて、工場に迷惑をかけることが多いのだそうです。それで中間の方にまかせますと、そういうことを全部責任をもつのだそうです。間に合わないときにはどうにかして責任をもつて間に合わすとか、半端なもの、よごれたものができたときは中間の人が全部責任をもつのだそうです。家庭の主婦がもう少し内職をする場合に責任を重んじて製品をよごさないとか、期日に間に合わすということをしきもきちんとしたら中間を通じないでやらせるが、相当無責任な方がありますので、人を立てるのだそうです。そういう人たちがそれを見込んで、正当な手数料以上のものを取るために、主婦の手取りが少なくなるらしいのですが、そうするとまたそれを悪用して、それはどでなくとも中間の人が搾取するようになるそうなので、結局中間搾取をされないようにするために、主婦がもう少し責任をもつて、内職だからといって、いい加減なことをしないようにすることも中間搾取をなくする一つの方法ではないかと思ひます。

岡田 そういう問題も組織化するという問題によつて解決されるのではないのでしょうか。組織化して、そのグループで、かたまりになつて低賃金を是正する。先ほど先生がおっしゃったように、組織化することがいいということはおわっているのですが、組織化するときには、だれか犠牲になつて組織化するものがなければだめなのです。とこ

ろが毎日の内職に追われているものは組織化するだけのことができない、けれども大きな目で見ればやはり組織化してあたる方が結局得なのです。から、犠牲者が一人、二人出てもグループをつくるように努力をすればいいのではないかと思ひます。

津村 内職の工賃に対して立法化の措置ができないというのは、内職が職業として認められないからだと思います。内職が職業として認められていないというのは内職というものが業者と個人との契約によつて行われるもので雇われる者と雇い主という雇用関係がないために、幾ら安くても労働基準法も適用されないからだと思います。立法化するためには内職を職業化することが必要だと思ひます。それが前提条件です。

白方 ちよつと今の御意見について、内職を職業化するということになる、税金というものが伴うのではないかと思ひます。

伊沢 私たちは税金を納めても構いません、賃金が高くなれば、納めなければならぬ義務があるのですから。納めるだけの額がほしいのです。私たちは。

白方 すると内職の賃金を高めてほしい、そのことによつて税金を納めてもいいということになれば、税金を納めるのと、今までの労働工程に対する報酬と二つを附加えた

ものの賃金になってせり上げなければならぬということになりますから、需要と供給の関係で、そこには相当の調査と研究が必要になってくるのではないかと、内職というものを職業化するには、もう一度内職の種類とか、それに要する労働工程の時間とか、労力などを全部調査して、ほんとうに税金を納めても、なおかつそれで生きあうかという、私たちの実態を出さなければ、それはできない問題じゃないかと考えるのですね。

竹中 立法化の問題ですが、製品の何割とか、何分とか、そういうことはできませんか。業者も競争が激しいから大変でしょうが、どうして工賃が安くなくていくかという、やはり原料の費用なども、自分の利益は削らないので、内職者の工賃の方へしわが寄ってくるのです。だからそういうことを取り除いていったらある程度、それが確保できるのではないかと思います。

伊沢 私は内職を立法化する一番先決問題は内職斡旋所というものを公立にすることが一番よいのではないかと思います。公立のところへもって行って、そこで伝票をつけてもってくれば実額もわかりますから、立法化しやすい状態になるのではないかと思います。

征 先ほど内職者が税金を納めるとか、納めないとかいうことが問題になりましたが、その点は収入に基準を設け

て、これなら、たとえば内職で一万円の収入があるときですね、その一万円以下は税金を取らないとか、一万円以上は取るとか、そういうところに基準をおいていただいた内職だからといって税金を負担しても差し支えないと思います。

司金 さきほど内職賃金の立法化がどの程度進んでいるか坂寄先生から伺いたいという御要望がございましたが、ここで先生から日本や外国の問題がどうなっているかお話ししていただければいいかがでしょう。

坂寄 欧米の国内労働についての資料が充分にわが国にきておりませんので詳しいことはわかりませんが、国際労働局の報告ですと、一九四一年にアメリカでは七万七千家族百万人が家内労働に就事しており、一九三六年ですがフランスでも百万人、スイスでは一九四六年で七万人が家内労働に就事していると推定されております。欧米などの場合も仕事は大体わが国と同じようなもので、フランスを例にあげますと、被服・絹織・刺繍・レース・造花などが家内労働で行われております。

欧米でも家内労働者の労働条件は極端にわるく、一九世紀から色々問題にされ、一九〇九年にイギリスで先ず保護立法ができ、一九一一年にドイツで家内労働法、一九一五年にフランスで被服業等家内労働最低賃金法などがつくられま

した。このように家内労働者に対する保護法は欧州では早くからできております。これらの法律もその後発展してあるわけですが、その内容は賃金・労働時間の問題から、家内労働者の登録、労働衛生などにわたって規定されております。

このような保護立法の他に、フランスやイギリスなどでは社会保険を一般労働者なみに適用するところまですすんでおります。又、フランスなどでは一九四一年に家内労働者の有給休日制をきめております。

いまお話ししたように、欧米では家内労働者に対する色々の社会立法がかなり広汎に発展しておりますが、それが充分効果を發揮しているかというやはり多くの問題が残されておりますが、労働条件改善にプラスしておることは間違いないと思います。

家内労働者に関する立法をつくることはぜひ必要ですが、そのとき注意しなければならないことは、一般労働者の最低賃金制などの諸立法とどう関連させて皆さんが運動されて行くかということです。いいかえれば労働組合運動と皆さんがどう結んで運動されて行くかということが大切な問題になります。

司金 それでは立法化の問題はこれくらいにして技術の問題に入りたいと思います。内職の技術を高めていくため

に、山形のこけしの絵を描いていらっしゃる高橋さんは、御自分で技術を研究して低賃金を抑えていったという御話だったと思いますが、どうぞそのことについてもう少し説明していただきたいのですが。

高橋 最近になりました。こけしの需要が多くなったものですから、それに伴ってほかの県でもこけしの内職をする方が非常にふえてきたわけです。そのように同じ内職の方がたくさんいますと、どうしても技術が悪い者などは仕事が増えてこなくなりますから、私なんか五年やりましたがとてもこまかい仕事はできなかったのです。高橋さんの仕事は荒りものにならないとまでいわれたのです。私も私なものですから、それなら何か自分が特徴をもったものをつかみたいと思って、二年後でしたが、僕は内職をして、夜一時間だけ先生に習いに行ったのです。そして目と物の色の工合などを研究して、すぐこれは高橋さんのものとわかるようにまで努力したわけです。それが認められて、あそこの高橋さんならぼろちのあれを頼んでもいいといわれ、現在ではそういうふうな理由から米沢市内のこけし業者の方が、高橋さんこれを描いてくれないかと、輸出向のこけしを頼みにいらっしゃるようになりました。五、六十人の方に教えたこともあります。そういうわけですから、内職する方がたくさん出た場合には、どこか自分の特徴と

いろいろのをもつて、それでおしていくよりほかに方法がないのではないかと思うのです。

司会 そのほか何かに技術を向上するためにこういうことをしたという方はございませんか。

中田 私は洋裁の方ですから、お客さんから一ぱいお叱言を頂戴することによって、このお客さんはこういうふうなものが好きだということがわかったら、その次からお客様の氣に合ったようにする。氣にいらなければ仕直しをそれが一年たったものでも、二年たったものでも喜んで受けます。お金をいただくかないで、腹をたてないような顔をして、技術のためにという氣持でお受けしています。お客様に教えていただいているわけです。

成松 養鶏をして、小さいひよこを育成しているのですが、同じ養鶏でもせっかく鶏を飼ってみんな殺してしまつたという声が非常に高いのです。あなた方が研究しないからだめだと私も言うのです。私はずっと親けて研究してきて、よそのものもみに行きますし、いろいろお話も聞いてますし、わが子を育てるような熱心さでなければ決してできないということを常に思っております。たとえばひよこですが、母鶏がいなくて人工ですから、母鶏の温度、四十度という温度を保たなければ育たないから寒暖計を置いて育てていくとか、他人は七月ぐらいで卵を生ませる

のを、飼料の配合とか、いろんなことに目をつけますと五か月位で成鶏になるとか、それから水の給与のことや、一日どれだけやたら飼料がむだにならないかというふうな研究、又飼料の値段と産卵率、売上げの値段の比率の問題、こういうことを常に研究しております。この度東京の方に参りますときも、日本一の養鶏県である愛知県に一時泊して、いろんなことについて一晩お話を伺ってきました。常に研究しなければならぬと思っております。

司会 今までお話を伺いました高橋さんも中田さんも成松さんも、お一人で非常に技術を高めていらつしたわけですね。それは一人でやっていらしたわけですが、そういうようなことは一人だけじゃなくてみんな一緒にやらなければできないじゃないかという問題がさきほども出ていましたが、そういう組織化の問題を今から、話しあっていきたいと思ひます。

中山 私が毛糸の綱物を五年前に始めましたところは、小さな町ですから、町で二人かそこらでした。現在は町に教習所ができて、若い方々がその仕事にわつとびついで、たいへん数が多くなっております。五年間にいろいろお客さんもつきまして、現在仕事はとぎれませんが。しかし新しく始めた方は仕事がそんなないというのです。だからといって小さな町なので、大きな組織をつくるということ

はできません。五、六人程度で集まって、私は受けられるだけの仕事をどんどん受けて、仕事の無い方に――あまり下手な方は困りますけれども、ある程度腕のある方に、全然中間搾取せずに（笑声）やっていただいております。そんなふうな小さい組織しかできないのです。けれどもそんなふうにしてみんなに喜ばれておりました、日曜なんかも都合のできる方は集まって、帳面や物さしを持って近くの町に出かけて商店のウインドーを見て廻ったりして、技術の向上をはかっています。大きなことはできないので

五、六人程度で組織をつくって、相互補助のようなことをやっております。

花浦 私は五、六年間同じところの仕事をしておりますうちに、去年の四月から健康保険をいただきまして、割台恵まれているんじゃないかと思ひます。今ちよつとお聞きしていると、内職をしていて健康保険や厚生年金、あひうものに加入していない方のほうが多いのではないかと思ひますが、長く続いていたおかげでそういう特典をいただいたことはたいへんしあわせだと思ひます。

高田 私のグループは十人ばかりですが、元は三十人ばかりもいたこともあります。結局資金が安いからやめてしまふ人がたくさんあるので、なかなか続かない。中間搾取をなくしたいというのが私の念願でして、直接貿易商と結

びたいと思ひましたが、さきにも申しましたように、女の人の力は小さいものですから、なかなか会つてくれないだろうと思ひます。東京の方の力を借りて、私たち進出したと思ひているのですが、そういうことはできないんでしょか。

榎 それは大きな組織を持つということが大切ではありませんか。

白方 組織のことについて申し上げますが、内職の問題というものは一人でやってもだめなのです。やはり台所の隅でやってもだめだから組織をつくらなければならぬ。同じ悩みをもっている者が立ち上るのですよ。

高田 あと押しをしてくれる人がなければ立ち上れません。

白方 一人一人が結集するんです。あなたがそうお思ひになったら、内職についてこういう考えをもっているが、同感の方は署名して下さいと書いて、廻すんです。そして持つて行くところへ持つて行って、組織でいかなければだめです。

竹中 理想的にいえばそうなるのですが、地域にある婦人団体あたりでもう少しそういうことをやっていた方がいいと思ひます。婦人会の会長さんになる人はいわゆるブルジョアとか有閑マダムで、私たちは会費を納めているだけ

の会なんですね。町内とかなんとかまとまって、あなたのところの工賃は安過ぎるからとか、そういうことをやっていただけたらと思います。

岡田 内職者は孤立したらいけないということを強調します。先ほどの方がおっしゃったように、同じ悩みをもっている人ですから、共通した問題を取上げてグループをつくる。やはり先ほど言ったように、だれか犠牲者になってそのときはその人は損をしますけれども、大きな目で、みんなに利益が来るようにということを考えなければならぬと思います。

極 組織ということを先ほどから力説しておりますが、私は組織と一緒に、お互いに内職者一人々々が個人主義であってはいけないと思うのです。連帯責任を感じた仕事をしたいかなきゃいけない。そこでみんなの責任観念を養う。でき上った品物が不備な点が多いということは、お互い個人個人のその場主義の気持から不正な物がでる。それは五人、十人がグループを作って、連帯責任をもって仕事をしていくということが、組織に伴って大切なことではないかと思います。

司会 組織の問題でいろいろ御意見を出していただきましたが、この問題は大体このくらいにして、第二番目の内職と家計との関係についてこれをどう考えたらいいか、御

です。

司会 御主人がなくなったとか失業の場合などで生活を御自分でやっていらっしゃる方には家計補助的な意味はなくなっています。家計が豊かである場合にはどうでしょう。

成松 内職をしている家庭を眺めてみると三つに分れていると思います。第一に主人の俸給のみに頼っていられないで、将来を考えてやっていると、主人の俸給が足らずに毎日々々の収入を補助している方と、主人が職業または作業の能力がなくて、子供はいるし、離婚はできないし、しかも外に求める職場もないという人が必死になってやっていると、この三通りになると思います。そしてそれぞれ家庭に寄与する金額という点についても違って考えなければならぬと思います。

高田 私の内職は零細なのですが、今月は子供に何を買ってやらうかということをやまず目標におきまして、今月は二千円取ろうという意欲をもって、家事労働をできるだけ切り詰めてやる。そして子供のものを何か約束して買ってやります。ですから子供はとっても喜びますし、子供の教育にも非常に寄与する点があると思います。毎日母ちゃんが元氣出して仕事をしてくれた。そのお蔭で私のこれが買えたという母ちゃんに対する感謝と、それから物を大切に

意見を述べていただきたいと思います。

◎内職と家計との関係

白方 内職が家計にどうひびくかということは、生活状態によって違うと思うのです。たとえば衣食住の生活にもっていく人もありまじょうし、また生産資金にもっていく人もありまじょうし、教育資金にもっていく人もありまじょうし、準備金としてもっている人もありまじょうし、おのおの違うと思いますが。

司会 内職をなさっている方の御家庭の事情によって、それは実際には非常に違ってきていると思いますが、内職に対する考え方、例えば内職の収入は家庭の主婦がやるのだから、いわゆる内職だから安くてもいい、そういう家計補助的なものでいいのかどうか、それについて皆さんの御考えを出していただきたいと思います。

伊沢 内職だから工賃が安くてもいいのではなくて、個人として、私人間として生きていく労働価値を買っていただきたいと思っています。

花浦 私みたいに内職の賃金が生計の全部になると、子供も育てていかなければならない、家庭もみていかなければならない、一人三役になりますから、その内職の収入が家計の何割になる、なんていう生やさしいことではないの

するということ、教育の面で大変プラスになると思います。

私は主人の俸給で生活していますから、別に困らないですけれども、子供にそうした教育を続け付けたという意欲もあって、わずかでもいいから、子供のためにというので一所懸命なのです。

石井 これは皆さんの労働に対する報酬なんですから、それに対しては相当の賃金が払われるのが当たり前だと思います。家計が豊かであったならば社会事業でも教育事業でも、幾らかでも貢献していいと思います。

岡野 夫の収入が多くて一家の生計を支えられるような場合でしたら、教養費とか、文化費とか、娯楽とか、社会事業などにも使われまじょうしが、夫の収入が少いとか、病氣などの場合はお互いの収入が今日のおかず代になってしまふというような家庭も多いだろうと思います。それから内職で非常に忙しかったために、お母さんが夕方遅くまで働いたりしますので、ついでき上ったものを買ったり、それから子供たちがうるさいものですからおやつ代によけいにいたりしますし、それから私どもは夫が半失業状態のような経済状態ですので、ただ内職というふうな観点でなくてそれも一つの職業として正当な報酬を与えられて、女も経済的に自立できるようになりたいと思います。

白方 内職ということはこんなふうに考えているのです

が、今は経済的に補助的なものですけれども、家計の豊かな人の内職はもうこれでいいというのでなくて、やはり世の中の文化の発展のために、これでいいというところは死ぬるまで考へるべきものではないかと思ひます。余裕のある人はどんな研究して、高められた技術を十分に生かして、周囲を潤おして行く、そういう社会的責任と義務があるのではないかと考えます。だからこれでいいということは絶対にないと思ひます。

岡田 先ほど支出が子供のおやつなどでかえって多くなるというところがちょっと出ましたが、収入と支出の問題についてなにか御意見ありませんでしょうか。

岡田 先ほど私が申しましたように、やはり希望としては、内職者がだんだん家計補助というふうな考えを捨てて、ほんとうに立派な婦人労働として評価し、また評価されるようにしたいと思ひます。

財部 先ほどから皆様方の御意見を承りまして、私たちの今まで経験しました婦人の内職についても、往々にして文化の低いところで暮らしている婦人の方は、権利も主張するし、義務も遂行しますが、そうでない文化の低いところで暮らしている人は、たとえば私どもの島のあたりでは、大島紬を内地に売って送っており、あれを繰り上げていくのはほとんど主婦です。大島紬は戦争前には政府から保護さ

は洋服の時代だから需要がないかどうかというところが、今後の私たちの死活問題です。

高田 主人の俸給で生活しておられる人は女の方が得た収入を家計に廻して、主人の俸給は、家計から貯金をするということをや大きく申し上げたいと思ひます。

伊沢 家計を助けるために働きたいということは、皆さん考えていらっしゃると思うのです。それは私たちの町だけのことも知れませんが、家計を助けるために働きたいのです。家計を助けるためというのは結局子供の教育費に廻すとか、極端にいえば今晚のおかず代を稼ぐために皆さん働いているのではないかと思ひます。余裕のある人と私たちみたいな零細なものとの違いはあるかと思ひます。

坂寄 非常に今の問題は重要だと思ひますが、何か家庭経済というものは主人がもって、それを婦人が補充的な形で、家計を補助していけばいいのだという問題と、先ほど出た労働の価値を認めてほしいという、こういう問題と、非常に密接不可分な問題ではないかと思ひます。やはり現在の形では経済生活の面だけ見ても、御主人が責任を一方的にもっていらっしゃるのではなくて、御主人と主婦と二人で家計というものを共同でいらっしゃる、そういう意味でやはり考えていくところに労働価値という問題

れて、事業が差控したために、その主婦の収入というものが旦那さんの収入よりずうっとオーバーしているわけですね。旦那さんは家の家内がしてくるから大丈夫だというので、奥さんに依存し過ぎて、旦那さんに意気させる癖をつけた、これは文化の低いところでは往々注意してもらわなければならないと思ひます。内職を本職にもって行くということは理想ではありますが、その半面、男の人たちを意気させるということも欠陥ではないかと思ひます。このような欠陥を体験したことのない人にはわかりませんが、沖繩やら奄美大島では、女が重労働をして現金収入がありまします。それから、三味線は男が弾いて、男が歌を歌っている。そういう悪い習慣をつけるということは、内地ではほとんどないことでしょうか、その点を警戒していただきたいと思ひます。

岡田 大島紬のような特殊な内職でしたら、夫が意気するほど収入がありましようが、われわれの内職も、夫が意気するほどよい賃金をいただきたいと思ひます。(笑聲)

財部 私の申しましたのは戦前のことであって、今は大島紬を一所懸命縫ってでも最高月四千円、事業が不振だからです。発展すれば昔のような夢が許されるのではないかと思ひます。八年間の空白があるので、内地の購買力はわかりませんが、現在でも大島紬に興味があるか、あるいは今

も出てくるんじゃないか、そういう考えと是非はつきり結びつけていくことをやっていただきたい。

それからもう一つ、先ほどのお話の中で気づいたのですが、責任ある仕事ということですね。これが応募文中にもたくさんあったのです。困っている方がこんな工賃で責任ある仕事をやっていたら、食べる問題に行詰ってしまう、ということがあるわけです。ですから自分の方の問題としては、責任あるとか、技術とかいう問題を考えているのではなくして、そういう条件ということをやっぱり考えていかなければ、愛知の方から御指摘になったような問題の発展ということがないではないか。

特にもう一つ問題にしたいと思ひますのは、たとえば調査しまして、東京都下の都営住宅の関係なのですが、そこでやっぱり輸出産花をやっている方々が、あれ一たばが三円だったのです。それを八人の方が一緒に買って請負業者と交渉して三円五十銭にした、こういうようなところにも非常に問題があるのではないか。中間搾取ということが問題になるわけですが、たとえば輸出関係のものにはずいぶん多いわけですね。ですから世界経済との関わりでやはり問題にしていっていただきたいと思ひます。そういう形で、特に今後、先ほどもなたからかお話が出ましたように、生活が苦しくなってきましたので、失業者も

どしどし増えてくるので、内職をやられる方もどんどん増えると思うのです。そうすれば内職の工資は当然下る一般の傾向をもっていると思うのです。そういうような中で考えますと、先ほど出た工資の立法化というような問題が出てくると思います。日本では労働者に対し最低賃金制というものがなく、へたな内職者に対する最低賃金でできちゃうと、一般労働者の最低賃金にすり交わって行くということは、諸外国の例にもいっばいあることなので、このような点についてもっと討議されなくちゃならなかったと思います。

司会 明日の最後のときに総合的な討議がありますので、そういうようなことも明日の最後に取り上げていきたいと思ひます。

そのほかはございませんでしょうか。それでは時間も大分過ぎましたので、今日の第三部会の討議はこれで終ることにいたします。明日は朝九時から、この同じ場所で行き續いて討議を行うことになっておりますから、会議員の方も、傍聴者の方もそれまでにお揃いいたゞくようにお願いいたします。どうもありがとうございます。

(第一日 閉会)

しまうとあと家事一切をやってお掃除がすべて終ってから新聞を読みます。

司会 今の成松さんは内職の時間が勘定のしにくい、朝から何時までを内職にするというようなお仕事でないわけですね。そのほかにほんとうに内職をどうしてもやっていたいかなければならないということでは、はっきり内職の時間のおおかりになる方をお願いいたします。

伊沢 私は朝五時半か六時ごろ起きて、それから朝食を済ますまでの時間が大体二時間かかります。それからお昼までやって、お昼の時間を三十分とみます。それから買物に一時、それは三時ごろです。それから夜の御飯の支度、それを全部で二時間みて、そうすると家事に六時間から七時間取られます。お洗濯のある日もありますが、そうしますとその他の時間を働くわけですが、夜十二時に休みますから、その間、十二時から十三時間働いております。しかし私の場合は、十二、三時間で済みますけれども、それ以上の方がいるというのを御承知願いたいと思ひます。夜十二時から私なんかの場合でしたら、家計簿をつけたり、新聞を読んだりする時間を三十分ままして、十二時半に休むことにしております。結局実働時間は十二時間から十三時間働いております。

証 私 は朝六時に起きます。朝は大体ひまのかからない

司会 ただいまから昨日にひきつづき第三部会の討議を始めることにいたします。

今日は第三部会の内職と家事との関係について討議を始めたいと思っております。これには皆様から非常にたくさんのお話が出ておまして、内職をやっているものがかかにか家事との関係で、いろいろの困難にぶつかっているかがわかったのですが、どうぞこれからの討議でその問題をどう解決したいか、それを皆様と御一緒に少しでも具体的によくするように考え合っていたいだきたいと思ひます。部会の時間はこれからお座りですが、あと三つ問題が残っていますので、簡単に要点を申し上げて下さい。まず、内職の時間は一日何時間ぐらい、睡眠時間はどのくらいでしょうか、そのことから始めていただきます。

◎内職と家事との関係について

成松 私の場合内職をしていないのとなと変りありません。なまかと申しますと、時間に縛られない仕事でしよう。ですから少しもやっていないのと変りありません。朝普通六時に起きます。そうして子供に分担させて、責任をとらせておりますし、主人にも協力してもらっておりますから朝、ちゃんとみんな出来ますし、みんなが出て行って

ようにパン食にします。パン食ですと子供がちよこちよことかけて買ってきてくれますから、味噌汁を作って、パンにバターとジャムをつけて、ごく簡単に済みます。ですから一時間ちよこちよこで食事が済んでしましますから、七時半には仕事にかかれます。七時半から十二時まではずうと仕事をしていて、子供は学校で給食がありますから、お昼になると私が一人パンにいたします。そのパンを買いに行く時間約十分、いただくと両方で三十分です。その三十分の時間が済みますと大体一時になりますから、一時から六時半までいたします。夜の食事は子供が学校から帰ってきますから、子供が火をおこしたり、ときにはお米をといだりして炊いてくれます。その場合、私はただ口を助かし言いつけるだけでいいのです。買物もほとんど野菜とか魚を金額で言ってお金を渡すと、六年生になる子供が買ってきてくれます。夜は七時から十時までは仕事をしております。仕事の時間は十二時間程度と思っております。

司会 山形の高橋さん、あなたはどのくらい二けしを置く時間につかっていますか。

高橋 私の実際の仕事の時間は十時間、家事の方には六時間、睡眠時間八時間です。朝起きるのが六時で、夜寝るのが十時になっています。

司会 十時にお休みになるのですね。もっと遅くまでや
っていらっしゃる方はいらっしゃいますでしょうか。

花浦 私は早いときで十二時まで、遅くなりましたら三
時か四時ごろまで、朝は寝坊です。八時ごろに起きます。
それで家事は子供が一切やってくれます。

竹中 私は仕事をするのが八時間、睡眠時間も八時間、
家事も八時間です。

体が弱いものですから、大体八時間やるとやめてしま
います。

高田 私も竹中さんと大体同じで、少し内職の時間が多
く、十時間くらいやります。睡眠は八時間とりましますから、
家事労働が少し縮減されます。

司会 そのほかに今のようない問題で現状を出していた
けませんか。大体非常に長い方と、それから割合
に計画を立てて、健康のことやいろいろの問題を考えて計
画をしていくことをやっていたらっしゃる方がいますね。
そのことについて、家事との関係や何かでどういふ計画を
たてたとか、あるいは立てたくても立てにくいのだという
ようなことがありましか。今の三時までやっていたら
しゃる方も、立てたいとお思っているからしゃると思
いますが、そういうときにそれが立てにくいのだというこ
とをおっしゃっていただいて、また、計画を立てていらっ

悟をきめて一年ぐらいたってききましたが、困ったからとい
って儲けることばかり考えるよりも、消費面を上手にやっ
て最低生活を続けて、ずっと待機して飛躍する時機を待つ
のが大切ではないかと思えます。ガムシヤラに働いて、そ
れがいつまで続くか、無鉄砲に働くということは今後考え
なければならぬ問題ではないかと思えます。

花浦 私の場合、自分の受取った仕事の責任上、万やむ
を得ずそうしなければならぬ場合が多いのです。健康と
いうこともたしかに大切ではありますが、責任を果すとい
うことが私の場合は大切なことなんです。

司会 それをしないと、あとからもえなくなってしまう
とか、そういうことですか。

花浦 そうじゃありません。あとからもえられないという
ことじゃなしに、自分にこれだけの仕事をさせてもらえ
るというときに、この仕事が遅れたら、どれだけ迷惑するだ
ろうかという責任感です。どんなことをするのでも、責任
を果すということが大切ではないかと思うのですが。

中山 ですけれども、責任を果すというにはやはり健康
でなければ責任を果せないのではないかと考えますが、そ
れはやはり睡眠時間を十分にとることで、私も仕事が忙し
いときには今まで十二時、一時までしたことがあります、
翌日は今までの仕事の半分もできないのです。だからや

しゃる方はどうして立てられたかということを出してい
ただけ、この問題がはつきりしてくると思えます。

岡野 私の場合、今は楽なんです、かつて雑物とか雑
物などしておりました場合、仕事が非常にかたまってしま
うのです。そうなりますと計画を立てて健康を考えてなん
て思いましたも、どうしても何日まで仕上げてくれと言
われましたら、家事も、洗濯もおっぱり出しておいて夜通
ししなければならぬような状態になってきます。それが
平均しておれば理想的なんですけれども、やむを得ないと
思います。

伊沢 結局家計がゆたかでないから内職をしているの
で、幾らかその一箇月間の目標というものを立ててやら
なければならぬ。今月は三千円ほしいと思えば三千円働か
なければならぬ。そうすると幾ら計画を立てたくても立
たないのです。三千円働くためには工賃とやる時間を考え
なければならぬから、計画を立てるには自分の身体を酌
使して、それで計画を立てる以外にないと思えます。

財部 私は内職というよりも、主人が病気をしたとき、
家族を抱えて、借金を抱えて、そして働いても、働いても
おつかないという境地に陥りましたときは、消費面を極
力抑えて、御飯のおかずには薬をつぶして食べ、塩をなめ
ました。睡眠を十分とって、絶対に十時間休もうという覚

はり健康ということを考えなければならぬと思えます。

岡田 私もガムシヤラに働いて倒れたものですから、非
常に花浦さんの御意見に賛成はします。自分が達者なとき
にはそう思いましたが、一旦病気をしたら責任も何も言っ
てられないのです。経済ということはお金の部分だけ
じゃないのですから、身体が健全であるということがどれ
ほど経済であるかわからない、そういうことを大きな目で
見なければいけません。責任も大事ですが、一たん健康を
損ねたら、そんなことじゃありません。

竹中 やはり生活に追われていると、そういうことにな
るのではないですか。内職の限界を越えてまで働かな
ければならぬ場合が多いのです。そういうことがいいと
いうことがわかっていてもですね。

花浦 皆さんはたれかに依存していくということが出来
るでしょう。私は世界中どこを探しても自分の寄りかかる
ところがないのです。自分の働く力だけなのです。

岡田 依存するところがなければならぬ自分の健康と
いうことを考えなければならぬのです。(拍手) 自分の
子供がどうなるかということをまず第一に考えなければ
ならないと思えます。

坂寄 この点なのですが、たとえば調査に行っても、そ
れから昨日の話でも、花浦さんのような方がたくさんいら

っしゃるのですよ。袋貼りなんかやりますと千枚三十円、そうすると、せいぜいがんばっても一日九十円くらいにしかならないですね。それでお米を買ったり副食を買ったりしなければならぬわけですよ。四十円というものを稼ぎ出さなきゃ、今日の健康を——明日の健康じゃなしに今日の健康を維持できる源泉を求められぬ方がいらっしやるわけですね。そういう方が未亡人とか、いろんな方にたくさんいらっしやるわけですよ。その今日の健康と明日の健康という問題でもう少し考えていただくと思うのですがね。

佐 私の場合は大体計画を立てておりましたが、出版の仕事なので、幾日までに発行しなければならぬというときがありますから、二時頃になることも多いのです。そういう場合は業者自身の日限というものがきまっています。という。雑誌なら雑誌は幾日までに発行しなければならぬという。そういうところに行っていますので、やはりいろいろ計画を立てても、計画以外に二時までもやらなければならぬというときがあります。そういうときはやむを得ないと思つて、翌日休養にあてるといふふうな方法をとっております。

中田 私はそういう窮乏な仕事はなるべく延ばしていたくようにお願いしますが、それでもどうしても間に合わない

話ですが、今日の健康をどうしようということにまではなっていないのではないかと思うのですよ。さきほどから、この部会ではそういう方たちと、明日より今日の問題が大変だという方たち、——ここには出ていらっしやる方多い勢の方たちがあるでしょうし、出ていらっしやる方にもそういうことがあるので、その問題も大切なので、考えながらやっていたいだきと思うのです。

伊沢 家事の時間を詰めるということは、ガスがあり、水道があり、家に坐っていて何でもできることが必要だと思ふのですね。ただ働くだけが家事をうまくやることじゃなくって、買物の時間とか何とかいうことも是非必要なのです。それから、それにはガスもあり、水道もあり、電気洗濯機もあり、冷蔵庫もありというふうな社会を夢に見ているのですが、そこへ到達するのはまだまだ遠いことかもしれない。せんけれども、それが内職をするということよりも、婦人が家の中で働くということに一番必要ではないでしょうか。現在は富裕な方たちだけがそういうことを利用していますが、ほんとうに必要なのは私たち働くものが必要だと思ひますが。

白方 私は家事の合理化ということに對して、皆さんの今非常に困つていらっしやる働く時間が長い、それを埋めるためにどうするかということになると体力が必要になり

ないときには同僚の方にお願ひして睡眠時間は最小限度七時間とるようになります。

高橋 私も中田さんと同じようなやり方で、七人のグループで仕事を廻してやっています。私の手で仕事をしてもらいたいという場合にはそれだけ時間は延びますからね。仕事外労働というふうな名前じゃなくても、仕事の工賃を少し余計に出していただくというふうにもなっていますから、翌日は楽です。急ぐ仕事はなくなりますから、休養をとるようにしております。

岡田 今のお二人の御意見に賛成いたします。そういうことができればこそグループが必要で、グループは低賃金を是正するだけでなしに、利益面があるというのは、家事の多端なとき、病気のとき、お互いに助け合うということが利益面の一つに現われてくると思うのです。だからグループの必要ということはそこにもあると思います。

白方 賛成します。

司会 グループを作つてやっていたら方々の御意見が出たわけなのですが、山形の高橋さんの場合も、それから石川県の中田さんの場合も、ある程度御自身の内職といてもその仕事が軌道にのってきている。それを自分の考えで延ばしたり縮めたり、それはグループの方たちの援助を得て、どうにでもできるし、収入の方も今の先生のお

ますから、食生活の合理化ということをしなければならぬと思ふのです。働くために食生活を簡単なもので済ましていると必ず続きません。倒れます。栄養をとって、カロリーを十分にということを念頭から去ってはいけません、それは美食ではありません。食物を研究して料理献立というものをこしらえる。

成松 時間をうみ出すために台所の改善と間取りの改善が最も必要だと思ふのです。往々にして団舎では食堂と炊事場の間が長くて、内職する部屋に光線がなくて、健康状態に悪いようなところでしたら、やる方もあるということを考えています。

石井 内職するにはどうしても時間を節約しなければいけませんから、それについて女のお城ともいわれる台所の改善が一番大事だと思います。私、今までの台所を半分の狭さにしました。一間半よりありませんが、とにかく廻とか流し、コンロを置くところ、全部一ところに立っていて手が届くようにして、外にある井戸も家に入れて、台所の合理化をしました。また日本の坐るという生活は非常にいけないと思ふのです。坐つてしまふと立つのに時間がかかる、腰かけているとずっと立てます。食器と子供部屋は腰かけるように、こたつも腰かけるようにしました。買物も毎日買わずになるべくまとめて買えるものは一週間く

らい買っておくというようにしております。

中山 台所の改善ということほだれでもやりたいのですが、それだけの資金がないのです。結局私の場合だったら今は夫と子供と、そういうような家族全体の協力で整理に基づくよりないのです。

証 さきほどから台所の改善ということをおっしゃっていますが、それはほとんど、今日に迫られた人はどなたも承知しているが、できません。ですから時間を生み出す、時間的経済概念というものが一番大切だと思います。ですから家事を分担する。子供は子供なりのことをして、分担して時間の短縮をはかることが一番大切だと思います。

高田 私は食事ですね、保存食をつくりまします。食事に時間を取らないようにするためですけれども、栄養に重点をおいて、いろいろ時期に合った保存食をつくっておきます。それから買物も買いためします。

証 買いためのできる方はしあわせよ。

岡野 時間を生み出すために、まず一週間というふうにするかという計画を立てまして、それから一日の仕事の計画も立てて、一つの時間になるべく二つも三つもの仕事を一ぺんにしてしまします。朝、味噌汁をつくるついでにおだしをとって、晩のコーロケのじゃがいもをゆでてしましう、御飯を炊きながらお風呂を焚くとか、そういうふう

して、できるだけ節約して計画をたてています。

司会 生活時間の計画化ということですが、先ほどその問題が出て、それさえできないという御意見が出てましたね。電気洗濯機はさておいて、ガスさえなくて燃えなきやならないから、なお手間がかかるということがあると思ふのですよ。伊沢さんはガスや電気洗濯機を夢見していらっしゃるわけですが、現在どういったらどうでしょう。

伊沢 私は今石油コンロを使っております。ですから仕事をやりながら御飯を炊き、放して仕事をやっていられるわけです。たとえば洗濯なら、洗濯が終わったころ御飯がちょうどできてますから。私は今のところ石油コンロでやっているのですが、まだ木を燃していらっしやる方もあります。

司会 だんだんと石油コンロとか、便利なものもできてきましたけれども、そういう家事の合理化の具体的な方法については第四部会でもぜひぶん出ていると思ふのです。ここで内職との関係で、明日の健康と今日の健康の問題にしばって、そういうせっぱつまった状態で家事をどう考えて処理していったらよいか考えてゆきたいと思ふます。

津村 少し意識しているかもしれませんが、内職をする

人たちは、グループをつくって買物に行くとか、放事をするにも共同放事の形にもっていったら、幾らかでも時間の節約ができるのではないかと思います。

証 それはちょっとむずかしいと思ひます。

荏浦 私は一週間の献立をこしらえておきます。栄養の面についても毎日々々同じものを食べるようなことなしに、一週間分だけちゃんとしておいて、それを子供に渡しておきます。そうすると、そのときにちょっと都合が悪かったり、売ってなかったりしたら、その次のをやっていくというふうにして、小人数なものですから、割合順調にいきます。

証 私の周囲に未亡人の方が十一人ぐらいいて、収入も同じで生活程度も同じです。けれどもおのおの好みというものがありますから、なかなか共同放事ということではできませんね。

高田 私は共同放事はできないと思ひます。けれどもクリーニングなんか一緒にやります。友の会のものがみんな寄って、洋服をもち寄ってクリーニングを一ぺんにやりますと、薬も少なくて済みますし、時間も経済です。

伊沢 共同放事とか、一週間の献立をたてるとかおっしゃってますが、一週間の献立をたてるとは一週間分の余裕がなければならぬ。結局余裕のない方が一週間分の献立

をたてて、それを買に行っても、その日にその物価が高かったらどうしますか。私は献立を立ててやるということも貧困者の場合は不可能だと思います。

司会 今日的生活をどうするかというふうなときには、なかなかやりにくいということですが、その問題はどうか解決したらいいでしょう。

岡野 そういうふうな家庭では、お米の配給をもらうのにも大変困っていらっしやると思ひます。近所ですういうグループをつくって、配給日が違うだろうと思ひますので、それで少しづつ出し合って、その方が買う日にはみんなが十円なり——ちょっと諸のような方式ですが、そういうふうにしてお米をとってあげています。

伊沢 困っているということはその地区全体が困っていることだと思ひますが、全体が困っているから、よその家の立替えまでできないと思ひますね。

花浦 失礼ですけれども、伊沢さんみたいに、何もできない、かにもできないとおっしゃっていたら、計画も立てられないし、全然できないんじゃないでしょうか。できないところをのりこえてするということが誠意じゃないでしょうか。

白方 そう思ひますね。

証 私のまわりは貧困者といっても先ほど先生がおし

やいましたほどではありませんが、その上の段階くらいは生活をみんなどしてあります。未亡人が十何世帯三層に五人とか六人とかいますから、不思議なもので十人ぐらい寄りますと一人ぐらいはお金の入ってくる人がいます。そうすると私にも貸して、私にも貸してと、たちまちにみんな借りられてしまいますが、一銭もなくったときにほかにお金が入ると、あなたの方に向けましょいう具合で、最低生活をしていながら、今日は何もなしということなしにお互いの思いやりで、苦勞しながら苦勞を苦勞と思わないでやってあります。

伊沢 先生のお調べになった範圍で、私のできないという現状、そういう資料がございましたらお話願いたいと思うのですが。

坂寄 たしかに伊沢さんのおっしゃっている通りの現状があるわけですね。ですが東京の証さんのおっしゃっている現状もかなりあるのです。貧乏人といいますが、おかしですが、生活に非常に困っていらっしゃる方は案外フランクなんです。困っていらっしゃるのなら貸してあげようというので、かなり相互的に融通されております。それから買物なんか忙しいと、たとえば夜なんかもうどんを食べていらっしゃる方が非常に多いのですよ。ですからうどんをAの方のお子さんが買いに行くときに、私

伊沢 總から聞くのですよ。

証 窓があれば結構ですが、一瞬々々の時間が忙しい。そこまで行ったら余裕綽々です。

伊沢 私だめらしいですね、もっと苦勞してきます。

坂寄 非常に皆さん苦勞していらっしゃる御様子なのですが、社会的にこういうような条件が与えられれば何か解決のめどがあるのだ、これがないから困っているのだというような氣持をもっていられちゃった、それからお話を聞いていただいたら辛儀的なめどが出てくるのではないかと思います。

証 保育所とか、そういうものが出てくれればお小遣いの面や何か安心だと思えますが、その点を要求するという氣持、朝は昼、昼は晩ということを考えていきますので、大体の方が要求をするという意見まで持っていない。生活にとらわれているというのが最低生活者の大部分ではないかと思えます。

坂寄 ある程度個々では廻り下げられて考えられないような問題を、全国の皆さんがお集りになっていらっしゃるので、そういう現象に即した問題について辛儀的なことについて討議していただいた方がいいと思います。

司会 それぞれのお宅にいらっしゃるうちはだめだ、だめだと思っていたが、こう集ってみれば、こういうことが

の方も二十回買ってきてほしい、それからお魚なんか大抵きまっているのですね。あらとか、餅の干物とか、きまっているので、かなりそういう融通は、非常に小さい形ですけれども、やっていらっしゃる面があります。

証 私たちのところは、ほとんどお互いに頼み合います。

坂寄 ただお子さんなんか買に行かれるので、遠くへ出せないのが安いのが買えないから困る。私が買えば少し遠くまで行っても安いものを買ってくる。お醬油なんか大体二合とか、一合買っていらっしゃいますからね。そういう非常に小さな形の助け合いというところに芽があるのではないかと思います。

司会 今の先生のお話のように、非常に小さな形でそういう助け合いが、一々グループといわなくても行われているのだということですが、そういうようなこともってそのほかにこうしたらいいとか、こういうことが必要だということがありまして出していた方がいいと思います。

伊沢 お隣の方が買物に行っていたらしたら、そのあとで行って、今日はどのお店が安かったということを開くのも消費面の節約になるかと思えます。

証 ほんとうに忙しかったらお隣に行ってみても構い。

できそうだとすることがあるかもしれないでしょう。それをしていただきたい。

津村 今まで社会保障制度が行きわたっていない、十分でないということ、それは一日九十円の最低の今日の健康を得るための収入、最低の健康を維持するだけの生活費さえも保障されないということが根本だと思います。それを政府の方で保障していただければいいと思うのです。最低の線で結構なんです。今あるとしたって幾らあるか。保障しているという名目だけではないかと示唆です。

証 社会保障を要求したいのはたれも同じなのですが、私のところは、今日をどうやって切り抜けるかということが差し迫った問題です。私たち十人ぐらいおりますが、その中で急に入臨しなきゃならないとか、そういうときにはグループの中でお守りもしてあげる、洗濯もしてあげますというふうにして難關を切り抜けておりますから、お互いの人情の持ち合いということで大體解決されております。

竹中 協同していくという友情も必要ですが、社会的なものと強い保護の手が必要だと思います。そういうことを要求しないことには、いつまでたっても改善されないのです。

伊沢 私こへ参りまして感じたことは、隣同士とか地区同士で、今日はお宅へ行って仕事をさしていただくから、

明日は家へいらっしゃいというふうに、十人なら十人集って、同じところで仕事をして能率をあげることに、それから地区別に町へ行ってみたら町で職員さんなどにお願いで、それで社会的にだんだん小さい規模から大きくしていくということをしてここで私は教わりました。

中山 内職と組織との関係で、やはり組織をしていくのには健康が大切で、それには健康保険の制度も必要だと思います。健康診断をするということも必要ですけれども、それにはやはり先立つものがお金、それには国の方で健康保険制度をつくり、治療ばかりでなく予防とか健康診断などもしていただくことも一つの方法ではないかと思えます。

司会 先ほど内職と家事との関係とか、睡眠時間の関係で、健康の問題もたくさん出ておりましたね。それを健康保険の問題で、社会的に解決していく、自分だけで健康診断することも必要だが、それができない場合もあることですから、それを社会的に解決するにはどうしたらよいか、ここで一緒に討論していただきたいと思えます。

財部 私皆様方の生活に困った、いろいろなお話を聞いておりましても、私らの島に住んでいる人たちは、それとはくらべようもないほど経済的にも皆様方に発表できないような生活をしております。証さんのように、東京の真中

に内職していらっしゃるのだったら、もう少し東京の真中の内職者らしく、こういうことは私たちだけじゃない、地方や離島に行ったらもっと苦しい人があるのだという声を中々にのろしをあげて道を拓いていただきたいと思えます。困ったから周囲の人たちで同職し合ってこうしたという単なる住民の責任というものでなしに、国家には国家の責任で保障していただきたいと思えます。

証 私は昨年の暮に東京に出ましたばかりで、まだ東京の大体の様子がわかりませんので……

司会 もっと世論を高めようということが出ました。ただ世論を高めるといっても、先ほども隣近所のグループさをつくるのがむずかしいといっている現状ですが、それを何か具体的にする方法があったら出していただきたいと思えます。

伊沢 これは婦人のくらし方について婦人少年局なり何なりでも少し啓蒙していただきたいと思えます。

司会 婦人少年局でもいままでの問題についていろいろの形で啓蒙活動をやってまいりました。調査なども坂寄先生とも御一緒にさきほどからお話のたくさん出ている、非常に零細な労働者の家族の生活を調査しております。その結果で、今後そういう生活をどうしていくかということを一所懸命やって行くつもりでおります。

竹中 やっぱり選挙のときに私たちの力になってくれる人を入れなきゃならないということになりますね。

証 そこへ行きますね。

中田 さしあたって私たちが帰ってからする処置はないものでしょうか。

津村 私たちは金固から選ばれてこういう会議に出席してきたのですから、帰ってからの発表会なんかの際にこういう社会保障の制度とか、こういうことに関する注意喚起していただいたいと思います。そして皆さんに社会保障について立ち上りまじょうと呼びかけたいと思います。私は自分でやろうと思っております。皆さん、ここにいらっしゃる方はぎりぎりの最低の生活よりも上の方たちがお寄りになっていらっしゃるのですからね。

司会 ですからそういう方たちにかわって、忙しくて声も出ないような方もあるということを、自分の生活を自分でやるだけではなくて、考えなければならぬということが今のお話だと思います。

岡野 生活保護を受けている方が内職をした場合などに、その分を差し引かれるということを聞いておりますが、それでは働く意欲も何もなくなくなってしまつて、結局意欲をもり上げるという気力も全然なくなつてしまつたらどうと思えますので、まず手近な問題からそういう規則を変えてい

坂寄 そういう仕事に對して非常に国家予算が少ない状態なのです。内職だけで食べていかなければならない方、それに対する生活保障なんかもこんな事態なのです。それだけでは食べられない、そういうのを引き上げるのと同時に、健康の問題が出ていますが、病後患者が非常に多いわけですね。そういうものに對して結核予防法とか、保健所とか、そういうものがあるわけです。労働基準局とか、婦人少年局の婦人少年室もあるわけです。しかし、予算の制約から実際に困っていらっしゃるところへ手が及んでいないわけです。困らないようなところにはある程度手が及んで、困っているところまで手が及ばないという実状なのです。困っているようなところへ先ずやってくれますと、かなり解決の方向というのが出てくるのではないかと思うのです。そういう問題と関連させてもう少し話しあつていただくと結論が出てくるのではないかと思えます。

全国に婦人が四千万以上いる、そのうち困っているのが半数以上だと思うのです。その方たちのめんどろをみるお役所に僅かに百六十六人しか人がいない。予算も全部で六千万円という少ない状態です。こういう実情の中で婦人少年局の方などは調査や啓蒙をするにも山道を歩いていらっしゃる、こういうような問題の改善ということがやはり問題だと思うのですよ。

ただ、少しでも最低生活をゆたかにできるようにしてあげたいと思います。

司会 今の生活保護の問題と、それから仕事の問題ですね。さきほどお金の補助だけでなくて、仕事があればいい。どなたかおっしゃっていらっしゃいましたが、それについてもう少しここで御意見を伺いたいと思います。

中田 技術をもちながら仕事がなくして生活保護をうけているような方たちに對して民生委員の手を通じて、普通の内職の方よりも何とか割のいい内職を、家にいてできる内職のようなものを何とかしていただけないかと思うのです。

高田 私も今の御意見に大変賛成なのでして、内職の斡旋案というふうなものをつくっていただきたいということをとっても念願しているのです。

榎 その点で私、今皆さんのお話の続きですが、福祉事務所内職部というものを設けていただいたら、生活というふうな面が連絡していいのではないかと、それを望んでおります。

司会 それでは大分時間がたちましたので、内職と家事との問題はこれくらいにして、その次の内職と家族との関係というところの育児の問題に入りたいと思います。

す。

坂寄 そうなんです。大きくは。

岡田 そうなればお金のないものはどうなるかということになります。地方によってはやはり、昨日も申し上げたように知能は環境によって劣るかも知れませんが、事実子供の教育上は、幾分か裕福な家庭にのほほんと育つた子供よりも、親が苦勞して育てた子供の方がしっかりしていると思いますが、そういうことはどういふことになるのでしょうか。私はそう信じたいのです。

財部 内職をしていく上にぜひ必要なのは子供をどうするかの問題だと思います。ですから政府が保育所の予算をずっと削減しつつ、保育所を閉鎖して幼稚園にかえていく案を私たちの周囲でも見せつけられています。私たちは経済的に苦しいときにそちらの面を削除するということは、国の行き方として間違ひではないかと思いますが、そういう点を皆さんと数の方で世論を起して、そうして要望しなくちゃならない切実な問題ではないかと思ひます。

竹中 財部さんの御意見に同感です。私たちの町では、保育所がありますが、そこに入るのは殆んど富裕な家庭の子供だけです。一定の収入のある親でないと入れない、ああいうことも大きな矛盾ではないでしょうか。

司会 保育所に一定の収入のある人しか入れないのです

◎内職と家族との関係

伊沢 私ども内職しておりますして一番問題になるものは、子供がどういふふうに伸びていくかというところが一番心配な点ですね。内職をしていることがはたして子供のためになるかならないか。今の生活に困るということとほすでに子供にどういふ影響を与えているかということを知りたいのですが、先生の資料がございましたらお聞かせ願ひたいのですが。

坂寄 私たちが東京都全域でやりました調査の結果では、お母さんが専門学校を出ていらっしゃるとか高女を出ていらっしゃる方は、ある程度生活が暮らしても旧來の知能程度を維持していらっしゃるのです。ところが一般的な形では生活が下った場合にはお子さんの方の知能というものは、生活の下った程度の知能に下ってくるという、非常にうまくない結果が出てきております。

岡田 今の先生の調査によって、貧乏世帯であれば子供の知能が下るということは悲しい事実だと思います。それは東京都だけの調査かもしれませんが、結局環境によってそういう結果になるのではないのでしょうか。素質というものは貧乏人でも変りないのであって、環境によって知能が劣るのではないのでしょうか。そういうふうに思ひたいので

か。

竹中 それが社会保護事業でやっていたからそうなんです。

財部 困っている人や内職する人の子は入れないということですか。

竹中 親が一定の職業についていないと入れないのです。

坂寄 事実そういうことがあるのです。厚生省のこっこの関係の課長の方ともこの問題で話したのですが、あまりにも収容人員が少な過ぎて、困っている方のほんの何パーセントしか収容できないのですから、条件は百パーセント揃っていても、その方を入れられない。たとえば公立で全国に保育所が二千八百二十一しかない。収容人員は二十九万ぐらいですから、そういう事実が実際に起つてきてしまふのです。

津村 今、先生がおっしゃったのですが、そういうような場合に、貧困家庭の者を優先にしたいでいるのでしょうか。先生のおっしゃる場合……。

坂寄 実際問題として必ずしもそれがきちり適用するということとは、なかなか現実がむずかしいということですね。ですから、たとえ家の近くなか調査しましても、かなりいい層の方が入っていらつして、お母さんが働めな

きやならない——勤める場合には最優先になつてゐるのですが、そういう方でも落ちてしまふのですね。商家などかなり店を譲つてやつてゐる方の子供さんが入つてゐる。

石井 私の方は、片親がないとか、どうしても働かなければならない家の子供を入れて、どううでもいい家庭の方はお断りしてゐる、私の方はそうです。

坂寄 そういう基準はきまつてゐるのですよ。それが完全に行われてゐるかというと行われてゐない現実があるのです。

岡田 それでは貧乏人は一体どうするかということになりますね。なぜ貧乏人だけをそうするかということ、原因はどこにあるか、結局政治の力に結びついてゐるのですね。

坂寄 たしかに政治に直結するわけです。規定通りにちゃんと行われているかどうかをその地域の方たちが集つて再審査するとか、そういうようなこともおやりになる必要があるのではないかと。これは一方にまかしてしまふというのではなく、そういうような形もやはりほんとうに困つていらつしやる方が順序よく足りない施設の中へ入つていらつしやるか、どうか。それからもう一つは施設の絶対数が足りないわけですから、これをぜひふやすということが同時に行動して、それが政治的に大きく解決されていく。

ブというものがぜひほしいと願つてゐるのです。学習クラブというのは、私の方で東大のセツルメントがやつていくのださるのですが建物がない。取寄人員が保育所の場合と同じで、あまりに狭められてゐるものですから、やりたいて思つてもそれ以上ふやせない。

石井 現在保育所がどうしても足りないのですから、婦人会のようなところで、おひまのある方が、そういう生活に困つてゐる家庭のお子さんをかわるがわるにおあずかりして、心から献身的に見てあげるといふのはとてもいいことだと思ひます。

成松 それについてですが、私、現在やつてゐる動物の飼育、これをやる前にお勤めに居てゐる方の坊ちゃんをあずかったことがあるのですよ。それによつて二千円ぐらいの収入を得ておりましたし、向うさんも助かつたといつて、両方生きたような形になつたことがあるのですよ。

財部 今、石井さんのおっしゃつたように、私らの那覇市の婦人会におきましては、政府が建ててくれないので、日本につくまではというので月に六十円ずつ出して二十名からの子供をあずかつてやつた。ところが個人の奉仕というものは、注ぎ込んで、注ぎ込んででも施設も十分にいかないものですから、何とかそれを施設化しようと思つて政府にあつたり、市役所にあつたり、お百度降んで幾分

先きほどでございました社会保障の要求は、こういう形で今日の問題として進めて行かれたらと思ふのです。

証 その点先ほどもお話がありましたが、組織の力が必要になつてくる。法で指定してありながら実際に行動してないという場面がずいぶんあります。

中田 貧乏人の子だくさんという言葉がありますように、まだまだそういう状態があると思ひます。金持の方はいろいろな方法で一人か二人しか育ててゐないが、里親制度というものを、もつと強力にすすめていただきたいこと。それから貧しい方にももう少し徹底した産院調節の方法を保健所なり何なりを通じて、もつと積極的に御指導願ひたいと思ひます。

坂寄 保育園の關係が出ておりますが、保育所というのは満三歳以上なのです。もう一つ困つていらつしやるのは満三歳以下の乳幼児の問題があると思ひます。もう一つ学習クラブのお話なんか出たわけですが、学校へ行くの大変早く帰つて来る、この三つの問題を一括して御指導願ひたらどうかと思ひます。

伊沢 三年生までとか四年生までというような二部教授をやつておりますと、家庭に帰つてから補習させてやらなければなりません、子供の補習ということまで手が廻らない、どうしても学生なり、何なりを動員して、学習クラ

かの補助がありました、が、当分は婦人会といふような民間の手によつて續けてきた。日本についたら大きな保育所ができてなどと思つてゐましたが、さてつてみると、これは規格に合いません。幼児はあつてもらつちや困りますよといつて叱られた。何とかしてくださいといつたら、規定のない以上許可できませんということでは、よほど防備でない限りできるものでなくて、やはり政府の人たちが責任をもつてつくるというのが先決問題ではないかと思ひます。

竹中 保育所なんか、私もよく知らないのですが、行く時間が遅くて早く帰す、あれを一日中、長くあずかるようにしなければいけないと思ひます。

財部 八時間以上あずかなければ保育所にならないのですよ。

伊沢 子供が保育所に行つてゐますが、朝八時に行つたと思つと直ぐに帰つてくる。取寄人員が多いからそうせざるを得ないのです。施設の不備です。

高田 私のところの保育所はあつてくれるのですが、お金がたぐさきいのです。お昼のおべんとうはもちますが、おやつがないでしよう。保育所の保母さんの月給がたぐさきいりますでしよう。ですから三百幾らとか、四

百円とかいるので、内職をするような家庭のお子さんを入れるわけにいかないのですよ。そうした費用を国家の方で補助していただきたいと思っています。

司会 三歳以下の子供さんの問題もずいぶん大きい問題だと思えます。乳児院の問題についてどなたか御意見ありませんか。

財部 私の方のやっているのは乳児院です。赤ちゃんをみんな見ているのですから大変なのです。

石井 それは無償であずかって、ほんとうに献身的にやっても文句があるのですか。

財部 いえ文句じゃなく、経営困難なんです。

石井 たとえば御近所の方を代る代るに二、三人ずつとか、またかわって次の方が二、三人というふうに。

岡野 御近所の方が好意的にやっておりますが、まあ一回なら好意に甘えていられるが、何年も何年もということになると、向う様は親切でやってくれるかもしれないけれども、お世話になる方で気苦労だと思っています。

石井 それは日本人の悪い癖です。してくれるのはできるからするのですから、遠慮なんかいらぬから、毎日でもしていただいたいと思います。

財部 石井さん、でも、それは手のかかる小さい子供を頼むのが気の毒なのです。学習クラブのようなのは余裕の

庭の主婦あるいは妻として問題が非常にくさんあると思えますが、この問題はどのように考えて解決していったらいいでしょうか。

中山 主婦が内職をする家では、やはり夫と子供の協力というものが一番大切だと思うのです。おそらく内職していられっしゃる方たちの家庭はみんな男女同権ではないか。お洗濯もしますし、家事もある程度やっていたいでいるのではないかと思います。これがなければ過労に陥ってしまうのではないかと思います。

司会 皆さんのお家ではよく協力していただいているのでしょね。

伊沢 もちろん協力なくてはやれません。妻が一所懸命やっていることですから、夫にも責任を押しつけて協力してもらおうということが必要だと思っています。

財部 当然でもらっておりますが、女性としてのよろにコントロールしてやるかという特技があると思えます。その特技を開かしていただきたい。

司会 昨日の御話のとき、栃木の石井さんの御主人は、非常に封建的な方だったか、内職を始めてからそれがなおってきたというような御意見でしたが、石井さんからどういうようになされたかお聞かせくださいませんか。

石井 あんまり悪口言うようで悪いのですが、ほんと

ある人たちが同性の責任を果してもらう意味において、部屋を提供して勉強する場所さえ提供したら、その人たちはその人たちが勉強していますから、少年やら学校に行けるような子供たちは婦人会の人の専任によってある程度やってもらいたいと思いますけれども。

石井 私の御近所の人なのですが、未亡人の床屋さんのお子さん、乳幼児なのです。それを婦人会の支部長が毎日お守りしている。ほんとうに美しいことだと思って感心しています。どちらか遠慮もしませんし、お守りする方も自分の子供のように可愛くしてやうがないといっているのです。

岡野 施設ができることを最も望みますが、石井さんのおっしゃったようにお一人の方にずっとというのでなくて、そういう方が四、五人グループで交替でおやりになるのでしたら気が楽だと思っていますが。

竹中 宗教団体がそういうことに対して働きかけてほしいと思います。

司会 子供さんの問題を、そういう婦人会とか宗教団体で解決する。しかし、それではどうしても限度があるから、国家の施設としてふやしていかなければならないというような御意見がたくさん出ましたが、この問題はこれくらいにして、御主人との問題に移ってゆきたいと思っています。家

に年に似合わず封建的です。母が甘やかした過ぎたので、七つになるまでおぶって歩いていってさうです。その亭主岡白たるやものすごいもので、朝はお床の中でしたばこ持てこい、灰皿持てこい、新聞持てこい、そして三度も四度も起きなければ起きない、その時間大変にむだなのです。夜の帰りもとてもお酒が好きですから二時、三時に帰って、併かにこそを寝てくれるならありがたいのですが、どんどん叩き起して、お茶とおみおつけで必ず御飯を食べる。それであるとき私は構わないでおいてみたのです。遅く帰ってきて妻に立っているなら立っているで構わないでおいてみた。何時間ぐらい立っているか試してみようと思つてやってみましたら、やっぱり入ってきますから、知らん顔して寝ていると、お茶も飲まないでブツブツ怒りながら寝てしまいました。無言の行、お茶お茶と言ってもだまっていて腹の中であとく構えているのです。自然にさういうようなこともやめてきました。それから子供たちに自分たちで自分のことをさせるようにしましたところが、それが夫の方にも影響したのだと思います。子供たちが小さいのに靴を磨く、お部屋を掃除するのを見てると可哀想になったのでしょ。初めは子供に磨かせていたのです。十円やるから磨けなどといって磨かせていましたが、このごろは自分で磨くようになりました。ですからあせらないで一

歩々、じわじわしていくのがいいのではないかと思ひます。あまり稍つてするのはいけないと思ひます。

中田 ごきげんのいいときにはひかえ目にして、家族会議、そういうことをやると子供たちがわりと上手に批判してくれるのです。お母ちゃんが難儀してるのにお父ちゃんとはという子供の言葉が割にひびくようです。私の主人は趣味が多いので、帰って来て私が仕事をしますと自分の好きな仕事に向うのです。だから私は気持ちよくお互いにその仕事をやっていけるように思うのです。

岡野 主婦が内職する場合に子供のしつけからまず変えていかなければならないと思ひまして、何曜と何曜日は下着をとりかえと目をきめて、夏は毎日出ますが、ぬいだものを洗濯かごに入れて、着るものは自分でたんすから出して着かえるように仕込んでおりました。ところが夫の方は亭主閑白でして、ちゃんと何もかも出して揃えておかないくちやいけない、それを見て子供たちが、私たちにこうして一人で着なさいと言いながらお父さんには揃えてあげなくちやならないのか、大きいのにどうして出してあげるの、といひますので、夫の方も考えるようになり、このころは一人で出して着がえております。

伊沢 私は家計を全部夫にあかして協力を得るといふことが一番大事じゃないかと思ひます。こういう家計の状態

ることになるのではないかと思ひます。

司会 ちょっと皆さん内職をやっている方なのでお金はだれが握っているか、家計の管理の問題について少し御意見を……。

証 主人が病身ですので、楽しみといへば親書をすることくらいです。お金は主人に全部まかして私が必要なものだけすみませんがくださいといひてゐるので、家計は計画をたてておりますが、全部あずけてあります。

成松 私の場合は全然反対です。私の主人はおとなしいものですから一銭のお金も給料袋からひいてまいりません。全部私が担当して全部計画的にやっておりますが、幾ら持っているか、幾ら貯金ができているかといふことまで知らないでいる状態のようです。

竹中 東京の証さんは特殊であつて、普通ですと主婦がそういうことを扱わなければならぬと思ひます。

財部 私もあげるのとはばこつくりです。

司会 大体主婦が握っているといふことですが、それでは内職収入を得ることによって夫の理解がだんだん深まってきたというお話が出ましたね。それについてもう少し出していただきたい。皆さんの家がほんとうにそうか、どうか。

岡野 これは私の家ではありませんが、奥さんに非常に

でこういう計画をしたのだから、それに協力してもらわなきゃならない。忙しいときには子供の顔をひとつ拭いてやってくださいとか、それは生活状態と直結してくるんじゃないかと思ひます。

高田 私は石井さんの御意見を伺ひまして、私の主人も暇口を言つては悪いのですが、とっても封建的で同じなのですが、私は門をあけてやらないといふことをよりやらないのです。私の主人もやはり夜中の二時ごろに帰つて来てお飯を食べるのです。だからすぐ火をおこしてお茶をわかつてお茶漬けを食べるのです。私はそれをやってやらないといふことができないのです。

石井 私はそれをしました。ほんとうに男の方は甘やし過ぎてはいけないと思ひます。

高田 年が年でしょう。そんなことできないのですよ。中山 私の場合は少し違ふのです。やはり暇口になりまされども、私の夫も相当暴君だったのですが、私が彌物を始めてだんだん収入が多くなつてくると、それに従つて夫の態度がだんだんかわつてきた。それは結局主婦の経済力といふものを夫がある程度認めてくるのではないか、それによって自分の態度というものを、私が一言も言わないで、今までと同じにしていとも、いいいいよといひますので、それは結局主婦の経済力を夫がある程度認め

能力があつて、だんだん収入がふえていって生活を支え得るようになったのです。そうすると御主人の方がごきげんが弱くなった。だんだんお金を渡さなくなつて、しまいに一銭も出さなくなつて御主人の方がひがんでしまつた、というふうな家庭も見ております。家計は全部奥さんがしてゐながら、奥さんはぶつづつ言つてゐる。御主人の方は奥さんが収入が多いものできまりが悪いのか何か御主人の方もしくはくしゃしてゐる。

中山 婦人が生活費を全部もつほど収入を得るということとは大変なことだと思ひます。私の場合になると、内職をしておりますと、どうしても仕事に追われてなりふり構われないですね。夫は外で働いてきますでしよう。一日働いて帰つて来て、妻が油気のない髪をぼろぼろとさして仕事をしてゐたのでは、家庭がおもしろくないのではないか。私の場合は家族会議を開いて夜は仕事をしないようにしています。家庭にはある程度潤いをもたして、あくまでも憩いの場所でなければならぬと思ひます。

中田 こうした御主人があるいはないかといふことでお尋ねしたいのですが、内職すると主人のプライドを傷けられる、侮辱しているとお考えになる男の方があはしな

いかといふことを……。

石井 私のところはそうでした。私が何か働きたいと相

談しますと、それをしてもらっては困る。町が小さいからお前に働かれてはプライドが傷つけられるというわけですね。私も初めはそうしておりましたが、だんだん考えてみるとそれはちょっと男の人の気ままだないか。女がもっているものを出してはいけないということはないと思うのですが、よくそういうことを御主人にお話になって、わかっていただくということは大事だと思います。

中山 それは余裕があるからではないかということになる。御主人の月給だけで生活できなければ、どうしても妻が働かなければ生活費ができないということになれば、夫もある程度協力してくれるのではないかと思います。中田 私の主人は建築、住宅関係や調度品に対して、深い研究をしているものですから、私は主人から被服費と食物費だけをもらうことにしているのです。住居から調度関係のものは主人が自分の好みに応じて求めるように自由にまかしております。ですから自分のお金がいけいあるときは、私にすれば贅沢だなと思うような調度も買ってくれます。また何年か後になると、高いものを買ってもよかったです。長く気持よく使えらると思つて喜ぶことも往々にあります。ある程度夢を生かすといいますが、男の人にそういう生活を与えておいた方がおもしろいのではないかと思います。白方 皆さん女の方が財布を握つていらつしやるように

すが、私は握っていないのです。握ってはいなくてもちょっと不自由を感じません。今伊沢さんがおっしゃったようにお互いにどれだけの生活ができるかということと自分の生産できる総額をあげるのです。そうして自分たちの生活はどうなっているかということ、ちゃんと計算して予算生活をする。その予算の範囲内の衣食住の生活費をもらつて、あとは主人にあずけて自由にまかしておりますが、決して不自由を感じません。その生活費の中から自分の手帳によって幾らかの貯金を蓄積していくところから非常に喜びを感じているわけです。

岡野 大体お母さんが一家の家計を全部もつのが理想的だと思ひますが、世の中にはまだまだ勝手な御主人がいらつしやいます。収入も渡さないで、生活に必要なだけ渡して、自分で好き勝手にしているような御主人もまだまだ相当あるのではないかと思います。そういう点も大いに男の人を啓蒙していきたいと思ひます。

岡金 この問題で、そういうようにゆとりがあつて、御主人から生活費をもらつて、しかもそのほかに余裕があつて、そのほかのことは奥さんが知らなくてもいられるような場合と、それから伊沢さんから出ました、ほんとうにこれだけで足りないのだということですね。それをよく御主人と話し合つた場合に非常に、夫と妻との間の理解を認め

て協力してくれるようになったということでしたけれども、そういう問題になってきていると思ひます。

榎 私の場合は先ほど申し上げましたように主人に全部まかしておくものですから、経済状態が主人によくわかつていますから、足りないようなときに足りないと思つて一所懸命になると気の毒になつていたわつてもいい、夫婦のけんかということには起らないのです。それから経済状態がよくわかつてますから、ぐちをこぼす必要も何もない。

岡金 今お話を聞きました、だれが金を握るかという問題じゃないということがはっきりしたんじゃないかと思うのです。運営そのものが実際にどうなっているか。そういう点ですね。それが非常に大事だと思うのです。御主人が握つていらつしても、奥さんが家計を管理されても実際に伊沢さんとか、中山さんのおっしゃつたように家計全体が夫婦あるいは子供さんまでの理解の上に成り立っている。そうすれば、たれが財布を握つていても協力の基礎ができる、そういうことではないかと思ひます。

(休 題)

司会 それではこれから一番最後の総合的な討論に入つて、昨日から私どもがずっと討議してまいりました問題全体について、内職というものを私たちはどう考えたいい

か。それからまた、内職をする婦人としてそれをどう解決していったらいいかということについて考えたいと思ひます。たくさん問題が出されましたけれども、特にここで重点的に討議していただきたいと思ひます。そして、一番大きな問題は、明日の健康より今日の健康をどうするかという問題、それからもう一つは組織の問題だと思ひます。まず、今日の健康を保つためにどうするかという問題についてどうぞ。

伊沢 体を酷使して働けば、どうしても暗い気持ちになると思ひます。それは、生活に追われるという薄暗い気持ちだと思ひますが、それをどうかして、明るい気持ちになつて働くことによって、ある程度今日の健康、そして明日の健康を保てるようにと思ひます。明るい気持ちで働くことを提案したいと思ひます。

津村 現在は一般の人がすぐいたただける仕事というのが機械的な仕事で、機械でやるよりもまだ安い工賃で、内職者に渡せばできるという仕事が多いからと思ひます。

そういう低級な仕事でなければ一般の人たちが手にすることができないということ、一般の技術的な面のレベルが低いということだと思ひます。私たちのレベルがそれだけ上つてくれば仕事ももう少し知的になって、工賃も上つてくるでしょうし、そうすれば一日に八時間ないし十時

間の仕事をすれば、一日の生活を保つだけの収入を得られると思うのですが。

竹中 それは理想論であって、現実困っている人たちに社会保障による保護所のようなものをもっとたくさんこしらえて、安く薬をいただけるようにしていただくように努力しなければならぬと思います。

財部 今日の収入を得て今日の食物を買わなければならぬというのは生業資金のないものです。私の方で山奥に五里も六里も行って木炭を担いできて、おろしの値段で町に出て売っている人がいます。その売ったお金でお菓十キロぐらい買って持って帰って家族に食べさせる。その人に、あなたたち、どうしたらその問題が解決しますかといったら、生業の稼ぎ資金があれば、山から持ってきて一ぺんに売れば余裕もできるし、毎日々々町に売りに行かなくてもいいということです。余裕のあるお金を安い利子で貸していただいて、それで生業資金の稼ぎにすることができるようになさうという金融機関をたくさんつくっていただきたいということを要求します。

高田 生業資金ということなのですが、それには何か条件がなければ貸していただけないのではないかと思います。ですからそうした条件をなるべく取り除いていただいて、最低生活者にもどしどし貸していただけるような制度

僅かですがある程度あるのです。これに行きますと無料です。数えてもらえるのです。ですが交通費は学校と同じように半額という問題がからんでくる。それから財部さんのおっしゃったように、そのときにおける生活保障が切れてしまいうけです。ですからそういう面で二つ三つける必要があると思うのです。それからもう一つ授産場の問題なんかも出てくると思うのです。現在授産場というのは内職の中でも一番安い内職になっているわけです。洋服なんかやっているとわかりになると思いますが、授産場が仕事を取っちゃって、一般のやつていらっしゃる方の工賃が下っている、こういう公共的なものが一般の内職の工賃を引下げるというような問題もあるわけですね。ですから授産場の問題なんかもどうしたら内職する人によくなるのかという形で討議していただくと、問題の解決が発展的に出てくるのではないかと思います。

竹中 ここへ来るまでに授産場に出かけて行って話を聞いてきましたが、授産場の係の方の責任があるの、どうしても仕事を取らなきゃいけない。授産場で工賃をあげてくれといったところが、ではやめてくれ、ほかに廻すということを言われる。ですけれども授産場がそんなに全体のレベルを下げるということとはしていません。もっとそれ以下の人があるわけです。

にしていただきたいと思っています。

津村 私の今言ったのは理想論だとおっしゃいましたが、ただいまはなんとか困っていらっしゃる方にはほんとうに気の毒ですが、理想論だからといって手をつかねていたら現状は打開できないと思うのです。これから大きくなっていく子供たちのために、私たちは道を拓いてやらなければいけない、開拓をやっていきたく思うのです。竹中 そうするとやはり明日のことになるのですね。明日のことよりも今日の生活の問題としたらどうでしょうか。

同会 今、津村さんが、内職は非常に技術が低い、収入が低いので、技術をもっと高めていこうということに對して、それはまだ明日のことだから手がとどかない。昨日もそういう技術を高めたくても技術を高めるひまがない、技術を習いに行くことすらできないということがたくさん出ていたと思いますが、それについて御意見があったらどうぞ。

岡野 そういう方たちのためにしばらくの間生活を保障して、無料で機織をつけてあげるようにしてあげたらどうかと思ひます。

財部 そのときは現金収入はないでしょう。坂寄 あるんですよ。公共職業補導所というのがほんの

伊沢 授産場の仕事をしていますね、すると町の仕事より安いのです。施設が足りない、授産場にはその日の生活に追われていない人が役人になっているので、仕事を見つけてくれれば責任がはたせるというように、責任観念が非常に薄いと思ひます。公共の授産場を多くして、いま個人でやっているのです。公共の授産場を多くして、いま個人でやっている方々も授産場の役人のような形で採用して、みんな公共にすれば、もっと私は工賃が上がると思うのです。

財部 授産場というのは単に国家の施設であって、仕事を与える、与えたら一人で立ち上るように解放して、賃金が上がる上がないというのはほかの一般経済の世界に飛び込んでいって、自分の技術で上げなきゃならないから、最後まで授産場に頼り切っていることは一般の事業家をおびやかしていることになるのではないかと思います。

花浦 財部さんの意見に賛成です。授産場ばかりに頼るといことが必ずしもいいことじゃないのです。自分で働いてという気持ちがなかったら何ともできないんじゃないかと思ひます。

証 私は自分自身授産場へいっておりませんが、先ほどから申し上げましたように未亡人の方がたくさんいて授産場に行きますが、整し迫った方は職員の方に、たとえば

下駄の一足でもお使いのができない。ちょっと余裕のある方はお使いものなんか持っていच्छる、そうすると人柄的になりますから、私たちのように今日、今に差し迫ったものはそれを知っていてできないという声をずいぶん聞いております。

伊沢 それは今個人の企業というものが多過ぎるから、そういうことになると思うのです。それが国家全体で授産場なり、何なりを経営するようになれば、そういう問題は解決するのではないかと思うのです。たとえば、スカート一枚縫ってもらいたいというとき、そういう施設があつてこういうものを縫ってくれといえ、そこから仕事をもらう人は、そこからもらってきてやるということになれば、いろ／＼な弊害がなくなるのではないかと思います。

津村 そういうことになると、それで今まで食べている業者の方たちの生計を脅かすと思う、それを除去しなければならぬ問題が起きてくると思います。

伊沢 私、それに対しては、授産場をふやすにはやはり人間がいて、今まで企業をやっていた方が、その中へお役人として入られたらいいかでしょう。

司会 授産場の仕事は非常に低賃金だというお話がでていましたが、これは、こんなに長い時間働いているのだから、これだけの収入がほしいという、労働の評価の問題だ

岡田 これにはいろ／＼な議論がありますが、結局組織化する。そしてその組織を大きくすればするほど難関が切り抜けられると思います。どうすれば小さいグループからだん／＼大きいグループに組織化していけるかということに問題があるのではないかと思います。組織さえ作れば何とか打開できると思います。

伊沢 私たちここへ集まれたのが幸いで、集まれた皆さん一人ずつでもお友だちと密合して、一人で一人のお友達を集めれば、十五人が三十人、三十人が六十人になるという小さいところから組織化していくということが必要ではないかと思ひます。

中山 幸い全国からここに集ったのですから、この際線香花火みたいにこのことだけで終ってしまわないで、皆さんの住所や何か書き止めておいて横の連絡にしたいと思ひます。

白方 全国的に繋りをもつということは、あらゆる地域社会の様子を知るに都合がいいと思いますが、皆さんは向う三軒両隣というような状態の組織をつくるということに對して経験をもっていच्छいますか、お伺いしたいと思ひます。

高田 グループは私もつてますよ。ある一つの同じ仕事をやっている十人ばかりのグループはつくっております

と思ひます。それはまた一般労働者の賃金にも関係があるわけですが、そのことについて御意見を述べて下さい。概 結局それは賃金ということに帰着しますね。労働の大体の評価を物価なり婦人少年局あたりである程度の最低賃金というようなものを作つて、私たち一般のたれにでも一目瞭然にわかるように公表していただくということも必要ではないかと思ひます。

伊沢 結局は主人の給料がもう少し上げれば一番先に解決する問題なのです。そうしますと、仕事をやる人が限定されますから、結局その仕事を業者は高く買ってくれると思ひます。社会そのものを批判しなければ低賃金の問題は解決しないのではないかと思います。

竹中 日本の社会全体の経済が貧しいということがやはり根本ではないでしょうか。日本の経済がどうしたらよくなるかということ、貿易が不振で輸出の手袋でも海外で叩かれるから、私たちの工資にも響いてきてだん／＼安くなる。これは私たちだけが文句を言つても、メーカーや何かでその立場があるからできないと思ひます。

司会 そういふような日本の経済状態の中にあつて、内職者の生活を高めるのにどうしたらいいかという問題が昨日から組織の問題になって出てきておりましたので、それではこれから組織の問題に入りたいと思ひます。

が、そうしたグループがここにもあり、あそこにもありで、それらがどうしたら手が繋がるかということなのです、困っているのは、そのことなんです。

白方 繋げてしまふのですよ。

高田 私の地域的に離れているのですよ。

白方 離れていても同じ悩みをもつとか、同じ悩みを解決しようとするグループが幾つも幾つもできれば、中心になる人がなきゃならないですよ。

高田 ほかのグループがそういうことに悩んでいるか、どうかかわからない。

白方 それは地域社会で社会教育を助けるところがありますから、そこへ持ち出していく。そうするとその係りの人が調査して手を繋いでくれる。同じ問題を横にちゃんとしていくことができる。それを私は完全にやっているのですから、そういう施設をこの問題はどこにもっていつて解決すべきかを判断して、そこにもっていけば必ず解決すると思ひます。

岡田 それは地方々々の福祉事務所に来亡人会というのがありまして、来亡人の親和会のようなのが地方にはできております。それを通じて、全国に網を張つたのですから、一人々々出店のような感じで、そういう繋りをもつたらどうかと思ひます。

征 今日皆さんこうしていらっしやいまして、てんでにグループをもつても、それをどうするかというところに悩みがあると思います。幸いに労働省の婦人少年室が各県にあるそうですから、そこを中心としてもうよくようにしてみたらどうかと思います。いかがでしょう。

財部 今の趣旨は何か漠然としているという感じがいたしますが、やはり内職をやっている人たちが組織をもつ場合には、同じ仕事をしている者同志でなければ、種々様々な仕事をもっている人が大きい組織をもつても動きがとれないのではないかと思います。ですから同じ内職をもつた人たちが同じ線にのっていかなければ、漠然と集って全国の組織にもっていかなくても、どこに向ってどう進むかわからないのです。

征 ですからお互いの別々なグループ、それを婦人少年局あたりである現地のまとまりをつけて呼びかけていたらいらうかと思えます。

成松 そんな大きなところまでいらないで、お互いが自覚をもつて、お互いの精神で繋りたいと思ふのです。関金 この問題は、いつも言われている非常にもむずかしい問題ですが、内職にはいろいろ種類があり、それをどうするかということだと思いますが、労働組合なんかでもいろいろの種類の人が集って、ああいう大きな組合をつ

くっているわけです。そういうようなことで、何か内職の組織の問題にいい考えはないでしょうか。

財部 いまの労働組合、ああいうのはいろいろな従業員の人たちで生活の保障ができていの人だから、組合費を払って運営資金が出るが、内職で今日の生活をどうするかという人が組合をつつたところで組合の会費を納めたり、人件費をどうするということは大きな問題です。やはりグループを小さくもって、小さいもの同志の上に伸びていくような道をとらなければ困難だと思います。

成松 お互いに助け合おうということがほんとうに難いと思います。

司金 小さいグループがほんとうによくわかって助け合おうということ、先ほど婦人局あたりでこの問題を取り上げて、もっと困っている人のために子供をあずかるとか、そういう問題も出ておりましたね。

坂寄 ちょっと申し上げておきたいと思いますが、労働組合に組織されている方々の奥さんが、ずいぶん内職しているらしい。もとは労働者であって、現在は失業している、あるいは御主人が病気のためとか、あるいは戦死したり、死亡されていても、もとは労働者の仲間の方の奥さん方がずいぶん内職をやっているらしいと思うのです。そういうことですから、やっぱり労働組合で取上げてよい管で

す。又、内職者の低賃金と労働者の低賃金とは一つにつながっているのですから、その意味でも労働組合でもっと内職の問題を取上げてよいわけです。婦人団体も密着とか派手な仕事はおやりになるが、婦人の一番大切な今日の問題についてはあまりおやりにならない。ですからもっと地についた今日の問題を婦人団体に取り上げていただくということが大切だと思います。

もう一つは皆さんから出たのですが、上の方の集まりを官庁にやっていたかということ、これは悪くないと思いますが、やはり民主的なあり方としては自主的にやるのを官庁がお手伝いするようなあり方ではないと。ほんとうの民主的なあり方といえませんか。ですからそういうような形で官庁と一般の国民とのあり方、あるいは婦人のあり方というものが、ほんとうにそういうふうに変ってくるような形、こういう形で考えていただく必要があると思います。

征 自然にもり上って結びつく……。

坂寄 結びつくというのでなく、公僕なんです。民主的な政府というものはそのような形でお世話する、今度の婦人会議なんか労働省のお気持としてはおそろしくうだったろうと思うのですが、どうですか。

司金 お世話するわけでございます。

坂寄 ですから上で指導するという形じゃないに、お世

話するというのが民主的な政府のあり方だというふうな考え方ですね。こっちへ来いというふうな指導じゃないのです。

征 ですから御相談相手になっていただく、それだけでいいじゃないかと思うのです。掘りどころがみんなほしいのですから、集って見たがどうにもならないという現状ではないかと思うのです。集りかけているとか、これから集まろうかというところですから、その集団のもっていきどころがないということになるでしょう。

坂寄 民主的な形で官庁はお世話をする。ほんとうにどうしなればならないかということ、皆様方の中から出てこないといけないわけですね。そういう点で民主的な歴史が非常に浅いので、こんがらかってくると思うのです。そういう点はよく考えていただく必要があると思います。

財部 最後に内職をする婦人であっても、どんなに忙しく生活に追われていても、せめて一日に一ページぐらい本を読んでもらいたいと思います。私は一番生活に苦勞していただんだ底生活のときは、毎日日々借金取がやって来るし、毎日のおかずも買えないというときに、自分の精神を落をつけるために、夜寝るときに一ページは必ず読むという修行をやったのです。一冊を二カ月ぐらいで読んでしまふときもあるし、読んでしまつてあとに残らないこともありま

すが、苦しいときに誰んだ奮力は力となって自分の肉体を動かしてくれると思います。内職をして、どんな苦しいときでも、明るさをもって明るい面の打開に努力して婦人の地位を高めていきたいと思っています。

成松 それからラジオなどを聞くことも最も大事だと思います。

司会 昨日から今日にわたってみなさん非常に熱心いろいろの問題について討議していただきましたが、時間がまいましたのでこれで終りたいと思います。部会の時間が非常に長いのでしたけれども、たつてしまおうと短かくて、まだ／＼お話しなかつた問題もたくさんありますし、またこの問題があまりむずかしい大きな問題だものです。どう解決したらいいかというようなこともはっきりできませんでしたが、この中にたくさんさんのヒントだけはあったんじゃないかと思えます。皆さんは今ここで討論に夢中ですけれども、お帰りになつてからここで話合つたことが底力となつて、地域で大きなお働きができるようにと思えます。最後に坂寄先生から大体の御感想をお伺いできたかと思えます。

坂寄 司会者の方からそう言つてくださったのですけれども、いろいろの問題が出ておまして、また今までの討論の中であつた問題が出ておまして、また今までの討

易関係で非常に悩む合わない仕事が出てきています。ですからそういう意味において日本経済だけではなしに、世界経済全体に繋がっているのだ。しかもそれが最も弱い皆さん方にしわ寄せになつていっているのだ、こういう点ですね。こういうふうな内職の理解をしていただきたい。そういうものは世界的にはすでに昨日もちょっとお話ししたわけですが、社会立法というように形でも進められておりますので、日本においてもそういう社会立法が世界的な形でできてくるということが私は望ましいのではないかと思えます。

もう一つ最後に申し上げたいことは、内職をやつていらっしゃる方々の仕事というものをと、これは大抵生活必需品が多いですね。生活必需品といいますが、一般生活に結びついたものが多いわけですね。生活必需品という用語がありますが、そういうような経済というものが今の日本経済の中ではかなり大きく圧迫を受けているわけですね。たとえば今大きく新聞なんかでも問題になっておりますように、MSA援助という再軍備の方向と、それからもう一つは平和の方向ということが世界的に大きく問題になっているわけですね。皆さん方のやつていらっしゃる内職の仕事というものを考えますと、これは平和経済が大きくならなければ皆さん方の突進におやりになつていらっしゃる仕事の部面もずっと狭まってくるという具体的な結

びつきが、政治的な考えで私申し上げているんじゃないに、具体的にそういう仕事が減ってくるというふうな状態があるわけですね。ですからもちろん政治的にもそういう問題についてお考えになつていただくと同時に、みずからの内職の仕事を通じてそういう経済の問題について考えていただきたいということを感じておられます。

最後に組織の問題につきましてはいろいろとお話がありましたように、労働者の方、あるいは婦人団体の友、そういう方たちともっと手を握つてやっていき、そういう団体が今まで取り上げていらつた実情があるわけですが、それを取り上げさすように努力していただきたい。何か、取り上げてないからということではなくして、正しいものを正しく取り上げさせる、こういう努力をぜひしていただきたいということを、皆様方これから全国にお帰りになられますので、お願いしたいわけですね。非常にとりとめのないお話でしたけれども、感じたことを申し上げます。

司会 どうもありがとうございます。第三部会の討議はこれで終りにいたします。このあと、昨日、今日にわたつて討議されました問題をまとめて、昨日皆さんから御推薦のあった白方さんから総会で報告していただきます。(拍手)

めて申し上げることもありません。それに午後からの総会で討論もありますし、まとまつたお話というのは、とても今のところむずかしいので申し上げられないのですけれども、感じますことは、今最後にお母さんであるということ、を栃木の方からお出しになつたわけですね。突進その点非常に大切に思つておられます。昨日石井さんは母であり、妻であり、嫁であり、内職者である、こういう四つの重荷が内職する方にかかつてきているといわれた。それを聞きますと私は男の立場としても目がうるむような気持ちになるわけですが、そういう非常に重荷がかかっている。これにはやはり日本の家族制度といいますが、社会的な問題が大きくあるのではないかと、ですからこういう内職をなさる中で、やはりこういう日本の家族制度、あるいは社会制度というものを、ただ内職、あるいは自分の個人的な問題の解決でなしに、こういうふうなものを大きく解決していただきたいということを感ずるわけですね。もう一つ感じますことは、非常に苦しい中で、今日の生活に困つていらつた内職者の方が一ぱいいらつたわけですね。その面につきまして愛知の方から日本経済の全体の問題であり、あるいは内職をやつていらつた方はおわかりになつていらつたと思います。内職の場合には輸出関係の漁花とか、手袋とか、レースとか、そういうふうなものですから、買

第四部会

婦人が家事のみを行う場合について

(主婦の経済活動・家事作業の評価・協同活動)

出席者

北海道 古谷 麗子 (主婦)
岩手 鈴木 照子 (主婦)
茨城 高瀬 敏子 (主婦)
栃木 和田 勉代 (主婦)
埼玉 伊藤 玉枝 (主婦)
千葉 海保 信子 (主婦)
東京 福田 敬子 (主婦)
新潟 庄司 はるみ (主婦)
石川 池田 泰東里 (主婦)
山梨 三島 将代 (主婦)
長野 高橋 富美子 (主婦)
岐阜 熊崎 節子 (主婦)
大坂 大矢 恒子 (主婦)
山口 城 千枝 (主婦)
福岡 塚本 克子 (主婦)

アドヴァイザー

司 会 者

評論 家 西 清子
主婦連合会 船田 文子
婦人少年局婦人課 石井 雪枝

司会 これから第四部会の会議を進めていきたいと思
ます。この第四部会は家庭で家事をやっている婦人——他
に就職もしていないし、内職もしていない——の集りで、
家庭の中で経済活動をどのように行っているか、どうい
ふうにこれからやっていったらいいか、皆さんから沢山問
題を出していただいて、それを討議していただくわけ
です。その場合問題によっては結論が出るでしょうが、こ
で無理に結論を出す必要はないと思います。とにかく皆さ
んが普段考えていられることを十分に出していただいて、
お互いの意見を交換し合うことを十分やりたいと思うわけ
です。

これから五分ずつ皆さん方から御意見を発表していただ
くわけですが、その内容は大体御主人の職業とか、収入と
か、家族数とか、皆さんのそれぞれの環境の特徴といっ
たようなものの、例えば集団的な住宅であるとか、住いが非
常に辺鄙なところであるとか、また職業につきたいがつけ
ないから、家庭の中で家事を合理化して家庭婦人として経
済活動をうまくやっていくための努力をしていらっしゃる
のだとか、いうようなことを、極く簡単に、差支えない範
囲で話していただきたい。特に家計簿の問題ですが、必要
だとお考えの方が多いかと思いますが、中にはどういう理
由かで特に必要じゃないというお考えの方もあるかと思

います。そういう方があればそのことをおっしゃっていただ
いて結構ですが、つけている方はどういうつけ方をしてい
らっしゃるかということも簡単にお願いします。そ
して最後に問題点を出していただきたい。家庭婦人の経済
活動としてはどういう点が最も大事なことから、一、二挙
げていただきたい。しかしそれは後の討議のテーマになっ
ていくわけですから、今日は五分間に問題を提起するだけ
にして下さい。では順に北の北海道の古谷さんからお願

します。
古谷 私の主人は炭鉱に勤めている会社員です。収入は
平均月一万四千円くらい、他に年二回賞与があり、大体二
万円くらいとっています。夫婦と子供一人で家族は三名で
す。環境としては、炭鉱は特殊なので説明しなければおわ
かりにくいんじゃないかと思ひます。炭鉱は場所からい
って大変辺鄙なところで、山を開発して、そこで石炭を掘
るような形で、一番初めに炭鉱の仕事場ができ上り、それか
ら人を雇うために住む家を建てる。そうして今度は生活し
ていく上に必要な日用品を売る店ができ、病院・映画館み
たいなところを一つくらい作って一つの部落ができかっ
たのが初めです。それから町ができていくわけです。この
頃は大部分お店が入って人口も増えました。会社の建てた家
はバラック建てで、冬には雪が吹き込んでくる状態です。お

店に売っている品も、他の町に較べて物価が驚くほど高く、何かちよつとした物を買おうとすると、汽車に乗って出掛けなければ満足な物が買えません。

それから昔は保安が確立していなかったものですから、命を助けるという感じ、朝出ると晩の命がわからない状態でしたから、住む人の気持ちが瞬間を楽しむ傾向でした。だからお金を貯えても命がなければしょうがないという傾向で、いくらでも今日を楽しむという感じ、経済観念は零に近いのじゃないかと思えます。また会社の方は品物を貸すのです。つまり主食とか、副食の掛売をするからどうしてでも掛売の習慣がついている。借りる物はただのような気がして沢山買過ぎる。給料をもらうとその掛を払ってしまふから、三分の一くらいはなくなってしまう。あとはまた借りなければ暮せないという感じで、年中悪循環しています。住宅とか、光熱費・燃料費は会社から出ているから、そういう方面では割合恵まれているが、経済観念が低いから、結局借金をするのをあまり気にしません。従って生活程度が低いという傾向です。私としては現在のこの炭鉱の状態をもう少し経済観念をもってやっていったならば、向上するのじゃないかという気がします。

経済活動としては積極的に畑を作るとか、養鶏をするとか、いうことはやっていません。限られた俵給の枠の中で

よりよく暮らしていくために計画を立てて、収入の総てを最大に生かして使うことだけをやっている、経済活動といってもその程度の消極的なものです。

家計簿はおもしろいですが私はつけていませんでしたが、最近つけてみると、いろいろ反省も起きますし、ぜひつけることは必要だと思えます。家計簿のつけ方は、給料をいただいてくるものとず相談して大体の枠をきめて分ける。主食・副食・調味料・嗜好品・被服費・育児・教育費・文化費・交際費・保健衛生費・交通費・あとは主人の小遣い、そういうものに分けて金額を当てはめて、その枠をはみ出ないように工夫しながらやっています。今年はできたお漬物洗濯機でも買いたいと思っています。

問題点ですけど、経済活動の最終目的は、一戸懸命努力して働いてきたお金を、どのように主婦の生活向上に使っていくかということが問題で、経済を一所懸命やっていくことよりも、経済活動によってでき上った結果を有効に生かすことが一番大事だと思います。

司会 ありがとうございます。次は岩手県の高橋さん。

鈴木 私の夫は公務員で、農業試験所に勤務しております。収入は公務員七級六号で、一万三千円程度、家族数は主人と、主人の母、満二歳の子供と私と四人です。官舎が

あるので住宅費は殆どかかりません。そういう状況の中で暮らしていますけれど、母がまだ若いので、――六十歳にならないので、扶養がついていない。私の家庭は人数の多い主人が若いので収入が少なく、窮乏をきたしています。私も母が若いので就職したいと希望しています。長男が生まれるまでは勤めていましたが、子供ができたために、いろいろな事情で、私に特殊技能がなかったことが第一の弱点でむずかしくなり、東北地方の小都会ですので、就職したいと思っても、受入れ機関が少ないのです。家族持ちでしかも汽車で通る者は、雇い主もいやがる。それで元の仕事をしようと思つて努力しましたが駄目でした。少ない収入の中で一休どうやったら生活を向上させ、楽しい豊かな生活ができるかということを考えると、結局私共でしたら安いものを買って生活の工夫をして、より合理的にやらないかなければ普通以下の生活になってしまうので、そのことを強く考えています。そのために役所に厚生会があり、市価より一割から二割程度安く物が入ってきます。それは役所の予算が少し厚生会に入っているからで、その人件費は役所がみています。これは官舎の主婦たちには便利な機関で、なるべくそこから日用雑貨等を買って利用するわけです。

私共では母が元気なので、一切母が家事を握っているの

で、立働きのいろいろな工合が悪い面があります。家計簿もとても苦労して、家族三人寄りまして、何事も詰合をしたが、当分の間、主人が俵給をもらってきたら一応母が預けてやっていくことになり、私はそれを協力する意味で、一緒に家計簿をつけますが、殆ど母一人でやっています。昨年からはじめたばかりでまことにお恥しいのですが、一年の予算が立つところまでいっていません。今年は真面目に記録して、来年からは一年の計画、種目別に作っていきたいと思っています。厚生会には日用雑貨や、燃料など給配しています。その他に毎月天引貯金を厚生会でしています。毎月二千円ほどやっていますがそれが将来の計画です。また自分たちで何かを浮かせるために、主婦たちが集って洋裁や、手芸のできる人が他の人に教えるための講習会のようなものを持ち、お互いに意見や、技術の交換を図っています。

問題点は、生活面の工夫・生活技術の向上という事で、これから一戸懸命消費面の工夫をして生活技術を身につけて、よりよい生活への向上を目標に、いこうと思っています。

司会 どうもありがとうございます。次は茨城の高橋さんにお願います。

高橋 私の家族は現在主人の母と、私たち夫婦と、男の

子二人の五人家族で、生計費は月二万円です。主人は日立製作所水戸分工場に勤めています。

環境の特徴としては社宅ばかりの世界です。経済活動としては、社宅に住んでいる関係上、一羽か二羽の鶏を飼うとか、一四二匹の山羊を飼うというところ、その他消極的な家計のやりくりになってしまっています。私の家でも家計のやりくりをしているが、母の郷里が富山で富山に主人の兄弟がおり、そこに母が一年に一回乃至二回くらい行くための費用の半分を出して上げなければならぬため、その費用を月々貯めるのが、私の家計の特徴です。将来のことを考えて最近では保険を二万円ほどしています。家計簿をつけることは家計の経済を計画的にする第一歩であり、家計を安定せしめる第一歩だとも思っています。主人の勤めている会社でストライキをやったときの体験から、計画を立ててそれによって経済をやくりくりすることは、生活の苦しいときほど大切なことだと願っています。とかく家計簿をつけることは面倒くさく、厄介なことと思われ勝ちで、物を系統別に区別して置くことに慣れない人にとっては実に厄介ですが、自分の家計の健全さと明るさを保つ上にもゆとりある生活をしていくためにも、家計簿をつけることは苦痛のみじゃない筈だと思います。このような意味から、金額だけを記入する無計画なものじゃなくて、項目毎に細目を

設けてできるだけ綿密なものにしなければならぬと思います。

私は普通のノートを買ってきて、家計簿にしています。一番初めに給料の金額を書き、それに大体の支出の予算を書き、差し引き残金を書きつけ、それから主食とか、燃料とか、そういう区別をつけて、その一区切一区切を小さく、保健衛生費の項目には贈与子代とか、いろいろ分けて書込み、金を出したときはその欄の予算額から差引いてつけるようにしています。家計簿をつける上の注意としては、その日の収入・支出はその日につけることで、正確さを期する上にも大切だし、家計簿のつけ方が、上手になる点だと思います。計画は家族全部で相談して決められるべきであって、例えば主婦が病気になることも誰かが引継いで、まごつかないでつけることができるのが望ましいことです。

私が身に覚えを感じていることは、婦人の見栄・虚栄心をなくすことで、婦人が協力して努力しなければならぬと思います。その理由としては、いくら家計の計画を立てても、婦人が見栄や、虚栄にかられてしまうと、あそこでも買ったから家でもっといい物を買わなければならぬというところになって、計画の実行がむずかしくなるからです。

第二は経済面に対する従来の親子の関係を改めなければ

ならないということです。年をとった方が、よくこういふことを言います。私はこの子の世話になるために教育したんだとか、この子は特別に教育してきたのだから私を選ってくれなければならない義務があるのだ……。そういう考えをもっている方がいますが、子供は自分のものであると同時に、国の者であるし、子供を育てるのは自分の責任であって、自分の生活はできるだけ自分でするというような考え方をもち、家計簿の面にもそういう考え方を入れている方がいいんじゃないかと思っています。

司会 次は栃木の和田さんをお願いします。

和田 主人は古河鋳業の足尾製作所に勤めています。収入としては所得税や保険・労働組合費等を差引いて平均給料が月一万五千円前後、近頃は大部分が月割したもの給料から引かれるようになってます。その他年二回賞与が二万円程度です。家族数は主人と二人暮らしです。環境の特徴としては社宅住いで、小山市の外れにある一戸乃至二戸建て三十戸あまりで一つの地域ができています。結婚前に主人も私も戦災をうけ、何もないところから出発した結果、結婚後二年五カ月――二十八年三月までは仕事を続けて共働きをしていましたが、その後は家庭に入り、現在まで家事のみにあたる主婦として専ら消費経済の担当者としての地位におかれています。共働き生活に矛盾を感じて勤め

を止めましたが、収入が少なくなる点で、どうしたら最少限度の支出をもって健康で明るい生活を営むことができるかということにより深く考え、家庭経済の合理化を痛感するようにになりました。

それにはまず家計の徹底に家族全体が協力することが大事だと思っています。私共は二人暮らしですから、お互いに相談してやっていますが、家族が多くなった場合にも第一に実行していかねばならないことだと考えます。

次は予算生活を実施することです。お互い家族が意見を述べ合った上、費目別予算を立て、月末には費目別の決算をして、一カ月の暮らし方について反省し合ってその次の予算を立てる方法をとっていく。これも家計簿によってやらなければならぬと思っています。

第三番目は貯蓄の工夫です。給料の中から天引貯金・簡易保険など差引いた残りを、費目別予算として割当て、不時の用意の貯金として、給料の三カ月分くらいを一応目標として、普通貯金にし、その後は安全確実な比較的利益と思われる定期預金にしたり、投資信託などを買って値上りを楽しむことを構えています。更にできれば株式の研究をして、優良株に投資する、そうして経済界の動きに関心を高めていくことが主婦の大事な勤めじゃないかと思っています。

第四は上手な買物をする事、要するに買物をすると、高い物でも買わなければならぬようになってしまふから、損を見越して買わなければならぬようなことは止めるべきです。食糧品は保存の利く物は不時の来客や、病氣などの場合にも置く役立つよう安いときに多めに買っておいたら有利じゃないかと思ひます。家庭内のちょっとした隙れたところの修繕は人の手を借りないで、各々の工夫を生かしてわが家で修理することです。共働きで節約によって私共は収入の減少にずいぶん不安をもっていたのですけれど時間と努力に余裕ができれば或る程度大きなことが出来るものです。例えば副食などもいままでのように加工品を多く買わないようにしたり、衣服の整理なども洗濯屋や、洋服屋の手を借りないですむように努めています。主人も休みのときはあり合せの板などを使っているのが楽しみだと申しています。自分で工夫しながら物を作り出すことは生活を明るくしていく上に大変有意義ではないかと思ひます。今年は庭の菜園や、花壇などにも少し力を入れてやりたいものと意気込んでいます。少ない収入の耐乏生活の中にも、常に生活を楽しむことをみつめて、それにより明るく健康な生活を築くために努力しています。家計簿はおもしろいながら皆さんの手許にいまお配りしたような形式でやっています。家計簿はできているものを買

盾を抑えて家庭に順応せしめるよう、物価の値上りを抑え、主婦が安心して国家に協力できるような経済政策を打出して欲しいと思ひます。

もう一つの問題点として、婦人の地位の向上が叫ばれ、家庭の主婦に社会的地位が与えられるようになったのは嬉しいことです。一般家庭の主婦はあまりにも多忙で、私が共働きをしていたときのことを考えても、勤めの方の仕事に立派にやっけて、そして主婦としての勤めもきちんと果たとなると、身体が幾つあっても足りません。勤めと家庭の両方が自分で満足のいく結果にならないので、勤めを辞めたのですが、主人と二人の現在の生活では、一応満足のいく家庭生活と、二人がレクリエーションの時間を見出すことが出来るようになりました。しかしこれから子供がでる家族が多くなった場合、果してそうした時間を生み出せるかどうかという疑問をもっています。家族が多くても収入の多い家庭であれば問題はありませんが、収入の少ない家庭では家事労働に追われて文化的時間などとれないのが現状じゃないかと思ひます。婦人の地位の向上を叫ぶ前提として、総ての家庭の主婦がそうした時間をもつためにはどうしたらよいかも、と深く考えていきたいと思ひます。

司会 次は埼玉の伊藤さんをお願いいたします。

伊藤 夫の職業は日本職業指導協会の主事で、東京教育

大学でより各々の家計に合ったものを作る方がいいと思ひます。私共は大学の大学ノートにいろいろな費目に分けてやっていますが、問題になるのは臨時費ではないかと思ひます。これは衣料や、家具の出費も含めて毎月きまつて出る物以外のものをこの中に入れて予算を組んでいます。が、交通費などは現在私共はきまつた支出がないのでその中に含めています。住宅住いなので家賃・水道・電灯代は要りません。ボーナスや、残業で普通の月以上に収入のあったときは、予備費として貯金し、特別に購入したい物があつたときや、臨時費で足りないとき、ここから補います。

記入の方法としては費目別に支出の内容を書き入れるように、収支一欄の表を設けて、毎日の収支額と、内容を記入して、総単価がひと目でわかるようにしています。貯金の欄も累計を記入するようにしています。費目は状況に応じて分け方を変更するつもりです。毎日の就寝前の十分間を利用してやっています。これは一日の締括りと、明日の準備に役立っています。国家が緊縮予算をやつて、耐乏生活を要望されているので、国民もそれを行行しなければならぬのに、消費の面では電灯料・水道・味噌・醤油等の生活必需品が値上りして、家計がますます苦しくなるばかりなのは問題だと思ひます。口先だけでなく、実態面の矛

大学の講師をしており、収入は大体三万円くらいで、その他に原稿料・講演料などが臨時に入りますので、それでやっています。家族数は夫婦に長男が中学三年、長女が中学一年、次男が小学五年、計五人家族です。

環境の特徴は、家屋の状態は五十坪の土地の中に十七坪の家が立っている。自家です。職後住宅所がなく購入したものです。ひと口に主婦の仕事といっても、或るアメリカの女性が分析した本をみると、三十七種類あります。私はその分析表を壁に貼って眺め、自分の一年の生活の散計表と、一ヶ月、一週間、毎日の予算表と照し合せてみると、一日一日はその三十七通りの仕事のどれかの組合せの明け暮れであることがわかり、毎日はその連続であるということを感じました。主婦は炊事婦であり、医者であり、ときにはマネージャーであり、教育者・看護婦・栄養士の役目を果たす万能選手的な役割を果すことを感じました。経済的責任は父親のみに考えられ勝ちですが、一家の主婦といえども経済上の責任をもつて、支出の面でこまかい責任を果す、夫の収入を預る主婦は、家庭の中では調理とか、衣服の作成、修理活動をしします。一日中台所をはい廻っていることをよく愚痴として聞きますが、その前にもう一度自分の仕事を見廻して、社会の経済活動の一環として考えるべきじゃないか、主婦は家庭の消費面の受持であるため

に、とかく消極的なものと思われ勝ちですが、決してそうではなく、主婦の消費面での技術の上手・下手が、一家の生活に大きく響くことは言を待ちません。自分のおかれていた環境でできるだけ有意義な経済活動をするにはどうしたらよいか考えてみました。主婦の仕事を分析して表にしたものを——後ほどお目にかけますが——私は家の目につくところに貼って自分の任務の重大さを認識するようにしました。そうしましたら、よい意味でのプライドをもつことができるようになりました。

そこで、誰方も実行していることですが、仕事を計画的に運ぶこと、そのために年間・月間・週間・毎日の予定表を作って、すんだ項目から赤字で消していきます。こうすると無計画のときより時間の余裕ができましたので、その時間を文化的時間に当てます。

次に家計簿、これも月別の予定表を作り、一カ月の予算に基づいてやります。収入・支出の種類を大きく書き入れておく、あとで累計するとき便利です。日々の予算は前日の夜、日めくり式のメモを繰込んで、食事の献立まで書込む。家は五十坪に建坪十七坪ですから、ちょっととした菜園でもできそうですが、養育盛りの子供がいるので専ら遊び場だけにしています。

従って経済活動は食品のつり合のとれた食物を料理する

をとってみましたら六〇%をとられていて、文化費としての教育、教養・娯生・交際・娯楽費が僅か二・二%しか占めていませんでした。二十九年度は更にその生活必需品の部面に派山華われ、七五%となり、文化費が、一四・三%に減ってしまいました。こうした生活の中で私はただ家政婦となって家事の支出をなるべく少くすることだけに力を入れていただけです。生活を向上させるための教養費とか、生活を楽しむための費用は本当に少ないので、人間としてもっと高い生活をしたいと思っても、それができない、経済的にも時間的にも余裕のない状態です。私は病床で安田徳太郎氏の「人間の歴史」という著書を読みました。その中に昔人間の始まった頃には男女は平等であった。しかし女子も男子も同じ仕事をし、お互いに尊重し合って、女はただ子供を生むことだけが違い、あとはみんな男と同じであったと書いてありました。いまは女は家にあり、男は外で収入を得、女は男の収入を頼りにして、男の下に隷属している、こう考えてみると人間が進歩してきて、力のある男が生産に頼り、女は力がないから男の収入の中に入っている、いまのように隷属するような時代になったらしい、これを改善するためにはやはり私共がもう少し自覚して時間的にも、経済的にももっと余裕を見出していかねばならない。それを生み出すために家計の

ことと、家族の被服を仕立てることで。私は洋服をやっていますので、家族の被服を安く仕立てることで家計を浮かせています。近所に編物のできる方がいると、うちの編物はそちらに頼み、その代り私が洋服をして上げるというような交換で、出費を防ぐということはあるものの、一枚の平面の布地から服ができるということは家庭の作業の中で最も生産性を高じさせるもので、機会があるものです。以上私の申し上げたいことは、家庭の主婦の活動を計画化し、合理化する。消費の受持者である主婦の仕事は消極的だといわれる道念を、主婦自身が見直して、もう一歩進めて社会全体をみていきたいと思います。

司会 次は千葉の海保さんをお願いします。

海保 私の主人は教員で、家族は私たち夫婦と五歳九カ月の長女と、四歳三カ月の次女の四人家族、収入は月平均二万三千四百円くらいです。現在は私は働いていませんが、子供のできるまでは私も教員をして、共働きをしていました。しかし私が過労で二十七年秋に右肺浸潤にかかり、現在まだ人口気管を週一回受けている身体ですから内職もできません。私の家庭の経済活動といいますが、ただ単に支出をなるべく少なくするという消極面を担当しているだけですが、現在の私の家の生活の中での生活必需品、食物費とか、住居費・光熱費等のパーセンテージ

支出を工夫して、なるべく文化生活費の方に廻したり、時間を合理的に使ったりして、婦人が向上して人間として男子と平等な地位になるようにしなければならぬと思います。

家計簿は二十七年からつけていますが、つけていると月々の収入・支出が大体わかって、予算が立てられますので、つけることは大事だと思っています。

私の申し上げたい問題は、私は教員が職業として自分に合った仕事だと思っていますが、いまのように、家庭をもつて、二人の子供がいると勤めに出ることができません。安心して子供を預けるところもないし、昼間働いて帰ってから家の仕事をするととなると、身体がもたないので、両立できません。こういうことはもっと社会的に解決していかねばならないと思います。そのためにまず私共婦人が力を台せていきたいと思います。

司会 新潟の庄司さんどうぞ。

庄司 夫は会社員で収入は手取約二万三千円、これだけで夫婦に学齢時の子供二人の計四人を賄っています。

環境の特徴としては、社宅住いなので住居費・光熱費は一般より安くついています。手取二万三千円は少ないとは思っていませんが、決して余裕ある暮らしをしているとは思いません。成長期の二人の子供と、夫も疲れ易いので、食

費の面に配慮するので、食費がどうしても予算を上廻っております。その外夫の父母の家に月々三千円送金しています。夫が大変煙草好きで月に三千円は煙草のために出る。これが大きな支出だと思っています。夫にとっては大変好きなもので、黙っている次第です。月々の貯えとしては、夫の意義、妻の意義、子供とそれぞれの簡易保険に入っているもので、三千三百三十円がきまって要ります。その他に会社の方でとられる保険費も出る。成長していく子供たちの教育費も貯えなければならぬし、両親はだんだん働けなくなってきたから、今後の支出が増加することを予想して、いまの中にもっとも沢山貯金しておきたいと思うのですが、なかなかそれが実行できません。貯金どころが現在でも赤字になることがあります。よく赤字になるから家計簿をつけてみようがないというのを聞きますが、それは全く進だと思いません。赤字であれば赤字であるほど家計簿は必要じゃないかと思えます。赤字の原因はどこからきているかどうして避けられない赤字か、やり方によってではなくすることが出来るか、その原因を探すためにも、正確に記帳することが必要だと思います。ただ支出の書き放しじゃなくて、予算と実際の記帳が月々の終りの締括りは最も大切だと思います。主婦にとって健全で調和のと

れた生活を実行していくことが最も大切だと思います。今の様な状態では、庶民の家計はとかく支出と収入の均衡が破れ勝ちです。私たちは、生きるための最低限度の生活よりも、もっと人間らしく生きるために修養・娯楽など、もっと文化費の多く使える生活を望んでいるのです。そのためにはサラリーを合理的に按配することをもっと積極的にし、各人の能力に応じた生産力をもつことが必要じゃないか、そのためには男の人の協力が必要だと思います。先日、ラジオの街頭録音を聞いていましたら、いまの日本の生活程度が低いから共稼ぎが出来ないという人と、生活程度が低いから共稼ぎしなければならないのだという、全く反対の意見がでていましたが、人々によって求めるところが違うから、そういう相反した意見になるのだと思います。要は家にあつてきまゝた収入をやりくりしていれば満足だという男の人もありますが、それ以上に主婦も生産的な力をもつことが必要じゃないかと思えます。

司会 長野の高橋さんにお願ひいたします。

高橋 私主人は長野県庁に勤め、課長をしています。家族は子供五人と夫婦です。この部会の方々は大部分お若いようですが、私は結婚生活の二期に入ったのではないかと思います。収入は年取四十六万六千四百四十円、月割すると三万八千八百七十円、課長としては、安い方です。まだ

四十代ですから五十代の課長に較べれば低いのです。この中税金は二割かかるので、手取は三万弱です。役人は旅費旅費とおっしゃるが、最近月当り何割減らすという命令が出たため、出張してもマイナスにならないよう心掛けて、少しはプラスになる程度です。しかし私は旅費とマイナスは念頭におかないで月給だけでやっています。

一昨年、保育園に子供を預けているお母さんが集ったとき、保育園で子供を遊ばせるのにお人形がないので作って欲しいと要請され、十一月末に私の家を提議してエプロン掛けの人形を作ったところが、とても立派なのができて、なんでもこうすればよくできる、みんなが集って何事もやればいいのだというわけで、それからこのグループ活動が始まりました。長野は旅の者、土地の者を区別する慣しがあり、野菜にしても、旅ですか、地ですかというのと同じに、人間でもあの人旅の人だという呼び方をするとどうです。私共も旅の人間なわけです。例えばヤミ米を売る家でも、旅の者には比較的敷えませんか。それでも私はそれまで庶民的に近隣と交際し、おかみさん方に挨拶などしていましたが、それ以上は親しくはありませんでした。ところが、人形作りをして後グループ活動を始めてから非常に融和し、どんなものでも作ったものを見せ合ったり、知らない人に教えたり、各自の持っているものを交換したり、四十に

もなるがいままで一度もお花を習ったことがないといえ、知っている人が、それじゃ活け方を教えましょうという人もあり、また、ある人は私は洋裁ができないから縫ってもらいたい、その代り和裁ならできるから着物物は私が縫って上げましょうというわけで、また仕立代をとらないなら、小豆一升上げるといった工合に有無相通する、靴も小さくなって履かないから履ける人はお履きなさいというわけで、私も今度上京してくるについてちょっと拝借してきたのです。お蔭で本当に助かっています。

このように個人ではなく大きなグループという塊ができると、一人ではできないようないろいろなことが出来ます。例えば電気洗濯機を買おうというときなど、金額が大きいし、しょつち買物物でないし、どんなのが良い品か選択するのに非常に困ってしまいました。そのとき他の人が知っている電気屋があるから、きいて上げましょうというわけで、きいていただいているいろいろなことを教わった。また長女が中学に入るとき、セリタイ眼が欲しいわけですが、思い切ったいい物を買おうか、それとも高等学校までもてばいいのだから、安物でごまかそうかと思ったり、迷っていたのを、グループの人に相談した結果やっときまりました。また本が読みたいが買えない、図書館に知合があるから頼んだところ、グループに対して特別の貸出もして

くれるようになりました。そんなふうにして一応私の家計を助けました。

問題点としては、ここまでも自覚していない女性もあって、そんなことをしたってつまらないという人もありますが、そういう人もなんとかしてあげなければならぬということですね。

もう一つ私共の子供ももう直ぐ大学に参りますが、それにはどうするか、千八百円の奨学金ではどうにもならない、アルバイトをしなければならぬ、子弟の教育を国家でなんとかしていただけないものでしょうか。

それから交際費です。正月のお酒を一斗九升も用意しなければならぬ。正月のお酒を買うために、羽織を質に入れた家さえあります。本当に形式的なことですね。私はお正月前は憂鬱です。他の県では正月に御馳走代が出るそうですが、長野県ではありません。

次は麻雀です。下手でも、知らなくても、電話がかかってくるといかなければなりません。それが男の世界なんですよ、女にとってはやりきれないことです。そういうような点が大きな悩みです。

司会 次は山梨の三島さんをお願いします。

三島 夫の職業は地方公務員で県庁の教育次長をしています。収入は額面四万四千円、その中から税金が九千円引

かれ手取は三万五千円、その他私立の大学の講師をしているので二千円の収入があります。益々暮のボーナスは、二月末に出ます。私のところは市民税が日本一高いようで去年暮には三万四千五百円減りました。主人の洋服もかなり痛むのでボーナスはそういう方面に廻すので、家計の計算には入れていません。

その他少々利子の配当が年二回ありますが、これも家計には入れません。そのようにして私のところは大体手取三万五千円で生活しています。

家族は主人と私と、中学生二人、小学生二人の六人です。その他の特徴としては県の庁舎にいますので家賃は安くなっています。甲府は地方の中都市で人口十二万、二十七年度の統計によると、五人家族の一家の支出が一万五千四百二十七円となっているので、私共の生活も楽ではないが、苦しいほどではありません。東京を二〇〇とすると、甲府は九一・八です。そういう生活環境の中にいます。

一時私共も内職をしようと思ったこともありましたが、何をやっても私は不器用でマイナスが出る方が多いので止め、夫の収入だけによって、消費面に大いに獅子奮迅の働きをしようと考えたわけです。いまは別に生活に困りませんが、四人の子供の中、女二人、男三人で、本人の能力と希望するなら何年かの後に大学に三人通う年があるの

で、月々五千円の貯金することを決心して、只今やっています。毎月五千円の貯金は辛いですが、しかたなくやっています。

それからもう少し考えを進めると、子供が独立した場合に、親が子供に養ってもらおうということは、新しい考え方からいっておかしい。これだけの学問をさせてやったのだから当然老後は見ってもらおうということは望めません。年取った後の生活費もその中には含まれているので、五千円の貯蓄と、僅かばかりの配当の方は手をつけなくて、大体三万円くらいでいまの生活をしています。

家計簿に対する考え方は皆さんと同様で大いにつけています。昭和四年頃の家計簿を眺めて、いまこれだけの収入でこの安い物価だったらなんと、天を仰いでいます。おつけにならない方はぜひおつけいただきたいと思っています。

家計簿の考え方としては、例えば今月の主食はどれだけの予算と定めて、それにしぼられ過ぎて、月の終りに米がなくなつたが、予算もないというわけで、毎日パンとうどんばかりにするというようなことはよくありません。やはり枠の中で適宜配分することがあるよいある生活だと思えます。主人がもろってくる補助料二千円はプールして予備費とし、足の出たときはここに足を突込むようにしています。大体月の初めは粉類や、麦を食べてやっています。

問題点としては、家計の均衡が一番大事だと思います。いま苦しい思いをして五千円貯金しているのも、将来の子供のことを考えてやりくりしているのです。なるべくならアルバイトもしないですむようにと考えているわけです。先刻の坂西先生のお話ですと、学校が必ずしも最後の目的じゃないということですが、いまの日本の状態では、ある程度学歴がないと子供にとって大変不幸ですから、子供が学校に行くようになった頃の家計が、均衡を破らないようにいまから貯金をしているのです。

次は消費経済の面ですが、無駄な支出をもつとつめること、長野の奥さんがおっしゃったように、私のところでもお正月だといっては酒を飲み、悲しいといつては酒を飲み、なんのかんのと酒を飲む習慣がある。これは困ったことだと思ふ。そういう金はみすみす無駄とはわかっていながら周囲がみんなそれにならっているため、なかなか解決できない。

私のところの毎月の家計簿には、必ず香典とか、結婚祝の祝儀のついている。香典も差上げるとお返しにお茶を下さる。大変高いお茶を飲むことになるわけなんです。この不合理が、現状においてなぜなくならないか、皆さんにもおききたいことです。家計の消費の面で、無駄なものを切捨てる覚悟をどのように考えたらよいかということ

す。

司会 石川の池田さんをお願いします。

池田 いままでの方と違って私の夫は公立病院で内科を担当している医師です。収入は本俸から勤務所得税を差引いたものと応診に行ったときの謝礼、それにささやかな財産——預貯金の利子・株式配当・投資信託などの配当そういうものを全部合せて月平均大体七万五千円から八万円くらいです。

家族は夫婦と八歳の女の子の三人暮らし、夫は次男で親元へ仕送りするようなことはありません。現在女中も使っていないのですが、大掃除とか、こうして私がよそに出掛けるときはお手伝いさんを頼んでいます。実家は金沢にありますが、通勤に不便なのと、院長としての責任から、病院の直ぐ隣に住っており、結婚な家ですが、僅か家賃一千円という恵まれた環境です。このような中において、夫の収入イコール妻の収入として全額私の手に渡され、家庭における大蔵次官の親があります。家庭の金與権を握っています。夫には月々小遣として六千円渡し、物価が上ればペー・ス・アップしようと思っています。(笑) 私たち夫婦はこうして夫婦の間になんら経済的な秘密もなく、お互いに信じ合って明朗な経済生活を営んでいます。具体的なことは時間がないので省きます。

家計簿については次の二つの理由からつけた方がよいと思います。一つは家庭経済生活の長期に亘る記録をとることができ、過去を知り現在を知る、そして将来の計画を立てることができ。

もう一つは嘘偽りのないしまりのある几帳面な経済生活を通して子供の教育上によい影響を与える。この二つの意味で大切だと思います。

つけ方は、二・三カ月前の各種費目の支出高を検討して、現在の予算を立て、予算とにらみ合せて支出を行っていきます。もちろん各種の費目間には相当の融通性をもたせて、衣服費で超過したならば、こちをつめるといった工合にして困窮しないようにしています。

問題点としては、家事のみに専事している主婦はとかく夫に隷屬し、なんら自主性をもたない、経済的地位の低いものであるとの必要以上の自己攻下に陥り易いことです。そのため社会から有閑マダムというありがたくない言葉を頂戴するのですが、私共はそういう言葉に甘んじたりしてはいけません。私は子供ももうそれほど手がかららないので、時間的に余裕のあるのを幸いにできるだけ努めて有意義な講演会に足繁く参り、家庭婦人にあり勝ちな世の中の動きから遅れていくような欠点を作らぬよう努力しています。特に女のささやかな技能も家庭生活全般に十二分に生

かすよう努力して、目にみえない収入を生むよう、積極的な生活に努めています。家事に追われて何かとありきたりの生活の中にも、非常な飽と満足をもって暮らしています。私共は結婚して十年になりますが、その間に一度も病気をしなかったことは、主婦の経済活動における一つの功績であったと喜んで自顧自讃しています。殊に匿居は昼夜の別なく仕事があり、正月もお祭りもない精神的・肉体的労働です。それが健康であることは、何よりも嬉しいことです。家族が一致協力して割合余裕のある生活の中にも十分虚栄を際して節度のある生活をいたしたいと意識しています。

司会 岐阜の熊崎さんをお願いします。

熊崎 私の夫は教員で、高等学校に勤めています。収入は支給額三万四千八百円、その中から所得税・市民税・諸会費・天引貯金等を引くと、手取一万九千円になります。その他家庭教師としての収入が三千円から四千円くらい、それ以外、私が折にふれては出す授稿が入ったとき、僅かの原稿料が入るくらいですが、これは全然計算には入れていません。

家族は夫の両親、私共夫婦に小学校一年の長男と五人です。いまは両親は郷里に残して私共は勤務地に子供と三人で別居生活をしています。

環境の特徴は、ここにいらっしゃる方は皆さん水道・ガス等の文化施設を使っていっぱいしゃいます。私の住んでいる地方はおよそ文化生活とは縁遠い生活で、井戸のポンプをたががた押し使いうる有様です。燃料といえば薪・炭を使い、石油コンロ一つが文化生活の仲間入りしたような気がします。

そういう中で主人の収入だけで家計を賄い、できるだけ教養を高めるために、時間を生み出したいと努力しています。私が結婚生活に入ってから七年の歩みを振り返ると、結婚の翌年に長男の出生、郷里で両親と生活をして満一年の誕生を迎えたとき、私が助産婆を思い、獨病生活に入りまして。結婚の新設計は悪いも及ばず、無惨にも夢はくだけてしまいました。子供は結婚家の両親に預け、里の両親の家でもう一年闊歩しました。当時結婚家も貧乏で借家住いのため、いつ売られるかわからないという不安が伴って一團獨病生活がいらいらして、ただ念頭にあるのは家を賣わなければならぬという事だけでした。そのうち夫の転勤となつて五名の家族が四年前から別居生活を始めました。この三年間、私たちの家族にとっては、経済生活が八方ふさがりで苦労したのですが、どうやらこの二年の間に、借家を自分の手に入れることができ、郷里の家にも隠居所となる離れを去年新築することができ、今年七月には台所の

改算計画にまで発展しました。

また家計簿は絶対につけるべきだと思います。私が家計をもつてからずっとつけています。家庭の経済活動のバロメーターは家計簿だと思います。予算と反省、その活用、使途、目的をいかにかねるべきかによって、普通の項目と内容を求めなければなりません。

一般に別居生活は家族の二重負担で、しかも二重に消耗されて苦しい家計を一箇顧めるものと解され勝ちですが、私の場合、家計簿とはむしろプラスになりました。姑・舅も健康で暮し、少しばかりの用があるもので、私共の送金は全部貯蓄されて、別居生活二年後に、合計された貯金と、不用の品を売却して三十五坪の家を手に入れることができました。家族揃っての努力と、家計抽出の努力がここまで成果を挙げたことに、自分自身感激している次第です。切りつめた生活も一年目には光明さえ発見できるようにになりました。

今後ますます物価高となり、親元への送金もあり、一方子供が大きくなるので、教育費もかさんでいきます。家計簿は記録のための記録であってはならないし、収入を追跡けるだけに止めてもいけません。家を買わなければならぬという目的のためには家族が一つの心になって励みま

ことに自分の能力を限定してから、割合気が案になりました。

私は近所の人から「のぼせ婆々」(笑聲)という名前をもらっているほど、気の毒な人があると西に東に駆け廻り、なんでも上げてしまうので、家の者に笑われるくらいなんです。そこで近所に裁縫ができるので家で教えたいという人がありましたので、場所を斡旋したり、そんなことしたので、私がいろいろ試みたことをお話ししたいと思います。

主婦はなんにも技能的に専門化したものもっていませんが、家事をきりもりしているとそれぞれ何か特にできる腕を持つようになります。例えば編物がうまいとか和裁がうまいとか、片付けがうまいとか、いろいろあります。そこでそれらのことをお互いに交換し合ったり、時間を生み出して生産にもっていったらいいじゃないかということを生事を通じて考えました。現在編物の上手な人に教室を世話し、教室といっても普通の家ですが、五、六人集ってみんな一所懸命習っています。たとえ一人前になるに一年かかっても、二年かかってもいいと思います。裁縫のできる方もいまと同じようにして他の人を教えています。私はまた、そういうところに留に行つたあの子供さんや、忙しい方のお子さんを預けて私もお礼をいただくので、そ

せめて年一回は両親のところに行きたいと思って、そのための交通費その他の費用を含めて家計簿から予備費に廻しています。ですから夫の別収入もそれに当てています。このように親との別居生活でずいぶん激々とした生活の中に、どのようにして時間的にも経済的にも教養を得るために努力していくかが問題点です。

司会 大阪の大矢さんにお願いたします。
大矢 私の家族は私の母と、私と主人と、子供四人の計七人家族です。子供は高等学校二年生と、中学二年生、小学校五年に三年です。家作もありましたが戦災で全部焼けて以前私は保育所を作っていました、それも全部焼けてしまいました。いまは主人の収入に七人がぶら下っている状態です。子供がもう少し大きくなって大学にでも行く頃になったら、どん底の額がありますね。

主人の手取は三万五千円、ボーナスは二カ月のときや一カ月半と変化がありますが、年二回入ります。けれど七人で生活をした上に、なお保育所のような仕事を私がやりたいて思っても、なかなか生み出す経済力が出てきません。なんとか経済的に自分も活動したいと考えて、PTAや婦人会に出ていって働いても収入にはなりません。一度病氣したこともあるので、それ以来自分は社会的に職業婦人として立つことはできないと断念し、家庭婦人として生きる

れで自分の本を買うとか、本が一冊になったので本箱を買うとか私の勉強部屋も自分の力によって生み出して、一つの社会的なものになりつつあります。

私が問題点としたのは、婦人の共同活動です。私は皆さんのお世話にしても、ボスになることを心配していますので、仕事をするにも一人でタッチしないように、教室ができたあとと教える方が自由にやっていくように、私がその上に立つとか、命令するというよりなことはいらないようにしています。

もう一つ婦人の経済活動については、——家計簿をつけることは私も賛成です。他の方もいろいろ話されたので何も他に申上げる必要はありませんが、そういった消費面のお金の計算といったようなことではなくて、やはり家庭婦人としての子供の教育について考慮すること、予算と執行面について、勝手に計画なしに施用することなど止めて、きちんと法則に従って経済活動をするように助言しなければならぬと考えます。

私が申上げたい点は沢山ありますが、主婦の技能を發揮して、組織と場を作るようなことをしたことが契機となつて、お互いに研究し、助言しあってきました。これが一つの手本にでもなつて、全国の主婦たちで、もっと自分の勉強になることができやしないかということを研究し、効果

が上れば結構だと思えます。

司会 山口の城さんをお願いします。

城 主人は漁業会社に勤めており、月収三万で、税金その他を引いて二万五千円、これだけが私の家の生計費です。この他年二回の賞与と、持株の配当が月割平均一万五千円となっているが、全然当にしないで私は手をつけません。只今家を新築していますので、建築費に廻しています。

家族は主人と中学一年と二年の子供と私の四人です。今は私が昨年健康を害して以来お手伝いの方に二千五百円出しています。家は自分の家ですから、年三千五百円くらいはの地代を払うだけです。私共のような薄給のサラリーマンの家庭で、どうしてこの逼迫した時代に家を建てたかと申しますと、私がいままでも苦しい家計をやりくりしてきましたが、どうしたならば文化生活を営むことができるか、どのようにして積極的に開拓していくかいろいろ考えた結果、一番無駄のある住生活を徹底的に改革して、生活の合理化の現われどしというところで、思い切って決心したところ、申込んだ住宅金融公庫が偶然にも当たったので、相当借金をして建てたわけです。これが私の建設的な経済活動と自分では考えて、実行に移したわけです。

私は引揚者です。御覧のように頭もオカッパにして流行

からは外れた姿です。衣生活も総て実質的なものを機能的に個性を生かして着ようということで切りつめ、全然新調しないでお正月でもこれです。(ルバシカにストラップスを履いている)ただ改まった場合にだけ失礼しないように、黒っぽいスーツを一着もっているだけです。

住居も簡略化して、全然客間など作りません。畳も使わないで板の間で、リビング・ルーム式に生活の簡略化をモットーとして、主婦の家事労働を切りつめるような設計を主人と二人で考えました。

それから物質面での虚栄やら、虚飾に類することは追放してしまっ、普段清の生活とよそゆきの生活を作らないように心掛けています。お客さんが見えになっても自分たちの食卓にお迎えして、私共と同じ献立にして子供も一緒にいただく、そうすると却って主婦が主人の友だちと話してもひけ目を感じることもないし、子供にも日常生活の中から教えることができるんじゃないかと思ひ、この主義で全部押し通しています。結局は總ての生活を合理化して、無駄を省いて自分の時間を最大限度に生み出し、そのことによって自分がいつでも、社会に再び立つことのできる職業技能を身につけ、社会人として視野の広い人間になることができるような教養を最大限度とすることにしました。

私も家計等にはつけることにしています。皆さんがおっしゃったことと同感です。ただ一つ特徴としては、私は二人の子供のために何も残してやれないので、子供の将来のために無難と思われるほどの書籍代を家計からとって、金集物を揃えることを私の念願としています。

問題点としては、よくあちこちの会合にいくと、私は主人に食べさせてもらっているの、主人は外で何をしたらって、わがまましても何もいえないということをよく聞きますが、私は家計は主婦の人生観とか、人生の最終の目的に出発するための具体的な現われだと思ひます。だから主婦自身ももっと自覚と責任をもって、はっきりした目標の下に、家計に計画性をもたせることだと思ひます。今月は被服費が多く出たから、来月はちょっと削ってこっちにもってくるということではなく、自分の人生をみつめていくような家計の取り方をしたいものです。

最後に申上げたことは、このように私がいろいろ申したことも、主人の協力がなくてはできないことです。私の主人は私より生活の合理化を率先してやってくれていることを心から感謝しています。

司会 東京の福田さんをお願いします。

福田 私の夫は東京工科大学の研究所の助手をしています。収入は本俸が月に一万七千円、諸手当入れて二万一千

円、これから諸税共済組合費など引かれ、手に入るの是一万八千円です。その他に翻訳とか、稿料とかの臨時収入があります。

家族は私と夫の二人です。環境の特徴は、私は昨年九月に結婚したのですが、まずそのとき考えたことは住居の問題です。私たちの少ない収入から月々一千円なり、二千円なり引かれていくことは耐え難いことであろうということと考え、古い形の結婚式というような形式は一切止め、両親に五坪の家を建ててもらいました。お金はそれが後に物質的に生きていくこと、それがまたお金を生んでいくように使わなければならないと思ひます。これから結婚なさる若い方たちも、表面的には着飾って、あとの生活では台所を這い廻るということじゃいけないと思ひます。ただ形式的なことのお金を使っても、毎食ぐらいしか残りません。そういう形式的なことは一切止めるべきだと思ひます。私も結婚と同時に五坪の家をもったことをとても感謝しています。私の場合たまたまそういう形式的なことにかける費用で家を建てるのができましたけれど、他の方もそれぞれの事情に応じて次の生活に生きるような工夫をしてお金を使ってもらいたいものです。今後私はそのつもりです。

一万八千円の基本収入の中で、月々食費が八千五百円か

ら九千円で、全収入の四四%前後を占めています。

私の家の家計の特徴は文化費が非常に高いことです。それは夫の専門が機械なので、家で機械類を組立てたりします。そういう材料費が相当要るので、私もそれを少なくしたくないし、私自身も本を讀むとか、そういう生活をするのが私の生活の楽しみなので、削りたくありません。食費も明日の生活活動に必要なものですし、お腹が空いては活動ができませんし、体を癒すには、いくら貯金があっても駄目だと思います。従って食費も私は惜しまず使います。

これから子供も欲しいし、家族が増えると五坪の家ではとても狭いので、将来の計画を立ててそのための建設費もとりたいと思っています。

家庭生活を合理化するために、先日ガスを引きましたが、そのときガスレンジをとりつけました。私たちの収入としては贅沢なものとお思いかもしませんが、レンジをもっているのとガスレンジも作れるし、焼きリゾットも外で食べると五十円かかるのが、十三円で食べられる。そういうところには惜しまず金を使う、そうして時間を合理的に使う。これが私の基本的な考えです。

家計簿はもちろんつけています。しかし面倒臭いことではない。分類などもしない。大抵ノートに羅列的に消費し

たものを書いておく。一カ月の食費や副食費は大体いくらかと予算がわかっていきますから、買物にいくとき、それを越えないように買ってきます。

私の問題点は、家事作業を高く評価したいということです。とかくインテリといわれる人は、外に出て生産的な活動をしなれば、主婦は向上しないといわれますが、私はそうじゃないと思います。やっぱり消費生活も、明日の建設であるということにおいては生産だと思います。私は家事を捨てない決心をしています。

もう一つ、以前石油コンロを使っているときに感じたことは、初め石油が一斗五百円だったものが八百五十円にまで上りました。一体これはなぜだろうかと考えました。輸入と国内消費の需要の關係がバランスを欠いたんだらうと思います。その点で成程私たち一家の生活も、国家経済や社会や世界情勢にまでつながっているのだということがわかりました。これではとてもやっていけないので、私たちの税金がもし月給から差し引かれなかったらいいだろうと思いますが、しかしもっと私たちより困っている方たちがいくらでもよくなるためにとられているのが税金だと思えば、やっぱり社会的に目を向けていかなければ、どんなふうに税金が使われているかわかりません。個人の利益ばかり考えていたら、税を出すのが惜しくなります。こういう

ことを主婦が考えて固執してみんなでもやりたいと思います。

同舍 最後に福岡の塚本さんをお願いいたします。

塚本 いままでお話をされた方は、お若い方や、結婚して十年前後の方でしたが、私は結婚して二十九年経ちます。主人は九州の大学の先生です。よく新聞などで苦しい経済や貧乏の事例として大学の先生が上りますが、その実態を一つ聞いていただきたい。私の主人はもう停年まであと数年という年齢になっており、年齢で俸給は減りますが、本俸四万九千円ほどで、諸手当合せて五万九千円、税金が二万九千円、一万八千円とられるので、手取は四万一千円ほどで、その中から国庫納金など引くから、私の手に渡されるのは三万九千円くらいです。

家族は二人で不幸にして子供はいません。それだけ経済的ゆとりはあるのじゃないかと思えます。

家計の特徴としては、職費・修養費で合計一千万円の予算をとっています。それでも赤字になります。外国の学費を払うとか、新しい本が買いたいとか、学会の出張などでも、自分の分の旅費は出ても、助手さんの分が出ないので、その分も助けないければなりません。講演に行ったときの謝礼などは親立ててそういうときに使います。そういう面でも予算をとればとりたいたいと思います。交際費も

家庭の年齢で違いますが、無敵なようでもやはり必要なのになっていきます。家を離れて下宿生活している学生や、まずい御飯を食べている学生をときどき家に招んで私の下手な料理で一緒に御飯を食べたり、話したり、遊んだりしますための交際費は節約しないで、とれたらできるだけとりたいと思っています。

私も終戦後引揚げてきて、この頃やっと家具・衣服も最低の必要なものが整いました。さきほどの東京の方のお話を伺って思い出したのですが、私共も主人が大学の助手のときは住宅組合に入って一所懸命貯金し、家を建てたんです。ところがよそに移るときに貸しておきましたら、戦災で焼けてしまい、いまになって作りたいたいと思っても、いまの収入の中から貯えていくのでは何年かかるか、なかなかできない現状です。主人とよく話す笑話ですが、もう家は建てられないから、二人分の養老院の入院金を貯金しなければならぬというのです。ときどき夫婦の話題になる話です。

私も暇で毎日を過すのはよいことじゃないと思い、友の会の中に加わらしていただいて身に合った仕事をさしていただいています。こうして目の前には問題が派山あるわけですが、友の会のグループや、周囲の若い方々にいろいろな相談を受け、自分自身もっと勉強したいのですが、なか

なかなかに思ふようになります。家族の中に療養者がいて困っている方もあるし、主人の交際費をもっと減らしたいと思つて苦心している人もあるし、住居のために苦しむ、間借代に月に四千円も、五千円もとられて悩んでいる方もある。もっと収入が欲しいという方、子供の教育費のために食費を減らさなければならぬ人もありますが、こういう人々の悩みを、一人一人で解決するのではなくて、社会的にもお互いに協力し合つて解決方法を考へていくよう苦心しているのです。

家計簿については皆さんがいわれたので申すこともありません。必ずつけなければならぬし、月の終りには決算していく、つけなければ予算生活は実行できません。

なお予算は一年を通じて費目分けにできめていくこともやっています。従つて家計簿は年の終りに決算しておくことは、自分の家の目標にもなるし、経済的にも、社会的にも大切な資料になると思います。

また家計簿をつけるだけで家庭経済の困難が解決するとは思いませんが、消費の数字の検討なしには考えられません。私は結婚以来二十九年間、家計簿をつけています。古いのは引揚げのときに残してしまいましたが、奥に残念だと思つています。

問題点は、家事ばかりしている主婦はとかく外に出て働

きたいという人が多いが、何も収入担当に働くことだけが経済活動と考へないで、自分の才能を一生懸命のために伸ばして家事のために役に立てて、自分の家も、世の中も豊かにするような仕事をしたいと思ひます。自分の家を豊かにするのと一緒に社会も豊かにするにはどうしたらいいか。いままでの職業の形に捉われないで、自分だけよくないばいと思わないで、自分も人も共に援け合つてよくなるといふことをこの部会で取扱つていただきたいと思ひます。いままでの皆さんのお話の中にも具体的なことが出ているようにも思つています。

司会 どうもありがとうございます。五分間ずつ御意見の発表を願つたので、この辺でちょっと休憩して、それから討議を進めたいと思ひます。

(休憩)

司会 これから討議を進めたいと思ひます。いま皆さんから五分間ずつ御意見の発表がありました。非常に詳しく御主人の職業から、収入の点までお話し下さり、皆さん方がどういふ環境の中で生活していらっしゃるか、その中でどういふ経済活動をしていらっしゃるか伺つたわけですから。

大要具体的にいろいろ問題がきましたが、私が伺つていて感じたことは、——一応赤字で家計が苦しいというお話を

ありましたが、それでも皆さん方は、日本の現在の勤労者の各層を代表しているとはいえないという事です。平均より高い収入を得ている方が相当にいらっしゃる。しかし世間には感嘆文を寄せることもできないほど暇のない主婦の方が沢山いることを感嘆文において、これから討議を進めていかないと、宙に浮いたものになる恐れがあります。

一応皆さん方が問題点として出されたことを簡単に挙げてみますと、北海道の古谷さんは、主婦の経済活動の最終目的は主婦の向上に家計が使われるかどうか、それを念頭に置いて家計を運営していくことが必要だ、いかに有効に家計を使うかに主婦がもっと努力しなければならぬといわれました。

岩手の鈴木さんは生活技術の向上の点を力説されました。茨城の高瀬さんは婦人の虚栄心をなくすことだ、虚栄心が家庭の赤字になる困だといわれ、また親子の関係を改める必要がある、子供に費われずにすむ生活を心掛けなければならぬ点を指摘されました。

栃木の和田さんは節約は必要だけど、いま固でいわれている窮乏生活に、各人の家庭が順応できるように国の経済政策を立てなければならぬといわれ、また婦人の地位の向上のために、もっと時間を生み出す工夫が必要だ。時間がないために向上できないでいる余裕のない家庭の婦人を

いかに向上させるか、私たちは考えたいといわれました。埼玉の伊藤さんはこまかい家事作業の分析をされ、主婦自身ももっと家事作業を高く評価することこそ必要だといわれました。

千葉の海保さんは、主婦が内職や、職場での生産活動をするために社会施設がないことが問題だといわれました。そうした施設の必要性と、そのための主婦の団結を強調されました。

新潟の庄司さんは、主婦の生活は消費面のみじゃなく、生産力を経済活動としてもたなければならぬ、そのために男性の協力が必要だといわれました。

長野の高橋さんは、教育費と、交際費が自分の家で一番大きな問題になっている。その点をもっと考えたいといわれました。

山梨の三島さんは家計の均衡についていわれ、均衡のとれた家計を運営していくことが必要で、やはり長野の方と同じように、交際費の無駄を省くことをもっと考えなければならぬと指摘されました。

石川の池田さんは、主婦が少しも卑下しないで、家事作業を主婦自身が高く評価して生活していくことが必要だ、また余暇の時間の活用、つまり教養を高めるとか、そういったことに活用することの必要性を説かれました。

飯草の熊崎さんは、御自分の切実な経験からいろいろ話され、親御さんとの別居生活で、経済生活をうまくやるにはどうやっていくか、その時間を生み出す点などの工夫を話されました。

大阪の大矢さんは、主婦の技能を發揮させるための場と組織を作ること、これも貴重な体験から話され、御自分の特殊な環境の中で問題を出されただけでなく、どこに住んでいる人でも、技能を發揮する場と組織を作ることができる筈だということを提案されました。

山口の城さんは、主婦の自覚と家計の計画性のため夫の協力が要る。御自分のところは御主人が大変協力なさいてゐる。そういうことがもっと一般の家庭でも必要だということ、そして人生を見つめていく家計の計画性のことをいろいろと話されました。

東京の福田さんは、埼玉の伊藤さんと同じように、家事作業を高く評価したいといわれ、同時に消費生活を明日への建設と考えていきたい、一家と国家経済、世界情勢との関連など、社会的な関心の目を主婦が養って、そういうことを解決するために主婦が団結することが大事だといわれました。

福岡の塚本さんは、主婦の経済活動とは、単に収入を得る仕事だけではない、生涯自分の才能を育てるために、主

婦はどのような仕事を見出すことが必要かという点と、社会と共に自分も幸福になるという、社会共同性という考え方を強調されました。

大体以上のようなことが問題として提起されましたが、これをまとめてみますと、主婦の経済活動としてはどういうものがあるかという事で、家事作業の分析が相当の方からなされたわけですね。主婦の経済活動の中には、収入を伴う生産活動、消費経済をうまく運営していくこと、流通面のことも含まれてきます。財産管理とか、そういうことも含まれてきます。教養の面も広くいえば含まれてきます。教養というのは、生活技術を高めて、更に経済活動をうまくしていくために、それがプラスになっていくという点で、経済活動の中に含まれてきます。そういう分析をして、それならば家事作業はどのように評価されているだろうか、まず各人がどのように、自分の家事作業を評価しているか、それから家族の間でどのように評価されているか、また社会的にどう評価されているかということももっと深く討論していくことが必要だろふと思います。

ここで当然主婦と職業の問題もでてきます。幾人かの方が主婦は家庭に閉じ籠っていないで、職業をもつところまでいく必要があるといわれました。その反面、そういう必要はないので、主婦は家庭の中で消費経済をうまくやって

いくことこそ必要だという御意見の方もあったようです。その点についてお話しを進められたいと思います。

それから家計——衣食住の計画がどの程度まで立てられるかということが、一つのテーマになるのじゃないかと思っています。生活技術の点をいわれた方がありますが、計画化の問題も一つ挙げられると思います。

それから更に今度は社会的な解決にまでもっていくための協同活動が必要だということも多くの方がいわれています。協同活動の中には、身近な共同購入などの問題からもっと進めていって、恩恵抑制とか、輸出の振興とか、輸入の制限とか、そういうことが消費者の団結によってできるというような問題も含まれると思います。国家的見地による考え方も申しますが、そういうところまで協同活動に含めて話が進められると思います。大体以上四つくらいに分類されるのじゃないかと思っています。

ここで二人のアドヴァイザーの方から、お気付きの点をおっしゃっていただきたいと思っています。西さんからは一般的な点を主にいただいて、船田さんからこまかい生活技術的な点が話されると思いますが、それから皆さん方と一緒に討論に入っていくようにしたいと思います。

西 長い間大変有益な話をしていただきありがとうございます。私も一介の主婦なので、身につまされて話を伺

い、私の方が大いに勉強させていただいたことを大変感謝しています。いま司会者の石井さんが相当詳しく話の整理をされましたので繰返す必要はないと思いますが、皆さんが、一所懸命になってどうしたら自分たちの生活をよくしていくか、またどうすれば社会とか、国家とか、そういうところをよくすることができるか、純粋に皆さんがお感じになっていらっしゃることについて——私ももちろんその一人ですが——まず感心しました。

さっき小坂労働大臣からむずかしい教養を挙げて、今年は耐乏生活で一兆円予算だから皆さん宜しくという話がありました。この部会の話は悪くすると、何か政府の耐乏生活にこっちは無批判に應えて耐乏生活をしまししょうという申合せにならないとも限らないので、そこは私たちはもう少し言いたいことを付け加え、自主的な経済活動になっていかなきゃならないと思います。

私共アドヴァイザーの立場から収入を話していただくのは大変失礼だったのですが、皆さん方が一体日本のどういう階層を代表してお出でになるか伺いたかったし、家計そのものが日本の現状の中でどういう形で運営されているかということ、家計は日本の庶民生活の象徴的なものですから、それを伺ったのですが、お一人お一人の類は今更繰返して申しませんが、總括して大体若い方は当然収入が低

く、比較的年輩の方がやや高額になっています。大体のところ若い方は二万円前後の収入の方が多く、それ以下の方もむろんあります。これはいまの日本の官庁で出す統計に略々合っています。いま日本の国民の収入は三人家族で一萬七、八千円です。その線が出てくるようです。それに対して支出は二万円から二萬五千円、この統計からいくと当然赤字が出ています。この赤字をどうして埋めていくかというと、世帯主以外の収入で埋めているのが、日本の大多数の家計の形です。皆さん方の中にも、洋服をやったり、家計補助的な仕事をやって辻褄を合せていられる方があるようですが、日本の家計の多数がこういう形であることを、お含み願いたいと思います。

なお詳しく申しますと、世帯主の収入だけでやっていけない家庭が、ある学者の説によると日本の世帯の五〇%を占めているということです。若い方たちの家計はややそれに近い線が出ており、年輩の方などは三万円とか、七万円の方もおられました。この方たちがそれでは悠々とした生活をしているかという、そうではなく、いろいろな問題が出てきています。

その一つの問題は教育の問題、老後の問題などで、十万円とか、二十万円とかの収入を得ている家計でない限り、ここに出席されているやや高い収入の方々でも問題をもち

ているということを拝見しました。ということは、日本の勤労者の家計が非常に不安定な状態にあることが、皆さんの発言の中にたまたま出てきています。これについてどういうふうにしたらいいか、具体的な生活技術の中にもいろいろと語られ、突陳しておられますが、発言の中で共通して出てきた問題は、家計の苦しい一つの原因として住居の問題が挙げられています。官舎や社宅に住んでいる方はいいようですが、塚本さんのように停年問題の方は職を離れたら途端に住に困るという問題があります。住宅公庫から借りて建てるにしても、十八年間の償還だから、御主人一代では償還がむずかしいなど、家計の中で住の問題が大きな問題になっていることが考えられます。

教育の問題は、子供さんのいない方や、まだ小さい方たちはそれほど感じにならないでしょうが、高等学校・大学に入るようになると、教育をどうしようかということが大きな比重を占めて家計の問題の種になっています。

もう一つ老後の問題ですが、年をとったらどうしようか、養老院に行くときのためにお金を積立てるというお話もあり、私はこれも日本の勤労者の家計の大きな問題じゃないかと思っています。

その他日本の経済の安定が確立されていないために、家族制度的な親元への送金も入っていたと思います。私も突

はその一人で大変この点で重荷を感じていますが、そういう家族制度的な家計の圧迫もあり、こういうことを含めて考えてみると、個人の力ではどうにもならないじゃないか、いくら家計の中でやりくり節減してみても、いまの不安定な家計の中ではどうにも解決しないのじゃないか、たまたま皆さん方は教育費が心配だ、老後をどうしようかと思っていられませんが、総合してそれらのことを考えると、

結局日本の社会保障制度の貧弱な点、それが皆さんの発言の中に出ていていると思います。社会保障ということはおっしゃらなかったが、これは皆さんの共通の発言の中に出てくることで、この解決が私たちの家計をよくし、主婦としての経済的な活動をしていく上に、外部的な援助になると思います。自分たちだけで経済活動をして限界がある。もっと社会的な援助の手がなければどうにもならないのじゃないかということ、皆さん方自身ははつきり思っているから、これを汲み取ったわけです。

次の討議のときに問題になると思うことは、主婦は家事作業だけするのでは駄目じゃないか、もっと生産的なものに参加しなければならぬのじゃないかという発言も相当ありました。これに対して家事作業だけでいい、この範囲内に止って経済活動をすべきだ、家庭内における経済的な活動イコール主婦の地位の向上があるのじゃないかという

方、これは大きな問題になるのじゃないかと思っています。討議のときの問題として残しておいていただきたいと思

います。その他こまかい生活技術的なことは船田さんの方が専門なので、そちらにお廻しして、私の気のついた点は以上のようになります。

司会 船田さんどうぞ。

船田 大体皆さんの要約されたことで皆さんの発言は尽きていますが、それを二つに分けると、一つは生活技術の研究、いま一つは家庭経済が自分たちの家庭だけに止らず、社会のつながりの中で政治につながるという問題になります。生活技術の向上のために、いろいろな文化の面で見ながら向上していくということ、どの婦人会でも長年研究されてエキスパートになっていらっしゃる。そこで消費経済の担当者である皆さんの離方からも発言がありましたし、消費経済の担当者としての問題が重点として今日は討議されていくのじゃないかと思っています。今日の皆さんの発言の中には出ませんが、私が切実に感じていて討議に加えていただきたい問題をちょっと申し上げます。

先程福田さんの発言の中にもあった石油がだんだん高くなるということ、これに似通った問題はすいぶんあります。例えば砂糖が高くなったのはなぜか、これも輸入に

関係のあることです。醤油・味噌が高くなってきた、これはどういうわけか、東京あたりでは綿の打直しが高くなっていますなぜか、自由経済の世の中ですと、政府が干渉はしない、統制経済であれば、米のように完全配給のものは未端まで政府が干渉することが出来ます。しかしそうでないものは業者が組合を作って協定して、ある一定の値より安くは売られません。強い団結をして業者は臨んでいきます。これに対し消費者が抵抗するためにどういう方法があるかということをご自分で考えていただきたいと思ひます。

また皆さんが一人残らず家計簿をおつけになっていることを伺い、大変嬉しく思いました。そのつけ方はその家々や、職業によって支出の項目なども違いますし、年齢によっても違うと思います。塚本さんのお話を伺うと、もうじき母年に近い年輩の大学教授で、皆でいえば高等官一等というわけでしょうが、あまりにも俸給が少ない、会社の社長と較べたら雲泥の差だ。私の夫も同職で、七つの大学に講義にいらっているが、家の家計は大抵からっぽです。講師料などは殆ど旅費に消えてしまいます。よく教授連の方が話すことですが、大学教授の息子は大学にやれません。たまたま原稿を書くとか、印刷とか、原稿料が入るのが家計の補いになっているわけで、日本の教育の予算がいかに少ない

点、みんながもっと身体についての知識をもつことも必要ですが、自分の家の病人として考えるのではなく、社会の一員として、自分の家の病人が社会に影響を及ぼすこと、つまり病氣と社会との関連についても問題として考え合っているのじゃないでしょうか。

皆さんは家計簿をつけて生活合理化していますが、世の多くの主婦たちには、やりきれない赤字のために借金をするのは当り前だという観念が現在では多い。事業をする場合に資本を借りることはあっても、消費経済では借金をしないこと、そこで私はこう考えるのです。お魚や肉を拵でとることは借金して買っていることと同じで、拵で買ったものには利子が含まれているわけです。そこで家庭経済は現金主義にしていく、それが健全な家庭経済のやり方です。現金買の買物の工夫について、共同購入の話が出ましたが、いま改めて強く現金買の必要を感じました。

大阪の大矢さんがとても世話好きでいろいろ世話をなまけてこられたということですが、地域社会を向上させていくには、本当にあなたのように一所懸命駆け廻って人に率仕なさる方が大事で、そういう方がいなければ地域社会は向上しないと思います。私もこの六年間婦人団体に入って夢中でやってきましたが、中心になる人は、地域社会の純粋な熱意と盡仕の心をもった人たちです。大矢さんがそう

かということがこれでもおわかりだと思います。戦後たくさん大学の先生ができていながら、教授の生活は非常に苦しい、それでいながら一方お子さまを大学などに通わしている側では費用がかかってたまらんとする。こう考えてくると、現在の国家予算に対し、お母さんたちの立場として、教育費の問題をこのまま放っておいていいだろうか、このことを深く感じとったわけですね。

それから福田さんが五坪の家を設計なさって御結婚の費用で賄ったということです。長野の方は宴会費で悩まれているのに、お若い方は、形式にとられない結婚に飛び込んだ点にも何か羨望を私は感じました。いままでの因習は年とつた者には破れませんが、若い方は実行していきま

す。

その他貯蓄のことですが、皆さん大抵なさっているように思うのですが、貯蓄するにしてもその前提として物価が安定して貨幣価値が下らないようにしなければ困ります。一万円をいま貯蓄して十年経てばそれが元利一万五千円になるものならいいのですが、逆に一万円の価値が年と共に下るようでは、貯蓄する意味がありません。従って何よりも物価を安定させなければならないことを認識する必要があります。

それから、病氣をすると家庭の経済が崩れていくという

してお世話されてきたその地域社会はきつと以前より向上していると思います。そのことが人格に反映し、地域社会の人はお子さん方にとってどれだけの遺産になるかわかりません。このことは塚本さんも同感だと思います。学者の仕事は目にみえて報いられることはありません。貧乏に甘んじて学問の研究に励むのも同じことだと思ひます。考えようによっては主婦もそれと同じだと思ひます。家庭内の主婦の労働の価値が、現在の社会の中で正當に見積られているかどうか大問題だと思います。男の人たちにもっと認めてほしいということは同感です。それをどんなふうに評価するか、どんな形で現わしていくかを討議して欲しいと思います。

同会 いまお二人のアダマイザーの方からそれぞれお気付きの点をおっしゃっていただきましたが、これからいよいよテーマを分けて討議に入っていきたいと思ひます。先程私が四つくらいに分類されるのじゃないかと申しましたがそれくらいで宜しいでしょうか……

西 さっき皆さんが家計を握っているという方がいましたが、世間にはまだ多いのじゃないでしょうか。

船田 あなたの場合は家計の計画をたてるのはどちらですか。

鈴木 母が理解があるので二人でやっています。しかし

実際は母です。私は意見をいうだけです。

池田 最近有名な方の離婚騒ぎが出ていますが、巷にはあ
あいうのは多いと思います。大抵男性の方が他に女性を作
って離婚なさる場合が多いのじゃないかと思えます。こう
いう点からいって、もっと主婦の経済活動が評価されれば
防げる道があるのじゃないか、皆さんの御意見を伺いたい
と思います。

石川県で今度町会議員の選挙のとき、涙をもった人には
絶対投票しないようにしようという婦人会で申合わせまし
た。

西 妻と夫の収入の直結ですね。鈴木さんのように姑さ
んが家計を握っているところもあるし、いま池田さんのい
われたような前時代的な姿が日本にはまだ沢山あるという
ことも問題にした方がいいですね。

司会 池田さんのいわれたようなことは、新しく一つの
テーマを起す問題でなく、当然家事作業を中心とした主婦
の経済活動の評価の問題に含めて討議できるのじゃないで
しょうか。他にもっとこういう事をという問題があまりで
したらどうぞ……。

大矢 主婦と家庭婦人の概念が、いま姑さんの話が出た
のでわからなくなったのですが……。

司会 今日出席している方の中にはっきり主婦といえな

海保 私共専業主婦生活者ですと、源泉徴収は月給から差し引
かれてしまふ。特にボーナスなんか大きくとられてしまひ
ます。いつも御近所の方と、そういうものがとられなかつ
たら、子供のものが買えるのにねと話すんですが、それに
は政治ということが大きな問題になってくると思ひます。
政治を預っている人が、汚職とか、いろいろ悪いことをし
ているようですが、そういうことと税金の問題は切離せ
ないと思ひますが、そういう問題は四つのテーマのどこ
に入るのでしょうか。

司会 経済問題は当然政治に関連してゐるから、主婦も
もって政治に関心をもち、家庭経済がうまくいくように
する活動が必要だということをおっしゃりたいのでしょうか
が、それは共同活動のところを論じられると思ひます。

他にないかないでしょうか。それでは明日は午前だけし
か討議の時間が無いので、これから少し討議に入ってい
きたいと思ひます。

初めに問題になるのは、主婦の経済活動としてどうい
うことがあるかという点だと思ひますが、伊藤さんが所感文
にも書いていらしたし、分析表など作っていただけるよう
なのでおっしゃって下さい。

◎主婦の経済活動の内容

い方もいらっしゃるわけですね。

船田 大抵の家では主婦は奥さんが兼ねているが、お母
さんが主婦の場合も多いです。部会では両親との別居生
活が多いようですが、農村なんか一家のあるじは息子さん
で奥さんですが、家計はお母さんが握っている場合が
多いのです。私の田舎でも、婦人会なんか出てくる人は
お母さん方が多くて、嫁さんは家で留守番をしています。

これから討議する場合、ここにお集りの主婦の立場を論
じていくか、そういう方たちの立場を論じていくか、初め
に考えるべきじゃないかと思ひます。

司会 他の部会で農村の主婦や商家の主婦は、家族従業
者として討議していますから、農村の婦人の問題はそちら
へ譲って、この部会の話し合いの中心は専業主婦の奥さん
——はつきりした主婦の立場にいる方の問題になると思ひま
すが、鈴木さんのようにお母さんが家計を握っている方も
おありなので、場合によってはそういう方たちも含められて
るとお考え下さい。

船田 主婦の経済活動では、消費担当者としての立場を
一番考えなくちゃならないと思ひます。生産に従事してい
る主婦でも、同時に消費担当者でもあります。その意味か
ら、この部会は消費問題を論じる部会じゃないかと思ひた
のですが……。

伊藤 主婦の仕事の分析はアメリカの家政学の翻訳書か
らみつけてとてもいいと思つて興味深く思ひ、引用したの
です。

第一に家族のための共同の働き手として食物の選択・料
理・調理。被服の洗濯・製作・保存・手入れ。子供の身体
上の世話——風呂に入れるとか、調養するとか、定期的な
健康診断とか、排便等いろいろこまかいことがあります。
家及び造作の手入れ——活花とか、床の間の飾り、鶏や、
家庭菜園の世話などです。家族のための共同の働き手とい
うのは大変民主的でない方だと私は感心しています。これ
らのこともみんな家族と話し合つてやるという意味でしょ
う。

二番目に共同の管理人としての仕事、つまり管理人とし
て食物を腐らないようにするとか、一定のところに器物を
おいて機能的に働かせるとか、家族が活動し易いように
する。

家族関係——これは家の中の年齢の整とか、性別・学年
階・学力の差・体力の整等、家族の最大公約教を求めて調
和を保つていくようにする。私はこの家族関係のことを一
番痛感します。日本人はこれがうまくできていないのじゃ
ないかと思ひます。休日と娯楽、これは説明を要しないと
思ひます。家の運営、管理人としての仕事としてはこのほ

かに家族の健康と衛生のために計画する仕事があります。家の大掃除を年一回するとか、食事前に手を洗わせるなど、皆さん方は意識しないでも日々やられていることです。また家族の誕生日に友人を招ふとか、人に季節的に贈り物をするとか、いろいろ皆さんもやっていられることです。

教育——学校の教育ばかりでなく、お稽古ごとをするとか、各人の能力に応じたことを覚えさせる。

また雇人がいれば毎日の仕事を能率よく女中にやらせるための計画立案、地域社会との接点、婦人会とか、PTAとか、自分の家との連絡の役目をします。そのほか畑の種蒔きとか、管理人の仕事は沢山あります。

第三に家族のための共同購買場としての責任があります。これが一番経済活動にあたることで、食物は安くておいしい物を買入れる、被服も食物の場合と同じことです。家庭内の需要品、雑貨・消耗品・化粧品などの購入、住居備品等ありとあらゆるものがそうです。娯楽や教養費を出すにしてもそうです。

第四に子供を養育させるための教育者の役目をもつ、食物・被服についてはもちろん、よい習慣をつける、遊んだ後の片付けとか、食事前後のことなど、総て教育です。このようにいろいろな項目に分けてみますと沢山あるわけ

です。そうして主婦の毎日の仕事はこのどれかの組合わせになっていきます。このことを私自身認識して、男性側にもとでもしたいと思っています。経済活動に直接結びつくものもあるし、間接に結びつくものもありますが、こうして主婦が消費面を通して生産面に統一しているということを社会の通念にしていきたいと思うのです。

司会 只今伊藤さんから詳しく発表されましたが、その他にも皆さんが、主婦が非常に重要な役割をしていることについて語られたと思います。その点について何か……。

古谷 誰かが生活は低くても知識は高くといわれましたが、生活を低くということは、生活様式を簡単にすることだと思っています。いまの方のようなお話を、主婦の生き方が複雑で、分類が多過ぎます。私は頭が痛くて覚えられないくらいです。生活を簡単にきりつめて、知識を向上することに重点をおいていくようにその方法を考えたいと思います。

司会 生活を簡素化して主婦の仕事を少くすることです。ね。

古谷 そうです。

司会 いかがでしょうか、この問題についていろいろお気付きのことありませんか。伊藤さんは経済活動の面だけでなく、主婦の仕事全体についていわれたわけですね。

城 いまの分析を何うまでもなく、主婦の仕事の内容がいかに複雑であるか、またその責任の重さも認識してはいますが、過去の良妻賢母たらんとした女性には長年に亘ってそれらの項目の仕事をやり尽してきたのだと思う。現在の婦人が、果してこれだけの仕事を一所懸命やってきただけで正当な地位を獲得したかという、決してそうじゃありません。私たちは折角全国からこうして集ってきたのに、ただ家庭内のことだけをついても問題は解決しません。アドヴァイザーの方も先程いわれましたが、生活の改善、合理化と、主婦がもっと実力を実質的に身につけていくことが、今後の女性の地位を向上させるもので、これを再検討しなければいけないという気持ちで私はここにきたんです。いまのように家庭内ででんでんばらばらに悩んでいてもなんにもなりませんから、自分たちの台所が社会に直結しているのだということを自覚して、日本のような社会保障制度のまずしいところでは、主婦がもっと新しい環境を作るようにしていかなければいけないのだという気持ちをもって、討議をしていきたいと思えます。私は今更こういう家事分析に置きをおきたくありません。

海保 賛成です。

司会 いまままでの主婦は莫大な仕事をしてきて、それだけの面でも有能であることを要求されてきたし、努力もして

きたが、そういう個人の努力によって解決するようなことは限度があるからもっと違った面で、よい環境を作るとかそういうところに努力を向けなければならぬ、これからの主婦にはもっと速たいき方があるということですね。北海道の古谷さんのいわれたことも共通しているのじゃないかと思いますが、その点どうぞ……。

伊藤 私が申上げた分析項目はこれからやっていくというのではなくて、私共が意識するしないに拘らず、いままで私たち主婦はやってきたのであって、ただそれを再認識して社会性をもたせていくということですから、これだけ沢山分析したからといって困難を感じることはないのです。

城 なぜ分析しなければならぬのですか。こういうことは各自が相当自覚をもってやられていることだと思えます。全体の女性はそれほど無自覚なのではないでしょうか。

和田 一般に知識の高い婦人たちの間ではそういうことが分析され、これからこうあらねばならないということを再認識していると思います。けれど一般に収入が少なく、家事に一日中追い廻されている人たちの間では、毎日忙しい忙しいうことは家外ないのじゃないか、そういう人たちが自覚をもつためにもこれだけの仕事を婦人たちがやっている

のだというのを再認識して、今後あるべき方向をそこから見出していくのがいいのじゃないかと思ひます。

城 わかりました。今後あるべき方向を探るための再認識ですね。

司会 主婦の経済活動にはどういふものがあるかということを知る前提として分析したものを発表していただいたわけです。問題になると思うのは、主婦も収入を伴う経済活動を、今後やっていきたいという方もおありだという点ですが、船田さんも強調してられるように主婦は、消費経済の担当者としての活動や、財産管理とか、いろいろな経済活動をしていることをここで皆さんと再認識していきたい、というのは沢山集った所感文を拝見すると、経済活動を経済的な独立というふうに受取っている方が大分あったのです。それで第四部会に応募していらっしゃるにも拘らず、家庭内の経済活動を論じているのでなく、主婦も経済的独立が必要だという点だけ論じていられる方があったのですが、世間にもまだ収入を得ている活動だけが経済活動だと考えられている面があるのじゃないか、しかしこの部会で論じる経済活動は、生産活動だけでなく、消費的な家庭経済の運営などについても論じるのだということ、家事のみ行う婦人のためにこの第四部会があるのだという点をお互いにはつきり認識して問題を進めていくようにしたい

いのです。その点いかがでしょう。

池田 伊藤さんの分類は主に肉体的労働についていわれましたが、私は精神的な方面から、主婦の心のもち方を建設的にすれば、夫の収入も増えるし、その逆であれば減るということをお願いしたいのです。収入が少なく、生活が苦しいれば苦しいほど、また子供の教が多ければ多いほど女はつい愚痴が出易くなります。

一例を申しますと、夫はもう少し残業して帰りたいと思ひますが、あまり遅くなると妻にまたパチンコか、麻雀でもしてきたんでしようといわれるから、それがいやさに残業もしないで早く帰ってくる、そうなれば残業手当はもちろん入らないし、目に見えて経済が減っていくのがわかるわけです。女性はあまり不平などいわないようになければならないのではないのでしょうか。

高橋 いまの話と別ですが、過去二十余年、私は万端勝手にするために一日中家の中を這い廻っていました。そのために落着いて新聞を読む暇もなかった。これから逃れるために私は時間が欲しかった。そのためにはできるだけ家事の手を省こうと努力しました。幸い子供も大きいから掃除などを分担させたりして時間を生み出す努力をしました。幸いいま公告にいますのでガス・水道がついています。なんとかして洗濯の労働を省くため、電気洗濯機が欲

しいと思ひました。こういうものを買える身分じゃないが、ただ時間が欲しかったんです。家事からできるだけ述べて時間を生むために、電気洗濯機を買いました。いままでは朝の十一時頃になってやっと台所が片付き、山と積まれた洗濯にこれからかかるというときに、来客など次々とくると、ますますたまり、また次の日かその夜しななければならぬという事が多かったのです。全くわが身ながら血みどろの努力でした。買物もその間にしななければならぬし、本を讀むどころではなかったのです。最近はずいぶん掃除を一度しなくても、決して子供は聴いていないし、子供がボールバクを讀めば私も讀むし、チャタレーを讀めば、私も讀むといった台合で、少しでも自分の時間を作るようにしています。たまによそのお宅を訪問し廊下が光っていたりすると、自分も慌てて磨いたりします。二三日するともう忘れてしまつて手を抜く、もちろん子供を汚くさせることはいやですから、そういう点はちゃんとやっておりますが、こういうやり方をしていいます。

司会 家事の手を省いて、その時間を他のことに利用するということ、伊藤さんも御同感だったわけですね。

その前に池田さんが問題をお出しになった点、主婦の心のもち方で夫の収入が増えるという点について御意見があるのじゃないでしょうか。

大矢 いい意味で残業して生活意力を発揮するのはいいが、主婦がいろいろいうと却って焦って袖の下をもちうような危険性もあるから、そこは主婦は黙っていて夫の働いてきたのをもらっていた方が失敗がなくていいと思ひます。庄司 私の夫も収入は多くないけれど、残業してまで沢山の収入をもつてきて欲しいとは思ひません。男の人も三十過ぎれば身体のこと案じられるので、われわれ貧乏人は何よりも身体が資本だと思ひます。

高橋 この問題は個人個人で話合つて、夫婦で解決すること、共通性はないと思ひます。

船田 私は池田さんは単に一例を挙げられたので、そのことだけをおっしゃったんじゃないと思ひます。

伊藤 家庭内を主婦が朗かに運営して、家族の憩いの場所にして、明日の生産意欲を高めるといふことなら異議ないと思ひます。

池田 いい方がまずかったです。

熊崎 先程も申しましたが、私の居住地は田舎の小部会です。水道もない有様で、電気洗濯機など思ひも及ばないこととすし、むろんガスなんかありません。そのため家事も皆さん方に頼れば大変原始的なやり方です。しかし私共は何れ親類に帰るといふことがあるので、いまのわが家の生活改善に費用をかけるといっても、まずそのことを念

頭におかなければならないわけです。従って生活を便利にするなどとは思いません。文化生活とはおよそ縁の遠いことだと思っています。まことに恥かしい生活をしていきます。

司会 地方の辺鄙なところにいる方は文化生活などは理解しにくいことだ、そういふ中において時間を生み出すのは大きな問題だといわれましたが、この問題は次の家事作業の評論に関連してくると思うので、いまの問題を含めて明日討論していただきたいと思ひます。いまのテーマはここで結論を出すのではなくて、改めて考えてみて、いかに主婦が沢山の仕事をしているか——そのなかには経済活動に該当するものが相当にあるということを確認し合つたところで、今日は時間がきたので終りたいと思ひます。

(第一日 閉会)

司会 はじめに、昨日皆さんとお話合いましたことについて、繰返して、それから次の討議に入りたいと思ひます。と申しますのは皆さん方が仰言つたことを、どういふように纏めて行つたらいいかということをやりたいと、重点をどこにおいていいかがハッキリ致しませんので、皆さん方の御発言を分類してみたいわけですが、非常に急いで纏めましたので、御自分の発言がどのテーマの中に入

川の池田さん、東京の福田さん、栃木の和田さんあたりは、非常に主婦の家事作業を高く評価しているし、したいという御意見の側の方でありました。それに対して千葉の海保さんと新潟の庄司さん、山口の城さん、福岡の塚本さんなどは、勿論主婦の仕事を充分評価しているけれども、家事作業だけに止まっているのでは物足りない、といふますか、婦人の地位の問題等とからんで、もっと積極的に収入を得るような生産活動や、或は社会に奉仕するような仕事を必要があると思ふ、という御意見の方のようでした。その次の生活技術の面で、衣食住とか家計とか生活時間などの問題については、昨日の御発言や所感文などの御意見によりますと、主にこのことを取上げていらつしやったのは北海道の古谷さん、茨城の高瀬さん、長野の高橋さん、岐阜の熊崎さん、——山口の城さんも触れておられました。——「こういふ方が主に御意見を出していらつしたように思ひます。最後に協同活動のことは、やはり皆さんが必要だといふことはいらつしやるわけですが、特に岩手の鈴木さんは共同購入のことを取上げていらつしたし、大阪の大矢さんは主婦の才能を生かす場をみつめて、そういう組織を持つといふことで、協同活動の事に深く触れておられました。福岡の塚本さんも「友の会」にお入りになつていらつしやることから考えていらつしやるし、千葉の海

保さんの御意見も、政治との結びつきという点で協同活動の中に含まれていると思ひますが、そういふふうに大体皆さん方の御発言になったことは全部、中に含まれていると思ひます。それで勿論昨日御発言にならなかった他のことについても、今日の討議で話し合つていただき、連つた問題が発生して行けば、そちらに発展させて行くのも結構だと思ひますが、大体以上のようなことが皆さん方の御意見に基いていえると思ひますので、そういう順序に従つて一応討論を進めて行きたいと思ひます。それから一寸お伝えしておきますが、昨日の傍聴者の方から部会で発言できないだろふかという御質問がございましたが、一応この会議は会議員の方で討議していただくことになっておりますので、部外の方から御発言はできない立前になっておりますが、総会の時には質問ができます。大変御熱心な方で、特に私共の課長の所にお言伝がありました。それは、家庭生活が破壊に陥つた場合、如何にすべきか、が論ぜられていないと思ふといふことです。皆さんにお伝えしますが、このことは、あとで生活技術の問題、家計についての計画化の問題が論ぜられますので、昨日までは出ていなかったとしても、これから御意見が出るのではないと思ひます。そういうことは当然皆さん方も考えになっていらつしやるだろふし、討議の中にも入つて来るだろふと思ひます。

れてはいるのが、おわかりになりにくかつたのではないかと懸念されるからでございます。昨日はまず前提となるもの、家事作業とはどういふことか、私達主婦の経済活動としてはどういふものがあるかといふことを、始めに分析してみたい上、家事作業がどういふふうに評価されているかといふことを話し合つて、衣食住などを——家計とか時間の問題もあります——どの程度に計画化することができ、だろふかという点、いわば生活技術の面を検討して行つて、最後に協同活動といふような、家庭の中だけで私共が解決できない問題を解決するための協同活動としてはどのようなものがあるか、どういふふうに行つたらいいかといふことをお話ししようといふことをいいたわけでした。そうして昨日は埼玉の伊藤さんから、主婦の仕事の分析を要請していただいたのですけれども、伊藤さんは経済活動に限らず、主婦の仕事全体の分析をなすつて、経済活動はこの部分が当るのではないかといふことをおっしゃつたわけですが、今日はそのような活動をしている主婦の仕事——家事作業はどういふふうにかに評価されているだろふかといふこと、主婦自身、及び夫や子供や家族がどういふ評価をしているか、社会的にどう評価されているだろふかといふお話をしたいと思ひますが、特にこのテーマの中に色々問題を投げかけていらつしやる方の中で、石

それではこれから「家事作業の評価」について討議を進めます。主婦の経済活動にはどういうものがあるかということから、それをどう評価したらいいかということになって来ると思いますが、石川の池田さんから口火を切っていただきますようか。

池田 ……

◎家事作業の評価について

司会 少し細かく分けまして主婦自身が家事作業をどのように評価しているかということについてお話を進めて行きたいと思えます。栃木の和田さん如何でしょうか。和田さんは共稼ぎに矛盾を感じて家庭の中での主婦としての経済活動に今は没頭している、というようなお話だったと思いますが。

和田 一年間共稼ぎをやったので、私は小学校の教員でして、この方の仕事は幾らやっても切りがないという状態だったのですから、学校の仕事を満足行くだけ一所懸命やる、帰って家の仕事も主人に迷惑かからないように、家の中が明るくなるようにやろうと思えますと、体が幾つあっても足りない位忙がしくなってしまうので、これでは仕方がないという気持ちから主婦というものは家の中の仕事を一所懸命やって、それで余分があったら、というとおかし

いのですが、余分の方を他の方面に生かして行くというのが本当の役割だろうと思ったものですから、やむなく共稼ぎを解消したわけです。家の仕事のみを現在やっているのですが、生産的の面というのは、家の中にばかりいれなくなるというのが第一の要だったのですけれども、色々のものを消費して行く中にも、充分生産的意義が認められると思うのです。たとえば私今まで勤めておりました時には、食物などにしましても、副食物は加工品を買って参りました。それによって幾らか手間をばくことを考えました。けれども現在ではなるべく加工品は買わずに、私の手を通して、できるだけ少ない支出、お金のかからないもので栄養のあるものを調理しています。衣服類の洗濯とかお裁縫の方も、今までは手間がとてなかつたものですから、他でやってもらっておりましたけれども、今では主人の背広とかオーバーといったもの以外は大概私がやっています。そういった点で生産的意義が認められていいと思います。けれども怒を申しますと、それをやって更に私ももっと社会的な面で働きたいという気持は充分もっております。

三島 主婦の家事作業ということば、ちょっとみますと大変はえない仕事ですけれども、私は社会的な仕事をすることに劣らない意義があると思うのです。そう申しますの

は、能力があれば、それは勿論社会的に活動するのは結構ですけれども、總ての主婦が外に職を求め、暇は内職をするというふうな、外に眼を向けしまったら、家庭の中はどうなってしまうかということを考えるのです。子供の年齢とか、子供の健康ということも考えて、家庭の中を第一にするという気持ちでやりたいと思えます。事情が許す限り、子供が成長した後、あるいは子供のいない家庭の方は進んで社会的な仕事をなさるのも結構ですけれども、もし主婦が外にのめ眼を奪われてしまったら、自分の家庭が、さくばくとしたところになるのではないかと。そういう危険が多分にあるのではないかと、ということを覚えておいてください。

城 第三、部会の農家の主婦として出席していらっしゃる方のお話を伺って大変感心致しましたので、そのことで只今の問題をもう一ぺん検討してみたいのです。農家の方は重労働をして農業の総ての仕事、男の方と同分置、しかも家庭に帰っては家庭の労働を一人前していらっしゃるのです。二人分の仕事をしていらっしゃるのに、現在までの農村一般の観念は、主婦の家事労働を正当に評価していないのです。それに対して主婦もそのことに外部の協力を求めることのできないような環境におかれているわけです。こうした場合に、どういうふうな打開して行きたいのかと考えますと、二つの方法があると思えます。妻の家事勞

働は大変価値を有している、しかも大変な分量になるから認めてくれと持って行く方法と、もう一つはこういふふうではやって行けないから、できるだけ家事労働を短縮して、その負担からできるだけ遠ざかってしまおう、簡素化してしまおう自分を救い出すという方法です。私考えますのに、やはり妻が家事労働に重点をおきますと、女が女自身、自分の仕事の負担を重くして、あがきがとれなくなると思えます。私自身は家事が妻の人格の反映である以上、家風を形成する上に大きな責任になると思っておりますが、そういうことに総てを捧げるといふことは、狭い家庭内だけで問題を片づけようという傾向におおわり易いと考えます。今までそういう弱点多かったと思っておりますので、今後の主婦の行き方は、むしろ家事労働というものを重く評価することにより、簡素化して、妻はむしろ家事労働を軽視することによって、社会に直結する必要があると思えます。社会に飛出しては家庭生活がさくばくとしたものになるという御意見は極論だと思えます。妻が家事労働を簡素化しても、それによって得た余暇やエネルギーをむだに消費しないようにして、その余力をもっと自分自身を鍛えるような個人的な教養の面に使うと同時に、社会環境をよくして行く為に使えの方がいいのではないかと。そうすると自分一人の問題を解決するだけでなく、社会全体の同じ悩みにぶつかっている

る女性全体を引上げることになると思うのです。私達主婦だけの立場でものを考えているという点を反省したのです。が、今の日本で女性が地位を獲得するには、農村の女性を引上げて行かなければ、都会の女性も持たない、そういうことをもう少し考えてみたいと思います。

大矢 家庭というものの、それから主婦と仕事を考えてみるのですが、家庭の主婦はすっかり家の中に入りこんでいて、政治とも関係ない、というように考えられているようですが、私はこういうふうと考えているのです。子供は学校の問題を持って来る、主人は政治の問題を持って来る、また家庭経済の問題に直接ぶつかるといふように、色々の問題が家庭という網を通じて主婦のところへ、集ってくる。総て政治のエキスを家庭に集めて、政治の最後の到達点は家庭だと思ふのです。私はエキスを両肩に、全身に受けて、毎日毎日その問題の処理がつかないままに過ぎていくから、苦しみとか心配とか、大変だといふ問題にきりがなく苦しまれています。ですから決して政治とも、経済とも離れているといふことはあり得ないので、むしろ主人よりも、子供よりも、実際には政治に強く関係をもっていると思います。その上に家事労働をしているのですから、その労働を、家庭の民主化によって皆で分担してもらいたいことが第一だと思ふます。家族会議をするとか、色々あ

るでしようが、とにかく家庭の三十七種目の仕事の分担を皆でわけてもらふということが第一で、自分が大変だ大変だと苦しむことは要らないと思うのです。私はだから結論として、家事労働は自分としては低く評価して無意識のうちにやってしまふけれども、社会的意義においては高く評価してもらわなければいけないということを力説したいと思うのです。

伊藤 城さんの御意見、受取り方が違っているかもしれませんが、家事労働を重く評価しない為、家事労働を簡素化して行きたいというように伺ったのですけれども、評価すること、簡素化すること、これは、違ったもので、評価はどこまでも評価して、評価した上で簡素化して行くというように考えるのです。私は感謝文を書きます時に、家政とは何だろうと、百科辞典をひいてみたのですけれども、家政とは國政に対して用いられることと出ておりまして、人間生活の諸方面の知識を家庭生活の實際に活用すること、家庭は家庭でなく、衣食が直ちに生活ではない。これを使用しなければ家庭の生活とはならない。家政の目的は總ての個人ができる限の國家社會生活を人類の向上の為に役立たせる云々とありました。これから引いて書出したのですけれども、家庭が単に食べる所、それから寝る場所、帽子をかける場所であるなら、単に家政婦の仕事になって

しまうのでありまして、そういうふうには評価しないで、あくまで人類の文化に役立っている國政に、毎日の手足の動かし方がつながっているといふことを、主婦自身が自覚して行ったら、どんなに家庭にとどこもっていても、家庭は社會の縮図で皆が政治の問題も持込みます、經濟の問題も持込みますから、私は家事労働を分析した上で正しく評価して、いい意味の誇りをもって、自分自身としてはそういう作業をしているといふことを、恩にきせるといふのではなく、高く評価して、社會全般や、特に男性の方には、どこまでもこんなものであるといふことを、認めていただいで、そうして簡素化するものは簡素化して行きたいと思うのです。能率的な家事作業もそこから生れて来るのじゃないかと思ひます。

塚本 勿論私も家事はとても大切に思ひますし、高く評価してもらいたいと思ひます。そうしてまた家族を通して、政治にも、社會にもつながっていることは勿論だと思ひます。けれども子供でも大きくなつたら、あるいは子供のいない人は、社會のことをするのとおしやいかもしれませんが、子供が大きくなつた時とか、子供がいないといふことを決めてしまふのは、私共の年にならなければいけないので、今子供をお持ちにならない方が、これから何人お持ちになるか判りませんし、そういうことになってから何かし

ようと思つてもなかなかできないのが現状だと思ひます。社會とつながるといふのは、収入を得るといふのが直接の目的でなく、或る時は収入がなくていいと思ふのです。家族を通してのことでも大切でなければ、一人の人間として、主婦も自分で直接ぶつかると、一つの小さなことでも、自分で受取るのと、子供や夫を通してきくのとでは感想も違ふと思ひます。旅行をするにしても一人で歩きますと旅費のこととも考えなければいけないわけね。ところが切符を夫が買ってくれば、汽車賃も凡そは知っていても、確かに夫は知らないでも済むようなつながりになると思ふのです。子供が多かつたりすれば、一週間に一時間か二時間位しか自分の時間は使えないかも知れませんが、一生を通じて自分の人間としての生活といふものです、仕事をもちたいと願つた方がよいような気がしているのです。

海保 私女性には、女としてではなく、人間としてもっとも認められなくちゃいけないと思ふのです。それで何時か「朝の茶の間」ですか、その時間に小堀香取さんが、夫のハンカチが汚れているのは、妻の恥だといふ意見に対して、小堀さん自身はそんなことは絶対ないと思ふ。ハンカチ位は男でも洗ふことだし、汚れていること自体の責任を妻が持つといふことは、私には納得が行かないといわれたのをきいて、私も本当に同感だと思ふのです。私は教

師をして子供達を教えておりまして、その中に生田斐を感
じておりました。そうして病氣のために家庭に入って、よ
んどころなく家事だけをしておりますが、何時でも主人に
お前の料理は賞めようと思っても上手とはいえないといわ
れるのです。私はその時に情けなくなつて、私はどうして
こんなかしら、もっと上手なお料理も作りたい、家庭的な
婦人になりたいと思うのですが、個性にあつたといひます
か、教師として子供達と一緒に伸びて行くということが私
に一番合うのじゃないかと思つてゐるのです。私はやはり
社会の共同体の一分子としてあるからには、社会のために
尽くすことが、人間としてこの世にある一番の任務、責任じ
やないかと思うのです。そうしますと、ただ家庭にあつて
自分に適さない仕事をしてゐるより、もっとも自分
の力を生かす場所を得たいといううな氣持があるのですけ
れども、女は家庭にあつて、夫をたすけ、子女の教育を金
うすることが一番の任務だといふことを、小学校の時、修
身で教つたのです。それにちつとも矛盾を感じてゐなかつ
たのですが、今になると何で馬鹿なことを信じて、修身
の講義をそのまま解したのかしらと随分なさけなくなつた
のです。もっとも自分と自分を人間として、社会人として生
かして行きたいと思つてゐるのですけれども、私の考え
が間違つてゐましたら教えていただきたいと思つておりま

泳が丈夫になつたら社会的に働くことはいいと思ひま
す。二途に迷ふことはお疲れになることで、家庭経済の不
経済だと思ふのです。今申上げたような意味で、自分では
さらさらとやつてしまふという意味で低く評価するとい
ふことも、それ以上経つても、病氣しますと奥家に帰つて療
養することが多いのです。私共の方では、医療費万端、医
者へのお礼のようなもので奥家が負担してゐるのです。
婚家では何もしないで、ついでに孫までお嫁さんのお母さ
んが引取つて世話してゐます。退院して、お蔭様で、と御
挨拶にみえるのが、奥家のお母さんかお父さん、兄弟たち
で、たまに御主人がいらっしゃると、ほのぼのとした氣持
になつて、お宅の奥様お幸せでございましょう、と思つて
ゐます。女性自身がいけないのじゃないかしら。婚家で家事
労働に一所懸命従事していれば、病氣した時位やさしい言
葉もいただし、医療費も出してゐたいて、家事労働に對
して報酬を受けるべきではないか。自分が卑下して評価し

たから奥家に帰るのではないか。もう一つ結婚したらか
つぽう一つ買つていただけだ。奥家で買つてもらう。婚
家でしてゐる仕事に誇りをもつてゐれば、割烹煮が破れま
したから買つて下さい位、たとえお姑さんの経済でもい
ふのじゃないかしら。自分自身の家事労働を高く評価しな
いから、はたの者も評価してくれないのじゃないかと思
ひます。

大矢 大阪の大矢さんが、自分自身には家事労働を低く評
価して、社会からは高く評価してもらいたい、とおっしゃ
いましたが、自分が二、三持つてゐる例でみますと、自分
自身で家事労働を低く評価することが災ひして、社会から
も低く評価されてゐることがあるのですけれども、大矢さ
んはどういう意味の評価をおつじやつたのでしようか。

大矢 今海保さんのおつじやつたことと連絡するので
す。若い二十代に家事労働に熟練するということは非常に
大事なことで思ひます。私はやはり若い時代は海保さん
みたいに思つて暮らしたのです。社会的に働いて、お台
所は技術のある方に任せて、というように考へたのですが、
子供が殖えたり、主人が会社の方に主力を注ぐようになつ
て、家庭に入らなければならなくなると、家のことをしな
ければならなくなります。その時に、技術が難詰なのです。
ですから年をとつてから習熟することは苦しくて努力しま
した。お茶碗洗ふことも、意識してお茶碗洗ふのだと思
つてしなければならぬ。若い時していればさつと洗つて
済んで知らん顔してゐられる。年とつてからは、お茶碗洗
ふのだぞという意識が心の中であつたのです。それですか
ら海保さんは、今その時期に家政に習熟なさることに専念
して、本を讀んだり、ラジオきいたりして勉強なさつて、

糖嶋 直接今のお話に関係しますが、私も昨日の意見の
時に申上げた通り療養生活致しました。奥家に帰つて養生
しましたけれども、それは致し方ない理由なのです。養病
しました時は婚家の方で休んで、子供が満一年ですが、チ
ョコチョコするのを姑にみてもらつて、家事一切任せて、
奥家の母が時々見舞つてくれる位でございました。湿性肋
膜炎でしたが、主人が出かける、子供がチョコチョコする、
うんと離れた室でもあればそれでもありませんが、子供の
チャアチャアいうのはきこえますし、主人の出かけるのに、
姑がお弁当詰めてゐるのも判りますので、耐えられなくて
里の家に帰つたのです。土曜から日曜に主人が来てくれる
のです。ですから海保さんのおつじやつたことに關連が
あるのですが、私も以前は教職にありまして、子供が一人
で、大部大きくなりましたから勤めに出たいという氣はあ
るのですけれども、闘病生活して殆ど一年間、絶対安静は

三カ月ですけれども、半安静からだんだん段階が上って健康体になるまでに、色々の家事に整ええるのです。そういうことが本当に辛い。自分が思うままに主人の世話もしたい、子供とも遊びたい、ということが制限される。今は手足を伸ばして家事に専念できるのは本当にうれしいのです。両親と同居生活していて、自分の時間を自由に使って、何も妨げなく、勤めに当たりたいのに、勿体ない、という声も自分でもありますし、よそからもきくまうすけれども、同居して両親の下に帰れば、姑が子供一人ですから留守居もしてくるし、思うような勤めがあればできるのですけれども、今まだ／＼勤めに出たいと思わないのです。家事を一所懸命やるところに生甲斐があるのですから。

海保 大矢さんのお話、今の方の御話、池田さんのお話うかゞって、みんなよく判りました。けれども現在の社会のシステムの中において、ということに前提があると思うのです。その中でしたらそうすることが最上のいいことなのですが、そうした前提を、もつと私はくつがえしてしまいたいような気がするのです。そうしてもっとも、自分の個性を伸ばすこと、それが社会を発達させて行くために、一番いいことじゃないかと考えているのですけれども、庄司 先程のお話、それからさつきの和田さんのお勤めをお辞めになった理由が、贈業も全く自分で満足できる程

の時は詰らなかつた、と申しているのです。主人が転勤になりましたのは、十月で、私が勤めを辞めましたのが三月ですが、その間五カ月別居生活しておりました。責任をもった自分の学級の子供たちが学年を終るまでと思いましたが、別居という形をとったのですが、その間どんなに主人が不満であつたらうと考えました時に、家庭の主婦というものは、主人を赤ちゃんのように扱うというのでなく、家を守って行くのが一番の勤めじゃないかと思うのです。そういう点で、赤ちゃん扱いするのではなく、自分の勤めとして、家を守っていく、家の中を上手にして行くのも限度がありますが、一応の満足をそこに得て、それからあとの方で社会的な働きを持つという方がいいのじゃないかという気持ちですけれども……。

福田 私一週間位出かけて仕事をもらったことがあるのです。非常な労働でした。主人も夕御飯を作ってくれたこともありましたし、非常に協力してくれたのでうにかして両立させたいと思って苦労しました。でも不可能であつたと思うのです。精神的にも二人ものびてしまふということを実験しました。それで私はどうしても家のことをしたいと思ひました。それによって夫が精神的にも疲れない、社会的に働くことができるようになる。そうすれば私が家のことをするということは、夫に對してだけでなく、

それから家庭の中のこと、夫の世話も満足できるだけやりたいけれども、両立できないから、そういう理由でお辞めになったとおっしゃいましたが、満足されるという満足の限界がどこら辺にあるかということが問題だと思ひます。家庭の中のことをすっかり満足させるということは、私なんかから考えると、非常に僥倖が多すぎて限りが無いように思ふのです。それをどの辺で打切るかということが問題じゃないかと思ひます。共稼ぎの時に、夫の世話を充分満足できるだけ、といひますけれども、夫というのは勿論赤ちゃんじゃないんですから、男の人も自分のことを一人前の男の人としてできるのですから、夫自身が、妻が自分と同じように社会に出て働くということを認めてほしいと思ふのです。それで夫も妻も外に出て色々な経験を心得て来て、家庭に帰ってまた話合つて、——先程のお話のように、夫が得て来た、子供が得て来た、そういうものを妻が消化するのでなく——各自が得て来たものをお互いに話し合つて消化して行くという状態を望んでおります。

和田 私共の場合は本当に主人はよく協力してくれたいと思つて感謝しています。それと申しますのは、大い主人の方が早く帰って来たのでございます。そういった場合、できるだけ主人はよくやってくれたのですけれども、精神的な面で、その時は申しませんでした、今になって、あ

私も社会的な働きをすることになると思ふのです。でそういうように共稼ぎを両立させようと思ふれば、女中さんを雇うとか、お母さんが家事をみてくれるとか、他の労働者が家庭に入らなければできません。誰かがしなければならぬ家事労働が何時も社会から離れたつまらないものであるというように思われているなら、それは嫌だと思ひます。主婦は女中さんではない。主婦に代つて女中さんが働くにしても、社会的な労働として家事をするのだと思ひます。ですからそういう意味でどうしても、何時までたつても、家事をするということはこの世の中から消えないと思ひます。

塚本 家庭の年齢とか主婦の年齢があつて、福田さんのような若い方は、とても家庭に魅力もありになると思ひし、そういう時代もあつていいと思ふのですが、社会に出たら家事のことはできないし、家事をすれば社会に出かけられないように聞きました。海保さんでしたか、自分はお料理がますます家事に向かないと思ふとおっしゃつたので、氣になったのですが、家事に向かない主婦は一人もないのじゃないでしょうか。家庭と職業を必ず両立させたいという気持ちですが、一人前のくたびれはてるほどの職を持つというのではなく、仕事の形や種類も考えてみたいと思ひます。海保さんは出たい出たいと思つてお料理していらつしやる

ので、うまくできないのではないかと思います。なさりたいお気持はよくわかりますが、家族の者に本当によい食事をさせるということは大事で、もちろん自分の家の食事だけよくするのでなく、廻り中、考えれば日本の食生活は農林省で発表したものをもても、カロリーも蛋白も足りない人があふれていますから、全体の改善を考える事が必要ですが、まず、本当においしい食事を作るのにどうしたらいいかという勉強を、毎日毎日のお食事が試験のつもりでなさって、向かないというふうにお決めにならない方がいいと思うのです。

海保 それはよくわかります。私も一所懸命おいしいものを作るよう勉強しているのです。三岸さんや平林さんなど、大衆立派に社会的にお仕事なさる方が離婚なさったという事、それにはやはり男の方々の女性観が問題だと思ふのです。菅野さんにしても、味噌汁が飲みたいといわれた。平林さんも徹夜で文章書いて、お化粧もしないでバサバサの髪のままいたこと等も、女らしさがなくて、そんなことになったのじゃないかと迷惘していらっしゃるのを本で読んだのですが、その時に思ったのです。やはり女はそうなくちゃいけないのかしらんと考えたのですが、福田さんのおっしゃることよくわかったのですが、そういう問題についての今の日本の考え方ですね、そうしたことに

それは自由だと思ひます。夫が間違つた意見をもつていたら、私達は堂々と反駁するのです。私は「人形の家」のノラのように家出しませんけれども、一個の人間として夫に対立することはできます。それだけの自信はあると思ひます。

高橋 家事作業と社会に出るというのは、矛盾しないと思ひます。保育園の母の会の会長さんから頼まれてお手伝いに参りました。時間はマイナスになります。報酬はありません。けれども他の家庭の子供さんも来ますし、そんなことで社会に直結して、私も保母さんに保育について新しい勉強もさせていただきます。ですから社会に出るということと矛盾しないと思ひます。家庭はよりよくなりますし、お母さんが賢くなれば子供の教育もできます。それで報酬があれば宜しいと思ひますけれども、それで手取りで報酬も入って来るような気がしません。私はお料理なんか下手ですけども、お母さんはなか／＼話せるぞと長男はいつておられます。僕はほろを漬けているけれども、お母さんが本を飛山買つてくれるからいいとか、別な意味で子供は理解してくれそうですし、主婦がかしこくさえあればいいのじゃないでしょうか。

古谷 社会制度の問題ではないかと思ひます。いくら考えても今の社会では両立しないのが普通ではないでしょう

ていいお智恵を拝借したいと思ひます。

城 私海保さんのお気持にとても賛成できるのです。先程大矢さんのお言葉を伺って、私が家事を簡素化することに急な余り、非常に輕蔑してやっているように受取られたのではないかと思ひますが、勿論そういう意味じゃないのですが、そういう危険性があるんじゃないかと思ひます。家庭は国家の縮図である。夫を通じて、子供を通じて、国家の政治に直結しているという考え方は本当のことだと思いますし、美しいと思ひますが、これを裏返したら、妻はいつも夫の意見を通し、子供の意見を通してしか、ものが考えられない。もしかりに夫が非常に曲つた考えを持っていた場合とか、長男が間違つた社会観をもつていた場合、そういう考えを基礎にして妻がものを考えたら、どういうことになるか、そういう場合、妻が夫を通じてとか、子供を通じてとかという言葉をかぶせたら、チェホフの「可愛い女」になつてしまふと思ひます。

高瀬 そうなつて来ると女の人の自主性とか物の考え方になつて来ると思ひます。

三島 城さんは夫を通して、子供を通してとおっしゃいますけれども、私共耳に入るものは、夫以外、子供以外にあると思ひます。ラジオとか、新聞とか、眼をあいていけば、町の色々のこともみることができ、私共は判断できます。

か。アメリカなんか、現在家庭と職業と両方働いて、子供も育て、十分とまで行かないでも、何とか恰好がついている状態だと思ひます。社会制度をもう少し、主婦が働きに出ても無支えな程度に改めて行くということから片付けて行かないと、両方満足したいと思ひても、結局無駄になるのじゃないでしょうか。

伊藤 そればかりではないと思ひます。地域的に、都会の方はできやすいと思ひます。私も結婚して暫く共稼ぎの経験をしましたけれども、東京のアパートで立派にできました。子供ができましたから子供を家庭でみてくれる肉親がありませんでしたから辞めましたけれども、子供がでけない迄の共稼ぎということは、奥にうまく行つたと今でも思ひます。とても楽しい思い出になっておりますが、都会では食物にしましても半腕製品がデパートあたりで高くなくとお料理はできなかつたのですけれども、それで満足に行きました。まずくいて塩からいものができました。主人は不満に思わないで、塩一つかみ入れたのだらうと笑ひ話で済んで、それより社会的のことを話合つて行くということに、男の方が満足してくれろという行き方です。参りました。地方に行きますとそういうわけに行かないのじゃないかと思ひます。私の場合は東京で成功しました

が、家庭に女中さんを入れますと、女中さんはその職場を獲得できるのであって、それだけの能力ある主婦が外に出て働きますと、そこに一人職業を持つ方ができる、そういうような価値を判断して行ったら、答えが明かになるように考えられるのじゃないかと私は思いますけれども。

鈴木 法律や制度の上では婦人に対して平等の地位が認められるようになっておりますけれども、それは日本の婦人が一人一人思案に考えて、裏面にそのための努力をするより他にないと思うのです。それで色々地域や環境によって大分差がひどいと思います。私は田舎ですから都会のように便利に参りません。で高く評価しているつもりでも、実際のところは台所をはい廻るような状態ですけれども、結局私主婦が一人で力んでも駄目で、家族の協力が必要で、社会とまで行かなくても、一人一人が生活改善をめぐって努力して行くより他ないのではないのでしょうか。

塚本 社会の環境とか、地域の違いというようなのなのですが、社会の環境というのは、——大きな社会は動かさないと思いますけれども——作って行くことに努力する。小さいことでは、子供があつて出られない主婦が二人あれば、片方が預かって講演をききに行くことができます。第一部会に出ていらっしゃる方ですが、職業をもっていらして、家事をいくらか簡素化しても、主婦がどんなに才

能を生かして働いても、主婦には家庭生活に対する最低の責任というのがあると思う、それで、一人一人自分の生活だけをよくしようと思つても、どうしてもできないので、

半人前という大変ですが、主婦が手をつなぎあって、二人で一人前の仕事と申しますが、一人が出たいと思えば、その家の食事も作ってあげるというような事ができればいいと思うのです。今までの派出婦さんとかいいますと、私共本当に同等の感じがしないのですが、お食事のことも、子供のことも、安心して任せられる方が、——ちゃんとした奥さんが——貴女のいらっしゃらない間は家を留守番してあげましよう、ということができたらどんなにいいでしょう。お互いの人格を重んじてこういうことができたらいいいわけですね。とお話ししながら参りましたが……。

大矢 さっき病氣すると結婚に帰らなければならぬのは、自分が家事を高く評価してないから、というお話でしたが、私考えますのに、その人個人が自分のことを低くしているのではなく、日本の封建性に原因があると思うのです。完全なる男女の結合による一家の形成でなく、嫁さんは貰ったものだから傷がついたら帰して、直つたら引取るという、古い考えから、お嫁さんも認めているし、お嫁さんも社会一般も認めているので、お嫁さんが悪いのではなく、寧ろ犠牲者なので、よくなさる偉い旦那さんがあつ

たら賞めてあげて、少しでも封建性を破るよう指導していただいたら田舎の封建性が破れると思うのです。

熊崎 私の場合は傷ものになったから嫁家で一応帰して、又直つたら来いというのではなかったのです。嫁家と奥家と両方から助けてもらいましたが、病氣した時に社会保障の制度が、結核患者の療養施設が、政治とつながって施設されていたら、安心して行けたということを申し上げたかったです。

高瀬 私こういう会に出たことがないので、お話ししようと思つてもよくいえないのですが、今まで皆さんの話をきいてますと、たらいのふちをグル／＼廻っているようで、一つも局面が開かれていないように思うのです。ちょっと突撃かなと思うのですが、主婦の方が組合みたいなものを作つて、家具など婦人の力で規格化されたものを作る施設を作つたり、保育園を作つたり、そういう方法を考えたかどうかと思うのです。

司会 大変活潑に御意見が出たのですけれども、このことばかりに時間をかけておきますと、あとの討議ができませんので、はっきりした結論が得られないとしても、この辺で次に移りたいと思います。主婦が職業を持つというところにまで問題は発展して行きましたけれども、そういう御意見の方であっても、主婦のやっている家事作業は決して

低く評価しているのではないということでは一致していると思うのです。高く評価した上で、それを簡素化して社会に出て行きたいという方と、どこまでも家庭の中で立派にやりたいという方とありましたが、一致点はあると思うのです。自分自身が高く評価すると同時に、社会的にも高く評価してほしいというようなのは、大体皆さんがいらして、更にその上にいろいろ問題が出て来たと思うのです。その中で社会環境を整備すること、女の自身が努力するだけでなく、保育所の問題とか、子供を預けようという小さなグループ的な解決の方法とか、中には社会制度そのものについても言及された方もありましたし、熊崎さんのように御病氣でお悩みになつた方からは、病氣の時の社会保障制度が完備していたら助かるということまで出ていると思いますが、アドヴァイザーの方がおききになっていらつしてお感じになつたことを、おっしゃっていただきたいと思ひます。

船田 大変自慢のようですが、皆さんのお話伺つて、私はその問題に卒業したと思うのでございます。大体的に感じましたことを申し上げますと、今大矢さんがおっしゃいましたように、若い時に家事に熟練するということは大事だと思ひます。私も来年少くすけれども、四十代になつてから覚えることは全然駄目で、二十代に覚えたことは、何

時までも覚えております。ですから私は二十代は勉強の時、三十代は積古の時、四十代は仕上げの時、五十から六十年代は人生が仕上って、落付いた人生になるべきだと悟っているのです。ですから二十代は家庭の事情が許されて、働けるチャンスが得られたら、少し位の無類は突破して、働いてごらんになるのもいいし、御病人が家にできて、主婦が外に出て働けなくなったら、きれいさっぱりやめて、病人の恢復されるために全力をあげる。二兎を追う者は一兎を得ずと申しますが、本当にそうだと思います。ですからあつちもしたい、こつちもしたいというのはいけないので、早く気分を転換して、自分として何処が一番大事なことかと、しゅちゅう重点を考えてしていく。凡ゆる社会の問題が極く小部分ずつ家庭に入っているのです。凡ゆることに知識を持たなければならぬし、凡ゆることをやらなければならぬから、一つの技能の習熟家になることは望めないで、文筆でお立ちになる特殊技能を持つていらっしゃる方は珍らしい方だと思います。平林さんのお話が出ておりますが、平林さんなその家庭は、特殊技能の方が重点が重なりますが、あの方の家庭が破れたからといって、自分に引きあてるとは少し思いよりすぎているのではないですか。髪を結う間もなく文筆に親しむようなことは、特殊な方以外は絶対しやしませんから、書く事がお好きなら、

暇をみて投稿してごらんになるということとは構わないと思うのです。家庭の主婦となってお子さんを育てる。私の主婦がもしませんが、子供がある年齢に達するまでは、母親でなければならぬ時代がございます。他人に任せただけでは、どんなに立派な家政婦さんでも、母親以上でできない場合がある。その時代には母は重点を子供におかなければならぬ。福田さんなどのように、お子さんがいらつしやらないなら御主人の職業に重点をおく。私も主人の職業に重点をおかなければならぬ時期がございました。今日何が一番重点かという事を考えて来たつもりなのです。終戦後、京城大学の教授でしたが、引揚げて参りましてから、代議士に出ました。代議士職業になりますと、今迄の研究生活からがらりと変りまして、千客万来の職業になりました。こうなりますと私は今度はおつきあいを上手にすることをしなければならぬ。政治知識も持たなければならぬという事になります。そちらに重点をおいて参りますと、私が余り社会を知らなすぎるのじゃないか、社会性がないのじゃないか、何とかして社会性を自分持たなければならぬという事を考えまして、婦人団体に飛込んで行きました。そうしましたら、乗りかかった船で、主婦連合会が忙しくなつたために、私も色々忙がしい仕事をいただくようになりました。婦人団体のことですから、

報酬はございません。報酬目当に入つた仕事ではありませんが、今日はそれが半職業的になってしまつて、今日なんかアドヴァイザーなんて俤をうな名前をいただくのですが、私は若い時から少しの暇をぬすんでも、家があげられない時は家の中にいてできることをしよう、趣味的なことも暇をみてしようということで、悠遊りだつたと思ひますが、そのようにして今日まで参りました。家庭の者がどうかという事でございますが、年齢で申しましても主は五十六でございます。世代が古いのです。理想としては社会人になつた方がいい、男女同權は当然のことだなんて、新憲法の講義していることをききますが、やはり昔の、男子に都合のいい世代に育っているものですか、理論と実感とが少々喰違つておつたのです。ところが私が仕事を外に持ちますと俤がさきに喜んだのです。私が社会問題に対して関心や知識を持つようになりまして、お錢は話せないとは思わなくなつたらしいのです。俤は非常に私が社会的に働くことを喜んでくれています。私大変遅刻したのですが、実は俤が大變弱くて、嘔吐もちで、昨晩帰りましたらひどい発作が出ておまして、昨晩一睡もしなかつたのでございます。今日は電話かけて失礼させていたどうかと思つておりましたら、俤が大丈夫だから行つてくれと申しますので、出て参つたのですが、俤は私が外に出て、社会人と

して働くことに理解をもつてくれる。主人はどうかと申しますと、私がしている仕事に対しては積極的に手伝うという事はございませんが、いい仕事をしているということにみていくのならしうございます。私この年になりまして、毎日煩悶があります。私が社会から求められていて、毎日煩悶があります。今日のアドヴァイザーなんか身の程知らずな責任の重大なものをお引受けしたのじゃないかと考えて煩悶するのでございます。それから家のことをどの程度まで、はしつてもいいか、犠牲にしてもいいか、外の方のことをどの程度にまでお引受けしていいかという度合でございますね。その点は誰も逕因してくれません。家から苦情が出てはいけません。家の苦情が出ない範圍で、家政に營支えない範圍で、できるだけ社会活動しようと考えておりますが、私は大体として午前中は主婦、午後から社会人、夜は妻と母の役目しようと考えております。私の今日の両天秤の生活も、定収入にしばられた仕事でしたらできないと、思っています。定収入がなく、随時自分がお断りできるような仕事ですから、家庭の事情の許さない時はお断りしますが、定収入がございますと、義務がつきます。そうしますと、今日の社会状態と家庭の事情においては、定収入のある職業に私はつけないのじゃないかと、割切つて毎日暮しているわけでございます。今日の家

庭では、主人であれば子供が病気で非常に苦しがつておいても、毎日の職業に携わすに行けましよう。ですけれども私共母親の立場としましては、如何に外の職業が大事なものであっても、父親と同じように子供の病氣を見捨てて出て行くというわけに参らないと思うのでございます。前提として家族全体の健康が確保できなければ、私は公職につけないだろうと考えております。現在うちから苦情も出ませんし、それ以上に作などは協力してくるのでもございませうし、社会としても私を成る程度要求して下さいということにうぬぼれも持つておりますし、先程のお話のように職場を一人の人に与えることもできております。作の看病してくれております者など非常にいい人で、私がうちにいて細かいことまでさしずするより、家計簿とお金と任せておきますと、実にきちんとしておいてくれます。食事のことも私共が献立して、作り方もいってあげば細かいさしずなどは却って致さない方が責任もってやってくれます。そういうわけで、只今のところは都合よくいってあります。それと申しますのも、いささか自分のことで申し頼みのでございしますが、外に出てする職業の質と力でございます。うちの者が、いいことをしていると申すてくれなければ駄目だと思います。あんなことに家をあけて時間をつぶしているより、家の中でつくろいものでもしている方が

得だと、家の者が思うような仕事であつては、家の協力は受けられないのじゃないか。それと外で私が仕事をするに付随して、私という人間ができて行く。社会的の問題でも、私が主人の相談相手になれるということ、作の職業上のことでも、社会的なことでも、私が社会人としての観点から相談相手になれるということ、家の者が認めれば、心よく協力してくれるのじゃないか。協力してくれれば、協力してくれというから、何だか協力したくない気持ちになるのじゃないか。協力せざるを得ないような実力を持つことがまず第一じゃないかというように考えます。日本の法律は奥に婦人の地位を高く認めたもので、これ以上婦人の地位をくぐれということ、公にはいふ必要がない。あとは実力の問題で、どんなに男の方達が女の人を職場から排斥しましても、その人がなくてはならない人だつたら排斥されなと思います。法律上は婦人の地位が認められなかつた時代すら、女の方で尊敬を受けて、社会に働いた方があつたと思ひます。わからずやの男の方でめちやくちやに排斥する方もございしますが、実力のある婦人が多く進出すれば、やはり実力が勝つてのじゃないかと考えますので、親念的にこうすべきだ、あつすべきだというよりよしよしやうてごらんになるのがいいのじゃないか、失敗したら改めるといふことで――。無口いわれまいと思つて引つ込ん

でいては、いつまで経っても婦人の社会人としての自覚が高まらない。本を讀んだだけでは実感として受取れないことでも、体当たりで行つて自分のものになることがあるので、チャンスを与えられた方はどしどしおやりになつたらいいのじゃないか。程の問題じゃないか。程度の問題、人を犠牲にしないで自分が得をするといふところに難しさがあるのじゃないかと私の感想でございます。

司会 もう時間が一時間もないわけで、あとに大切な問題が残つておりますから休憩なしで進めます。西さんどうぞ。

西 船田さんが御自分の御体験から色々おっしゃつたので、私から申上げるのは蛇足かと思うのですが、皆さんと立場が違つている点で申上げたいと思ひます。大体こちらにおいでになる方は、若い時に家事に熟練して、御年配になつて手がお離れになつたら社会的なお仕事をなさるのが順当なのですが、私の場合は全然逆で、若い時はがむしやに働いたのです。現在も働いておりまして、二十年間職業生活をして、専ら主婦という生活、母親という生活もやって来たわけなのでございます。そろそろこれくらいゆるる家庭婦人に帰ろうかというので、全く逆なのです。こういうことを考えますと、一体どちらがいかと悪いといふことはいえないので、結局その人の与えられた生活の集

件が決定するわけだと思ひます。私を含めて多数の今働いていらつしやる方、それから現在妻の座にいらして、尙且生産的の仕事を持ちたいという方の中には、意欲的に仕事を持ちたいという方と、已むに已まれずどうしても家計補助の意味で職場を持たなければならぬという方の二通りあると思ひます。私の場合は本当に働かなければどうにもならないところから、若い時から出発しまして、宿命観的な話になりますが、そういう人生を消費致しますと、最後までそういう環境がついて廻るものでございまして、大変臆甲斐ない話ですが、今に至るまで働くといふことを止めるわけに行かない条件が私自身の個人の生活の中にあるのでございます。私という一人の女の経済力によって個人の社会保障がやれているという日本の家族制度の見本でございしますが、こういう見本は決してお手本にはならないかと思つております。何故働かなければならぬかといふことは、結局家庭内における妻の座が社会的に守られていないからだと思うのです。夫の甲斐性なしといふことばかりでなく、非常に家族制度といふものは複雑で老後の保障のない両親を助けなければならぬとか、弟妹の学費を我々が何とかしなければならぬとか、家族の中の経済力を持った者がそういう保障をしなければならぬといふことが、日本の家族制度の中に沢山あると

思うのです。たま／＼私がそういうことに遭遇した人間であって、個人的解決が社会的にみて正しいものではない。やはり主婦というものは先程からおっしゃっているように、結婚すれば若い時に家事に専念し、その家事労働というものが、夫の労働力の中に入っているということ、即ち社会の生産活動に妻の家事作業という労働力が含まれているという認識が、社会的にあれば、妻の生活というものの対して大きな社会的保障とか援助がなければならぬと思うのです。それが無いところから現在働かなければならぬ切実さを身近に持っていられる方もあると思うのです。私も結論として、本当に家事作業が、家庭的にも社会的にも完全に評価されて、安心して家事作業ができるという社会状態が望ましいと思います。それが守られていないからいろいろな困難が起ると思うのです。お手伝いさんをおきませんで、職業と家事労働を二重に負担してやっています。自分のやっている家事作業をもしもお金に計算したらどんなことになるかということを考えてのです。友達にも話しましたら、バチ／＼算盤はじいて計算した結果、大体八千円位になるそうです。皆さん方は主婦の家事作業の価値をお金に換算するのはおいかもしませんが、御手伝いさんを雇って、食べさせてお給料払えば八千円かゝるといふのです。妻の労働はただ働きというか一番安い労働な

ので、社会の一切の生産活動もこのただ働きの上に成立していることを発見するのです。それだからといって、妻の手当を出せという問題にはつながりませんが、そういう認識をするということが必要じゃないかということをしみる感じがしたのです。時間もありませんから、大体そういうことだけを申しておきますが、一寸気になったことは、次の問題にかゝると思いますけれども、家事労働の評価がどうして家計管理の点で、夫の収入と家事管理者との関係がどの程度に民主化されているかということも同時に考えていたまじたいと思うのでございます。池田さんのお話なんか非常に大きな関係がありますが、社会における封建制の問題だけでなく、家庭内での夫と妻の民主的なあり方につながって行くと思いますので、次の問題に関連して議題にしたいまじたいと思うのです。

司会 それでは次の問題を進めて行きたいと思ひます。今お断された事も次の問題につながる大事な問題だと思ひますが、一応その次のテーマとして、衣食住とか、家計などの程度に計画的にやれるかという生活技術の面にうつるわけですが、如何でしょうか。

城 生活技術の問題はやり出したらきりが無いと思うのです。私達が痛切に問題をもって来ているのは協同活動が多いのです。できたらそちらを重点的にやっていたら

いと思うのです。

司会 最後の協同活動の問題がたくさんあると思ひますので、そこに時間をかけたいと思ひていましたのに、初めの問題が大変発展しまして、時間をとってしまいました。城さんからの提案について如何でしょうか。

船田 技術の問題、計画がたてられるかという問題は、本当に熟練していらっしやるかと思うのです。話合えば同じところに着く事で、主婦である方はめいめいやっていらっしやるので、一応卒業したと考へていゝと思ひますが、司会 それでは時間ありませんから、協同活動の問題に移って行きたいと思ひますが……

船田 私は家計簿についてというのを特に希望致しましたが、さすがに昨日うかゞいましたら一人残らずおつけになっていらっしやる。すぐに御主人の収入もおつむに入っていらっしやる方が一般にはそうじゃないんで、家計簿つけていらっしやる方はいくらもないようです。これがなかったら家庭の合理化も何も語れないと思ひております。技術の問題、どうつけるか等は問題じゃないのです。つけるのが大事なので、それはこゝでは卒業しましたけれども、どうぞ皆様お国にお帰りになったら周囲の方たちを啓蒙していただきたいと希望として申します。

◎協同活動について

司会 それでは協同活動の問題に入って行きたいと思ひます。この問題は非常に色々なことが含まれて来ると思ひますが、隣近所とか、御主人のお勤め先での福祉活動のような身近な問題から入って行きたいと思ひます。岩手県の鈴木さん、実行していらっしやることを所感文にのべていらっしやいましたが、どういふふうにしてうまく行っているかということはどうぞ。

鈴木 官舎の主婦が集って主婦の会をこしらへまして、つい二カ月前から達見したばかりで、基礎準備中ですが、それと同時に役所の中に厚生会という施設がありまして、商人を入れて日用雑貨品、食料品などの販賣をしております。それは大体市価より一割から二割程度安くっておりますが、次年度四月から切替えて直営になるかどうかというので今問題になっております。また、主婦の会の会費の中に衣料品の問題さんの知合がありまして、運賃なんか入りますから、一割程度の安値ですが、品物が確実なので、利用してあります。只今のところでは厚生会が大体存続する具合ですけれども、厚生会というのは物質の面だけでなく、衛生方面にもタッチしていますし、貯蓄なんか厚生会が天引にして俸給の方から引くようになっていきます。取扱

の品目や品種の改善、価格の引下げ等、主婦の立場から主張して、一層協力にする為に、主婦の会が厚生会に呼びかけているのです。そうして燃料の軽減も致しますし、私達の経済生活、厚生に関係するもの総てを含むように協力して参っているわけなのです。厚生会を利用しますと町に出て買物するより本当に便利で、一応無駄使いしないで済むのです。そういう点で感謝して利用しております。主婦の会はそれと別に生活技術を高めるために、会員が持廻りで官舎を提供して、洋服だの手芸だのお料理の講習を開いていまして、それも大変安くてきます。共同して費用を出し合って、先生も呼びますが、官舎も持廻りですから費用も殆どかかりません。そういうふうになっております。

城、ルートの問題で質問ですが、主婦というものは、中間搾取によって随分高いものを買わされているから、主婦が団結して、纏めて監地から共同購入するという方法を、もっともって積極的にとった方がいいのじゃないかと思ひますけれども、小売業者の生活を脅かすことになりませんか。

鈴木 衣料品なんかを問屋さんと直結して持つて来ましたら、商店から苦情が出まして、小売業者の立場から敵視されて、略奪した会員が迷惑を蒙って、大きな問題になったら困るから、この辺で手を引きたいと思って来ま

した。その後私上京しましたがどうなりましたか。商店から苦情が出るから嫌しいのじゃないでしょうか。城 昨日船田先生もおっしゃったかと思いますが、小売業者が協定価格を作っているのに、購買者である主婦が強く積極性を持たないのは大変損だと思ひます。論文に書いたのですけれども、特に物価というものを守る運動に重点をおいていられ、そういう婦人団体、たとえば主婦連合会などの呼びかけとか、そういうものが参加し、支持して、主婦の立場から物価を協定した方が、生活の面で助かるのじゃないかと思ひます。

伊藤 私の会ではデパートの特売場がいったいに安いという観念をもっていました。新聞広告なんか一番下の値段を百円より、八十円よりという、そのよりは少しはありますけれども、安いと思って一所懸命買つて参りましても、浦和に帰つて小売業者を念入りにみますと、却って高かったことがありました。それを皆で話し合ひまして、取る時、一流のデパートの特売場に手分けして廻りまして値段を調べました。値段表を持ちまして、会員の方に横山町の高級品を卸している方を紹介してもらひまして、そこで売残っているもので良心的なものを、本当に卸しの値段でいただいて参りましてバザーを開いて売りまして、会員も勿論わけていたゞきましたが、買った方は特売場より安く手に入

った上に、二万円の益金が入りました。益金をどう使うかと皆さんに御相談をしまして、ニョヨンで生活していらつしやる御婦人、役所を通して調べたのでは実情がわからないので、会員が一軒一軒目星をつけて歩きました。その人達に目星として三百円宛のお金を送上げて、一日だけお暇を差障っていただいて、私共の会合します場所に寄つていただいて、一日ゆっくりお茶をのみ乍ら話し合ひました。大変いいことをしたと思つて、今後続けて行きたいと思つております。浦和の町の場合は、小売業者の方が私達のやったことを知らないのでしょうか、そういう反対には出会わなかったのですけれども、それが大きな会にでも発展してやればぶつかると思ひます。

塚本 自分のしております共同生活の小さいことを申上げたいと思ひます。友の会ですけれどもより会というのが一番近くに集つてある集りで、私のもより会は公務員アパートで、その中に八人位ありますので、一週間に二時間集つて、一緒に本を読む。又家計簿のしめくくりして算盤入れてあげたり、共同炊事を一所懸命やつていらつしやる所もあつて、一日だけ完全に自分は何もしないで御飯が食べられるといった報告なんかありました。買物貯金なんかも一緒にして二百円ずつ出しあつて評を揃えたり、天火を揃えたり主婦の下流を揃えたりもございまして、

衣服の手入れの時期は集つて衣服を手入れしたり、副食を半調理して持つて帰つたり、御煮の上手な人が煮て来て、昆布の佃煮を分けたたりしております。福岡全体としては衣食住、家計のグループがあつてもよりのを持つて行くようにしたりしております。乳児グループでは、小児科のお医者さんをお呼びして健康相談・食物・着物のことを話し合つたりしております。共同購入の買物もしております。仕事の交換の意味で洋服だの編物を頼んでお互いにし合つては安い値段で物をやりかえたりしております。友愛セールという名前をつけておりますが、お互いの家で要らなくなつたもの、お子さんの小さくなつたもの等交換しますが、町に働いている方に非常に安いので待たれております。もよりは五人から十人位で本当に生活を助けあいたいということとしております。私も出て来ます時は、もよりの一人の方にお金もお預けしてお願ひしてありますが、副食費は人数割で一人分いたゞく、調味料は負けてあげるといふことで、向うは七人で家は一人ですから、お菓子なんかいたゞくと食べ切れないので、もよりにかけつけて、済みませんが持つて行つたりして楽しく暮しています。さうやがた共同生活の御報告なんですけれども。

大矢 今の塚本さんは「婦人の友」の集りですけれども、本の説者の集りも持たないような一人の主婦ですね。

そういうのはどういうふうにしてお友達ができて行くのかと思うのです。私は子供が小学校と中学校に行っておりまして、教育のことに熱心になりますから学校に伺いますと、お母さんが参観にいらっしゃる。PTAを通してお母さんと子供の話を、親下の破れる話から生活の話になって、いろいろのことをお互いに助けあう形になって行くのでございます。小学校に行かない方も大勢いらっしゃるのです。幼稚園にいらっしゃるとか、保育園に行かれるとか、隣同士でもグループができると思います。大きな心をもって庭の掃き方でもお隣りにごみをやってしまおうというようになことをしないで、ごみは皆持って来て、こつちで揃いてあげるという広い気持をもっていたら、お隣同士の利害が反することは無いと思います。何かいわれてもおこらないでがまんするのです。その位の気持がないとできないので、私のおりますところは宝塚の首屋につくような高級住宅がありまして、山に桜が咲ききれいな所なのです。その一週に我々のようなサラリーマンがたむろしておりますが、物価は高いし生活程度の高い所で、我々がどういう生活をしたらいふかということが話し合になって、三人五人集りまして、内職といってもありませんから、お互いに持っているものを出しあって、昨日申上げたことを計画しておりますのですが、いち／＼集ることも出来ませんから、

細物を賣いに行った時にはそこが集りになりますし、お歳暮もって来た時はそこが会になる、という具合に、そういうふうになれば、女の人にも集まれるので、議長を決めるとか、議事を決めるというところ堅苦しくなりますから、道端でも、井戸端でもいいと思うのです。井戸端からだんだん仲よくして行けば宜しいので、家計簿を研究したり、押つけるのでなく、隣近所と話して、こうやればこうなると話して、やる気になれば役に立つと思う。一人一人が立派な家計簿を作っても、その人には役に立つけれども、隣近所に益しなければもったいないことだと思ふのです。

高瀬 その場合、気が小さいのでこんなことを考えるかもしれないが、隣近所の奥さんと話をする時に、競争心というか、そういうことは問題にならないでしょうか。そういうことが気にかゝっておつきあいするのがいやになって……。

大矢 自分が偉いと思わないで、自分は何もわからない者だと思えば……。

高瀬 精神的の面でも少し、着ているものとか……。
大矢 今日はお出で来るのでこういうものを着て来たのですけれども、家にいる時は本当にぼろぼろを着ているのです。そうしてそれでも出て行くとき自然皆さんがそういうふうになります。お互いにぼろで立話したりして、そういう

集りができますから、私も内職始めようという方が、今まで恥かしくてできなかったけれどもということが、耳にきこえて来ますから、ぼろが恥かしくならないようにしたいと思ひます。

高瀬 私が前にいた社宅では、他所からいた方があった時に、もったいないからといって子供さんに持って行ってあげると、直ぐに倍位にして持って来るという方があるんですからね。

大矢 そういう方もありますよ。そういう方はやめちゃってね。

高瀬 社宅関係はそういうことが強いのです。

和田 今もお話あったのですが、足尾におりました時は山の中で、一日に汽車が五本位しか出ないので不便ですから、会社が共同購入して、うまく行っておりましたので安いものが手に入りましたし、お互いに主婦の間に団結ができておりました、大変喜しかったのですが、こちらに参りましたら便利がよくなりましたが、各家庭の間に今おっしゃいましたような虚栄とか見栄なんかが大変強いらしいのです。私共は年で行きますと未熟な方でございます、口出しできない立場にございますので、こうしたらいいなあ、したらいいなと思ひているのですが、実行に移すとなりますと、年配の方々がそういう気持をもって下さつて、

私達も一緒に盛上げてくださるような気持をもっていたわけば結構なのですけれども、中年の方々が五、六人位ずつグループになっていて、互いに偏見をもちまして、あそこのグループはどういうことしたからこつちはこうしましゅうとか、PTAの集りにあの奥さんはあゝいうのを着て来たからこうしようということが、若い者の耳に入りますので、そういうことをきいておきますと、なさけなくなります。私が年が大きな方々という気持を持つのです。中年の方とかそれ以上の方々が偏見をなくして団結すれば社宅の集りはやりいゝところだと思ふのですが……。

司会 今社宅生活の難しさということが出ましたが、社宅とか官舎に集団生活といふますか、同じような境遇の方が大勢住んでいらっしゃる場合、協同活動に大きな問題があると思ふのですが、炭鉱の古谷さん、炭鉱の問題でそういうことがありましたら。

古谷 炭鉱は知識の程度が低いのです。婦人の各自が目覚めたならば、夫も子供も向上するのじゃないかと思ひますが、私は第一番の悪い条件としてはよい指導者がいないことだと思ひます。自分をなげうって、そういうことに尽してくる人がいれば、もう少しついて行くのですけれども、上の人になりますと頭の程度が高いのですから、うまく指導できないのが一番の原因じゃないかと思ひます。

集まれば隘口とお茶とお話に費用をかける程度で、私達も全然おつきあいでいいものだから、そういうことについていえないし、自分でも指導する自信のないものですからそういう方面にタッチしてありませんが、もう少し指導して下さる方をほしと思っています。

熊峰 今住んでいる所に市営住宅が八戸と県営住宅が十戸ありまして、私達みたいなサラリーマンが住んでいます。商人もいますが、外に商売に出るというので、一応サラリーマンの形になっていて、共同の井戸を使つて井戸端会議とかいって、もう一語をすることが、そういうことを何とかしたいというので、共稼ぎの人とか都合のできない案件の方は抜いて十人だけ集めて、毎月一日井戸端会議の延長の集りをする事になり、当番の人の家を宿にして、去年一年続けた。毎月十日のお昼を早くして一時頃集つてお夕飯に差支えないように、三時半頃まで一所懸命おしゃべりするのです。何もくだらない、赤裸々に話すのです。小学校に上る子供のランドセルのことから、パン食のことまでしゃべります。町まで出るのに十五分位かかるので、毎日のパンを買うのに厄介だというので、一軒家を決めて、パンを焼く所から運んでもらうことにしました。そうしたら子供でも一斤分のお金を渡すと買ってくるのです。こうやって一つやと足をふみ込んだのです。本

を読むのに、雑誌でも二百圓位します。私たちの家計ではいたいかどうしようという事で、一番手近かな大衆的な「主婦と生活」を一冊買うことにして十人でお廻り認めば二百圓でも二十四でいいし、最後の人がそれを廻らすことにしました。私はもとから「婦人公論」と「装苑」とついていたものだから、その二つ、柔いものと堅いものとどうでしょう、といったのですが、「婦人公論」はとつときにくい家事が忙がしいから読めないという人もあり、読みたいから仲間にして下さいという人もあって「婦人公論」組が三人になって、そういう雑誌の読みたい人も増えて来しました。私はこの頃出た昭和文学全集をとっているからお貸ししようかといつても、ちょっと読めませんという人が多いのです。読書グループは五十圓の会費にしまして、二十圓で雑誌とって、あとの三十圓は今年の一月から単行本のいゝのを買うために貯めています。

高瀬 古谷さんが指導者という言葉をお使いになりましたが、「指導者」という言葉は好きじゃないんです。それにはいろいろ弊害もあると思うので、指導者ということには関係なく、皆の力でやって行くようにしたいと思います。協同活動がよいと思うのですが、それには見栄とかそういうような、障害があるのです。

高瀬 女の人が集つたら虚栄と見栄ですね。私県庁に勤

めておりまして、十人程のグループ活動しておりますが、偶然にも県庁の奥さんにはそういう人が一人もいないのです。私たちのグループで月一回工場などの見学を致します。県庁に勤めていましてで電報一つかけておきますと会社の方も優遇して下さいます。雑誌の奥さんがいらっしゃるので、その方に頼んで見学したのです。職場が違えば却って気持はよく通じますし、ザックバランに廻ります。愛持があつて、毎月見学しています。

古谷 私の方は程度が低いのです。ですから或程度まで引き上げませんとついて来ないんです。いくら提唱者があつても、やはり指導者が第一ではないかと思ひます。

高瀬 嫉妬も虚栄も一応卒業しましたよというのです。高瀬 自分が孤立してしまふと淋しくなってしまうのです。いゝ友達が一人居ても二人でもいるといいのですけれども、自分一人だけということになると手も足も出なくなるのです。

三島 私の所の地域婦人会で集りする時は原則として黒い上っぱりを着ることになっているのです。はでな服装ですと目立って、人とそぐわない恰好では仲間に入れてもらえないのでうまく行つております。私達の地域婦人団体の仕事で、甲府市に婦人会館を持ちたいという話が出てきて、基金の募集するのですが、家庭経済のやりくりでお金を一

時に出せないの、十日と二十日と三十日にお揚げを張りまして一部を積立て、お金を集めて、今度やと建つことになりました。ところが女というものは大変けちなもので、少しづつのお金を集めて大きなお金になることがわかりますと、婦人会館が建つても、もつとお揚げを売ろうではないか、そうしている共同購入やろうではないかということでも着々やっております。

同会 女の人みえの問題が生まれて、今三島さんから、解決策の一つとして、地域婦人会が黒い上っぱりを着て集まることにしたということですが、この問題は如何でしょう？

伊藤 ユニフォームを着ることはいいやですわ。

三島 めいめいが自覚してはでな服装をしないようにしようという事は、なか／＼それが下まで行き直らないのです。ですから形式から入ることが無意味ではないと思ふのです。

伊藤 盆踊りをやりますと、浴衣を夕方踊る時着替えて来る方がある。一枚の浴衣を汗になったのを洗って乾くのを待つて着て来る方もあるというので、お揃いの浴衣を着ましたという御報告がありました。私というユニフォームを着ることはいいやなんですけれども、どういうふうに考えていったらいいでしょう。

高橋 衣服だけでなく、あの婦人はインテリ振っているという厭口もあると思います。そのほか、いろいろのことというでしょうけれど、そういうものを超越して協同活動して行かなければならない時代ですということをいいたいです。

司会 この問題ばかり突込んでいますと、経済活動と離れて行きますので、この位にして先へ進みたいと思います。この問題の結論として、協同活動する場合には、女の人の虚栄心が邪魔をしているが、それをなくすには、自分達が率先してやるということになると思います。

船田 結局下らないことですが、外に出ると着物にかゝるから割が合わないというので、一歩も協同活動できないということになります。超越するということは大事ですけども、超越するのにどうするかということでは苦勞していらつしやるわけで、山梨の方のように形を一律にした方ができやすいのじゃないかというので、一つの方法にしていなつしやるのだと思いますが、ユニフォームを着るということは、形から整えて行くということに大きな問題がつかつておられますので、これを取上げることは私は如何かと思ひます。

西 私船田さんと同じ意見ですが、私よく地方に行きますと、上っぱりを着て出ていらつしやるのです。私何か感

大矢 お年寄りとか指導者にそういうことをいってみてはどうでしょう。

船田 皆さん方と同じ経験を持った二百ばかりの団体が主婦連合会に加盟しております。先程大矢さんのおっしゃったようなグループが成長したもので、グループの会があるから来てくれというので、私なんか時々方々に訪問して歩く役もしております。それで今おっしゃったような、一つのテーマをもって集めることは大事なことだと思います。

主婦連合会で自慢していることが二つあるのです。一つは皆寄り集りましでも、お互いの主人の職業とか家庭事情などを、五年もいても知らないのです。子供が何年生位は申しますけれども、そういったような家庭の事情にお互いが余り重きをおかないのです。共通の問題だけをしゃべって、徹頭徹尾それでおしまいですから、着物のことも問題にならないのです。指導者のことが出ましたが、会長のお人柄にもよると思います。会長が服装に無頓着でいらつしやる。その空気が伝わっていることは確かだと思ひますが、それより大事なことは問題が多いのです。後から後から相談しなければならぬ問題が山程あるものですから、着物のことだの、地位のことだの構っていられない。時間が来たから早く家に帰らなければならぬというので、かけ出して帰りますから。ほかに問題がないから服装が問題

争中のことを思うのです。三島さんなんか御苦勞なさった筈、これ以外ないと思つてやっていたらつしやることはわかるのですが、それで安心していらつしやるしないで、戦時中やらされた、右へならえの思想にながつて行くものであるということを、機会ある毎に説いて行くことに努力していただきたいと思ひます。

和田 さきにも申しましたように、若い者の立場と教しまして、同じ会社のグループにどういうふうな提唱して協同活動をやつて行くかということをお教へいたさきたいのです。そういう場合に、主人の地位が、同じ会社では大きく響いて来るのです。上役の御夫人がしゃかりや下さればやりいゝのですけれども、若い者は氣持ばかりこうすればと思つても実際にはできません。

司会 その点で御意見のある方。

大矢 社宅だから全部集まらなければならぬということとはありませんけれども、何かテーマをもって、たとえば家計御をつける会とか着物の研究会とか、皆さんの井戸端会議のうちから、生活の中から、今、みんなは何を望んでいるかということ、みつめて、それでおやりになつたら、足がかりになつて段々協同活動ができて来るのじゃないかと思ひます。

和田 若い者として提唱することがむずかしいんです。

になつたり見栄が問題になつたり、人の思惑が問題になつたりするのだらうと思ひます。もう一つの自慢は皆が愚痴をいわない。辛いことも随分ありますけれども、愚痴らしい言葉が出ない。これだけが自慢なので、これでずつと卒業して参りましたから、社会的に刺激と動いて行くこともでき、会も認められていゝのじやないか、女のグループは愚痴をいうことと嫉妬すること、見栄をはるといふ女の欠点を、意識して押えないでも、皆の力で押えてしまふ空気を作ることが大事です。和田さんのような場合、たとえば大矢さんみたいな御年配の方がいらして、皆で研究なつて問題をみつけるのですね。会社ですと上の奥さん方が研究なさいますして、そこに若い方が甘えて行くのです。そこで何となくプランを出せば、奥さんが上で号令かけた恰好で、実際は若い方が自主的にやつていく、というふうにしたらよいんじゃないでしょうか。

大矢 私達にも先輩がありますから、私が指導者づらはできないのですが、本が五百冊位ある小さな図書館ですが、子供を二十九日間預つたのです。そうしたら御近所の社長さんの奥さんがわざわざ鉛筆を沢山もつて来て子供達に下さつたのです。身分なんてことに関係なしに、こういうことをやれば動いて下さると思ひます。

司会 それじゃその問題はその位にしまして、昨日も出

ていたと思いますが、消費者の横のつながりをもって、経済活動をやみくするのための団結が必要だということについて、御意見を伺いたいと思います。

伊藤 主婦の経済活動を家庭内だけでなく、社会性をもたせるには、船田先生のやっというらっしゃるような不買同盟などは、消費者の一番大きいチャンスだと思っております。バターがなくなる時も、団結してやればいいのです。こそり商印が入ったなんていうような女の愚案を捨てて、特定の団体だけの不買同盟でなく、町に籠を下げて行ける奥さん、知らない方でも話しかけて行くのがいいのじゃないかと思うのですが、そういうふうにしてやって行くところに主婦の経済活動の社会性が出て来ると思います。

福田 電気料金が値上げになるとか、NHKの聴取料があるということ、私共何にも知らないうちに、向うからこうしますということになって来る。私共が選挙した代議士がそういうものを通すわけで、家計は政治に直結していると思うのです。ですから消費者が共同購入しなければならぬとか、炭鉱の方が困っていらしゃるというようなことは、政治が貧困であるということ、輸入と輸出のパランスがとれていないこと、つまり国家経済がうまく運営されていないからで、そのため困るのはすみずみの私達なんだと思います。私達が苦勞して耐乏して納めた税金で個

司会 政治に直結しているという問題が出たわけですが、それについては婦人の一人一人の自覚が必要だということが出ましたが、時間があるまいので、ほかに、このことについて是非いろいろおきたいという問題がありましたら、一つ二つお話しただいて、大体終りたいと思います。

伊藤 耐乏生活という言葉が出ましたが、これは家庭生活に関係あることだと思いますが、政府がいくら号令をかけても、見通しのないお先真暗な耐乏生活では私達真平です。主婦が一番強いのですから、見通しのつくもの、本当に思いやりのある、これだけやりましたから母子家庭がどれだけ救われるというように見通しのついたものを示していただいたら、妻でもお芋でも食べて耐乏生活をしてみせます。

司会 見通しのある耐乏生活なら協力できるというのですね。

船田 私しょっちゅうかみつぎに行つて、その御返答を伺っているから取次するのですが、私が通産大臣から伺ったところでは、貴女方にモンペはけとか、今より粗食しなさいといっているのじゃない、社用族・公用族の無駄は勿論排除してゆく、その上に金融引き締めとか財政措置によって物価が安定して、一部の物価は下る。自分は一割の物価が下ることを目標にして財政措置をやっている。そうす

人が利益を得るというようなことは憤慨しなければならぬことだと思ひます。

海保 私船田さんの御意見に賛成です。一兆円予算で新聞でもラジオでも耐乏生活を要求しますが、私達にこれ以上、耐乏生活をせよという人はどこに良識をもっているかと思ひます。税金が下るといっても、所得税なんかのよくな直接税のパーセンテージは下っているのですが、反対に砂糖の消費税、繊維税などの間接税は却って増税になっています。千葉県では、参議院の補欠選挙が一月にあつて、自由党の方が当選なさった。自分たちが選んだのだから、当選なすつたあとでいうのは間違つたことかもしれないけれども、婦人がその中でどんな気持ちで選挙したかという、買物がでらにしたという方や、しないと義理が立たないという方や、前に主人の知っている方だという方、何だかいい加減なこと選挙しているのです。そういう人が女の方にとっても多かつたのです。もともととつて派山の人が立候補しているのに、一票を大事な方に投票しないかと思ひました。参政権を得てからもう八年になりますし、政治や選挙というものをもつとも深く考えなかつたならば、自分達が自分達の首をしめている結果になるのじゃないかと思ひます。

とそれだけ皆さん方余剰が出て来るだろう。その余剰で物を買わないで貯蓄して下さい。それだけでいいのだ、というお答えだったので、そこまで啗くだけで説明していただければ私共納得行くわけですね。耐乏生活というのは家庭の女を対象にしているのではなく、財界とか事業家という方面にまだまだ無駄がある。つまり遊興飲食の対象になる所あたりを目標として總理大臣が云われたということを確認いたしました。こういうことを親切に示してくれないとおっしゃいますけれども、新聞の経済欄をお読みになりましたら出ているのです。私がしょっちゅう新聞社に注文しますのは、経済欄の記事が難しすぎるから家庭婦人にわからないのだから、もっとやさしく書いてほしいということなんですけれども、経済欄をよみますと、どういう方針でこうしてあるということがつかめます。ですから家庭の婦人がもっと経済欄を読みこなせる常識を持たなければならぬということをおっしゃいます。

西 経済知識のこともございますけれども、皆さん方が直感的に何か反撥するといふところに政治の問題があると思ひます。通産大臣に会えばこういうことをいう。或は経済問題だけでなく、大蔵大臣にも会いましたが、そんなに心配することはないのですよ、とおっしゃる。しかし会つてみればそういう返事はいただけませんが、國民のた

めにどれ程民主的な政治をやっているか。感情的な反撥を感じない政治をやっているかどうか、現在の政治の問題の根本的の欠陥があると感じるのでございますが。

船田 鈴木さんから御質問出たのですが、商人との摩擦のことで、日本の人口が多すぎまして、銘々が何か商売したり仕事しないと暮して行けないから、生存競争が激しいわけで、商人の方の生活を十分たてようと思ったら、消費者の立場の者はいつも高いものを買っていなければならませんが、それじゃ私達の家庭が困りますから、人口が多くて物資のたりない日本の生存競争の中で闘っておりまして、余りお人よしにばかりしてはいられないという場合がおきて参ります。商人の方は共同購入されると利潤が少なくなり参りますから、私達も随分圧迫がありまして、税務署に呼びつけられたりしますけれども、法に従ったことをしておりますから、税務署に行っても出せる帳簿も持っているし、曲ったことではないという自信もありましたら、自分達が生活のためにめいめいが闘っているのですから、悪いこととはいえないと思います。ですからびくびくしないで、自信もってやって行ける方法を研究なさったらいと思ひます。

司会 時間もあまりございませんが、傍聴者の方から先程是非討論の中に入れてほしいという切実な御要求があり

ました「家庭経済が破綻に陥った場合、どうしたらいいか」という問題を討論にのせます。

西 家庭の経済が破綻されたという具体的の場合を伺わないと困ると思うのですが、御主人が失職したとか、病氣したらということだと思ひますが、妻が保障がなくて放り出されてしまった場合にどうしたらいいか、というように解釈したらいいでしょうか。

傍聴者 昨日傍聴しておりまして、希望したのは、ずっとこの会議の様子を拝聴しておりまして、兎に角ある一定の安定した生活の中にいらっしゃる方だけの話合のように思ひますが、方が一お店を持っていらっしゃる家庭の主婦が破産状態になってしまつて、経営ができないという時に、どうしたらいいかということ。そういう例を私身近くに知っておるものですか。今は日本人が原爆の被爆を受けたり、水爆の被害を受けたりするような時代ですから、家庭内でも影響の恐ろしさを考えなければならぬという問題には触れないで、安定した生活の中の話合いばかりですから、方が一破産された場合の話を伺いたいと思ひます。

司会 時間が超過しておりますので、大体判りましたので西さんからお答えいただきしたいと思います。ただ商家の主婦の場合については、家族従業者としてほかの部会で取扱っていることを申し上げておきます。

西 小さいような問題で且大変大きな問題だと思ひます。一応こゝにいらっしゃる方が生活の安定を得ていらっしゃるということですが絶対的安定じゃない。私も一度未亡人になって、数年間つくづく苦しんだ経験もございまして、この中にいらっしゃる方が将来未亡人になるという可能性も考へておかなければならぬ。私達の仲間では、妻を、潜在未亡人という名前で呼んで、自分自身をひきしめています。現在安定しているようでも、いつその安定が崩れるかもしれない、夫が亡くなる場合や、失業の場合にも妻が経済的に放り出される場合もあります。ですから、どんなに自分達をよく考えようと思つても、何かそこらぶつかって行くのじゃないかと思ひます。どういうわけかということは難しい問題で、現在の日本の経済全体の仕組みの問題にもかかつて参りますので、そこまで論じておりますと時間がかゝりますが、ともかく経済機構に欠陥があるので、或る程度それをカバーするのは一番最初に申上げたことですが——やはり、国家的な社会保障というものの後盾がなければ、個人の生活も、どんなに頑張つても守り切れないのじゃないかということになると思ひます。では、どういう保障制度があるかと申しますと、たとえば女として痛切に感じるのは、寡婦年金の問題とか、養老年金の問題とか、子供の教育の国庫負担の問題とか、医療の問題とか

いろいろあります。一切のものを含めて社会保障の問題が解決されなければ、不安定な生活を安定にうつし変えることはできないのじゃないかと思ひます。明日の日から実行を生むような解決策じゃないかと思ひます。社会保障を要求するにも隘路がありまして、やはり海保さんや福田さんが指摘されましたように、今の政治のあり方が問題になります。国民生活を保障してくれる財政のあり方が現在妥協なものであるかどうか。それをもっと引きのばして参りますと、結局は社会性のない社会から私達の生活を守って行くということが根本的な問題ではないかと思ひます。ですから、ただ一つアスピリンをのんで解決するというような妙薬はないと思ひます。結局をういう私達の生活を守って行くには、自分自身の自覚で政治をよくして行くということに結論がなってしまうのですけれども、それでいかがでしょうか。

司会 最後に、「主婦はまず何をなすべきか」について、お話を進めていくはずでしたが、時間がなくてほんとうに残念でございます。けれども今までのお話の中で、家庭内で努力する面も、社会的な解決を待つ問題もいろいろ出て来ていると思ひますので、お話の中に出て来ました問題を皆さん振返つてみていただいて、実行出来る問題は今日からでも実行するし、それから困難な問題についても、

何が困難かということや、もっとよく見極めて私達も努力して行くということで、この部会を終わりにしたいと思えます。どうもありがとうございました。

司 会

N H K 婦人部長

江 上 ノ ジ

△印 — 発言者

総 会

江上 それでは総会に入りたいと思います。只今有沢先生から、私達が具体的に持ち寄ったいろいろの問題を整理された形で有益な講演をしていただきましたから、これから時間は、昨日から皆様が熱心に討議されたことを整理して、その後に傍聴の方の御質問を加え、また他部会の方はどういうことを考えていらっしゃるか、その問題をお互に同士で研究し合う、一つの契りを持った総会にしたいと思いますので、みなさまの御協力を得て、この会議をより一層いいものにして参りたいと思います。

みなさまが各地域にお帰りになってから生活の糧になるようにするには、自由な気持で思うだけのことをお話ししていただかなければならないと思います。どうぞお気楽に御発言をお願いしたいと思います。

それから最初にお断りしたいと思いますのは、この会議は決議機関ではありませんし、また会の主な発言は、今回の会議に参加された六十人の方を中心にしたしたいと思います。それで傍聴者の方に後で参加していただきます時は、御意見を承りますよりは、むしろ会議員の方に質問をなさることによって、一つの討論が行われるような仕組みにしたいと思えます。これはつまり、御意見を述べたいと思うというところを、質問の形にして取り運びたいと思います。それでは第一部会は、藤井アヤメさんに御報告をお願い

します。

藤井アヤメ(第一部会) 第一部会の、婦人の職業(勤務、自営)を持つ場合について、御報告させていただきます。まず第一に、各自が職業を持つようになった動機についてですが、これは夫を失ってどうしても自活しなければならなかったこと、外地にある夫の留守を守らなければならなかったこと、引揚者として生活を確認すること、夫の収入だけでは暮せなかったこと、さらに独身の場合は自活の道を拓いてゆくという動機から職業を持つようになったことなどについて話し合いがなされました。このような理由で、職に就いてみて初めて、先程有沢先生から申された労働力の価値をはっきりと認識することができたのです。さらに女子の社会的独立は結局経済的な独立が一つの大きな裏付になるという問題についても、はっきり確認したような次第です。

次は職業についてみて、女性という二字にかぶさってくる悩みがたくさん打ち出されました。その一々を挙げますと、職業能力が不足しているという問題——殊に自営者の場合、経理面の知識、技術が欠けていること、さらに職業能力をつけていても、女なるが故に就職口がない。あるいは能力を發揮できる地位につけないことや低賃金の問題、また、家庭と職業を両立させるための障壁が多いこと等が

あげられました。中でも中小企業に勤めている方々は、資金、仕事等の面に中小企業であること、女であることの二つの悪条件が重なってしわよせされている点が強いのべられました。それではこの悩みをどう打開したらいいかというところで、第一に取り上げたのは、職業能力を向上させなければならぬということ、そのために各自が研修する機会をもつということでした。自営する場合は婦人会の集りを利用したり、香川の例では、生活協同組合を婦人の手でやっている。勤務している者は組織の力を利用して、自分達の手によってたくさんの方が参加出来る方法で研修会を開くこと。経営者がやっている研修会は、ともすれば男子だけを対象にしているもので、そうした機会に女子も参加できるように要求すること。さらに職場ばかりでなく、地域的に働く婦人のグループを作っているという例もあげられ、積極的にその機会を作る方がのぞましいという意見が出ました。

次に一般的には職業補導所の利用があげられましたが、現状では女子向の職種は非常に少く、又定員も少ないので、入りたいと思ってもなかなか入ることが出来ない。一方、貧困者の場合、補導をうけたくても入所期間中は収入の途が絶たれるので、そこに行く余裕もなくなるといふ問題が出されますと、そのためには、世論を起して職業補導所の

拡充強化をはかると同時に、技能習得資金貸付を制度化するようにしたいという希望がありました。又別の面から、中学校・高等学校の職業教育を、もっと実用的な目的にかなうようにしてはどうかとの意見も出されました。

こうして、あらゆる機会をとらえて、職業能力を高めた後の問題として、雇用機会・労働条件、ことにその双方に關する男女差の問題がとりあげられました。一般に適用される職業能力を持っても、女であるということや、既婚であること、二十五歳以上になると年齢が高いということ、又、大学を卒業していると学歴が高いというようなことのために採用されない場合が多い。婦人の職場は広くなっているといわれているが、実情は英文タイプや速記などのように、高度の技能をもっているより、珠算のような普及性のある手近な技術をもつ者の方が就職しやすいということ、つまり補助的な仕事にしか婦人は容易につけないということ、職場でも女子職員に対して、仕事をよくすることよりも、むしろサービスをよくすることが要求されているという現状分析が行われました。打開策として、婦人も一般的補助的な仕事ばかりに就くのではなく、個性にあつた新しい道を開拓することが必要ではないか、そして、精神労働だけに職を求めないで、肉体労働の中にも性格にあったものがあればそれを開拓することも女子の職場を打

開していく道である。一般的に就職難の時代であるから、何でも得られた機についてその場で努力し、自分の力を磨めさせ、長い眼で機会をまつことも必要ではないだろうか。人を採用するポストにある人は大部分が男子であるために、婦人の雇用がせまくなっているというとも考えられるので、そのような地位に、婦人をどんどん送り込むことも必要であり、又機会を得た者は、責任のある地位に進んでつくり出して決力を示し、能力を認めさせ、経営者側の頭を次第に切替えさせることも大切である。もし退職する場合には、ポストを失わないように次にバトンを渡すというところまで持って行くということを話し合いました。

次に取り上げられましたのは、男女差の問題でした。自営者の場合、まず困ることは、女なるが故に、社会的信用がなく、金融機関からの融資が非常に難かしいという問題であります。だからといって、個人的に金を借りてはいけない、うっかり借りて結局貞操まで売らなければならない問題が起って、商売も失敗するという実例があげられました。結局、女子福祉資金やその他融資金を借りて、小さくても確実性のある商売をはじめることが安全であるとの意見が強く出されました。それから収入については、どこまでも自家経営者は御主人と平等に家計を負担しなければ

ているので、賃上げの要求すらもできない。この打開策としては、まず企業自体を今より安定したものにするため、大企業に対抗するように中小企業間に組合を作り、労働者もこれに協力することで、その上、労働者の組織を作ることで、最低賃金法や家内労働法等の制定を促進することなどによって、労働者が守られるようにしていくべきであるということが討議されました。

次は職業と家庭の両立の問題ですが、これをうまく運営していくには、妻の健康が問題であり、夫が妻の立場を理解して、家事やその他の家庭の仕事に協力することで、さらに家族全員の協力が必要であること、子供がある時には、育児施設の完備等が必要になってくるということでした。夫が家事を分担することについては、まだまだ封建的なものが障害になるので、夫婦が協力して社会の評判を気にせず、むしろのりこえていく勇気を持っていかねければならないという意見でしたが、実態問題としては、かなりの困難があって、どんなに理解した夫婦であっても、世評のために夫の社交範囲が狭くなったり、昇進しにくくなるという現実面に出あって、とまどいしたという例もありました。しかし根本は、職業人として尊敬しあうところがあり、お互いに仕事や職場の友人と共通に交りながら周囲への理解を促して、多くの男性に対して「男は職場、女は家庭」と

ばならない。ともすれば女は子供が可愛いというので、教育費とか衣料を自分の稼いだものから出して、御主人に分担させるのを忘れていきます。同じように経営しているのですから、御主人も半分、自分も半分、その半分は資金として貯金するように残慶策を構える必要がある、という華い御意見もありました。

それから勤務者の場合で、多くの職場では、初任給に男女差はなくなっているが、仕事に対する能力等を理由に昇給・昇進等にだんだん差がついてくるのが実情である。この打開策としては、前にのべましたように、各目の能力をのばしてそれを認めさせることが必要である。一方組織の力で解決していくという話も出ました。大きなところでは組合に婦人部を持っておりませんが、小さいところではそういうものがないので、地域の婦人団体の協力や援助を得て労働基準法を守らせるようにする。それから、賃金について、ただ低い低いというだけでなく、賃金体系を研究してどのように低いかということを、随実なデーターを持って要求していくという方面に持っていくことが必要だという意見も出ました。

特に中小企業に働く婦人の場合は不完全な施設の上に、賃金体系もはっきりせず、低賃金に苦しんでおりながら、企業自体が大企業の不振にしろよせされて倒れそうになっ

いう考え方をすてさせるように努力していけば、この困難も解消されていくのではないだろうか。これに関連して家族全員の理解と協力も大切なことで、家計の予算や家庭の運営のために家族会議をもって、家計のやりくりをみんなの了解の上で行っていることや、家事労働もみんなで分担しあって、合理的に行っている例もあげられました。又、家事労働の負担を少なくする方法として、電気洗濯機・ガスコンロ等を利用すること、一軒で求められないときには、何世帯かで共同して利用するようにしてはというような意見が出されました。

育児のことについては、現在託児所のような施設があまりにも少く、しかも利用したい人はますます多くなっている現状である。その上、託児所は八時から五時までしか預らないので、普通の労働者は不便である等の難点があげられて、一方現在ある保育施設も、国家補助の打ち切りで経営が難しくなり、親の負担がふえて、一般の勤労階級には利用できないような現象が起きてきているという面があり、この打開策として、婦人会が援助のための催しをして成功している例もあげられましたが、健康保険や失業保険のよいうな育児保険の案も出され、この際、世論を起して女性の力を結集して、保育施設・制度の拡充強化を政治に訴えなければならぬという意見に一致しました。

以上のことは、結局二日間の結論としまして、これらのいろいろの障害を打開していくには、まず婦人の組織をもつこと。個個では弱くから、職場の労働組合と地域団体が提携して、女性としての共通な問題、又、中小企業に働く人達の問題を取上げていけば、その解決が促進されるのではないかと、という話合。さらに、女がいくらうるさく叫んでも、日本のこうした面を支配しているのは男性がほとんどであるから、この男性に、女性の悩みを真摯に訴える場をあらゆる機会をとらえて作らなければならない。政治による解決をまつものとしては、大企業の不振によってしわよせされる中小企業を、もっと安全にするための立法化、職業指導施設、保育施設の拡充強化、社会保険制度の確立等があげられましたが、そのために、先程有沢先生がおっしゃいましたように、精励しい政治を行ってもらうように政治に大いに関心を持っていかねばならないということになったのでした。(拍手)

江上 二日間の結論をたいへんあざやかにお出しになりました。ありがとうございます。ちょっとみなさまに御注意申しあげるのを忘れましたが、一部会ごとに、問題を片付けて参りますとたいへん時間もかかりますし、横の連絡が取りにくいので、本日は四つの部会の報告を一通り伺いましてから、問題をしばってのお話合をしたいと思います。

担で苦痛であることに変わりはないが、経営に対する発言権はある。しかし仕事の方が忙しくて家事をみる時間が少い、という報告でした。以上の発言から、婦人が家族従業者として経済的実力をもち、発言権を得るようになるにはどうしても積極的に経営に参加しなければならぬこと、消費生活を合理化すること、社会的環境を改めること等が問題として出されました。

この出された三つの問題について、一つ一つ討議しましたが、まず婦人はどのようにして経営に参加していったらよいのかについては、農家の場合は、婦人が経営の計画に参加するにはあまりにも忙しすぎて、農業知識を得るための時間が無い。又、家長の権力が強く、若い者の発言する機会を与えられないような社会環境にある。男子の協力がたらないので、婦人が試みる機会がない。たとえ夫が協力しても、世間の好奇心にわざわざいわれるという状況にある。商家の場合は、複雑な帳簿づけや税金などのことについての知識が乏しく、地方によってはその知識を得る機会、例えば講習会とか夜間の簿記学校がないし、又、主婦自身の意欲が足りないというようなことが現状として分析されました。この対策としては、新聞や雑誌を読み、ラジオを十分に利用すること、又個人ではなかなかできにくいので、グループや婦人会などの集りでお互に勉強したり、時には

それでは第二部会は、香川県の大浦さんにお願いたします。

大浦しめ(第二部会) 私は第二部会で、この部会では農家や商家の家族従業者としての婦人の経済活動は如何にあるべきかについて討議しました。お集りになった方は、農業が十二人、商業が三人でしたので、討議は農家の問題が中心になってしまったようです。農家でも地域的な条件とか、経営規模の大小によって婦人の立場に大きな差がみられます。

まずはじめに、各自五分ずつ家族従業者としての現状をのべましたが、農家の婦人の場合は、農作業を男子と同じようにやっただけに家事労働という重労働の負担があり、しかも収支は一切知らされていないし、労働に対する報じゅうも与えられていないということ。従って、主婦の現金収入は殆どないので、副業によるか、へそくりを作るか、あるいは実家にたよらざるを得ない。封建性が根強く、家長・姑の権力が絶対で、若い者は農業経営の計画面には口を出すこともできず、ただ労働力を提供するだけで、救われない状態にあるという意見が圧倒的でした。しかし地理的にも恵まれている佐賀・長崎の方選からは、婦人の立場が認められているという、うらやましいような実状の報告もありました。商家の場合も、家業と家事労働の二重負

農業普及員・経産省等呼んで積極的に農業知識を深めていくようにする。これを実施して成功している実例がのべられていました。農作業日記のようなものをよくつけておいて、妻の経営分担者としての重要性を認識させること。又、副業をする場合、全部をまかせてもらい、その収入も自分のものにするようにすれば、働きもはつきり認めてもらえろという実例が報告されていました。

一方規模の小さい農家では、経営の分担者としてどんなに働いても収入の絶対額が少いので分前を得ることは不可能であり、現金収入を得るためには小家畜——にわとりとか、豚などを主婦の手で飼うのが一番良い方法であるとか、全員が一致した意見を出しました。しかし、このように農作業も家事も家畜の飼養も、主婦の一手に引き受けてすることは、婦人の労働がますます過重になるばかりで、その結果、婦人が早く老けこんだり、子供の教育に手がとどかなくなるため、子供が不良化するおそれが多分にあるという反対意見もあり、むしろ婦人を農業労働から解放すべきだということでした。

これについては、現在の農家では婦人が働かないと成立っていかないので、農作業の機械化・協同化などを促進すること。家事労働は家族全員協力してやること等によって、できるだけ労働を軽くするような方法でいくべきであ

るというのが大部分の人の意見でした。ここで機械化のしわ寄せが女にくるといふことや、協同化の不利な点があげられていました。機械化するために借金するので、その借金を返すために、余計に働かなければならなかったり、あるいは機械の手入れに却って時間がとられたり、あるいは、機械を入れたためにういた時間を他の仕事にむけるために、却って主婦の労働量が増えている場合もある。又、共同炊事も比較的にうまくいっている地域と、戦時中の悪い結果が尾をひいて、なかなかうまくいかない地域もあるの、その両者の話し合いもありました。

次に消費生活をどのようにしたらよいかについて——先にも申し上げたように、家計は男子がにぎっているの、家族の衣食、子供の教育費などに十分な出費をしないので、たとえば、冠婚葬祭に身分不相応なお金をかけたり、家を新築したり、非常に不合理な支出をしている現状です。ここで消費の担当は婦人がすべきであるという意見が一致しました。それではこれをどうやって実現するようにしたらよいかがですが、まず部落全体の婦人が協力して啓蒙運動を起し、不合理な慣習を取り除いていくようにする。このことについては農協婦人部の啓蒙運動によって、かなり成果をあげている実例がのべられていました。

次に消費を合理的にするために、農業簿記や家計簿を正

確につけて、家族会籍を開いてこれを公開し、家族全員で検討しながら翌年の予算をくみ、計画経済を行っているという意見に対し、取達の増減、農産物価格の時期的なずれ等によって農家の収入は非常に分けにくいといふことや、赤字経済であるため予算をたてにくいので、必要に臨じて売ったり買ったりしているという意見も一方にありました。その他自分の家で使うものはなるべく自分たちで作って、無駄な現金支出をしないようにという意見も出ました。農家は現金を支出することを非常にいやがっているけれども、農産物はなるべく商品として売ることを考えて、日用品を購入するようにすれば、物によっては安い場合があるし、そのような労働からはなるべく主婦を解放してきたいとの意見が一方に出ました。

次に社会的環境を改めることについて——農村では婦人が協同活動によって、家の人産や周囲の人々の顔をきりかえていかなければならないという意見が前の二つの課題を討議している時に出ておりましたが、指導者の如何によってなかなかうまくいかないの、長い努力が必要であることが云われました。

次に、商家については、仕事の性質上、企業の一部が把握されて、経済的には恵まれているが、妻の家族分担者としての能力に対する社会的信用がうすい。又、個人商店と

して一番の悩みは、就業時間に制限がないということで、商店法というようなものができて、就業時間を定めた。

育児の負担を軽くするために、公営保育所を増設して欲しい。農家は農協の婦人部・婦人会などのグループがあるが、商店の主婦にはそのような横のつながりがないので、中小企業の主婦たちの組織を作りたい、というようにことが商業従事者としての主婦の立場から痛切にのぞまれています。この他産院制限、婦人の財産権の確立という立場からの相模、それに関連する二三男の問題等についても討議しました。産院制限については従来の人手を増やすための多産という考え方はうすれてきたという意見があり、相模については、女や二三男は、相模を放棄しているという事実がのべられていました。

だいたい以上のことが二日間にわたって討議されたわけですが、最後に結論としてまとめられたのは、婦人が経済力をもって家庭において発言権を得るためには、婦人自身が経営の分担者としての自覚をもつことがまず第一に必要であること、そのための障害は勇気をもってつきやぶっていくこと、封建的な地方であればあるほど、婦人の組織を強固にして、団体の力で改善していくこと、団体や地域で改善できない政策的な問題は、議員に呼びかけ、積極的に関与することなどでした。

江上 それでは第三部会の白方さんをお願いいたします。

白方静子(第三部会) 私は第三部会の「婦人は内職をもつ場合如何にすべきか」について御報告申しあげます。

まず私達はアドヴァイザーの坂寄先生を中心に、一人五分ずつの意見発表をし、実情を通して出された問題を、内職の実態、内職と家計との関係、内職と家事との関係、内職と家族との関係の四つにしばって討議しました。

はじめに、なぜ私達は内職をしなければならぬか、これはどうしても内職をしなければ生活が成立しないといふことが一つ。これは未亡人とか、夫の収入だけでは生活できないという人です。もう一つは、生活には困らないけれども、婦人の地位向上のために経済力を持つということが必要であるという建前からやっている人にと分れておりますが、家庭婦人が働こうとする場合、家事・育児のような家庭的条件から、家を留守にすることができないこと、又既婚者の雇用機会が少いこと等の社会的条件から就職は難しいので、内職をしているというのが出席者全員の声でした。

それでは「内職の実態」はどうなっているかといふことと、工賃については、不当に低いといふことがいつも取り上げられて、需要者と直接結びついてする場合は大した間

題にならないが、ミシン加工・製本・袋張りなどのように下請負の仕事をしている場合は非常に安い、例えば十一年間洋裁の内職をしている人の例をとると、はじめは近所の人に頼まなければならぬというような形で仕事をしていたが、仕事が行き詰つて生活が不安なので、現在は婦人既製服の内職をしているけれども、スカート一枚三〇円、合オーバー一枚三〇円という工賃で、睡眠時間をきりつめて、身体をすりへらし、一日十時間から十三時間働いても、月に六、〇〇〇円位の収入しか得られない。又製本やミシン加工をしている人は、一時間五円と十円で、月に二、〇〇〇円にしかならないという状態です。最近のように失業者が増えて内職をする人が増えてくると、ますます工賃が低くなってくるので、最低賃金を保障する家内労働法のような法律が立法化され、労働を正しく評価してほしいという要望がありました。一方、内職をする人が多くなると、何か自分ではできないという特技をもつことも必要になってくるので、技術を身につけるために、また高めるために、職業補導所・授産所のような指導施設を開設してほしいという要望も出ました。このときに現在の授産所の在り方について官僚的であるとかいろいろの批判も出ていましたが、もっと運営を上手にし、親身になって世話

をしてもらいたいということでした。しかし、安い賃金でその日その日の生活に追われている者にとっては、技術をたかめる暇もないという切実な声もあったことをお伝えします。以上の問題を解決するためには、どうしても内職をしている人同士が手をつながなければならぬ。このことについて山形県の米沢市では、こけし人形揃いの仕事をしている人が五〇〇人もおり、この人達がみんな手を結び、工賃を引き上げなければ業者から仕事を受取れないと申告せをして、工賃値上げに成功し、今では業者と内職者との間で納得のいく仕事をして、月に九、〇〇〇円から一五、〇〇〇円位の収入があるようになったという良い体験談がありました。

次に内職によって収入を得る場合の家計の在り方はどうあるべきかについて話し合いましたが、さき職申し上げたように、内職をはじめた動機に、家計補助のためというのと、生活をそれで維持していかなければならぬのとの二つの型があったことによって問題はちがってくるのです。が、家計補助のためにしている人の場合には、夫が妻かどちらかにまかせるということでもなしに、夫婦の連帯責任で家計をもっているんだと考えるべきであるということになりました。

次の、内職と家事との関係をどう調節するか、内職者は

母親としての仕事をしなければならぬ、妻としての仕事もしなければならぬ、職業婦人としての仕事もしなければならぬ、一人三役ということとはとても並大抵の苦勞ではありませぬ。内職をする時間は一日五時間から十三時間位は必要なので、その時間をどういうふうに生み出しているかということが一番大きなやみになっているわけ、この際生活は徹底的に合理化しなければならぬのです。

そのためまず、個人的には衣食住の改善をはかること、夫をはじめ家族の理解協力を得ること、生活時間を計画化することなどがあげられておりましたが、これは健康を保つためにも早急に実行に移すべきであると強い意見がありました。その他地域的にグループを作って共同炊事をする、課のような形で金銭の面で相互扶助をする、当番制にして必需品を共同購入する等のことも一つの方法ではないだろうかということもありました。しかし、明日の生活よりも今日の生活と、その日の夕食代にも困る貧困家庭の場合は、先に申し上げた個人的な解決すらできないとの意見も出て、世論をおこして最低生活の保障、健康保険の適用等の実現によって社会的にも解決されるよう要望が出ております。

最後に残された家族との関係をどうするかについて、まず取り上げられたのは、大事な子供をどうするかということ

とで、それには保育所とか乳児院とかいうものを増設してもらいたい。都市周辺では学校教育が二部授業なので、学校から早く帰るのと、内職をしていると子供の勉強をみてやれないので、子供たちのために学習クラブのようなものをその地域に作って、それを補ったらどうかということも出ました。

夫との関係については、奥さんがあんまり働くと、旦那さんがいやがるということや、妻の収入が多くなると、夫の方は給料を家に入れなくなる等の問題が出ましたが、それも内職をしたいた頃の問題で、長年やっている、妻も経済的に独立しているのだという認識の上に立って夫の理解は深まり、家庭が非常に民主化されてくる。たとえば、前は自分の身のまわりの些細なことまで妻にやらせていた夫が、妻が内職をするようになって、子供たちが家事の手つだいをするようになってきたら、夫も子供の手前、自分のことは自分でするようになったということもあり、こうしたことから封建的な考えをもつ夫の場合は、子供の協力によって理解を深めさせることができるということがいわれました。

以上のことを総括して、いろいろの問題をどう解決していくかをみますと、さっき申しあげた、明日の生活よりも今日の生活をどうするかという死活問題で内職を

している数多くの人のためには、最低生活を保障する社会保険制度の強化、職業補導所・授産所等の増設、労働の正しい評価による相当の賃金の支給、それから夫の賃金を引上げてもらいたい、また、生業資金の貸付制度が必要だということなどでした。

次に組織による解決としては、内職をする人たち一人一人が隣り近所に働きかけて、その地域で同じ仕事をする人達のグループを作り、横の連絡をとりながら、婦人会・労働組合等に関心を持ってもらうように働きかけること。結びとして、内職は単に内職としての問題でなく、日本経済、大きくは世界経済に結びついて左右されるから、政治による解決が必要で、そのためには、婦人一人一人が政治にもっと関心をもって、次の国会には自分達の味方を沢山おくり出したい。一方内職の仕事は、一般に生活必需品が多いが、これは平和経済がよくならなければ発展しない仕事であり、具体的な経済問題でもあるので、この面とのつながりを考えて、内職を認識することと結論づけられたのである。

江上 それでは引き続き第四部会の、埼玉県の伊藤さん。

伊藤五枝（第四部会）第四部会は、婦人が家事のみを担当する場合の経済活動はいかにあるべきかについて討議しました。まず第一に生活の現状——例えば夫の職業・

収入・家族数その他環境の特徴等について各自五分ずつ意見の発表をしました。私達の部会の会議員は、主として俸給生活者で、大消費経済の喪失を握っている主婦の場合として話が進められて参りました。

その意見発表の中で、みんなが問題と考えている点は、

- 1、家計の計画化と建設的な消費。
 - 2、生活技術の向上、時間の経済。
 - 3、生活合理化、特にそのために婦人の虚栄心をなくす。
 - 4、家庭経済と国家経済の関連の問題。
 - 5、家事作業の評価。
 - 6、主婦が各々の才能を生かし、社会的な活動をするべきであり、そのための組織や社会施設を作るような婦人の団結の必要性。
 - 7、消費者としての主婦の団結、例えば共同購入など。
- 以上の問題点を大きく分けると、
- 1、主婦の経済活動の内容。
 - 2、家事作業に対する評価。
 - 3、衣食住・家計等の生活技術について。
 - 4、協同活動について。
 - 5、主婦はまず何をなすべきか。
- の五項になり、その一項目ずつ順を過って討議を進めました。

た。

第一に「主婦の経済活動としてはどのようなものがあるか」——これについてはじめに主婦の家事作業を細かく分析してみたら救えきれないような仕事があった、そのどれを一つとっても大切なものばかりであるけれども、従来余りこれらの家事作業に重きをおきすぎていたので、これからひとつと家事作業を合理的に選り、簡素化して、余った時間を主婦の教養や社会的活動のために活かして使いたいという意見にまとまりました。この問題は次の問題とも関連があるので、このことを考えに入れたから「家事作業がどのように評価されているか」ということに入り、まず主婦自身がどのように評価しているかについては、家事作業を価値あるものと考えていることで意見が一致しました。

ここで更に一つ、家事作業だけに専心することの方がよいのか、又それ以外に収入のある仕事や、社会的活動をしたいと思うか、という点では意見が分れ、前に共済会を志していた人から、「職場と家庭の両立に矛盾を感じて家事に専心することにした、主婦の仕事もなかなか生産的な面があることを発見した、地味であっても家にいて家庭を守る主婦があつての社会であり、主婦は家事に専心した方がよいのではないか」という事がいわれました。このように考えている人達でも、子供が大きくなって時間的に

余ゆりができたら、社会のために役立つような積極的な働きをしたいと希望しています。そのことに対して、主婦と

いってもそれぞれ個性にあった特技をもっている、そのもっているものをお互に交換し補いあつていけば手間も省け、経済的であつて、しかも仕事の甲斐がある。子供が大きくなってからなどといつたのでは年をとつてしまひ、仕事をやれなくなるという意見もありました。このことについては結局、家族の人数の多い地方では、余りにも協力が必要なのですが、封建性の強い地方では、余りにも理解がなく、今だにお嬢さんを労働力と考えているにもかかわらず、その労働の価値を認めないところが多いという発言もあり、このことは家事に対する社会的評価の反映であるから、一人一人の主婦の努力や、協力によって社会的環境を改めなければならないということになったのです。

第三の「衣食住・家計等の生活技術について」その計画化の問題では、この会議への出席者は、生活技術を計画化していくということはそれぞれすでにやっていることで、その面では、それぞれエキスパートといったようなかたちです。時間をかけませんでした。その時家計簿に對する考え方、つけ方という問題が出ましたが、先程第二部会の方から、収入が少いから家計簿がつけられないというお話がありました。私共の部会では、それだからこそな

お家計簿をつけなければならぬ、いやな、いや、そうするとつけたものから赤字を克服していくという第一歩がふみ出されるのじゃないかという意見だったのです。そして大多数の主婦はつけないから、つけるように周囲の人たちにおすすしめという約束もしました。

第四に「協同活動について」ですが、出席者の中には社宅のような集団住宅に住んでいる人が多かったのです。その人たちから「主婦の会」のようなものを作って、必需品を市価より二割位安く買入れたとか、品質の改善などにも働きかけて成功しているとか、又、近所の人たち四、五人で死蔵物資を交換したり、生産地からまとめて販などを買ったり、又、生活技術を教えあつて一緒に合理化を心がけている等と具体的な例があげられていました。

こんな話し合いをしている中に、社宅のような集団住宅では、夫の職場における地位が主婦たちの交際にも強く影響し、グループを作つて集つては他人の口をいったりして無駄に時間を費している。何か会合をしようといえど皆無物の事ばかりにするなどという周囲の意識の低さに絶望的になっている人もあり、又、よい指導者が欲しいという声もありました。これに対しては、めざめた若い人たちがまず何か手始めによいことをして、年上の人たちを次第に動かしていけばできないことはないし、やり出せば、

仕事は次から次へとたくさんあつて、無駄口などきいていられる暇はない筈だから、何か具体的なテーマをもつて集ることが大切であること。そしてこのような問題を早く解決しようとして、指導者を望んだり、会合の時にユニホームを着たりすることは手段としては考えられるが、誤ると危険性があるという意見も出ていました。

それから政治と家計は密接な関係があるということ、これは各部会でも出ておりましたが、私の部会でも、選挙の時には婦人自身が自覚のある正しい一票を使うことが大事だ、ということにお話が落着きました。又、ここに集つた人は毎月定めた収入のある家の主婦なので、一応安定した生活をしているように見えるが、もし夫が失業したら、誰かが病気になるという不安もあり、その上、子供の教育、自分たちの老後の問題など考えると、個人の力ではどうしても解決のできないものがあるので、社会的、國家的な保障が必要であるということも出て、そのために、一人一人の自覚によって政治をよくしていかなければならないということに意見が一致しました。

第五の「主婦はまず何をなすべきか」については、今までの討論の中にも出ていたことで、すし、時間もありませんでしたので省略して、めい／＼これはできるといふ可能性のあるものからどしどし実行に移していこうということに

なりました。

江上 たいへん御熱心な討論が進められて、なんと申しますか、女性の強さというようなのを私は感じました。

これはどの熱意をもつてみなさんが討議し、これほどの大きな困難にぶつかりながら、少しの暗さもなく朗かにお話を進められたということは、おそらくこれだけの多勢の方がお集りになったからじゃないかと思ひます。それと同時に、みなさまの背後に、多くの同性が、同じ立場で同じ悩みを持っていて、それを一日も早く解決する方向に持っていきたいという熱望があったのじゃないかと思ひます。そういう意味で私はたいへん唯今の御報告で、短い時間ではございましたけれども、意外の意味を……つまりお話になかった意味が十分に含まれて表現されていたと思うのでございます。

これからの討論がたいへんなのですが、大体みなさまのお話を要約しますと、婦人の職業そのもの（内職も含めて）についてのいろいろな話し合いがなされたと思ひます。例えば賃金の問題、あるいは技術の問題、あるいは働きたいということ、——殊にお話を伺つておきますと、家事労働のみをしていらつしやる主婦でも、生産活動をしたいという御意見が大多数であつたと思ひます。それで、仕事をもつて直接収入を得る仕事をもちたいと

思つても、いろいろの隘路があるということ、それから次には、職業と家庭生活を両立させるための問題、それから職業と家計の問題、特に生活費を補助している場合、あるいは婦人でありながら生活の全部をそれで支えている場合、あるいは婦人が職業を持つ場合の子供の問題が解決されなければならぬ。それから最後に、職業を持っている婦人の社会的地位の問題、また家庭における婦人の地位の問題、こういうふうな問題に分れると思ひます。ここでみなさまのお話の中で残されている問題は、いろいろな打開策は分つても、それが現実の問題として、どうしてうまくいかないか、というところにあると思ひますので、しばらくの間、そういう方面にお話を持って参りたいと思ひます。これがまた残されますと、おみやげがなくなつてしましますから……。

それではさき程、各部会の方々から共通した解決策として社会的に解決しなければならぬ組織の力を持たなければならぬということでしたが、そこまではみなさんわかつていらつしやるわけだ、それを具体的にやろうとする場合に、阻害ものはなんでしょうか。

先程第三部会からお話がありましたが、組織を持つと社会的解決をしようと思つても、必要な人が声を上げる時間すらない、ということでしたので、そこに考え併せて、

みなさんの話も進めていたのだと思います。

◇ 女はお喋りですから、地域に帰ってからおしゃべりして細ったらどうでしょうか。一年かかってもいい覚悟でしゃべって帰って、二人とか三人とか同志が集ったら婦人少年室に行つて話して……それでもお役所ですからなかなかほかからこないと思いますから、三人か四人獲得したら新聞なんかにも広告したらいいと思います。

江上 いまの方は、手近なところから始めてみることを御推奨になっています。女のおしゃべりという、持っている武器を利用して能力を発揮しようというわけでございます。

しかし、私はいまの意見にもっと加えて、組織を作る上において、なにか阻むものがありやしないだろうかということをお心配するのでございますが、いかがでしょうか。

◇ 江上先生のおっしゃいましたように、方向はわかったが、それを実現することに対して横の繋りを持つのも大事ですが、それに出てくる手合は決っております。どうしても消滅的になります。そこに出られない人に、本当の声があるから、出られない階級の人を啓蒙するのが大事だと思います。

江上 では、啓蒙するにはどうしたらいいかということですね。

◇ 婦人全体の自覚ということが大切で、自覚を高めるには婦人団体を利用するのが一番手近だと思います。田舎では婦人団体が眠っているところもあるようですが、かなり活動に活動して、なにかしたいという意欲に燃えていると思いますから、婦人団体に呼び掛けるのが一番早速だと思います。

◇ 先程のお話を聞きますと、一番啓蒙を要するのは農業に職を持つ婦人だと思います。その方達の組織を持つとしますと、農村には農業協同組合が組織されております。その婦人部で農閑期に講習を開いて、婦人だけでなく、男子も老人も一緒にした講習を開いて、大いに啓蒙したいと思っています。

江上 いまの御意見についてなにかありますか。

◇ 私は、内職をしておりますが、勿体ない時間をさいて内職をしている人たちが百五十名ばかりの署名したものを市役所を持って行きましたが、市役所で全然受け付けてくれません。それを認めてもらえないというところ私共は分離するよりはかたいのです。それを役所である程度取り上げてくれるということが、組織化することの前提条件じゃないかと思っています。

江上 どのくらいの程度に取り上げればいいのでしょうか。地域的には地域婦人団体があって、私の近くでは区役

所の人が相当手伝っています。先程の、農協婦人部では外部の男の方のお手伝いも入っていますが、そういうところで案外一所懸命になっています。女の人の必要な組織に対して冷淡で、あまり要らないような組織にたいへん温い手が差し伸べられているのじゃないかと想像するのですが、

——私は別に挑発しているわけでもなんでもありませんが——そういう実情をお互に知らせ合って、ほんとうに働けない人が聞かれないのに、組織を持って組織を持つていっても無理だと思います。ですから、私共がお互に手を取り合っています、横も縦も繋ぐという御意見はよくわかったのですが、緊げない、それにはどうしたらいいかということについて、少しはなんかの示唆がなければ、お念仏に過ぎないと思います。

◇ 婦人の組織の問題を妨げておりますのは婦人自身だと思います。幹部の方は手を取り合っていますが、下部の方がお互に反感を持ったりして、指導者にはなりたがるが、人の意見を聞いたり従ったりするのをいやがる傾向がある。お互に素直な気持ちになって意見を尊重し合い、気持よくつづいていきたいと思っています。婦人同士の反感が一番組織の問題を妨げていると思います。

江上 婦人同士の反感というのはどういう反感でしょうか

か。同じ生活のレベルにいる人は仲好むやるけれども、生活のレベルや環境や条件が揃わない人はグループに入れないということでしょうか。

◇ グループでも、同じように一定の収入があって、一定の食生活ならいいが、同じ部落でありまして、片方は地主、片方は商家とかに分れておりますから、片方がよくなれば、下の人がねたむとか……。

江上 それはたいへん困った問題です。こういうことから解決していかないとしようがないと思います。

◇ 今のお話、主に家庭婦人の組織の問題だと思いますが、私は、既成の婦人団体とか、農協の婦人部という組織を自分達が利用するということがまじし、そういうことはいいじゃないかと思えます。そういう中に、自分達の生活のために一緒に協同しようという考えかたの方がいるなら結構ですが、こちらから利用して命令を下したりしないで、生活の中から一人でも二人でも、学校の子供の友達のお母さん同士三人でも二人でもいいので、すぐ、名前を、〇〇地域婦人会と焦らずに、組織の一番基礎を考えていきたいと思っています。

江上 それじゃ、傍聴者の方から御質問していただきます。

◇ 私はどういうところにも、組織を作れるというこ

との例を一つ出して参考にして、いただきたいと思います。

豊島区では、未亡人の方々が組織もなくていろいろのことを一人で悩んでおりましたが、二、三年前から豊島区に出来た婦人団体協議会幹部の人たちが音頭を取りまして、立派な未亡人会を組織いたしました。ですから、その地域地域の団体の指導者……という言葉に響けがあるかも知れませんが、そういう立場にある方々が、内職方面でも、またいろいろの部門においても音頭を取って、組織化していけば必ずできると思いますが、いかがでございましょうか。

江上 いろいろな御意見が出て参りましたけれども、たいへん革新的でございまして、まともがついておりませんので、この辺りでアドヴァイザーの先生の御意見を承りたいと思います。

どの部会からも組織を持つというところがありました。が、いかに上手に持つかということについては一つも具体例がなかったと思います。そこで、女は組織を持つ力が弱いのかどうか、女でも組織を持ってもその組織が有効に機能を発揮するかどうかという点について、やはり一つの大きな疑問があると思いますので、氏原先生、いかがでございませうか。

の討議の様子については御報告がありましたので省きまして、私が今、婦人少年局の調査を通じて実際にぶつかりました事例をいくつか申しあげたいと思います。一つは、全く生活保護・日雇、あるいは零細企業というところ、で困って働いていらつしやる方、内職でも、四六時中眼を三角にしてやっても、お子さんの、あるいは自分の夕方のほうれん草十四買うにも困るという方々が組織されているお話を簡単に申しあげます。

目黒の方では、少しでも高い、少しでも有利な内職ができるようにと、二百四十人からの方達が、内職を通じて組織されております。

それから結核で入院していらつしやる方が、江戸川区にもずいぶんありますが、そういう方達が扶助を受たり、あるいは健康保険を利用して入院されている方が多いのですが、そういう方々に、今、医療費一部負担というような問題が出てきております。そういう問題を通じて組織化されていく、そういう、ほんとうに日常の困る問題がもたらした時には、非常に驚くべき数の方達が集って来られる。それでこういう身近かな、切実な問題が婦人の問題の中にもありますので、そういうところから展開していけば非常に契があるんじゃないかと感じるわけです。

江上 それでは豊村の問題について日高先生にお願いい

氏原 御婦人が組織を持つ能力がやなしや、単刀直入にお答えいたします。私、専門が労働問題なので、地域の組織ということは詳しくありませんが、労働組合の婦人部につきましては、男と劣らず組織の能力があるのであります。労働組合の婦人部といえますと、同じ会社に勤めているお若い御婦人方で、利害が共通しておりますから比較的まとまり易い。ところが地域の婦人団体は職域のないお母さん方の組織ですが、互に関心がなく、両方ともそっぽ向いているようで甚だ妙だと思います。

実際問題として、今日も、家庭の内職の問題とか、あるいは中小企業に勤められておられる問題がとりあげられましたが、こういう問題は地域の問題でありまして、同時に勤めておられる方の問題です。どうしても地域として取り上げなければ片付かない。こういうことを考えますと、協同組合・労働組合・地域婦人団体の、もう一その協力が必要ではないか、家庭のお母さん方と組合のお嬢さん方が仲好くすることだと思えます。

江上 おそれ入りました。それでは坂寄先生にお願いいたします。

坂寄 第三部会の中で特に問題になりましたのは、ほんとうに今日の生活を支えて行かれる方々の組織の問題であります。これにつきましては、先程白方さんから、部会です。

日高 先程そちらの方で、農協の婦人部を通じて、というお話がありました。たいへんいわば手取り早い御提案と思つたのですが。

先程氏原さんがおっしゃったように、例えば工場労働とか会社で活動していらつしやる方という場合には、立場も同一です。非常にまとまり易いと思えますが、農村では、社会的な構造というものが非常に複雑で、農協などにも非常に巧く行っているところもあるでしようが、また、いろいろ問題を持つているようなところも多いいんじゃないかと思つたのです。やはり、豊村のそういう婦人団体の場合、一番大切なことは、一部の有力な方々、あるいはお母さん方だけの会にしないで、下からの、もっと若い方々が集まるように工夫していく。あるいは、非常に貧しい農家の女の方が、その中に入つて自由に発言できるように、なんとかしていく、いろいろ難しい問題があると思いますが、そういう工夫が大切ではないかと考えた次第です。

江上 それでは西酒子さんから、家庭部会の方を――
西 契は船田先生の御専門で、私はそういう家庭の婦人が組織を持つ場合の具体的案は、契際持ち合せていないのでございます。と申しますのは、親会的には持ち合せておりますが、私最近、やっと家庭婦人に八割方足を入れる

ことになりまして、それ以前は百パーセント近く、外の仕事でありまして、いわゆる職業婦人であったものでございまして、日常の家庭生活の中の主婦の活動をしておりませんので、非常に部会の方々から敬愛していただきまして、むしろ私が部会でおみやげをいただいたばかりでございます。

それで、先程大矢さんから、婦人会その他大きなものはいきなりアテにしないで、身の廻りから組織を作っているというお話がありましたが、先ず、みんな忙しいが、忙しい家事労働についてもそれぞれの生活技術を持っている。例えば洋裁の巧い人、お洗濯の巧い人、子供の御機嫌をとるのが巧い人もある。そういう方達の特技を生かして、隣り近所、そういう方達がなにかの時に寄って、お話をし合って、みな家事負担をいくらかでも浮かしていった、ということでございます。ある方は、例えば本——「主婦と生活」とか「婦人公論」とか、育児に関する本とか、洋裁に関する本をお買いになるのに一人ではたいへんかかるから、グループになってやりました。というお話もありました。また友の会の会員の方からも、とにかく自分の身の廻りから同志を集めてやっという、いくらかでも家事負担を分担してやっというお話でございました。

その時の進路をどうして解決したか。二、三のお若い出

それは勇気だ、ということになりました。誰が何と言っても、言う人は積極的のボーイコットする気持で、仲好くやる方から集まれば、その方達も仲間入りしてくるという御実験も伺いました。みなさんの代りに御紹介申しあげる次第でございます。

江上 それでは最後に船田先生から。

船田 理念からこうあるべきだということは先生方の話がありましたから、とにかく今日、家庭経済を掲げて立っている主婦連合に六年間も関係しておりますので、団体として一応成功しているとも思っていますから、そのことを御紹介しようと思ひます。

主婦連合会は、本部から指令を出して支部を動かしている団体ではなく、家庭婦人の最寄最密のグループがありまして、そこで生活問題を取り上げて、家庭経済の向上ということを皆さんが申し合わせたように一所懸命やっております。そのグループの代表者達が主婦連合会に毎月一回集って協議いたします。代表者も、部会のつく方が代る代る出てくるわけで、お互に自分達のしたことを発表し、他でしていらっしやることを聞きまして、それを自分達のグループに持ち帰り、みんなそれを実行いたします。

そういうふうにして自然にでき上って参りましたのが、例えば米価の問題、電気料金の問題とか、豆腐の値上問題

庶民の方達から、私共やろうと思っても障路がある。例えば女の虚栄心の問題とか、あるいは出し張りと言われるとか、近所に御年輩の婦人がいらっしやって、若い者がやると、生憎だと言われて困っている、ということ、そういう問題をお持ちになった方もございまして、その問題に對して、実践の御先輩から、そういう場合は、若い者であつたら、隣り近所の人の中からお話をわかりそうなお年輩の方を探して、お言葉をふんでいろいろお話しする最中に、その方を引っぱり出して、そういう人を中心にして横の繋りを持つことも一つの方法じゃないか。また、贅物のこともいつも問題になるが、自分は率先して——今日は贅物を着ているが——普段はボロを着て、あるいはモンペを穿いて、積極的になるようにしております、というような御苦心談もありました。ある方は、——これは苦肉の策でちょっと問題になったのでございしますが——どうしても贅物のことが問題になるので、不本意ではあったけれども、上っ張りというみんなの制服みたいなものを作ったが、割切れない気持でいるけれども、組織を持つという当面の目的のために、暫定的にやっているというお話で、とにかく抽象的でなく、ほんとうに自分達ができるといふ範圍内で、地域的に、小規模にやっという例を開きまして、根本的な問題はなにか、ということになりました。

などで、問題はいろいろありますが、できるだけ台所に関係の多い問題を取り上げて、世論をおこすとか、関係官庁にもちこむとかして、少しでも生活を楽にするようにしております。

私共がこうして成功しているのは、私達が生活に結びついたテーマを掲げて立ったということによっていると思ひます。それともう一つは、中心になります人……と申しますと露骨がありますが、指導者などという言葉は使いたくない。決して指導者意識を出さないこと。それから先程第三部会の方から御報告がありましたが、あのよう、実行力を持った方が中心になって、ほんとうに縁の下の力持をして下さる方を導く、ということ、俗ますたゆまず、飽きないです、少しばかり唇口を言われても止めない、人数が少し減ってもしよげないでやっている、支援して下さる方があるものだという自信を持ったわけでございます。ですから、身近なところから、自然に同志を得て、膨張して、共通の問題が大きく結びついていく、という過程を取っているわけです。

江上 もっとゆっくりお話をしたいと思いますが、時間がないので——という言葉を言わなければなりません。

組織を作るのには——というので、みなさんたいへん活潑に御意見いただいたわけでございますが、結論的に申し

ますと、身の廻りから、地についた、頭の上から命令された組織でなく、自主的なもので始めなければならない。抽象的な団体でなくも、具体的な、生活の中から出たもので、目的を持った組織でなくては長続きがしない。それから、組織を持つことと自身が民主的なことでありませう。民主的な組織というものを十分生かしていかねければならない。それから組織を持つのに非常に大事なことは、個人個人が持っている能力を十分発揮すること、つまり、非常に忙しい人ばかりが集って組織を持つてうまく行かない。暇がある人は暇がある能力を生かし、忙しい人は自分の問題を提出することによって一つのテーマを打ち出すということ、すべて個人の能力を生かすこと。組織を作るには忍耐が要ること。勇気が要ること。こういうふうに、一口に言いますともうでさうしたような気がいたしますけれども、これはまだたいへんでありますが、時間がないので組織はでさうしたことにしまして、今度は、こういう組織を用いて、社会的に解決しよう、先程申された問題の中から第一にしてほしいこと、婦人が職業を持つために第一に社会的に解決してほしい問題を、手早く、あれです、これですと、理由は結構ですから、簡単にのっしょっていただきます。そういたしますと、大抵組織を利用してそういう問題に近づくことができると思います。

◇ どの部門からも声が出ませんでした、計画出席、産児制限の一層の普及も必要だと思います。

◇ 丁度NHKが主催でやっていらっしゃることもいいチャンスです、経済力を持っている女の人に、例えば青色申告の書き方とか、詳しい帳簿のつけ方というものを、普通の教え方じゃなくて、女の人にわかり易いように教えるチャンスを与えていただきたいと思います。

◇ 実際の例を申しあげたいと思います。私、北区の商家の者ですが、法人会というのがあります。この法人会で簿記の講習会をしまして、私はその講習会の中で勉強して帳簿がつけられるようになりました。

江上 たいへん時間が長くなりましたので、万事きわまつたわけでございます。まだまだ語り尽さなければならぬ問題がたくさんございますが、手のおあがりになつていらっしゃる方もおありで、たいへん残念でございますが、今日はこれで打ち切りしたいと思います。

私共はいろいろと毎日お話し合いをいたしましたけれども、その具体的な問題は、各部の中で相当に練られたのだでしょう、面白い御報告となりました。

それから共通の問題としては、やはり、組織を持ちたい、それにはどうしたらいいかというようなことも、ここでたいへん僅かではございましたけれどもお話し合いができた

◇ 職業婦人にも内職の方にも必要な問題ですが、保育施設の問題です。これは、制度化する前に、例えば余裕のある家庭で、能力の交換とかいう意味で、子供を預けて下さるような方が実際にあるかどうか、具体的にたしかめていただきたいと思ひます。保育園とか孤児院とか育児施設、乳児院というものがなければ、全体の問題は解決できないと思ひます。

◇ いまの意見に関連して、職域毎にできたらいいと思ひます。

江上 事業体の側にほしいということですね。

◇ 私、三重県ですが、県の教育委員をなさった婦人が、自分の家を開放して、託児所か孤児院か忘れましたが、三十人ばかりの子供をお預りになっていました。そういうように、有階級の御婦人がどんどん私達に味方して下さって、協力して下さいと思ひます。

◇ これからの教育を受ける方はどれだけ実力があるものか知りませんが、現在職業に就いている者は過去の教育しか受けておりませんので、働く婦人に、実際に使える職業指導所の十分な完備をお願いしたい。

◇ それは働く婦人だけでなく、あらゆる階級の者、内職をしている者にも、いろいろな指導をしていただきたいと思ひます。

思ひます。

それから、私共が経済力を持つ、ことに直接生産面に携わりたいと思う時に一番困るのは、子供の養育の問題でございます。そういう問題にふれて参りますにつけて私共の思ひますのは、社会保障制度が確立してほしいとか、託児所の問題で、社会的に解決してほしいということがございます。皆様は各域にお帰りになりましたら、どうか、そういうものがほしいと思ひながらも、そういうものの突進……つまり社会保障制度が今日日本ではどういうふうになっているか、私共はどんなに守られているか、どんな粗末に扱われているか。託児所の問題も、地域の託児所をよく研究して下さいまして、国家の保障がどういうふうになっているか、地方自治体がどれだけの熱意を示しているか、ということをよく見極めていただきたいと思ひます。そうして、そういう問題を粗末にしないで、今の組織の力でやっていったらいかと思ひます。

短い時間でございますけれども、終始熱心な御意見を伺うことができました、たいへん嬉しいと思っております。

(閉 会)

婦人の経済活動はいかにあるべきか

——第二回全国婦人会議記録——

昭和30年5月5日 印刷

昭和30年5月10日 発行

発行者 東京都千代田区大手町一ノ七番地
労働省婦人少年局

印刷者 東京都中央区入船町二ノ三番地
永井印刷工業株式会社
